

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	学部等連係課程実施基本組織の設置(学部の設置)								
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジントウカイコクリツダイガクキコウ 国立大学法人東海国立大学機構								
フリガナ大学の名称	ギフダイガク 岐阜大学(Gifu University)								
大学本部の位置	岐阜県岐阜市柳戸1番1								
大学の目的	本学は、地域における学術の中心として、深く専門の学芸を教授研究し、学術文化の発展と交流を担うとともに、広く知識を授け、優れた知的・道徳的・応用的能力を持ち、自立した専門的能力を有する人材の育成を行い、もって学術文化の向上と豊かで安全な人間社会の発展に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	社会システム経営学環では、多面的思考、マネジメント思考等を身につけて、企業、自治体、各種団体などを対象に的確な経営判断ができ、経営にイノベーションをもたらす、豊かな社会の創造、活力ある社会システムの実現に貢献できる、実践的な能力を修得した人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	社会システム経営学環 [School of Social System Management]	4年	30人	-	120人	学士(経営学) [Bachelor of Management]	令和3年4月第1年次	岐阜県岐阜市柳戸1番1	学位の分野：経済学関係
	連係協力学部( ) 地域科学部 [Faculty of Regional Studies]							岐阜県岐阜市柳戸1番1	
	地域政策学科 [Department of Policy Studies]	4年	50人	3年次 5人	210人	学士(地域科学) [Bachelor of Regional Studies]	平成18年4月第1年次	同上	学位の分野：経済学、社会学・社会福祉学関係
	地域政策学科から社会システム経営学環の内数とする入学定員数		0	-	0				
	地域文化学科 [Department of Cultural Studies]	4年	50人	3年次 5人	210人	学士(地域科学) [Bachelor of Regional Studies]	平成18年4月第1年次	同上	学位の分野：経済学、社会学・社会福祉学関係
	地域文化学科から社会システム経営学環の内数とする入学定員数		0	-	0				
連係協力学部( ) 工学部 [Faculty of Engineering]							岐阜県岐阜市柳戸1番1		

社会基盤工学科 [Department of Civil Engineering]	4	68	3年次 10	292	学士(工学) [Bachelor of Engineering]	平成14年4月 第1年次	岐阜県岐阜市柳戸1番1	学位の分野:工 学関係
社会基盤工学科から社会システム経営学環の内数とする入学定員数		8	-	32				
機械工学科 [Department of Mechanical Engineering]	4	134	3年次 10	556	学士(工学) [Bachelor of Engineering]	平成25年4月 第1年次	同上	学位の分野:工 学関係
機械工学科から社会システム経営学環の内数とする入学定員数		4	-	16				
化学・生命工学科 [Department of Chemistry and Biomolecular Science]	4	154	3年次 2	620	学士(工学) [Bachelor of Engineering]	平成25年4月 第1年次	同上	学位の分野:工 学関係
化学・生命工学科から社会システム経営学環の内数とする入学定員数		4	-	16				
電気電子・情報工学科 [Department of Electrical, Electronic and Computer Engineering]	4	174	3年次 8	712	学士(工学) [Bachelor of Engineering]	平成25年4月 第1年次	同上	学位の分野:工 学関係
電気電子・情報工学科から社会システム経営学環の内数とする入学定員数		4	-	16				
連係協力学部( ) 応用生物科学部 [Faculty of Applied Biological Sciences]							岐阜県岐阜市柳戸1番1	

	<p>応用生命科学課程 [Course of Applied Life Science]</p> <p>応用生命科学課程から 社会システム経営学環 の内数とする入学定員 数</p>	4	85	3年次 5	350	学士（応用生 物科学） [Bachelor of Applied Biological Sciences]	平成23年4月 第1年次	岐阜県岐阜市柳戸1番1	学位の分野：農 学関係
	<p>生産環境科学課程 [Course of Agricultural and Environmental Science]</p> <p>生産環境科学課程から 社会システム経営学環 の内数とする入学定員 数</p>	4	85	3年次 5	350	学士（応用生 物科学） [Bachelor of Applied Biological Sciences]	平成16年4月 第1年次	同上	学位の分野：農 学関係
	計	-	-	-	-				
	<p>同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、名称の 変更等)</p>	<p>(岐阜大学)</p> <p>・教育学部 学校教育教員養成課程〔定員減〕 ( 30 ) ( 令和3年4月 )</p> <p>・工学部 社会基盤工学科〔定員増〕 ( 8 ) ( 令和3年4月 ) 機械工学科〔定員増〕 ( 4 ) ( 令和3年4月 ) 化学・生命工学科〔定員増〕 ( 4 ) ( 令和3年4月 ) 電気電子・情報工学科〔定員増〕 ( 4 ) ( 令和3年4月 )</p> <p>3年次編入学 各学科共通〔3年次定員の改訂〕 ( 30 ) ( 令和3年4月 ) 社会基盤工学科〔3年次定員の改訂〕 ( 10 ) ( 令和3年4月 ) 機械工学科〔3年次定員の改訂〕 ( 10 ) ( 令和3年4月 ) 化学・生命工学科〔3年次定員の改訂〕 ( 2 ) ( 令和3年4月 ) 電気電子・情報工学科〔3年次定員の改訂〕 ( 8 ) ( 令和3年4月 )</p> <p>・応用生物科学部 応用生命科学課程〔定員増〕 ( 5 ) ( 令和3年4月 ) 生産環境科学課程〔定員増〕 ( 5 ) ( 令和3年4月 )</p> <p>(名古屋大学) なし</p>							
教育 課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	社会システム経営学環	275 科目	78 科目	4 科目	357 科目	128単位			

教員組織の概要	学部等の名称	専任教員等					兼任 教員等	任 教員等
		教授	准教授	講師	助教	計		
新 設 分	学部等連係課程実施基本組織							
	社会システム経営学環							
	連係協力学部( )							
	地域科学部 地域政策学科							
	地域文化学科	<1>	<0>	<0>	<0>	<1>	<0>	<0>
	連係協力学部( )	【6】	【6】	【0】	【1】	【13】	【0】	【251】
	工学部 社会基盤工学科	(6)	(6)	(0)	(1)	(13)	(0)	(251)
	機械工学科							
	化学・生命工学科							
	電気電子・情報工学科							
連係協力学部( )								
応用生物科学部 応用生命科学課程								
生産環境科学課程								
計		7 (6)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	14 (13)	0 (0)	217 (251)
既 設 分	地域科学部 地域政策学科	7 【4】 (8)	11 【1】 (11)	0 【0】 (0)	2 【0】 (2)	20 【5】 (21)	0 【0】 (0)	210 - (245)
	地域文化学科	5 (11)	5 (5)	1 (1)	4 (4)	15 (21)	0 (0)	219 (250)
	計	12 (19)	16 (16)	1 (1)	6 (6)	35 (42)	0 (0)	- (-)
	工学部 社会基盤工学科	9 【1】 (12)	4 【1】 (4)	0 【0】 (0)	3 【0】 (3)	16 【2】 (19)	0 【0】 (0)	247 - (296)
	機械工学科	13 【0】 (16)	15 【1】 (15)	0 【0】 (0)	11 【0】 (11)	39 【1】 (42)	0 【0】 (0)	222 - (271)
	化学・生命工学科	18 【0】 (24)	15 【1】 (16)	0 【0】 (0)	15 【0】 (15)	48 【1】 (55)	0 【0】 (0)	231 - (278)
	電気電子・情報工学科	19 【0】 (25)	23 【0】 (26)	0 【0】 (0)	14 【1】 (15)	56 【1】 (66)	0 【0】 (0)	225 - (271)
	計	59 (77)	57 (61)	0 (0)	43 (44)	159 (182)	0 (0)	- (-)
	応用生物科学部 応用生命科学課程	8 (14)	8 (8)	0 (0)	5 (5)	21 (27)	0 (0)	209 (257)
	生産環境科学課程	13 【1】 (16)	15 【2】 (18)	0 【0】 (0)	8 【0】 (8)	36 【3】 (42)	0 【0】 (0)	216 - (263)
計	21 (30)	23 (26)	0 (0)	13 (13)	57 (69)	0 (0)	- (-)	
合計	7 (6)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	14 (13)	0 (0)	217 (251)	
教員以外の職員 の概要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	338人 (338)		346人 (346)		684人 (684)		
	技 術 職 員	1,112 (1,112)		253 (253)		1,365 (1,365)		
	図 書 館 専 門 職 員	7 (7)		0 (0)		7 (7)		
	そ の 他 の 職 員	0 (0)		79 (79)		79 (79)		
計	1,457 (1,457)		678 (678)		2,135 (2,135)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	その他の内，附属病院 62,890㎡			
	校舎敷地	190,097㎡	0㎡	0㎡	190,097㎡				
	運動場用地	90,589㎡	0㎡	0㎡	90,589㎡				
	小 計	280,686㎡	0㎡	0㎡	280,686㎡				
	そ の 他	6,042,671㎡	11,711㎡	0㎡	6,054,382㎡				
合 計	6,323,357㎡	11,711㎡	0㎡	6,335,068㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	別途附属病院 70,002㎡			
		197,004㎡ (197,004㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	197,004㎡ (197,004㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	86室	67室	575室	8室 (補助職員0人)	1室 (補助職員0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		社会システム経営学環		13 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部等単位での 特定不能なた め，大学全体の 数	
	社会システム経営学環	915,983〔304,296〕 (915,983〔304,296〕)	16,849〔5,678〕 (16,849〔5,678〕)	7,124〔5,745〕 (7,124〔5,745〕)	3,329 (3,329)	9,941 (9,941)	2,230 (2,230)		
	計	915,983〔304,296〕 (915,983〔304,296〕)	16,849〔5,678〕 (16,849〔5,678〕)	7,124〔5,745〕 (7,124〔5,745〕)	3,329 (3,329)	9,941 (9,941)	2,230 (2,230)		
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		9,951㎡	712	959,584					
体 育 館		面積	体育館以外のスポ - ツ施設の概要					大学全体	
		4,616㎡	弓道場，プ - ル，陸上競技場，野球場，ラグビ - 場， サッカー - コ - ト，バスケットボ - ルコ - ト(3面)，ハンド ボ - ルコ - ト(2面)，バレ - ボ - ルコ - ト(4面)，テニス コ - ト(13面)						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	国費による
	教員 1 人当り研究費等		-	-	-	-	-	-	
	共同研究費等		-	-	-	-	-	-	
	図 書 購 入 費		-	-	-	-	-	-	
	設 備 購 入 費		-	-	-	-	-	-	
	学生 1 人当り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			該当なし						

既設大学等の状況	大学の名称	岐阜大学							所在地		
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
		年	人	年次人	人		倍				
	教育学部						1.03				
	学校教育教員養成課程	4	250	-	940	学士（教育学）	1.03	平成10年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	令和2年度入学定員増（20人）	
	特別支援学校教員養成課程	4	-	-	-	学士（教育学）	-	平成19年度	同上	令和2年度より学生募集停止	
	地域科学部			3年次			1.07				
	地域政策学科	4	50	5	210	学士（地域科学）	1.07	平成18年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1		
	地域文化学科	4	50	5	210	学士（地域科学）		平成18年度	同上		
	医学部			3年次			0.99				
	医学科	6	110	-	660	学士（医学）	0.99	昭和39年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	令和2年度臨時入学定員増の延長（25人）	
	看護学科	4	80	-	330	学士（看護学）	1.00	平成12年度	同上	令和2年度より3年次編入学学生募集停止	
	工学部						1.03				
	社会基盤工学科	4	60	-	240	学士（工学）	1.02	平成14年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1		
	機械工学科	4	130	-	520	学士（工学）	1.05	平成25年度	同上		
	化学・生命工学科	4	150	-	600	学士（工学）	1.03	平成25年度	同上		
	電気電子・情報工学科	4	170	-	680	学士（工学）	1.02	平成25年度	同上		
	（各学科共通）	-	-	30	60	学士（工学）	-				
	応用生物科学部			3年次			1.05				
	応用生命科学課程	4	80	5	330	学士（応用生物科学）	1.04	平成23年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1		
	生産環境科学課程	4	80	5	330	学士（応用生物科学）	1.05	平成16年度	同上		
	共同獣医学科	6	30	-	180	学士（獣医学）	1.04	平成25年度	同上		
	獣医学課程	6	-	-	-	学士（獣医学）	-	平成16年度	同上	平成25年度より学生募集停止	

教育学研究科							
教職実践開発専攻							
(専門職学位課程)	2	25	-	50	教職修士(専門職)	1.06	平成20年度 岐阜県岐阜市柳戸1番1
心理発達支援専攻							
(修士課程)	2	10	-	20	修士(教育学)	1.00	平成20年度 同上
総合教科教育専攻							
(修士課程)	2	34	-	68	修士(教育学)	1.07	平成25年度 同上
地域科学研究科							
地域政策専攻							
(修士課程)	2	12	-	24	修士(地域科学)	0.16	平成13年度 岐阜県岐阜市柳戸1番1
地域文化専攻							
(修士課程)	2	8	-	16	修士(地域科学)	1.50	平成13年度 同上
医学系研究科							
医科学専攻							
(博士課程)	4	47	-	188	博士(医学)	0.72	平成14年度 同上
再生医科学専攻							
(博士課程)	3	-	-	-	博士(再生医科学)	-	平成14年度 同上 平成31年度より 学生募集停止
看護学専攻							
(修士課程)	2	8	-	16	修士(看護学)	0.56	平成17年度 同上
医療者教育学専攻							
(修士課程)	2	6	-	6	修士(医療者教育学)	1.00	令和2年度 同上
工学研究科							
社会基盤工学専攻							
(修士課程)	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成18年度 岐阜県岐阜市柳戸1番1 平成29年度より 学生募集停止
応用情報学専攻							
(修士課程)	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成18年度 同上 平成29年度より 学生募集停止
数理デザイン工学専攻							
(修士課程)	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成18年度 同上 平成29年度より 学生募集停止
環境エネルギー・システム専攻							
(修士課程)	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成18年度 同上 平成29年度より 学生募集停止
生産開発システム工学専攻							
(博士課程)	3	-	-	-	博士(工学)	-	平成3年度 同上 平成31年度より 学生募集停止
物質工学専攻							
(博士課程)	3	-	-	-	博士(工学)	-	平成3年度 同上 平成31年度より 学生募集停止
電子情報システム工学専攻							
(博士課程)	3	-	-	-	博士(工学)	-	平成3年度 同上 平成31年度より 学生募集停止
環境エネルギー・システム専攻							
(博士課程)	3	-	-	-	博士(工学)	-	平成11年度 同上 平成31年度より 学生募集停止
工学専攻							
(博士課程)	3	23	-	46	博士(工学)	0.91	平成31年度 同上
岐阜大学・インド工科大学グワ ハティ校国際連携統合機械工学 専攻							
(博士課程)	3	2	-	4	博士(学術)	0.75	平成31年度 同上

岐阜大学・マレ・シア国民大学 国際連携材料科学工学専攻	(博士課程)	3	2	-	4	博士(学術)	1.00	平成31年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
自然科学技術研究科										
生命科学・化学専攻	(修士課程)	2	74	-	148	修士(工学または 応用生物科学)	1.23	平成29年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
生物生産環境科学専攻	(修士課程)	2	42	-	84	修士(応用生物科 学)	1.11	平成29年度	同上	
環境社会基盤工学専攻	(修士課程)	2	29	-	58	修士(工学)	1.20	平成29年度	同上	
物質・ものづくり工学専攻	(修士課程)	2	67	-	134	修士(工学)	1.26	平成29年度	同上	
知能理工学専攻	(修士課程)	2	81	-	162	修士(工学)	1.18	平成29年度	同上	
エネルギー・工学専攻	(修士課程)	2	72	-	144	修士(工学)	1.13	平成29年度	同上	
岐阜大学・インド工科大学グワ ハティ校国際連携食品科学技術 専攻	(修士課程)	2	10	-	20	修士(食品科学技 術)	0.40	平成31年度	同上	
共同獣医学研究科										
共同獣医学専攻	(博士課程)	4	6	-	12	博士(獣医学)	0.75	平成31年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
連合農学研究科										
生物生産科学専攻	(博士課程)	3	7	-	21	博士(農学)	0.71	平成3年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
生物環境科学専攻	(博士課程)	3	5	-	15	博士(農学)	1.53	平成3年度	同上	
生物資源科学専攻	(博士課程)	3	6	-	20	博士(農学)	1.40	平成3年度	同上	
岐阜大学・インド工科大学グワ ハティ校国際連携食品科学技術 専攻	(博士課程)	3	2	-	4	博士(学術)	1.00	平成31年度	同上	
連合獣医学研究科										
獣医学専攻	(博士課程)	4	-	-	-	博士(獣医学)	-	平成2年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	平成31年度より 学生募集停止
連合創薬医療情報研究科										
創薬科学専攻	(博士課程)	3	3	-	9	博士(工学または 薬科学)	1.00	平成19年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
医療情報学専攻	(博士課程)	3	3	-	9	博士(医科学また は薬科学)	0.77	平成19年度	同上	

大学の名称		名古屋大学							所在地
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部				520			昭和24年度	愛知県名古屋市中種区不老町1	
人文学科	4	125	3年次10	520	学士(文学)	1.03	平成8年度		
教育学部				280			昭和24年度	愛知県名古屋市中種区不老町1	
人間発達科学科	4	65	3年次10	280	学士(教育学)	1.08	平成9年度		
法学部				620			昭和24年度	愛知県名古屋市中種区不老町1	
法律・政治学科	4	150	3年次10	620	学士(法学)	1.05	平成9年度		
経済学部				840		1.04	昭和24年度	愛知県名古屋市中種区不老町1	経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入。
経済学科	4	140		560	学士(経済学)		昭和24年度		
経営学科	4	65		260	学士(経済学)		昭和24年度		
学部共通			3年次10	20					
情報文化学部				-			平成5年度	愛知県名古屋市中種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
自然情報学科	4	-		-	学士(情報文化学)	-	平成5年度		
社会システム情報学科	4	-		-	学士(情報文化学)	-	平成5年度		
学部共通			3年次-	-					
情報学部				560		1.04	平成29年度	愛知県名古屋市中種区不老町1	
自然情報学科	4	38	3年次4	160	学士(情報学)	1.03	平成29年度		
人間・社会情報学科	4	38	3年次4	160	学士(情報学)	0.99	平成29年度		
コンピュータ科学科	4	59	3年次2	240	学士(情報学)	1.07	平成29年度		
理学部				1,080		1.06	昭和24年度	愛知県名古屋市中種区不老町1	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入。
数理学科	4	55		220	学士(理学)		平成7年度		
物理学科	4	90		360	学士(理学)		昭和24年度		
化学科	4	50		200	学士(理学)		昭和24年度		
生命理学科	4	50		200	学士(理学)		平成8年度		
地球惑星科学科	4	25		100	学士(理学)		平成4年度		
医学部				1,468			昭和24年度		
医学科	6	107	3年次5	662	学士(医学)	1.01	昭和24年度	愛知県名古屋市中種区鶴舞町65	
保健学科	4	200	3年次- 2年次-	806	学士(看護学) 学士(保健学) 学士(リハビリテーション学)	1.03	平成9年度	愛知県名古屋市中種区大幸南1-1-20	3年次編入20人を含む。保健学科については、平成31年度より2年次編入及び3年次編入を廃止。
工学部				2,720		1.02	昭和24年度	愛知県名古屋市中種区不老町1	
化学・生物工学科	4				学士(工学)		平成8年度		平成29年度より学生募集停止
物理工学科	4				学士(工学)		平成9年度		平成29年度より学生募集停止
電気電子・情報工学科	4				学士(工学)		平成7年度		平成29年度より学生募集停止

機械・航空工学科	4			学士(工学)	平成6年度		平成29年度より学生募集停止
環境土木・建築学科	4			学士(工学)	平成8年度		平成29年度より学生募集停止
化学生命工学科	4	99	396	学士(工学)	1.02	平成29年度	
物理工学科	4	83	332	学士(工学)	1.03	平成29年度	
マテリアル工学科	4	110	440	学士(工学)	1.01	平成29年度	
電気電子情報工学科	4	118	472	学士(工学)	1.01	平成29年度	
機械・航空宇宙工学科	4	150	600	学士(工学)	1.02	平成29年度	
エネルギー理工学科	4	40	160	学士(工学)	1.04	平成29年度	
環境土木・建築学科	4	80	320	学士(工学)	1.01	平成29年度	
農学部			680		1.07	昭和26年度	愛知県名古屋千種区不老町1
生物環境科学科	4	35	140	学士(農学)	1.07	平成18年度	
資源生物科学科	4	55	220	学士(農学)	1.06	平成18年度	
応用生命科学科	4	80	320	学士(農学)	1.07	平成18年度	
合 計		2,107	3年次 55 2年次 -	8,768			

文学研究科						昭和28年度	愛知県名古屋千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
人文学専攻 (博士前期課程)	2					平成12年度		
(博士後期課程)	3							
人文学研究科						平成29年度	愛知県名古屋千種区不老町1	
人文学専攻 (博士前期課程)	2	104		208	修士(文学) 修士(歴史学)	平成29年度		
(博士後期課程)	3	61		183	博士(文学) 博士(歴史学) 博士(学術)	平成29年度		
教育発達科学研究科						昭和28年度(平成12年度名称変更) 平成12年度	愛知県名古屋千種区不老町1	
教育科学専攻 (博士前期課程)	2	32		64	修士(教育学) 修士(教育)			
(博士後期課程)	3	16		48	博士(教育学) 博士(教育)			
心理発達科学専攻 (博士前期課程)	2	22		44	修士(心理学) 修士(臨床心理学)	平成12年度		
(博士後期課程)	3	15		45	博士(心理学)			
法学研究科						昭和28年度	愛知県名古屋千種区不老町1	
総合法政専攻 (博士前期課程)	2	35		70	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学)	平成16年度		
(博士後期課程)	3	17		51	博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学)			
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	3	50		150	法務博士 (専門職)	平成16年度		
経済学研究科						昭和28年度	愛知県名古屋千種区不老町1	
社会経済システム専攻 (博士前期課程)	2	30		60	修士(経済学) 修士(経営管理学)	平成12年度		
(博士後期課程)	3	15		45	博士(経済学)			
産業経営システム専攻 (博士前期課程)	2	14		28	修士(経済学)	平成12年度		
(博士後期課程)	3	7		21	博士(経済学)			
情報学研究科						平成29年度	愛知県名古屋千種区不老町1	
数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14		28	修士(情報学) 修士(学術)	平成29年度		
(博士後期課程)	3	4		12	博士(情報学) 博士(学術)			
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	36		72	修士(情報学) 修士(学術)	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8		24	博士(情報学) 博士(学術)			
社会情報学専攻 (博士前期課程)	2	18		36	修士(情報学) 修士(学術)	平成29年度		
(博士後期課程)	3	5		15	博士(情報学) 博士(学術)			

心理・認知科学専攻 (博士前期課程)	2	15	30	修士(情報学)	0.86	平成29年度		
(博士後期課程)	3	7	21	修士(学術) 博士(情報学) 博士(学術)	0.80			
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	32	64	修士(情報学)	1.04	平成29年度		
(博士後期課程)	3	9	27	修士(学術) 博士(情報学) 博士(学術)	0.47			
知能システム学専攻 (博士前期課程)	2	29	58	修士(情報学)	1.25	平成29年度		
(博士後期課程)	3	10	30	修士(学術) 博士(情報学) 博士(学術)	1.03			
理学研究科						昭和28年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
素粒子宇宙物理学専攻 (博士前期課程)	2	66	132	修士(理学)	0.99	平成7年度		
(博士後期課程)	3	30	90	博士(理学)	0.83			
物質理学専攻 (博士前期課程)	2	63	126	修士(理学)	1.28	平成7年度		
(博士後期課程)	3	22	66	博士(理学)	0.81			
生命理学専攻 (博士前期課程)	2	42	84	修士(理学)	1.06	平成8年度		
(博士後期課程)	3	18	54	博士(理学)	0.49			
名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻 (博士後期課程)	3	2	6	博士(理学)	0.16	平成28年度		
医学系研究科						昭和30年度 (平成14年度名称変更)	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	総合医学専攻 (博士課程) 平成30年度入定員減(2人)
総合医学専攻 (博士課程)	4	151	608	博士(医学)	1.10	平成25年度		
名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	16	博士(医学)	0.12	平成27年度		
名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	16	博士(医学)	0.31	平成29年度		
名古屋大学・フライブルク大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	2	4	博士(医学)	0.00	平成30年度		平成30年10月学生受入開始
医科学専攻 (修士課程)	2	20	40	修士(医科学)	0.87	平成13年度		
医療行政コース	1	10	10	修士(医療行政学)	0.90			
総合保健学専攻 (博士前期課程)	2	70	70	修士(看護学)	0.92	令和2年度		令和2年4月学生受入開始
(博士後期課程)	3	20	20	修士(医療技術学) 修士(リハビリテーション療法学) 博士(看護学) 博士(医療技術学) 博士(リハビリテーション療法学)	0.95	令和2年度		令和2年4月学生受入開始

看護学専攻 (博士前期課程)	2			修士(看護学)	平成14年度	愛知県名古屋市中区大幸南1-1-20	令和2年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			博士(看護学)			
医療技術学専攻 (博士前期課程)	2			修士(医療技術学)	平成14年度	愛知県名古屋市中区大幸南1-1-20	令和2年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			博士(医療技術学)			
リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2			修士(リハビリテーション療法学)	平成14年度	愛知県名古屋市中区大幸南1-1-20	令和2年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			博士(リハビリテーション療法学)			
工学研究科							
化学・生物工学専攻 (博士前期課程)	2			修士(工学)	昭和28年度	愛知県名古屋市中区千種区不老町1	
(博士後期課程)	3			博士(工学)	平成16年度		平成29年度より学生募集停止
マテリアル理工学専攻 (博士前期課程)	2			修士(工学)	平成16年度		平成29年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			博士(工学)			
電子情報システム専攻 (博士前期課程)	2			修士(工学)	平成16年度		平成29年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			博士(工学)			
機械理工学専攻 (博士前期課程)	2			修士(工学)	平成16年度		平成29年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			博士(工学)			
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2			修士(工学)	昭和35年度 (平成16年度再編)		平成29年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			博士(工学)			
社会基盤工学専攻 (博士前期課程)	2			修士(工学)	平成16年度		平成29年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			博士(工学)			
結晶材料工学専攻 (博士前期課程)	2			修士(工学)	昭和52年度 (平成16年度再編)		平成29年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			博士(工学)			
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2			修士(工学)	平成5年度 (平成16年度再編)		平成29年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			博士(工学)			
量子工学専攻 (博士前期課程)	2			修士(工学)	平成3年度 (平成16年度再編)		平成29年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			博士(工学)			
マイクロ・ナノシステム工学専攻 (博士前期課程)	2			修士(工学)	平成16年度		平成29年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			博士(工学)			
物質制御工学専攻 (博士前期課程)	2			修士(工学)	平成8年度 (平成16年度再編)		平成29年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			博士(工学)			

計算理工学専攻 (博士前期課程)	2			修士(工学)	平成9年度 (平成16 年度再 編)	平成29年度より学生 募集停止
(博士後期課程)	3			博士(工学)		
有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	68	修士(工学)	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	24	博士(工学)		
応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	68	修士(工学)	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	24	博士(工学)		
生命分子工学専攻 (博士前期課程)	2	28	56	修士(工学)	平成29年度	
(博士後期課程)	3	6	18	博士(工学)		
応用物理学専攻 (博士前期課程)	2	39	78	修士(工学)	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	27	博士(工学)		
物質科学専攻 (博士前期課程)	2	39	78	修士(工学)	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	27	博士(工学)		
材料デザイン工学専攻 (博士前期課程)	2	34	68	修士(工学)	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	24	博士(工学)		
物質プロセス工学専攻 (博士前期課程)	2	35	70	修士(工学)	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	27	博士(工学)		
化学システム工学専攻 (博士前期課程)	2	34	68	修士(工学)	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	24	博士(工学)		
電気工学専攻 (博士前期課程)	2	34	68	修士(工学)	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	27	博士(工学)		
電子工学専攻 (博士前期課程)	2	47	94	修士(工学)	平成29年度	
(博士後期課程)	3	13	39	博士(工学)		
情報・通信工学専攻 (博士前期課程)	2	33	66	修士(工学)	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	24	博士(工学)		
機械システム工学専攻 (博士前期課程)	2	66	132	修士(工学)	平成29年度	
(博士後期課程)	3	14	42	博士(工学)		
マイクロ・ナノ機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	36	72	修士(工学)	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	24	博士(工学)		

航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	38	76	修士(工学)	1.32	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	24	博士(工学)	0.91		
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	18	36	修士(工学)	0.94	平成29年度	
(博士後期課程)	3	5	15	博士(工学)	0.26		
総合エネルギー工学専攻 (博士前期課程)	2	18	36	修士(工学)	1.05	平成29年度	
(博士後期課程)	3	4	12	博士(工学)	0.66		
土木工学専攻 (博士前期課程)	2	36	72	修士(工学)	0.87	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	27	博士(工学)	0.81		
生命農学研究科						昭和30年度 (平成9年度名称変更) 平成11年度	愛知県名古屋千種区不老町1
生物圏資源学専攻 (博士前期課程)	2			修士(農学)			平成30年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			博士(農学)			
生物機構・機能科学専攻 (博士前期課程)	2			修士(農学)		平成9年度	平成30年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			博士(農学)			
応用分子生命科学専攻 (博士前期課程)	2			修士(農学)		平成10年度	平成30年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			博士(農学)			
生命技術科学専攻 (博士前期課程)	2			修士(農学)		平成16年度	平成30年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			博士(農学)			
森林・環境資源科学専攻 (博士前期課程)	2	27	54	修士(農学)	1.20	平成30年度	森林・環境資源科学専攻(博士後期課程)平成31年度入学生定員減(1人)
(博士後期課程)	3	6	19	博士(農学)	0.89		
植物生産科学専攻 (博士前期課程)	2	30	60	修士(農学)	1.14	平成30年度	
(博士後期課程)	3	9	27	博士(農学)	0.99		
動物科学専攻 (博士前期課程)	2	28	56	修士(農学)	0.99	平成30年度	
(博士後期課程)	3	7	21	博士(農学)	0.75		
応用生命科学専攻 (博士前期課程)	2	66	132	修士(農学)	1.07	平成30年度	応用生命科学専攻(博士後期課程)平成31年度入学生定員減(1人)
(博士後期課程)	3	16	49	博士(農学)	0.50		
名古屋大学・カセ サート大学国際連携 生命農学専攻 (博士後期課程)	3	2	6	博士(農学)	0.50	平成30年度	

名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻 (博士後期課程)	3	2	4	博士(農学)	0.50	平成31年度		
国際開発研究科						平成3年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
国際開発専攻 (博士前期課程)	2			修士(国際開発学)		平成3年度		平成30年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			修士(学術) 博士(国際開発学)				
国際協力専攻 (博士前期課程)	2			博士(学術)		平成4年度		平成30年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			修士(国際開発学) 修士(学術) 博士(国際開発学)				
国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2			博士(学術)		平成5年度		平成29年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3			修士(学術) 博士(学術)				
国際開発協力専攻 (博士前期課程)	2	44	88	修士(国際開発学) 修士(学術)	1.04	平成30年度		
(博士後期課程)	3	22	66	博士(国際開発学) 博士(学術)	0.84			
多元数理科学研究科						平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
多元数理科学専攻 (博士前期課程)	2	47	94	修士(数理学)	1.07	平成7年度		
(博士後期課程)	3	30	90	博士(数理学)	0.55			
国際言語文化研究科						平成10年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
日本語文化専攻 (博士前期課程)	2			修士(文学)		平成10年度		
(博士後期課程)	3			修士(学術) 博士(文学) 博士(学術)				
国際多元文化専攻 (博士前期課程)	2			修士(文学)		平成10年度		
(博士後期課程)	3			修士(学術) 博士(文学) 博士(学術)				
環境学研究科						平成13年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
地球環境科学専攻 (博士前期課程)	2	53	106	修士(環境学)	0.96	平成13年度		地球環境科学専攻(博士前期課程)平成29年度入学生定員減(1人)
(博士後期課程)	3	24	72	修士(理学) 博士(環境学) 博士(理学)	0.52			(博士後期課程)平成29年度入学生定員減(1人)
都市環境学専攻 (博士前期課程)	2	47	94	修士(環境学)	1.33	平成13年度		社会環境学専攻(博士前期課程)平成29年度入学生定員減(9人)
(博士後期課程)	3	21	63	修士(工学) 修士(建築学) 博士(環境学) 博士(工学) 博士(建築学)	0.39			(博士後期課程)平成29年度入学生定員減(5人)

社会環境学専攻 (博士前期課程)	2	27	54	修士(環境学) 修士(社会学) 修士(地理学) 修士(法学) 修士(経済学)	0.82	平成13年度		
(博士後期課程)	3	13	39	博士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.50			
情報科学研究科						平成15年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
計算機数理科学専攻 (博士前期課程)	2			修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)		平成15年度		
(博士後期課程)	3			博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)				
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2			修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)		平成15年度		
(博士後期課程)	3			博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)				
メディア科学専攻 (博士前期課程)	2			修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)		平成15年度		
(博士後期課程)	3			博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)				
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2			修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)		平成15年度		
(博士後期課程)	3			博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)				
社会システム情報学専攻 (博士前期課程)	2			修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)		平成15年度		
(博士後期課程)	3			博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)				
創薬科学研究科						平成24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
基盤創薬学専攻 (博士前期課程)	2	32	64	修士(創薬科学)	1.12	平成24年度		
(博士後期課程)	3	10	30	博士(創薬科学)	0.83	平成26年度		
合計								
博士前期課程		1,626	0	3,182				
博士後期課程		571	0	1,673				
博士課程		161		644				
修士課程		30		50				
専門職学位課程		50		150				

附属施設の概要

名 称 : 教育学部附属小中学校  
 目的 : 小学校教育, 中学校教育, 研究及び教員養成  
 所在地 : 岐阜県岐阜市加納大手町74番地  
 設置年月 : 令和2年4月  
 規模等(延面積) : 13,531㎡

名 称 : 医学部附属病院  
 目的 : 診療, 医学の教育及び研究  
 所在地 : 岐阜県岐阜市柳戸1番1  
 設置年月 : 昭和42年6月  
 規模等(延面積) : 70,002㎡

名 称 : 応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター - 美濃加茂農場  
 目的 : 農学, 獣医学の教育及び研究  
 所在地 : 岐阜県美濃加茂市牧野1918-1  
 設置年月 : 平成16年4月  
 規模等(延面積) : 建物 1,590㎡  
 土地 95,832㎡

名 称 : 応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター - 位山演習林  
 目的 : 農学の教育及び研究  
 所在地 : 岐阜県下呂市萩原町山之口  
 設置年月 : 平成16年4月  
 規模等(延面積) : 建物 1,103㎡  
 土地 5,536,308㎡

名 称 : 応用生物科学部附属動物病院  
 目的 : 診療, 獣医学の教育及び研究  
 所在地 : 岐阜県岐阜市柳戸1番1  
 設置年月 : 平成16年4月  
 規模等(延面積) : 3,297㎡

名 称 : 教育推進・学生支援機構  
 目的 : 教育推進, 学生支援  
 所在地 : 岐阜県岐阜市柳戸1番1  
 設置年月 : 平成25年12月  
 規模等(延面積) : 7,003㎡

名 称 : 学術研究・産学官連携推進本部  
 目的 : 研究推進, 教育研究活動支援, 産学連携・地域連携推進  
 所在地 : 岐阜県岐阜市柳戸1番1  
 設置年月 : 令和2年4月  
 規模等(延面積) : 7,825㎡

名 称 : 高等研究院  
 目的 : 研究支援  
 所在地 : 岐阜県岐阜市柳戸1番1  
 設置年月 : 令和2年4月  
 規模等(延面積) : 7,825㎡

名 称 : 地域協学センター -  
 目的 : 地域協働  
 所在地 : 岐阜県岐阜市柳戸1番1  
 設置年月 : 平成25年12月  
 規模等(延面積) : 336㎡

名 称 : 流域圏科学研究センター -  
 目的 : 流域圏科学分野の研究  
 所在地 : 岐阜県岐阜市柳戸1番1  
 (高山試験地 岐阜県高山市岩井町919の47)  
 設置年月 : 平成14年4月  
 規模等(延面積) : 1,890㎡

名 称 : 保健管理センタ -  
目 的 : 学生及び教職員の健康管理  
所 在 地 : 岐阜県岐阜市柳戸1番1  
設 置 年 月 : 昭和49年4月  
規模等 (延面積) : 525m<sup>2</sup>

名 称 : 医学教育開発研究センタ -  
目 的 : 医学教育に関する研修, 調査分析等  
所 在 地 : 岐阜県岐阜市柳戸1番1  
設 置 年 月 : 平成13年4月  
規模等 (延面積) : 422m<sup>2</sup>

教育課程等の概要																
(社会システム経営学環)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	人文科学科目	初年次セミナー	1前	2			○			1						
		哲学入門(正義について哲学しよう)	1前		2		○								兼1	
		哲学入門(西洋哲学入門)	1後		2		○								兼1	
		人間・死生学(現代人間論)	1後		2		○								兼1	
		近現代思想(日本の近代思想)	1後		2		○								兼1	
		科学論(生命と癒しの科学論)	1前		2		○								兼1	
		科学論(科学論入門:近代的自然観と自然科学)	1前		2		○								兼1	
		東洋・日本思想(インド思想の特質)	1前		2		○								兼1	
		東洋・日本思想(中国の古典思想)	1前		2		○								兼1	
		倫理学(倫理学とは何か)	1後		2		○								兼1	
		宗教学(比較宗教学概論)	1前		2		○								兼1	
		宗教学(社会問題と宗教)	1後		2		○								兼1	
		歴史学分野	歴史学入門(歴史学とは何か)	1前		2		○								兼1
			西洋・中東史(西洋史(イギリス近代史))	1前		2		○								兼1
			西洋・中東史(西欧諸国形成史)	1前		2		○								兼1
			中国・朝鮮半島史(朝鮮・韓国の文化と日本との交流史)	1後		2		○								兼1
			中国・朝鮮半島史(中国史)	1後		2		○								兼1
	世界近現代史(現代国際関係史)		1前		2		○								兼1	
	世界近現代史(アメリカ概論)		1前		2		○								兼1	
	世界近現代史(ドイツ文化史)		1後		2		○								兼1	
	日本史(日本の歴史)		1後		2		○								兼1	
	日本近世史(近世文化史)		1後		2		○								兼1	
	日本近・現代史(近現代日本における女性)		1前		2		○								兼1	
	日本近・現代史(近現代日本の政治と国家主義運動)		1後		2		○								兼1	
	文学分野		文学(文学とは何か)	1前		2		○								兼1
		外国文学(朝鮮・韓国の神話・文学・伝統芸能)	1前		2		○								兼1	
		外国文学(英米文学を読む)	1後		2		○								兼1	
		外国文学(三国志時代の文学)	1後		2		○								兼1	
		外国文学(西洋文学論)	1後		2		○								兼1	
		外国文学(ロシア革命と文学)	1後		2		○								兼1	
		日本文学(百人一首の世界)	1前		2		○								兼1	
		日本文学(近世文学の世界)	1後		2		○								兼1	
	言語分野	言語学入門(日本語学入門)	1前・後		2		○								兼1	
		言語学入門(岐阜県の方言,日本語,世界の言語)	1後		2		○								兼1	
		言語学(北欧のことばと地域の方言)	1前		2		○								兼1	
		言語学(言語地理学)	1前		2		○								兼1	
		言語学(フランス語論)	1前		2		○								兼1	
		言語学(アイスランドのことばと文化)	1後		2		○								兼1	
		言語学(児童の文章表現)	1後		2		○								兼1	
		言語学(映画で見る英語の諸言語現象と欧米文化)	1後		2		○								兼1	
		日本語表現論(劇作における会話表現)	1前		2		○								兼1	
		日本語表現論(日本語口頭表現)	1前・後		2		○								兼1	
	日本語表現論(実用的な日本語表現を学ぶ)	1前・後		2		○								兼1		
	心理・行動学分野	心理学入門(心理学概論)	1前		2		○								兼1	
		心理学(幼児発達支援入門)	1後		2		○								兼1	
		心理学実験・調査法(心理学実験・調査法)	1前		2		○								兼1	

文化・芸術分野	西洋文化論（ロシア人の生活と言語）	1前	2	○																兼1		
	西洋文化論（西洋建築史）	1後	2	○																	兼1	
	西洋文化論（ロシアの自然と言語）	1後	2	○																	兼1	
	日本文化論（日本語文化論：国語教育史）	1前	2	○																	兼1	
	日本文化論（衣生活文化史）	1前	2	○																	兼1	
	日本文化論（金属で学ぶ日本文化史）	1後	2	○																	兼1	
	現代文化論（現代の文化研究）	1後	2	○																	兼1	
	現代文化論（科学技術と人間社会）	1前	2	○																	兼1	
	韓国文化論（発音から学ぶ韓国語）	1前	2	○																	兼1	
	異文化論（通過儀礼（人の一生）に見る世界の諸地域）	1後	2	○																	兼1	
	美術論（美術史）	1前	2	○																	兼1	
	美術論（デザイン論）	1前	2	○																	兼1	
	音楽論（オーケストラ音楽を聴く）	1前	2	○																	兼1	
	音楽論（実用作曲法）	1前・後	2	○																	兼1	
	音楽論（ドイツ歌曲への誘い）	1前	2	○																	兼1	
	音楽論（音楽への誘い）	1後	2	○																	兼1	
	音楽論（音楽芸能文化概論）	1後	2	○																	兼1	
	音楽論（ピアノ基礎（連弾））	1後	2	○																	兼1	
	社会科学科目	法学分野	法学入門（法とは何か）	1前	2	○																兼1
			法学入門（立法体験：まちづくり条例制定の体験）	1前	2	○																兼1
日本国憲法（憲法）			1前	2	○																兼1	
日本国憲法（統治機構論）			1前	2	○																兼1	
日本国憲法（教職のための憲法）			1後	2	○																兼1	
日本国憲法（教職のための憲法）			1後	2	○																兼1	
民法（家族生活と法）			1前	2	○																兼1	
民法（財産と法）			1後	2	○																兼1	
社会法（労働と法）			1後	2	○																兼1	
社会法（福祉と法）			1後	2	○																兼1	
ジェンダー法（ジェンダーと法）			1前	2	○																兼1	集中
裁判法（市民と裁判）			1後	2	○																兼1	
刑事法（犯罪と刑罰について）			1後	2	○																兼1	
国際法（国際法入門）			1後	2	○																兼1	
知的財産権法（知的財産権法入門）			1前	2	○																兼1	
政治学分野		政治学入門（政治とは何か）	1後	2	○																兼1	
		現代政治論（現代日本の政治）	1前	2	○																兼1	
		現代政治論（日本の政治と世界）	1後	2	○																兼1	
		現代政治論（近代日本の政治と行政）	1後	2	○																兼1	
		現代政治論（政治理論と現代日本の政治）	1後	2	○																兼1	
		平和学（戦争の被害と加害、そして抵抗）	1前	2	○																兼1	
		平和学（戦争と平和の法制度）	1後	2	○																兼1	
		経済学分野	経済学入門（現代の日本経済）	1前	2	○																兼1
経済学入門（社会における経済の仕組み）			1前	2	○																兼1	
経済学史（日本経済論）			1後	2	○																兼1	
マクロ経済学（銀行論・金融政策論）			1前	2	○																兼1	
ミクロ経済学（交通経済学）			1前	2	○																兼1	
経営学分野		経営学入門（経営学とは何か）	1前	2	○																兼1	
		マネージメント論（マーケティング論入門）	1前	2	○																兼1	
社会学分野		社会学入門（社会階層論）	1前	2	○																兼1	
		現代社会論（少子高齢化社会）	1前	2	○																兼1	
		現代社会論（現代を生きる家族）	1前	2	○																兼1	
		現代社会論（社会の基盤）	1後	2	○																兼1	
	現代社会論（宇宙時代を生きる）	1後	2	○																兼1		
	現代社会論（Amishのライフスタイルから現代社会を考える）	1後	2	○																兼1		
	現代社会論（やさしいジェンダー学入門）	1後	2	○																兼1		
	メディア論（メディア論の基礎）	1前	2	○																兼1		
	メディア論（メディアの特徴・歴史・現状・課題）	1前	2	○																兼1		
	メディア論（国際メディア論）	1後	2	○																兼1		

自然 科学 科目	地理・ 地域論 分野	広報・PR論入門（岐阜大学をケーススタディに）	1前	2	○														兼1		
		地理学（都市論）	1前	2	○															兼1	
		地理学（地図・環境・立地・都市）	1前	2	○															兼1	
	教育 学 分 野	教育論（障害学への招待）	1前	2	○															兼1	
		教育論（現代社会問題と教育）	1前	2	○															兼1	
		教育論（岐阜大学の歴史と高等教育論）	1前・後	2	○															兼1	
		教育論（障害児教育臨床学）	1前	2	○															兼1	
		教育論（教育哲学）	1前	2	○															兼1	
		教育論（学校の社会的意味を問う）	1後	2	○															兼1	
		社会総合（生活の経済）	1前	2	○															兼1	
	社会・ 総合	社会総合（環境、CSR（企業の社会的責任）とマネジメント）	1前	2	○															兼1	集中
		教養の数学（数学概論（実数と数列））	1後	2	○															兼1	
	数学 分 野	教養の数学（コンピュータのための数学概論）	1前	2	○															兼1	
		教養の数学（図学）	1後	2	○															兼1	
		基礎代数学（数学概論）	1後	2	○															兼1	
		基礎代数学（古典数学へのいざない）	1前	2	○															兼1	
		基礎解析学（解析学の基礎）	1前	2	○															兼1	
		基礎解析学（微分積分学）	1前	2	○															兼1	
		基礎統計学（統計学の基礎）	1後	2	○															兼1	
		基礎統計学（実感する統計学）	1後	2	○															兼1	
		物理 学 分 野	物理学入門（身のまわりの物理学）	1前	2	○															兼1
物理学入門（現代物理学の基礎（相対論と量子論入門））			1前	2	○															兼1	
教養の物理学（物理学の基礎）			1後	2	○															兼1	
教養の物理学（雷の科学）			1前	2	○															兼1	
教養の物理学（物性の力学）			1後	2	○															兼1	
教養の物理学（力学現象の数学的見方）			1後	2	○															兼1	
教養の物理学（日曜大工からはじめる力学）	1前		2	○															兼1		
現代物理学（現代物理のトピックス（ポピュラーサイエンス））	1前		2	○															兼1		
現代物理学（表面張力の物理学）	1後		2	○															兼1		
化学 分 野	化学入門（日常生活でよく見る化学現象や化学製品を学ぶ）		1前	2	○															兼1	
	化学入門（身近なものから学ぶ化学）	1前	2	○															兼1		
	化学入門（身の回りで起こる現象から最先端技術に関わる化学）	1後	2	○															兼1		
	教養の化学（化学概論）	1後	2	○															兼1		
	教養の化学（現代の視点から、古典に学ぶ（化学系））	1後	2	○															兼1		
	教養の化学（有機化合物を分子模型で探る）	1後	2	○															兼1		
	教養の化学（化学結合と反応のしくみ）	1前	2	○															兼1		
	現代化学（ケミカルエンジニアリング入門）	1前	2	○															兼1		
	現代化学（プラスチック材料の基礎）	1前	2	○															兼1		
	現代化学（ソフトマター）	1後	2	○															兼1		
生物 学 分 野	生物学入門（現代生物学入門）	1前	2	○															兼1		
	生物学入門（微生物と病気）	1前	2	○															兼1		
	教養の生物学（動物と病気）	1後	2	○															兼1		
	教養の生物学（ヒトのからだ）	1後	2	○															兼1		
	教養の生物学（生命の仕組み）	1前	2	○															兼1		
	教養の生物学（分子から地球レベルの光合成）	1前	2	○															兼1		
	現代生物学（ウィルスの話）	1前	2	○															兼1		
	現代生物学（生き物よもやま話）	1後	2	○															兼1		
	現代生物学（葉の細胞生物学）	1後	2	○															兼1		
医 学 分 野	現代医学（生体防御・腫瘍病理基礎）	1後	2	○															兼1		
	宇 宙 地 球 科 学 分 野	宇宙地球科学入門（天文学への招待）	1後	2	○															兼1	
		教養の宇宙地球科学（気象学概論）	1前	2	○															兼1	
		教養の宇宙地球科学（地球環境の変遷）	1後	2	○															兼1	
		教養の宇宙地球科学（ESD入門）	1前	2	○															兼1	
現代宇宙地球科学（宇宙科学）	1前	2	○															兼1			

環境学分野	教養の環境学（自然災害と生活）	1後	2	○																兼1			
	教養の環境学（生物の多様性と人間社会）	1前	2	○																兼1			
	教養の環境学（土の物理的環境）	1前	2	○																兼1			
	教養の環境学（生物生産と環境）	1後	2	○																兼1			
	現代環境学（エネルギー問題）	1前	2	○																兼1			
	現代環境学（生物多様性を支える森林と動物たち）	1前	2	○																兼1			
	現代環境学（世界の食料と人口問題）	1前	2	○						1										兼4	オムニバス		
	現代環境学（ESD実践研究）	1後	2	○																兼1			
	自然科学総合分野	自然科学総合（化学と生物のインターフェース）	1後	2	○																兼1		
		自然科学総合（日本刀で学ぶ金属工学入門）	1前	2	○																兼1		
		自然科学総合（科学的なものの考え方）	1前	2	○																兼1		
		自然科学総合（情報・通信の基礎）	1後	2	○																兼1		
		自然科学総合（数値シミュレーション入門）	1前	2	○																兼1		
		自然科学総合（ものの科学）	1後	2	○																兼1		
		自然科学総合（化学と生命科学）	1前	2	○																兼1		
		自然科学総合（古典に学ぶ（偉大な科学者の学問と人生））	1後	2	○																兼1		
	実験講座分野	自然科学実験講座（ご飯までのフィールド科学）	1前	2	○																兼1		
		自然科学実験講座（家畜たちのフィールド科学）	1前	2	○																兼1		
		自然科学実験講座（森と川のフィールド科学）	1前	2	○																兼1		
		自然科学実験講座（金属を使ったものづくり）	1後	2	○																兼1	集中	
	情報学分野	情報学入門（ITの歴史と未来）	1前	2	○																兼1		
		情報学入門（経営のためのオペレーションズ・リサーチ）	1後	2	○																兼1		
		情報学入門（インターネットのやさしい数理）	1後	2	○																兼1		
		教養の情報学（オペレーションズ・リサーチにおけるモデリング）	1前	2	○																兼1		
		教養の情報学（データサイエンス入門）	1前・後	2	○					1													
	複合領域科目	生活と科学分野	社会の中の看護	1後	2	○																兼1	
			食の教養	1前・後	2	○				1													
			栄養と運動	1後	2	○																兼1	
			交通安全の科学	1前	2	○																兼1	
			畜産・水産の歴史と食文化	1後	2	○																兼1	
			医学史	1前	2	○																兼1	
			健康とQOL	1前	2	○																兼1	
			身近な薬と毒の科学	1後	2	○																兼1	
			世界の農業事情	1後	2	○																兼1	
			生物共生論	1前	2	○																兼1	
			現代医療の最前線	1前	2	○																兼1	
			環境マネジメントと環境経営	1前・後	2	○					1											兼4	オムニバス
			免疫学	1前	2	○																兼1	
			森と美術	1後	2	○																兼1	
			実践生物化学	1前	2	○																兼1	
			食と調理	1後	2	○																兼1	
		岐阜学分野	岐阜県の生物の分布と生態	1後	2	○																兼1	
現代のまちづくりと住民			1後	2	○																兼1		
岐阜の自然（地質・活断層と水環境）			1前	2	○																兼1		
岐阜県の農産物の生産・流通・消費			1後	2	○					1													
岐阜県誌：岐阜県の歴史・文化・自然			1前	2	○																兼1		
岐阜の自然と都市，そこに生きる生き物と人			1前	2	○					1											兼2	オムニバス	
岐阜県の食構造			1前	2	○					1													
フューチャーセンター入門			1前・後	2	○																兼1		
フューチャーセンター実践			1・2前	2	○																兼1	集中	
フューチャーセンター実践			1・2後	2	○																兼1	集中	
人と自然との関わりから見た岐阜			1前	2	○																兼1		
人と自然の関わりから見た岐阜（実践）			1後	2	○																兼1		
岐阜の産業：地域で活躍する企業と人			1前	2	○																兼1		
岐阜の伝統産業：陶磁器，刃物，石灰，紙，繊維			1後	2	○																兼1		
地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る			1前	2	○					1											兼3	共同	
岐阜にまつわる東洋史			1前	2	○																兼1		
地域防災リーダー基礎	1前・後	2	○					1											兼9	集中 オムニバス 共同（一部）			

現代分野	地域防災リーダー実践	1前・後	2		○		1					兼3	集中 共同	
	地域防災リーダー実践	1前・後	2		○		1					兼3	集中 共同	
	ワーク・ライフ・バランス(男女共同参画論)	1後	2		○							兼1		
	学び創造分野	学びをデザインする	1後	2		○							兼1	
		ひろがる学び, つながる学び	1前	2		○							兼1	
		共に支え, 学び合う「ピア・サポート」演習: 岐大基盤的能力特講	1後	2		○							兼1	
		高年次教養セミナー	1前	1		○							兼1	集中
		高年次教養セミナー	1後	1		○							兼1	集中
	キャリア形成分野	自分らしいキャリア設計	1前・後	2		○							兼1	
		現代社会を支える企業	1後	2		○							兼1	
		生活と金融・人生設計と資産形成	1後	2		○							兼1	
		アントレプレナーシップ入門	1前	2		○							兼1	
		地域系インターンシップ	1・2前	1		○							兼1	集中
		地域系インターンシップ	1・2後	1		○							兼1	集中
		産業系インターンシップ	1・2前	1		○							兼1	集中
		産業系インターンシップ	1・2後	1		○							兼1	集中
		社会の多様な働き方	1前	2		○							兼1	
		キャリア形成論	1前・後	2		○							兼1	
		ライフコース論(人生設計と生活保障)	1後	2		○							兼1	
		プロジェクト型インターンシップ	1後	2		○							兼1	
現代社会とボランティア・地域活動		1前・後	2		○							兼1		
自己省察と将来のキャリア設計		1後	2		○							兼1		
リサーチ実践		地域リーダー実践(上級)	1前	2		○							兼1	集中
	地域リーダー実践(上級)	1後	2		○							兼1	集中	
産業リーダー	産業リーダー実践	2前・後	2		○						兼1			
外国語科目	英語	英語1	1前	1		○						兼1		
		英語2	1前	1		○						兼1		
		英語3	1後	1		○						兼1		
		英語4	1後	1		○						兼1		
	第二外国語	ドイツ語	1前	1		○							兼1	
		ドイツ語	1後	1		○							兼1	
		フランス語	1前	1		○							兼1	
		フランス語	1後	1		○							兼1	
		中国語	1前	1		○							兼1	
		中国語	1後	1		○							兼1	
		朝鮮・韓国語	1前	1		○							兼1	
		朝鮮・韓国語	1後	1		○							兼1	
		ポルトガル語	1前	1		○							兼1	
		ポルトガル語	1後	1		○							兼1	
		スポーツ・健康科学科目	健康科学講義	健康科学	1後	2		○						兼1
ヘルスプロモーションと地域保健	1後			2		○						兼1		
スポーツコンディショニング	1後			2		○						兼1		
スポーツ演習分野	剣道		1前	2		○							兼1	
	雪上スポーツで学ぶ(スキー)		1後	2		○							兼1	集中
	ヨガ・エアロビクス		1前	2		○							兼1	
	トレーニング		1後	2		○							兼1	
	ハンドボール		1前	2		○							兼1	
	新卓球(ラージボール)		1後	2		○							兼1	
	ファストピッチ・ソフトボール(ウインドミル投法入門)		1前	2		○							兼1	
	卓球・水泳		1前	2		○							兼1	
	バドミントンA		1前・後	2		○							兼2	
	女子サッカーA		1前	2		○							兼1	
	女子サッカーB		1後	2		○							兼1	
	サッカー		1前・後	2		○							兼1	
	卓球		1前・後	2		○							兼1	
	ボールゲーム		1後	2		○							兼1	
	バレーボールA		1前	2		○							兼1	
	テニス		1前	2		○							兼1	

		テニス	1後	2		○										兼1	
		バスケットボールA	1前・後	2		○										兼1	
		ソフトボールB	1前	2		○										兼1	
		泳法探求(バタフライ)	1前	2		○										兼1	
		バランスボールエクササイズ	1前・後	2		○										兼1	
		フライングディスク	1前・後	2		○										兼1	
		アダプテッドスポーツ	1前	2		○										兼1	
		フットサル	1後	2		○										兼1	
		ジョギング	1後	2		○										兼1	
		小計(282科目)	-	6	538	0	-		4	2	0	0	0	0	0	兼209	-
専門基礎科目		現代経済学	1前	2		○			1								
		会計学	1後	2		○			1								
		行政法	2前	2		○										兼1	
		統計学	1後	2		○			1								
		財政学	2前	2		○			1								
		技術表現法	2前	2			○			2		1					共同
		情報処理演習	1前	1			○		1	1							オムニバス
		応用英語	2前	1			○										兼1
		応用英語	2前	1			○										兼1
		応用英語	2後	1			○										兼1
		応用英語	2後	1			○										兼1
		マネジメント活動実習(フィールドワーク基礎)	1前~2前	2				○	3			1					オムニバス・共同(一部)講義 演習
		社会システム経営入門 ビジネス編	1前	1			○		3	2							オムニバス・共同(一部)演習
		社会システム経営入門 観光・まちづくり編	1後	1			○		2	3							オムニバス・共同(一部)演習
		コミュニケーションデザイン論	1前	1			○					1					
		企業論	1前	2			○			1							
	経営組織論	1後	2			○		1									
	マーケティング論	2前	2			○			1								
	小計(18科目)	-	28	0	0	-		7	6	0	1	0			兼2	-	
専門科目	必修科目	組織リーダー論	3前	2		○			1								演習
		都市形成史(産業史)	2後	2			○			1							
		認知心理学	3前	2			○									兼1	
		デザイン思考論	2後・3前	2				○				1					
		プロジェクトマネジメント論	2後・3後	2				○	1	1							共同
		経営戦略論	2後	2			○			1							
		組織行動論	2後	2			○		1								
		専門演習	3前	2				○	6	6							
		専門演習	3後	2				○	6	6							
		専門演習	4前	2				○	6	6							
		専門演習	4後	2				○	6	6							
		卒業研究	4通	4				○	6	6							
	小計(12科目)	-	26	0	0	-		7	6	0	1	0			兼1	-	
選択必修科目		ビジネスデザイン実習(フィールドワーク実践)	2後~3後	2			○	2	2							オムニバス共同(一部)	
		まちづくりデザイン実習(フィールドワーク実践)	2後~3後	2			○	1	2							共同	
		観光デザイン実習(フィールドワーク実践)	2後~3後	2			○	2	2							共同	
		イノベーションマネジメント論	3後	2			○		1								
		コーポレートガバナンス	3後	2			○		1								
		財務諸表分析	3前	2			○	1									
		リスクマネジメント論	3前・後	2			○	1									
		コーポレートファイナンス	3後	2			○	1									
		生産管理論	3前	2			○		1								
		地域デザイン論	2後	2			○		1								
		地域環境学	3前	2			○	1									
		サプライチェーンマネジメント論	2後	2			○	1									

	パブリックマネジメント論	3後		2		○									兼1	
	空間デザイン論	3前		2			○			1						
	観光学	3前		2			○			1						
	里山保全論	3後		2		○				1						
	フードシステム論	3後		2			○				1					
	小計(17科目)	-	0	34	0		-			7	6	0	0	0	兼1	
選択科目	金融論	2後		2		○				1						
	簿記論	2前		2		○				1						
	アントレプレナーシップ論	3前		2		○				1						
	オペレーションズリサーチ	2前		2			○				1					
	計量経済学	3前		2			○			1						
	地域防災学	3後		2			○			1					兼7	オムニバス 共同(一部) 演習
	景観デザイン	2後		2			○				1					
	資源マネジメント論	3前		2			○				1					
	アグリビジネス論	3後		2			○				1					
	経営労務	2後		2			○								兼1	
	アセット・マネジメント概論	3後		2			○								兼2	オムニバス 共同(一部)
	社会基盤工学概論	1前		1			○								兼7	オムニバス
	機械工学概論	1前		1			○								兼12	オムニバス 共同(一部)
	電気電子・情報工学概論	1前		1			○								兼8	オムニバス
	化学・生命工学概論	1前		1			○								兼6	オムニバス
	技術経営概論	4前		2			○				1					集中
	農業環境修復学	2前		2			○								兼1	
	食品工学	3前		2			○								兼2	オムニバス
	食品安全性学	3前		2			○								兼1	
	食品関連法規	3後		2			○								兼1	
	生物環境科学概論	1後		2			○								兼5	オムニバス
	動物生産管理学	2後		2			○								兼1	
	生産環境関係法規	2前		2			○								兼1	
	動物園学(博物館概論)	2後		2			○								兼1	
	動物園動物管理学	3前		2			○								兼2	オムニバス
	農業生態学	3前		2			○								兼2	オムニバス
	農業経済学・経営学入門	3後		2			○			4	4					オムニバス
	環境保全論	3後		2			○			1						
小計(28科目)	-	0	52	0		-			7	6	0	0	0	兼57	-	
合計(357科目)		-	60	624	0		-		7	6	0	1	0	兼251	-	
学位又は称号	学士(経営学)		学位又は学科の分野				経済学関係									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>128単位以上を修得し、かつ科目区分ごとの卒業所要単位数を修得した者に学位を与える。</p> <p>・教養科目28単位  (初年次セミナー2単位, 人文科学科目から4単位, 社会科学科目から4単位, 自然科学科目から4単位, 複合領域科目から6単位, 外国語科目から英語4単位, 第二外国語2単位, スポーツ・健康科学科目から2単位)</p> <p>・専門基礎科目28単位</p> <p>・専門科目66単位  (必修科目26単位, 選択必修科目から14単位, 各プログラムが指定する9科目から10単位, 自由選択16単位)</p> <p>・自由選択科目6単位  (教養科目のうち2単位まで含めることができる。)  (履修科目の登録の上限: 26単位(1学期))</p> <p>なお、プログラムごとに下記の科目を履修する。</p> <p><b>【ビジネスデザイン】</b>  選択必修科目: ビジネスデザイン実習(フィールドワーク実践), イノベーションマネジメント論, コーポレートガバナンス, 財務諸表分析, リスクマネジメント論, コーポレートファイナンス, 生産管理論  プログラムが指定する科目: 簿記論, アントレプレナーシップ論, 地域デザイン論, サプライチェーンマネジメント論, 金融論, オペレーションズリサーチ, 経営労務, 計量経済学, アセット・マネジメント概論のうち5科目を履修</p> <p><b>【まちづくりデザイン】</b>  選択必修科目: まちづくりデザイン実習(フィールドワーク実践), 地域デザイン論, 地域環境学, サプライチェーンマネジメント論, リスクマネジメント論, パブリックマネジメント論, 空間デザイン論  プログラムが指定する科目: 簿記論, アントレプレナーシップ論, 財務諸表分析, 地域防災学, 景観デザイン, 資源マネジメント論, アグリビジネス論, 計量経済学, イノベーションマネジメント論のうち5科目を履修</p> <p><b>【観光デザイン】</b>  選択必修科目: 観光デザイン実習(フィールドワーク実践), 地域デザイン論, 地域環境学, サプライチェーンマネジメント論, 観光学, 里山保全論, フードシステム論  プログラムが指定する科目: 簿記論, アントレプレナーシップ論, 財務諸表分析, オペレーションズリサーチ, 景観デザイン, 資源マネジメント論, アグリビジネス論, イノベーションマネジメント論, 経営労務のうち5科目を履修</p>	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要

(連係協力学部：地域科学部学部 地域政策学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	初年次セミナー	1前	2			○			1	2		1		兼4		
教養科目	人文科学科目	哲学分野	哲学入門(正義について哲学しよう)	1前		2		○							兼1	
			哲学入門(西洋哲学入門)	1後		2		○								兼1
			人間・死生学(現代人間論)	1後		2		○								兼1
			近現代思想(日本の近代思想)	1後		2		○								兼1
			科学論(生命と癒しの科学論)	1前		2		○								兼1
			科学論(科学論入門：近代的自然観と自然科学)	1前		2		○								兼1
			東洋・日本思想(インド思想の特質)	1前		2		○								兼1
			東洋・日本思想(中国の古典思想)	1前		2		○								兼1
			倫理学(倫理学とは何か)	1後		2		○								兼1
			宗教学(比較宗教学概論)	1前		2		○								兼1
			宗教学(社会問題と宗教)	1後		2		○								兼1
			歴史学分野	歴史学入門(歴史学とは何か)	1前		2		○							
	西洋・中東史(西洋史(イギリス近代史))	1前			2		○								兼1	
	西洋・中東史(西欧諸国形成史)	1前			2		○								兼1	
	中国・朝鮮半島史(朝鮮・韓国の文化と日本との交流史)	1後			2		○								兼1	
	中国・朝鮮半島史(中国史)	1後			2		○								兼1	
	世界近現代史(現代国際関係史)	1前			2		○								兼1	
	世界近現代史(アメリカ概論)	1前			2		○								兼1	
	世界近現代史(ドイツ文化史)	1後			2		○								兼1	
	日本史(日本の歴史)	1後			2		○								兼1	
	日本近世史(近世文化史)	1後			2		○								兼1	
	日本近・現代史(近現代日本における女性)	1前			2		○								兼1	
	日本近・現代史(近現代日本の政治と国家主義運動)	1後			2		○								兼1	
	文学分野	文学(文学とは何か)	1前		2		○								兼1	
		外国文学(朝鮮・韓国の神話・文学・伝統芸能)	1前		2		○								兼1	
		外国文学(英米文学を読む)	1後		2		○								兼1	
		外国文学(三国志時代の文学)	1後		2		○								兼1	
		外国文学(西洋文学論)	1後		2		○								兼1	
		外国文学(ロシア革命と文学)	1後		2		○								兼1	
		日本文学(百人一首の世界)	1前		2		○								兼1	
		日本文学(近世文学の世界)	1後		2		○								兼1	
	言語分野	言語学入門(日本語学入門)	1前・後		2		○								兼1	
		言語学入門(岐阜県の方言,日本語,世界の言語)	1後		2		○								兼1	
		言語学(北欧のことばと地域の方言)	1前		2		○								兼1	
		言語学(言語地理学)	1前		2		○								兼1	
		言語学(フランス語論)	1前		2		○								兼1	
		言語学(アイスランドのことばと文化)	1後		2		○								兼1	
		言語学(児童の文章表現)	1後		2		○								兼1	
		言語学(映画で見る英語の諸言語現象と欧米文化)	1後		2		○								兼1	
		日本語表現論(劇作における会話表現)	1前		2		○								兼1	
		日本語表現論(日本語口頭表現)	1前・後		2		○								兼1	
	日本語表現論(実用的な日本語表現を学ぶ)	1前・後		2		○								兼1		

	心理・行動学分野	心理学入門（心理学概論）	1前	2	○										兼1		
		心理学（幼児発達支援入門）	1後	2	○										兼1		
		心理学実験・調査法（心理学実験・調査法）	1前	2	○			1									
	文化・芸術分野	西洋文化論（ロシア人の生活と言語）	1前	2	○										兼1		
		西洋文化論（西洋建築史）	1後	2	○										兼1		
		西洋文化論（ロシアの自然と言語）	1後	2	○										兼1		
		日本文化論（日本語文化論：国語教育史）	1前	2	○										兼1		
		日本文化論（衣生活文化史）	1前	2	○										兼1		
		日本文化論（金属で学ぶ日本文化史）	1後	2	○										兼1		
		現代文化論（現代の文化研究）	1後	2	○										兼1		
		現代文化論（科学技術と人間社会）	1前	2	○										兼1		
		韓国文化論（発音から学ぶ韓国語）	1前	2	○										兼1		
		異文化論（通過儀礼（人の一生）に見る世界の諸地域）	1後	2	○										兼1		
		美術論（美術史）	1前	2	○										兼1		
		美術論（デザイン論）	1前	2	○										兼1		
		音楽論（オーケストラ音楽を聴く）	1前	2	○										兼1		
		音楽論（実用作曲法）	1前・後	2	○										兼1		
		音楽論（ドイツ歌曲への誘い）	1前	2	○										兼1		
		音楽論（音楽への誘い）	1後	2	○										兼1		
		音楽論（音楽芸能文化概論）	1後	2	○										兼1		
	音楽論（ピアノ基礎（連弾））	1後	2	○										兼1			
社会科学科目	法学分野	法学入門（法とは何か）	1前	2	○										兼1		
		法学入門（立法体験：まちづくり条例制定の体験）	1前	2	○			1									
		日本国憲法（憲法）	1前	2	○										兼1		
		日本国憲法（統治機構論）	1前	2	○										兼1		
		日本国憲法（教職のための憲法）	1後	2	○										兼1		
		日本国憲法（教職のための憲法）	1後	2	○										兼1		
		民法（家庭生活と法）	1前	2	○				1								
		民法（財産と法）	1後	2	○										兼1		
		社会法（労働と法）	1後	2	○										兼1		
		社会法（福祉と法）	1後	2	○										兼1		
		ジェンダー法（ジェンダーと法）	1前	2	○					1						集中	
		裁判法（市民と裁判）	1後	2	○										兼1		
		刑事法（犯罪と刑罰について）	1後	2	○										兼1		
		国際法（国際法入門）	1後	2	○										兼1		
		知的財産権法（知的財産権法入門）	1前	2	○										兼1		
		政治学分野	政治学入門（政治とは何か）	1後	2	○										兼1	
			現代政治論（現代日本の政治）	1前	2	○										兼1	
	現代政治論（日本の政治と世界）		1後	2	○										兼1		
	現代政治論（近代日本の政治と行政）		1後	2	○				1								
	現代政治論（政治理論と現代日本の政治）		1後	2	○										兼1		
	平和学（戦争の被害と加害，そして抵抗）		1前	2	○										兼1		
	平和学（戦争と平和の法制度）	1後	2	○										兼1			
	経済学分野	経済学入門（現代の日本経済）	1前	2	○				1								
経済学入門（社会における経済の仕組み）		1前	2	○										兼1			
経済学史（日本経済論）		1後	2	○										兼1			
マクロ経済学（銀行論・金融政策論）		1前	2	○										兼1			
ミクロ経済学（交通経済学）		1前	2	○										兼1			
経営学分野	経営学入門（経営学とは何か）	1前	2	○										兼1			
	マネジメント論（マーケティング論入門）	1前	2	○										兼1			
社会学分野	社会学入門（社会階層論）	1前	2	○										兼1			
	現代社会論（少子高齢化社会）	1前	2	○										兼1			
	現代社会論（現代を生きる家族）	1前	2	○										兼1			

社会学分野	現代社会論（社会の基盤）	1後	2	○															兼1		
	現代社会論（宇宙時代を生きる）	1後	2	○															兼1		
	現代社会論（Amishのライフスタイルから現代社会を考える）	1後	2	○															兼1		
	現代社会論（やさしいジェンダー学入門）	1後	2	○															兼1		
	メディア論（メディア論の基礎）	1前	2	○															兼1		
	メディア論（メディアの特徴・歴史・現状・課題）	1前	2	○															兼1		
メディア論（国際メディア論）	1後	2	○																兼1		
	広報・PR論入門（岐阜大学をケーススタディに）	1前	2	○															兼1		
地理・地域論分野	地理学（都市論）	1前	2	○				1													
	地理学（地図・環境・立地・都市）	1前	2	○															兼1		
教育学分野	教育論（障害学への招待）	1前	2	○															兼1		
	教育論（現代社会問題と教育）	1前	2	○															兼1		
	教育論（岐阜大学の歴史と高等教育論）	1前・後	2	○															兼1		
	教育論（障害児教育臨床学）	1前	2	○															兼1		
	教育論（教育哲学）	1前	2	○															兼1		
	教育論（学校の社会的意味を問う）	1後	2	○															兼1		
	社会総合（生活の経済）	1前	2	○															兼1		
社会・総合	社会総合（環境、CSR（企業の社会的責任）とマネジメント）	1前	2	○															兼1	集中	
自然科学科目	数学分野	教養の数学（数学概論（実数と数列））	1後	2	○															兼1	
		教養の数学（コンピュータのための数学概論）	1前	2	○															兼1	
		教養の数学（図学）	1後	2	○															兼1	
		基礎代数学（数学概論）	1後	2	○															兼1	
		基礎代数学（古典数学へのいざない）	1前	2	○															兼1	
		基礎解析学（解析学の基礎）	1前	2	○															兼1	
		基礎解析学（微分積分学）	1前	2	○															兼1	
		基礎統計学（統計学の基礎）	1後	2	○															兼1	
		基礎統計学（実感する統計学）	1後	2	○															兼1	
	物理学分野	物理学入門（身のまわりの物理学）	1前	2	○																兼1
		物理学入門（現代物理学の基礎（相対論と量子論入門））	1前	2	○																兼1
		教養の物理学（物理学の基礎）	1後	2	○															兼1	
		教養の物理学（雷の科学）	1前	2	○															兼1	
		教養の物理学（物性の力学）	1後	2	○															兼1	
		教養の物理学（力学現象の数学的見方）	1後	2	○															兼1	
		教養の物理学（日曜大工からはじめる力学）	1前	2	○															兼1	
		現代物理学（現代物理のトピックス（ポピュラーサイエンス））	1前	2	○															兼1	
		現代物理学（表面張力の物理学）	1後	2	○															兼1	
	化学分野	化学入門（日常生活でよく見る化学現象や化学製品を学ぶ）	1前	2	○																兼1
		化学入門（身近なものから学ぶ化学）	1前	2	○																兼1
		化学入門（身の回りで起こる現象から最先端技術に関わる化学）	1後	2	○																兼1
		教養の化学（化学概論）	1後	2	○				1												
		教養の化学（現代の視点から、古典に学ぶ（化学系））	1後	2	○																兼1
		教養の化学（有機化合物を分子模型で探る）	1後	2	○																兼1
		教養の化学（化学結合と反応のしくみ）	1前	2	○																兼1
		現代化学（ケミカルエンジニアリング入門）	1前	2	○																兼1
		現代化学（プラスチック材料の基礎）	1前	2	○																兼1
		現代化学（ソフトマター）	1後	2	○																兼1
	生物学分野	生物学入門（現代生物学入門）	1前	2	○																兼1
		生物学入門（微生物と病気）	1前	2	○																兼1
		教養の生物学（動物と病気）	1後	2	○																兼1
		教養の生物学（ヒトのからだ）	1後	2	○																兼1
		教養の生物学（生命の仕組み）	1前	2	○																兼1

		教養の生物学（分子から地球レベルの光合成）	1前		2		○											兼1	
		現代生物学（ウィルスの話）	1前		2		○											兼1	
		現代生物学（生き物よもやま話）	1後		2		○											兼1	
		現代生物学（葉の細胞生物学）	1後		2		○											兼1	
	医学分野	現代医学（生体防御・腫瘍病理基礎）	1後		2		○											兼1	
	宇宙地球科学分野	宇宙地球科学入門（天文学への招待）	1後		2		○											兼1	
		教養の宇宙地球科学（気象学概論）	1前		2		○											兼1	
		教養の宇宙地球科学（地球環境の変遷）	1後		2		○											兼1	
		教養の宇宙地球科学（ESD入門）	1前		2		○											兼1	
		現代宇宙地球科学（宇宙科学）	1前		2		○											兼1	
	環境学分野	教養の環境学（自然災害と生活）	1後		2		○											兼1	
		教養の環境学（生物の多様性と人間社会）	1前		2		○											兼1	
		教養の環境学（土の物理的環境）	1前		2		○											兼1	
		教養の環境学（生物生産と環境）	1後		2		○											兼1	
		現代環境学（エネルギー問題）	1前		2		○											兼1	
		現代環境学（生物多様性を支える森林と動物たち）	1前		2		○											兼1	
		現代環境学（世界の食料と人口問題）	1前		2		○											兼5	オムニバス
		現代環境学（ESD実践研究）	1後		2		○											兼1	
	自然科学総合分野	自然科学総合（化学と生物のインターフェース）	1後		2		○											兼1	
		自然科学総合（日本刀で学ぶ金属工学入門）	1前		2		○											兼1	
		自然科学総合（科学的なものの考え方）	1前		2		○											兼1	
		自然科学総合（情報・通信の基礎）	1後		2		○											兼1	
		自然科学総合（数値シミュレーション入門）	1前		2		○											兼1	
		自然科学総合（ものの科学）	1後		2		○											兼1	
		自然科学総合（化学と生命科学）	1前		2		○											兼1	
		自然科学総合（古典に学ぶ（偉大な科学者の学問と人生））	1後		2		○											兼1	
	実験講座分野	自然科学実験講座（ご飯までのフィールド科学）	1前		2		○											兼1	
		自然科学実験講座（家畜たちのフィールド科学）	1前		2		○											兼1	
		自然科学実験講座（森と川のフィールド科学）	1前		2		○											兼1	
		自然科学実験講座（金属を使ったものづくり）	1後		2		○											兼1	集中
	情報学分野	情報学入門（ITの歴史と未来）	1前		2		○											兼1	
		情報学入門（経営のためのオペレーションズ・リサーチ）	1後		2		○											兼1	
		情報学入門（インターネットのやさしい数理）	1後		2		○											兼1	
		教養の情報学（オペレーションズ・リサーチにおけるモデリング）	1前		2		○											兼1	
		教養の情報学（データサイエンス入門）	1前・後		2		○											兼1	
複合領域科目	生活と科学分野	社会の中の看護	1後		2		○											兼1	
		食の教養	1前・後		2		○											兼1	
		栄養と運動	1後		2		○											兼1	
		交通安全の科学	1前		2		○											兼1	
		畜産・水産業の歴史と食文化	1後		2		○											兼1	
		医学史	1前		2		○											兼1	
		健康とQOL	1前		2		○											兼1	
		身近な薬と毒の科学	1後		2		○											兼1	
		世界の農業事情	1後		2		○											兼1	
		生物共生論	1前		2		○											兼1	
		現代医療の最前線	1前		2		○											兼1	
		環境マネジメントと環境経営	1前・後		2		○				1	2						兼2	オムニバス
		免疫学	1前		2		○											兼1	
		森と美術	1後		2		○											兼1	
		実践生物化学	1前		2		○											兼1	
		食と調理	1後		2		○											兼1	
		岐阜県の生物の分布と生態	1後		2		○											兼1	
		現代のまちづくりと住民	1後		2		○				1								

岐阜学分野	岐阜の自然（地質・活断層と水環境）	1前	2	○											兼1		
	岐阜県の農産物の生産・流通・消費	1後	2	○											兼1		
	岐阜県誌：岐阜県の歴史・文化・自然	1前	2	○											兼1		
	岐阜の自然と都市，そこに生きる生き物と人	1前	2	○			2								兼1	オムニバス	
	岐阜県の食構造	1前	2	○											兼1		
	フューチャーセンター入門	1前・後	2	○											兼1		
	フューチャーセンター実践	1・2前	2	○											兼1	集中	
	フューチャーセンター実践	1・2後	2	○											兼1	集中	
	人と自然との関わりから見た岐阜	1前	2	○											兼1		
	人と自然の関わりから見た岐阜（実践）	1後	2	○											兼1		
	岐阜の産業：地域で活躍する企業と人	1前	2	○											兼1		
	岐阜の伝統産業：陶磁器，刃物，石灰，紙，繊維	1後	2	○											兼1		
	地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る	1前	2	○			1								兼3	共同	
	岐阜にまつわる東洋史	1前	2	○											兼1		
現代分野	地域防災リーダー基礎	1前・後	2	○											兼10	集中 オムニバス 共同（一部）	
	地域防災リーダー実践	1前・後	2	○											兼4	集中 共同	
	地域防災リーダー実践	1前・後	2	○											兼4	集中 共同	
	ワーク・ライフ・バランス（男女共同参画論）	1後	2	○											兼1		
	学び創造分野	学びをデザインする	1後	2	○											兼1	
		ひろがる学び，つながる学び	1前	2	○											兼1	
		共に支え，学び合う「ピア・サポート」演習：岐大基盤的能力特講	1後	2	○											兼1	
		高年次教養セミナー	1前	1	○											兼1	集中
		高年次教養セミナー	1後	1	○											兼1	集中
	キャリア形成分野	自分らしいキャリア設計	1前・後	2	○											兼1	
		現代社会を支える企業	1後	2	○											兼1	
		生活と金融・人生設計と資産形成	1後	2	○											兼1	
		アントレプレナーシップ入門	1前	2	○											兼1	
		地域系インターンシップ	1・2前	1	○											兼1	集中
地域系インターンシップ		1・2後	1	○											兼1	集中	
産業系インターンシップ		1・2前	1	○											兼1	集中	
産業系インターンシップ		1・2後	1	○											兼1	集中	
社会の多様な働き方		1前	2	○											兼1		
キャリア形成論		1前・後	2	○											兼1		
ライフコース論（人生設計と生活保障）		1後	2	○											兼1		
プロジェクト型インターンシップ		1後	2	○											兼1		
現代社会とボランティア・地域活動		1前・後	2	○											兼1		
自己省察と将来のキャリア設計		1後	2	○											兼1		
地域系リーダー実践	地域リーダー実践（上級）	1前	2	○											兼1	集中	
	地域リーダー実践（上級）	1後	2	○											兼1	集中	
産業系リーダー実践	産業リーダー実践	2前・後	2	○											兼1		
外国語科目 第一外国語	英語1	1前	1	○											兼1		
	英語2	1前	1	○											兼1		
	英語3	1後	1	○											兼1		
	英語4	1後	1	○											兼1		
	ドイツ語	1前	1	○											兼1		
	ドイツ語	1後	1	○											兼1		
	フランス語	1前	1	○											兼1		
	フランス語	1後	1	○											兼1		
	中国語	1前	1	○											兼1		
	中国語	1後	1	○											兼1		
朝鮮・韓国語	1前	1	○											兼1			

		朝鮮・韓国語	1後		1			○								兼1		
		ポルトガル語	1前		1			○								兼1		
		ポルトガル語	1後		1			○								兼1		
スポーツ・健康科学科目	健康科学講義	健康科学	1後		2			○								兼1		
		ヘルスプロモーションと地域保健	1後		2			○								兼1		
		スポーツコンディショニング	1後		2			○								兼1		
	スポーツ演習分野	剣道	1前		2				○								兼1	集中
		雪上スポーツで学ぶ(スキー)	1後		2				○							兼1		
		ヨガ・エアロビクス	1前		2				○							兼1		
		トレーニング	1後		2				○							兼1		
		ハンドボール	1前		2				○							兼1		
		新卓球(ラージボール)	1後		2				○							兼1		
		ファストピッチ・ソフトボール(ウインドミル投法入門)	1前		2				○							兼1		
		卓球・水泳	1前		2				○							兼1		
		バドミントンA	1前・後		2				○							兼2		
		女子サッカーA	1前		2				○							兼1		
		女子サッカーB	1後		2				○							兼1		
サッカー	1前・後		2				○							兼1				
卓球	1前・後		2				○							兼1				
		ボールゲーム	1後		2			○								兼1		
		バレーボールA	1前		2			○								兼1		
		テニス	1前		2			○								兼1		
		テニス	1後		2			○								兼1		
		バスケットボールA	1前・後		2			○								兼1		
		ソフトボールB	1前		2			○								兼1		
		泳法探求(バタフライ)	1前		2			○								兼1		
		バランスボールエクササイズ	1前・後		2			○								兼1		
		フライングディスク	1前・後		2			○								兼1		
		アダプテッドスポーツ	1前		2			○								兼1		
		フットサル	1後		2			○								兼1		
		ジョギング	1後		2			○								兼1		
		小計(282科目)	-		6	538	0		-		4	7	0	1	0	兼213	-	
専門基礎科目		地域研究入門	1前		2					2	4					兼4	オムニバス・共同(一部)	
		社会活動演習	1前		1					1	1					兼6		
		小計(2科目)	-		3	0	0		-		3	4	0	0	0	兼8	-	
	応用外国語科目	英語	応用英語	1後		1											兼4	
			応用英語	1後		1											兼4	
			応用英語	2前		1											兼4	
			応用英語	2前		1											兼4	
			応用英語	2後		1											兼1	
			応用英語	2後		1											兼1	
			応用英語A	1前		1											兼1	
			応用英語B	1後		1											兼1	
	ドイツ語	応用ドイツ語	1後		1											兼1		
		応用ドイツ語	1後		1											兼1		
		応用ドイツ語	2前		1											兼1		
		応用ドイツ語	2前		1											兼1		
		応用ドイツ語A	2後		1											兼1		
		応用ドイツ語B	3前		1											兼1		
	フランス語	応用フランス語	1後		1											兼1		
		応用フランス語	1後		1											兼1		
		応用フランス語	2前		1											兼1		
応用フランス語		2前		1											兼1			
応用フランス語A		2後		1											兼1			
応用フランス語B		3前		1											兼1			
中国語	応用中国語	1後		1											兼1			
	応用中国語	1後		1											兼1			
	応用中国語	2前		1											兼1			
	応用中国語	2前		1											兼1			
	応用中国語A	2後		1											兼1			

朝鮮・韓国語	応用中国語 B	3前	1										兼1		
	応用朝鮮・韓国語	1後	1										兼1		
	応用朝鮮・韓国語	1後	1										兼1		
	応用朝鮮・韓国語	2前	1										兼1		
	応用朝鮮・韓国語	2前	1										兼1		
	応用朝鮮・韓国語 V	2後	1										兼1		
	応用朝鮮・韓国語	3前	1										兼1		
小計(32科目)		-	0	32	0	-		0	0	0	0	0	0	兼19	-
基礎セミナー	哲学 A (思考と基礎概念)	1後	2											兼1	
	哲学 B (認識と価値問題)	2前	2											兼1	
	言語学 A	1後	2											兼2	オムニバス
	言語学 B	2前	2											兼2	オムニバス
	文学 A (基礎分析)	1後	2											兼2	オムニバス
	文学 B (応用分析)	2前	2											兼1	
	経済学 A	1後	2						1						
	経済学 B	2前	2						1						
	法学・国家論 A	1後	2						1						
	法学・国家論 B	2前	2						1						
	社会学	1後	2											兼1	
	社会福祉学	2前	2											兼2	オムニバス
	歴史学	2前	2											兼1	
	教育学	1後	2											兼2	オムニバス
	心理学	2前	2											兼2	オムニバス
	言語と社会 A	1後	2											兼5	
言語と社会 B	2前	2											兼5		
小計(17科目)		-	0	34	0	-		0	4	0	0	0	0	兼16	-
専門基礎共通科目	法学	1前	2								1				
	地理学	1前	2					1							
	政治経済学	1後	2						1						
	現代経済学	1前	2					1							
	微分積分	1前	2						1						
	微分積分	1後	2						1						
	線形代数	1前	2					1							
	線形代数	1後	2						1						
	記述統計学	2前	2								1				
	物理学	1後	2								1				
	化学	2前	2					1							
	生物学	1後	2						1						
	現代社会学概論	1前	2											兼1	
	教育・心理学	1前	2											兼2	オムニバス
	人間発達概論	2前	2											兼1	
	近・現代史	2後	2											兼1	
	哲学	1後	2											兼1	
	文学	1前	2											兼1	
	言語学	1前	2											兼1	
	グローバルゼーション概論	1後	2											兼1	
小計(20科目)		-	0	40	0	-		3	4	0	2	0	0	兼9	-
専門科目	地域計画論	2前	2						1						
	地域づくり論	2後	2						1						
	推測統計学	2後	2					1							
	計量経済学	3前	2			○		1							
	日本経済論	2前	2						1						
	地域経済論	2後	2					1							
	経営学	2後	2						1						
	憲法	1後	2								1				
	行政法	2前	2						1						
	民法	2前	2						1						
	行政学	2前	2						1						
	マネジメント特講	3後	2			○		3	1						
	物理学	2前	2						1						

環境物理学	2後		2					1						
化学実験	2前		2					1						
都市環境工学	1後		2						1					
環境調査法	3後		2					1						
国際経済論	2・3前		2						1				隔年	
比較経済体制論	2・3前		2						1				隔年	
地域産業論	2前		2						1					
経済地理学	1後		2					1						
地域振興論	2・3前		2									兼1	隔年	
地域解析学	2後		2						1					
経済政策	2・3前		2									兼1	隔年	
社会政策論	2後		2									兼1		
労働経済学	2・3前		2									兼1	隔年	
消費経済論	2・3後		2									兼1	隔年	
会計学	3後		2					1						
マーケティング論	3前		2						1					
金融論	3後		2					1						
公共経済学	2・3後		2									兼1	隔年	
環境経済学	2・3前		2									兼2	隔年・ オムニバス	
地方自治法	2・3後		2						1				隔年	
労働法	2後		2						1					
現代政治学	2前		2									兼1		
政治過程論	2・3前		2									兼1	隔年	
国際関係論	2後		2									兼1		
財政学	2後		2									兼1		
地方財政論	3前		2									兼1		
企業法	2・3前		2									兼1	隔年	
刑法	2・3後		2									兼1	隔年	
裁判法	2・3前		2									兼1	隔年	
環境法	2・3後		2						1				隔年	
微分方程式	2前		2					1	2				オムニバス	
応用解析学	2前		2					1						
数理計画法	2前		2					1						
物理学	2後		2						1					
環境物理学	3前		2						1					
環境物理学	3前		2							1				
化学演習	2前		2						1					
物理化学	2後		2						1					
生物学	2前		2									兼1		
植物生態学	3前		2									兼1		
動物生態学	2前		2						1					
環境保全論	2後		2									兼1		
環境保全論	2後		2						1					
システム工学	2後		2					1						
居住環境と心理	3後		2					1						
地域学実習	3前	2						2	3			兼3		
専門セミナー	2後	2						6	10	2				
専門セミナー	3前	2						6	10	2				
専門セミナー	3後	2						6	10	2				
専門セミナー	4前	2						6	10	2				
専門セミナー	4後	2						6	10	2				
卒業研究	4後	4						6	10	2				
地域科学特講	1・2・3・4前		2									兼1		
地域科学特講	1・2・3・4後		2									兼1		
小計(67科目)	-	22	114	0		-		8	11	0	2	0	兼21	-
合計(420科目)	-	31	758	0		-		8	11	0	2	0	兼245	-

学位又は称号	学士（地域科学）	学位又は学科の分野	経済学，社会学・社会福祉学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
<p>教養科目30単位（初年次セミナー2単位，人文科学科目から4単位，社会科学科目から4単位，自然科学科目から4単位，複合領域科目から6単位，外国語科目から英語4単位，第二外国語2単位，スポーツ・健康科学科目から2単位，自由選択科目2単位），専門基礎科目23単位（必修科目3単位，応用外国語科目から4単位（同一言語の . . . を修得する。），基礎セミナーから4単位，専門基礎共通科目から12単位），専門科目66単位（必修科目22単位，選択科目30単位，専門関連科目14単位（両学科の専門科目から修得）），自由選択科目10単位以上を修得し，129単位以上を修得すること。なお，専門科目の選択科目のうち，計量経済学，日本経済論，地域経済論，経営学，憲法，行政法，民法，行政学，マネジメント特講，物理学，環境物理学，化学実験，都市環境工学，環境調査法から6単位を選択必修とする。</p>			1学年の学期区分	2学期
			1学期の授業期間	15週
			1時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要

(連係協力学部：地域科学部学部 地域文化学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	初年次セミナー	1前	2			○			1			3		兼4
	哲学入門(正義について哲学しよう)	1前		2		○								兼1
	哲学入門(西洋哲学入門)	1後		2		○					1			
	人間・死生学(現代人間論)	1後		2		○								兼1
	近現代思想(日本の近代思想)	1後		2		○								兼1
	科学論(生命と癒しの科学論)	1前		2		○								兼1
	科学論(科学論入門：近代的自然観と自然科学)	1前		2		○			1					
	東洋・日本思想(インド思想の特質)	1前		2		○								兼1
	東洋・日本思想(中国の古典思想)	1前		2		○								兼1
	倫理学(倫理学とは何か)	1後		2		○								兼1
	宗教学(比較宗教学概論)	1前		2		○								兼1
	宗教学(社会問題と宗教)	1後		2		○								兼1
	歴史学入門(歴史学とは何か)	1前		2		○								兼1
	西洋・中東史(西洋史(イギリス近代史))	1前		2		○								兼1
	西洋・中東史(西欧諸国形成史)	1前		2		○								兼1
	中国・朝鮮半島史(朝鮮・韓国の文化と日本との交流史)	1後		2		○								兼1
	中国・朝鮮半島史(中国史)	1後		2		○								兼1
	世界近現代史(現代国際関係史)	1前		2		○					1			
	世界近現代史(アメリカ概論)	1前		2		○								兼1
	世界近現代史(ドイツ文化史)	1後		2		○								兼1
	日本史(日本の歴史)	1後		2		○								兼1
	日本近世史(近世文化史)	1後		2		○								兼1
	日本近・現代史(近現代日本における女性)	1前		2		○								兼1
	日本近・現代史(近現代日本の政治と国家主義運動)	1後		2		○								兼1
	文学(文学とは何か)	1前		2		○								兼1
	外国文学(朝鮮・韓国の神話・文学・伝統芸能)	1前		2		○								兼1
	外国文学(英米文学を読む)	1後		2		○								兼1
	外国文学(三国志時代の文学)	1後		2		○								兼1
	外国文学(西洋文学論)	1後		2		○								兼1
	外国文学(ロシア革命と文学)	1後		2		○								兼1
	日本文学(百人一首の世界)	1前		2		○								兼1
	日本文学(近世文学の世界)	1後		2		○								兼1
	言語学入門(日本語学入門)	1前・後		2		○								兼1
	言語学入門(岐阜県の方言,日本語,世界の言語)	1後		2		○								兼1
	言語学(北欧のことばと地域の方言)	1前		2		○								兼1
	言語学(言語地理学)	1前		2		○								兼1
	言語学(フランス語論)	1前		2		○				1				
	言語学(アイスランドのことばと文化)	1後		2		○								兼1
	言語学(児童の文章表現)	1後		2		○								兼1
	言語学(映画で見る英語の諸言語現象と欧米文化)	1後		2		○								兼1
	日本語表現論(劇作における会話表現)	1前		2		○								兼1
	日本語表現論(日本語口頭表現)	1前・後		2		○								兼1
	日本語表現論(実用的な日本語表現を学ぶ)	1前・後		2		○								兼1

文化・芸術分野	心理・行動学分野	心理学入門（心理学概論）	1前	2	○														兼1		
		心理学（幼児発達支援入門）	1後	2	○															兼1	
		心理学実験・調査法（心理学実験・調査法）	1前	2	○															兼1	
		西洋文化論（ロシア人の生活と言語）	1前	2	○															兼1	
		西洋文化論（西洋建築史）	1後	2	○															兼1	
		西洋文化論（ロシアの自然と言語）	1後	2	○															兼1	
		日本文化論（日本語文化論：国語教育史）	1前	2	○															兼1	
		日本文化論（衣生活文化史）	1前	2	○															兼1	
		日本文化論（金属で学ぶ日本文化史）	1後	2	○															兼1	
		現代文化論（現代の文化研究）	1後	2	○					1											
		現代文化論（科学技術と人間社会）	1前	2	○															兼1	
		韓国文化論（発音から学ぶ韓国語）	1前	2	○															兼1	
		異文化論（通過儀礼（人の一生）に見る世界の諸地域）	1後	2	○															兼1	
		美術論（美術史）	1前	2	○															兼1	
		美術論（デザイン論）	1前	2	○															兼1	
		音楽論（オーケストラ音楽を聴く）	1前	2	○															兼1	
		音楽論（実用作曲法）	1前・後	2	○															兼1	
		音楽論（ドイツ歌曲への誘い）	1前	2	○															兼1	
		音楽論（音楽への誘い）	1後	2	○															兼1	
		音楽論（音楽芸能文化概論）	1後	2	○															兼1	
	音楽論（ピアノ基礎（連弾））	1後	2	○															兼1		
社会科学科目	法学分野	法学入門（法とは何か）	1前	2	○															兼1	
		法学入門（立法体験：まちづくり条例制定の体験）	1前	2	○															兼1	
		日本国憲法（憲法）	1前	2	○															兼1	
		日本国憲法（統治機構論）	1前	2	○															兼1	
		日本国憲法（教職のための憲法）	1後	2	○															兼1	
		日本国憲法（教職のための憲法）	1後	2	○															兼1	
		民法（家族生活と法）	1前	2	○															兼1	
		民法（財産と法）	1後	2	○															兼1	
		社会法（労働と法）	1後	2	○															兼1	
		社会法（福祉と法）	1後	2	○															兼1	
	政治学分野	ジェンダー法（ジェンダーと法）	1前	2	○															兼1	集中
		裁判法（市民と裁判）	1後	2	○															兼1	
		刑事法（犯罪と刑罰について）	1後	2	○															兼1	
		国際法（国際法入門）	1後	2	○															兼1	
		知的財産権法（知的財産権法入門）	1前	2	○															兼1	
		政治学入門（政治とは何か）	1後	2	○															兼1	
		現代政治論（現代日本の政治）	1前	2	○															兼1	
		現代政治論（日本の政治と世界）	1後	2	○															兼1	
		現代政治論（近代日本の政治と行政）	1後	2	○															兼1	
		現代政治論（政治理論と現代日本の政治）	1後	2	○															兼1	
経済学分野	平和学（戦争の被害と加害、そして抵抗）	1前	2	○															兼1		
	平和学（戦争と平和の法制度）	1後	2	○															兼1		
	経済学入門（現代の日本経済）	1前	2	○															兼1		
	経済学入門（社会における経済の仕組み）	1前	2	○															兼1		
	経済学史（日本経済論）	1後	2	○															兼1		
経営学分野	マクロ経済学（銀行論・金融政策論）	1前	2	○															兼1		
	ミクロ経済学（交通経済学）	1前	2	○															兼1		
	経営学入門（経営学とは何か）	1前	2	○															兼1		
	マネージメント論（マーケティング論入門）	1前	2	○															兼1		
	社会学入門（社会階層論）	1前	2	○															兼1		
		現代社会論（少子高齢化社会）	1前	2	○															兼1	
		現代社会論（現代を生きる家族）	1前	2	○															兼1	

社会学分野	現代社会論（社会の基盤）	1後	2	○															兼1		
	現代社会論（宇宙時代を生きる）	1後	2	○															兼1		
	現代社会論（Amishのライフスタイルから現代社会を考える）	1後	2	○															兼1		
	現代社会論（やさしいジェンダー学入門）	1後	2	○															兼1		
	メディア論（メディア論の基礎）	1前	2	○															兼1		
	メディア論（メディアの特徴・歴史・現状・課題）	1前	2	○						1											
	メディア論（国際メディア論）	1後	2	○															兼1		
	広報・PR論入門（岐阜大学をケーススタディに）	1前	2	○						1											
地理・地域論分野	地理学（都市論）	1前	2	○															兼1		
	地理学（地図・環境・立地・都市）	1前	2	○															兼1		
教育学分野	教育論（障害学への招待）	1前	2	○															兼1		
	教育論（現代社会問題と教育）	1前	2	○															兼1		
	教育論（岐阜大学の歴史と高等教育論）	1前・後	2	○															兼1		
	教育論（障害児教育臨床学）	1前	2	○															兼1		
	教育論（教育哲学）	1前	2	○															兼1		
	教育論（学校の社会的意味を問う）	1後	2	○						1											
社会・総合	社会総合（生活の経済）	1前	2	○															兼1		
	社会総合（環境、CSR（企業の社会的責任）とマネジメント）	1前	2	○															兼1	集中	
自然科学科目	数学分野	教養の数学（数学概論（実数と数列））	1後	2	○														兼1		
		教養の数学（コンピュータのための数学概論）	1前	2	○														兼1		
		教養の数学（図学）	1後	2	○														兼1		
		基礎代数学（数学概論）	1後	2	○															兼1	
		基礎代数学（古典数学へのいざない）	1前	2	○															兼1	
		基礎解析学（解析学の基礎）	1前	2	○															兼1	
		基礎解析学（微分積分学）	1前	2	○															兼1	
		基礎統計学（統計学の基礎）	1後	2	○															兼1	
		基礎統計学（実感する統計学）	1後	2	○															兼1	
	物理学分野	物理学入門（身のまわりの物理学）	1前	2	○															兼1	
		物理学入門（現代物理学の基礎（相対論と量子論入門））	1前	2	○															兼1	
		教養の物理学（物理学の基礎）	1後	2	○															兼1	
		教養の物理学（雷の科学）	1前	2	○															兼1	
		教養の物理学（物性の力学）	1後	2	○															兼1	
		教養の物理学（力学現象の数学的見方）	1後	2	○															兼1	
		教養の物理学（日曜大工からはじめる力学）	1前	2	○															兼1	
		現代物理学（現代物理のトピックス（ポピュラーサイエンス））	1前	2	○															兼1	
		現代物理学（表面張力の物理学）	1後	2	○															兼1	
		化学分野	化学入門（日常生活でよく見る化学現象や化学製品を学ぶ）	1前	2	○															兼1
	化学入門（身近なものから学ぶ化学）		1前	2	○															兼1	
	化学入門（身の回りで起こる現象から最先端技術に関わる化学）		1後	2	○															兼1	
	教養の化学（化学概論）		1後	2	○															兼1	
	教養の化学（現代の視点から、古典に学ぶ（化学系））		1後	2	○															兼1	
	教養の化学（有機化合物を分子模型で探る）		1後	2	○															兼1	
	教養の化学（化学結合と反応のしくみ）		1前	2	○															兼1	
	現代化学（ケミカルエンジニアリング入門）		1前	2	○															兼1	
	現代化学（プラスチック材料の基礎）		1前	2	○															兼1	
	現代化学（ソフトマター）		1後	2	○															兼1	

複合領域科目	生物学分野	生物学入門（現代生物学入門）	1前		2		○												兼1		
		生物学入門（微生物と病気）	1前		2		○													兼1	
		教養の生物学（動物と病気）	1後		2		○													兼1	
		教養の生物学（ヒトのからだ）	1後		2		○													兼1	
		教養の生物学（生命の仕組み）	1前		2		○													兼1	
		教養の生物学（分子から地球レベルの光合成）	1前		2		○													兼1	
		現代生物学（ウィルスの話）	1前		2		○													兼1	
		現代生物学（生き物よもやま話）	1後		2		○													兼1	
		現代生物学（薬の細胞生物学）	1後		2		○													兼1	
	医学分野	現代医学（生体防御・腫瘍病理基礎）	1後		2		○													兼1	
	宇宙地球科学分野	宇宙地球科学入門（天文学への招待）	1後		2		○													兼1	
		教養の宇宙地球科学（気象学概論）	1前		2		○													兼1	
		教養の宇宙地球科学（地球環境の変遷）	1後		2		○													兼1	
		教養の宇宙地球科学（ESD入門）	1前		2		○													兼1	
		現代宇宙地球科学（宇宙科学）	1前		2		○													兼1	
	環境学分野	教養の環境学（自然災害と生活）	1後		2		○													兼1	
		教養の環境学（生物の多様性と人間社会）	1前		2		○													兼1	
		教養の環境学（土の物理的環境）	1前		2		○													兼1	
		教養の環境学（生物生産と環境）	1後		2		○													兼1	
		現代環境学（エネルギー問題）	1前		2		○													兼1	
		現代環境学（生物多様性を支える森林と動物たち）	1前		2		○													兼1	
		現代環境学（世界の食料と人口問題）	1前		2		○													兼5	オムニバス
	現代環境学（ESD実践研究）	1後		2		○													兼1		
	自然科学総合分野	自然科学総合（化学と生物のインターフェース）	1後		2		○													兼1	
		自然科学総合（日本刀で学ぶ金属工学入門）	1前		2		○													兼1	
		自然科学総合（科学的なものの考え方）	1前		2		○													兼1	
		自然科学総合（情報・通信の基礎）	1後		2		○													兼1	
		自然科学総合（数値シミュレーション入門）	1前		2		○													兼1	
		自然科学総合（ものの科学）	1後		2		○													兼1	
		自然科学総合（化学と生命科学）	1前		2		○													兼1	
		自然科学総合（古典に学ぶ（偉大な科学者の学問と人生））	1後		2		○													兼1	
	実験講座分野	自然科学実験講座（ご飯までのフィールド科学）	1前		2		○													兼1	
		自然科学実験講座（家畜たちのフィールド科学）	1前		2		○													兼1	
		自然科学実験講座（森と川のフィールド科学）	1前		2		○													兼1	
		自然科学実験講座（金属を使ったものづくり）	1後		2		○													兼1	集中
	情報学分野	情報学入門（ITの歴史と未来）	1前		2		○													兼1	
		情報学入門（経営のためのオペレーションズ・リサーチ）	1後		2		○													兼1	
		情報学入門（インターネットのやさしい数理）	1後		2		○													兼1	
		教養の情報学（オペレーションズ・リサーチにおけるモデリング）	1前		2		○													兼1	
		教養の情報学（データサイエンス入門）	1前・後		2		○													兼1	
	生活と科学分野	社会の中の看護	1後		2		○													兼1	
		食の教養	1前・後		2		○													兼1	
		栄養と運動	1後		2		○													兼1	
		交通安全の科学	1前		2		○													兼1	
		畜産・水産業の歴史と食文化	1後		2		○													兼1	
		医学史	1前		2		○													兼1	
		健康とQOL	1前		2		○													兼1	
		身近な薬と毒の科学	1後		2		○													兼1	
		世界の農業事情	1後		2		○													兼1	
生物共生論		1前		2		○													兼1		
現代医療の最前線		1前		2		○													兼1		
環境マネジメントと環境経営		1前・後		2		○													兼5	オムニバス	
免疫学		1前		2		○													兼1		

岐阜学分野	森と美術	1後	2	○														兼1	
	実践生物化学	1前	2	○														兼1	
	食と調理	1後	2	○														兼1	
	岐阜県の生物の分布と生態	1後	2	○														兼1	
	現代のまちづくりと住民	1後	2	○														兼1	
	岐阜の自然（地質・活断層と水環境）	1前	2	○														兼1	
	岐阜県の農産物の生産・流通・消費	1後	2	○														兼1	
	岐阜県誌：岐阜県の歴史・文化・自然	1前	2	○														兼1	
	岐阜の自然と都市，そこに生きる生き物と人	1前	2	○														兼3	オムニバス
	岐阜県の食構造	1前	2	○														兼1	
	フューチャーセンター入門	1前・後	2		○													兼1	
	フューチャーセンター実践	1・2前	2		○													兼1	集中
	フューチャーセンター実践	1・2後	2		○													兼1	集中
	人と自然との関わりから見た岐阜	1前	2		○													兼1	
	人と自然の関わりから見た岐阜（実践）	1後	2		○													兼1	
	岐阜の産業：地域で活躍する企業と人	1前	2		○													兼1	
	岐阜の伝統産業：陶磁器，刃物，石灰，紙，繊維	1後	2		○													兼1	
	地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る	1前	2		○													兼4	共同
	岐阜にまつわる東洋史	1前	2		○													兼1	
	地域防災リーダー基礎	1前・後	2		○													兼10	集中 オムニバス 共同（一部）
	地域防災リーダー実践	1前・後	2		○													兼4	集中 共同
地域防災リーダー実践	1前・後	2		○													兼4	集中 共同	
現代分野	ワーク・ライフ・バランス（男女共同参画論）	1後	2		○													兼1	
学び創造分野	学びをデザインする	1後	2		○													兼1	
	ひろがる学び，つながる学び	1前	2		○													兼1	
	共に支え，学び合う「ピア・サポート」演習：岐大基盤的能力特講	1後	2		○													兼1	
	高年次教養セミナー	1前	1		○													兼1	集中
	高年次教養セミナー	1後	1		○													兼1	集中
キャリア形成分野	自分らしいキャリア設計	1前・後	2		○													兼1	
	現代社会を支える企業	1後	2		○													兼1	
	生活と金融・人生設計と資産形成	1後	2		○													兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前	2		○													兼1	
	地域系インターンシップ	1・2前	1		○													兼1	集中
	地域系インターンシップ	1・2後	1		○													兼1	集中
	産業系インターンシップ	1・2前	1		○													兼1	集中
	産業系インターンシップ	1・2後	1		○													兼1	集中
	社会の多様な働き方	1前	2		○													兼1	
	キャリア形成論	1前・後	2		○													兼1	
	ライフコース論（人生設計と生活保障）	1後	2		○													兼1	
	プロジェクト型インターンシップ	1後	2		○													兼1	
	現代社会とボランティア・地域活動	1前・後	2		○													兼1	
	自己省察と将来のキャリア設計	1後	2		○													兼1	
リサーチ分野	地域リーダー実践（上級）	1前	2		○													兼1	集中
	地域リーダー実践（上級）	1後	2		○													兼1	集中
1次産業	産業リーダー実践	2前・後	2		○													兼1	

外国語科目	英語	英語1	1前	1				○										兼1				
		英語2	1前	1				○											兼1			
		英語3	1後	1				○											兼1			
		英語4	1後	1				○											兼1			
	第一外国語	ドイツ語	1前		1			○			1											
		ドイツ語	1後		1			○			1											
		フランス語	1前		1			○			1											
		フランス語	1後		1			○			1											
		中国語	1前		1			○											兼1			
		中国語	1後		1			○											兼1			
		朝鮮・韓国語	1前		1			○											兼1			
		朝鮮・韓国語	1後		1			○											兼1			
	ポルトガル語	1前		1			○											兼1				
	ポルトガル語	1後		1			○											兼1				
	スポーツ・健康科学科目	健康科学講義	健康科学	1後		2			○											兼1		
			ヘルスプロモーションと地域保健	1後		2			○											兼1		
			スポーツコンディショニング	1後		2			○											兼1		
		スポーツ演習分野	剣道	1前		2				○											兼1	
			雪上スポーツで学ぶ(スキー)	1後		2				○										兼1	集中	
ヨガ・エアロピクス			1前		2				○										兼1			
トレーニング			1後		2				○										兼1			
ハンドボール			1前		2				○										兼1			
新卓球(ラージボール)			1後		2				○										兼1			
ファストピッチ・ソフトボール(ウインドミル投法入門)			1前		2				○										兼1			
卓球・水泳			1前		2				○										兼1			
バドミントンA			1前・後		2				○										兼2			
女子サッカーA			1前		2				○										兼1			
女子サッカーB			1後		2				○										兼1			
サッカー			1前・後		2				○										兼1			
卓球			1前・後		2				○										兼1			
ボールゲーム			1後		2				○										兼1			
バレーボールA			1前		2				○										兼1			
テニス			1前		2				○										兼1			
テニス			1後		2				○										兼1			
バスケットボールA			1前・後		2				○										兼1			
ソフトボールB			1前		2				○										兼1			
泳法探求(パタフライ)			1前		2				○										兼1			
バランスボールエクササイズ			1前・後		2				○										兼1			
フライングディスク			1前・後		2				○										兼1			
アダプテッドスポーツ			1前		2				○										兼1			
フットサル			1後		2				○										兼1			
ジョギング	1後		2				○										兼1					
小計(282科目)		-	6	538	0			-		9	3	1	4	0			兼212	-				
専門基礎科目	地域研究入門	地域研究入門	1前	2						2	1		1					兼6	オムニバス・共同(一部)			
		社会活動演習	1前	1						2	1	1						兼3				
		小計(2科目)	-	3	0	0			-	4	1	1	1	0				兼8	-			
	応用外国語	英語	応用英語	1後		1						1		1					兼2			
			応用英語	1後		1					1	1							兼2			
			応用英語	2前		1					1								兼3			
			応用英語	2前		1					1								兼3			
			応用英語	2後		1					1											
			応用英語	2後		1														兼1		
			応用英語A	1前		1														兼1		
			応用英語B	1後		1														兼1		
	ドイツ語	応用ドイツ語	1後		1														兼1			
		応用ドイツ語	1後		1						1											
		応用ドイツ語	2前		1														兼1			
応用ドイツ語		2前		1						1												
応用ドイツ語A		2後		1						1												

		応用ドイツ語 B	3前	1					1										
フランス語		応用フランス語	1後	1														兼1	
		応用フランス語	1後	1														兼1	
		応用フランス語	2前	1						1									
		応用フランス語	2前	1														兼1	
		応用フランス語 A	2後	1						1									
		応用フランス語 B	3前	1						1									
	中国語		応用中国語	1後	1														兼1
			応用中国語	1後	1					1									
			応用中国語	2前	1														兼1
			応用中国語	2前	1					1									
			応用中国語 A	2後	1					1									
			応用中国語 B	3前	1					1									
	朝鮮・韓国語		応用朝鮮・韓国語	1後	1														兼1
			応用朝鮮・韓国語	1後	1														兼1
			応用朝鮮・韓国語	2前	1														兼1
			応用朝鮮・韓国語	2前	1														兼1
			応用朝鮮・韓国語 V	2後	1														兼1
			応用朝鮮・韓国語	3前	1														兼1
	小計 (32科目)	-	0	32	0			-	6	3	0	1	0				兼9	-	
基礎セミナー		哲学 A (思考と基礎概念)	1後	2					1										
		哲学 B (認識と価値問題)	2前	2								1							
		言語学 A	1後	2					1	1								オムニバス	
		言語学 B	2前	2					2									オムニバス	
		文学 A (基礎分析)	1後	2					2									オムニバス	
		文学 B (応用分析)	2前	2					1										
		経済学 A	1後	2														兼1	
		経済学 B	2前	2														兼1	
		法学・国家論 A	1後	2														兼1	
		法学・国家論 B	2前	2														兼1	
		社会学	1後	2					1										
		社会福祉学	2前	2					1									兼1	オムニバス
		歴史学	2前	2								1							
		教育学	1後	2					1									兼1	オムニバス
		心理学	2前	2					1									兼1	オムニバス
		言語と社会 A	1後	2					3	2									
		言語と社会 B	2前	2					2	3									
	小計 (17科目)	-	0	34	0			-	9	3	1	1	0				兼6	-	
専門基礎共通科目		法学	1前	2														兼1	
		地理学	1前	2														兼1	
		政治経済学	1後	2														兼1	
		現代経済学	1前	2														兼1	
		微分積分	1前	2														兼1	
		微分積分	1後	2														兼1	
		線形代数	1前	2														兼1	
		線形代数	1後	2														兼1	
		記述統計学	2前	2														兼1	
		物理学	1後	2														兼1	
		化学	2前	2														兼1	
		生物学	1後	2														兼1	
		現代社会学概論	1前	2							1								
		教育・心理学	1前	2					1									兼1	オムニバス
		人間発達概論	2前	2							1								
		近・現代史	2後	2								1							
		哲学	1後	2					1										
		文学	1前	2					1										
		言語学	1前	2					1										
		グローバルゼーション概論	1後	2														兼1	
	小計 (20科目)	-	0	40	0			-	4	2	1	0	0				兼11	-	

専門科目	社会調査法	2後	2							1				
	ジェンダー論	2前	2								1			
	言語文化論	2後	2						1					
	文化基礎論	2後		2					1					
	地域社会学	2後		2									兼1	
	地域史	2前		2							1			
	メディア論	2後		2					1					
	文化人類学	2後		2					1					
	社会哲学	2前		2									兼1	
	日本文化論	2前		2									兼1	
	アジア文化論	2後		2					1					
	アメリカ文化論	1後		2							1			
	ヨーロッパ文化論	2後		2					1					
	社会言語学	3前		2					1					
	言語と社会入門	1前		2							1			
	口頭表現技法論	1前		2									兼1	
	社会福祉原論	2前		2									兼1	
	地域福祉論	2・3後		2									兼1	隔年
	老人福祉論	2・3前		2									兼1	隔年
	生活支援論	2後		2						1				
	環境教育論	2後		2					1					
	ジャーナリズム論	2前		2									兼1	
	家族社会学	2・3後		2									兼1	隔年
	労働社会学	2後		2						1				
	インターネット社会論	2前		2									兼1	
	ジェンダー史	2後		2									兼1	
	コミュニケーション論	2・3前		2									兼1	隔年
	近・現代思想論	2後		2							1			
	環境思想論	2・3後		2					1					隔年
	地域文化論	2・3後		2									兼1	隔年
	文化受容論	2前		2					1					
	境界文化論	2・3前		2					1					隔年
	言語理解論	2前		2						1				
	文献学	2・3前		2									兼1	隔年
	障害者福祉論	2前		2									兼1	
	健康教育論	3前		2					1					
	コミュニティ論	2・3前		2									兼1	隔年
	地域自治論	2前		2									兼1	
	文化思想史	2前		2									兼1	
	科学思想論	2・3後		2					1					隔年
	社会文化論	2・3後		2									兼1	隔年
文化解釈論	2・3後		2					1					隔年	
表象文化論	3後		2							1				
文学批評論	2・3前		2									兼1	隔年	
言語意味論	3前		2					1						
言語生活論	3前		2					1						
博物館学	2・3前		2									兼1	隔年	
生命倫理学	3前		2									兼1		
現代日本の社会	1後		2									兼1		
近代化と日本人	1後		2									兼1		
日本文学概論	1後		2									兼1		
日本の文化芸術	2前		2									兼1		
地域学実習	3前	2							1		2		兼5	
専門セミナー	2後	2						11	3	1	4			
専門セミナー	3前	2						11	3	1	4			
専門セミナー	3後	2						11	3	1	4			
専門セミナー	4前	2						11	3	1	4			
専門セミナー	4後	2						11	3	1	4			
卒業研究	4後	4						11	3	1	4			
地域科学特講	1・2・3・4前		2										兼1	

地域科学特講	1・2・3・4後		2									兼1	
小計(61科目)	-	22	102	0	-		11	3	1	4	0	兼31	-
合計(414科目)	-	31	746	0	-		11	5	1	4	0	兼250	-
学位又は称号	学士(地域科学)	学位又は学科の分野				経済学, 社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等							
教養科目30単位(初年次セミナー2単位, 人文科学科目から4単位, 社会科学科目から4単位, 自然科学科目から4単位, 複合領域科目から6単位, 外国語科目から英語4単位, 第二外国語2単位, スポーツ・健康科学科目から2単位, 自由選択科目2単位), 専門基礎科目23単位(必修科目3単位, 応用外国語科目から4単位(同一言語の . . . を修得する。)), 基礎セミナーから4単位, 専門基礎共通科目から12単位), 専門科目66単位(必修科目22単位, 選択科目30単位, 専門関連科目14単位(両学科の専門科目から修得)), 自由選択科目10単位以上を修得し, 129単位以上を修得すること。なお, 専門科目の選択科目のうち, 文化基礎論, 地域社会学, 地域史, メディア論, 文化人類学, 社会哲学, 日本文化論, アジア文化論, アメリカ文化論, ヨーロッパ文化論, 社会言語学から6単位を選択必修とする。						1学年の学期区分				2学期			
						1学期の授業期間				15週			
						1時限の授業時間				90分			

教 育 課 程 等 の 概 要

(連係協力学部：工学部 社会基盤工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	初年次セミナー	1前	2			○			2	1		1		兼3	オムニバス
教養科目 人文科学科目	哲学分野	哲学入門(正義について哲学しよう)	1前	2		○								兼1	
	哲学入門(西洋哲学入門)	1後	2		○									兼1	
	人間・死生学(現代人間論)	1後	2		○									兼1	
	近現代思想(日本の近代思想)	1後	2		○									兼1	
	科学論(生命と癒しの科学論)	1前	2		○									兼1	
	科学論(科学論入門：近代的自然観と自然科学)	1前	2		○									兼1	
	東洋・日本思想(インド思想の特質)	1前	2		○									兼1	
	東洋・日本思想(中国の古典思想)	1前	2		○									兼1	
	倫理学(倫理学とは何か)	1後	2		○									兼1	
	宗教学(比較宗教学概論)	1前	2		○									兼1	
	宗教学(社会問題と宗教)	1後	2		○									兼1	
	歴史学分野	歴史学入門(歴史学とは何か)	1前	2		○								兼1	
	西洋・中東史(西洋史(イギリス近代史))	1前	2		○									兼1	
	西洋・中東史(西欧諸国形成史)	1前	2		○									兼1	
	中国・朝鮮半島史(朝鮮・韓国の文化と日本との交流史)	1後	2		○									兼1	
	中国・朝鮮半島史(中国史)	1後	2		○									兼1	
	世界近現代史(現代国際関係史)	1前	2		○									兼1	
	世界近現代史(アメリカ概論)	1前	2		○									兼1	
	世界近現代史(ドイツ文化史)	1後	2		○									兼1	
	日本史(日本の歴史)	1後	2		○									兼1	
	日本近世史(近世文化史)	1後	2		○									兼1	
	日本近・現代史(近現代日本における女性)	1前	2		○									兼1	
	日本近・現代史(近現代日本の政治と国家主義運動)	1後	2		○									兼1	
	文学分野	文学(文学とは何か)	1前	2		○								兼1	
	外国文学(朝鮮・韓国の神話・文学・伝統芸能)	1前	2		○									兼1	
	外国文学(英米文学を読む)	1後	2		○									兼1	
	外国文学(三国志時代の文学)	1後	2		○									兼1	
	外国文学(西洋文学論)	1後	2		○									兼1	
	外国文学(ロシア革命と文学)	1後	2		○									兼1	
	日本文学(百人一首の世界)	1前	2		○									兼1	
	日本文学(近世文学の世界)	1後	2		○									兼1	
	言語学分野	言語学入門(日本語学入門)	1前・後	2		○								兼1	
	言語学入門(岐阜県の方言,日本語,世界の言語)	1後	2		○									兼1	
	言語学(北欧のことばと地域の方言)	1前	2		○									兼1	
	言語学(言語地理学)	1前	2		○									兼1	
	言語学(フランス語論)	1前	2		○									兼1	
	言語学(アイスランドのことばと文化)	1後	2		○									兼1	
	言語学(児童の文章表現)	1後	2		○									兼1	
	言語学(映画で見る英語の諸言語現象と欧米文化)	1後	2		○									兼1	
	日本語表現論(劇作における会話表現)	1前	2		○									兼1	
	日本語表現論(日本語口頭表現)	1前・後	2		○									兼1	

文化・芸術分野	日本語表現論（実用的な日本語表現を学ぶ）	1前・後	2	○																兼1		
	心理学入門（心理学概論）	1前	2	○																	兼1	
	心理学（幼児発達支援入門）	1後	2	○																	兼1	
	心理学実験・調査法（心理学実験・調査法）	1前	2	○																	兼1	
	西洋文化論（ロシア人の生活と言語）	1前	2	○																	兼1	
	西洋文化論（西洋建築史）	1後	2	○																	兼1	
	西洋文化論（ロシアの自然と言語）	1後	2	○																	兼1	
	日本文化論（日本語文化論：国語教育史）	1前	2	○																	兼1	
	日本文化論（衣生活文化史）	1前	2	○																	兼1	
	日本文化論（金属で学ぶ日本文化史）	1後	2	○																	兼1	
	現代文化論（現代の文化研究）	1後	2	○																	兼1	
	現代文化論（科学技術と人間社会）	1前	2	○																	兼1	
	韓国文化論（発音から学ぶ韓国語）	1前	2	○																	兼1	
	異文化論（通過儀礼（人の一生）に見る世界の諸地域）	1後	2	○																	兼1	
	美術論（美術史）	1前	2	○																	兼1	
	美術論（デザイン論）	1前	2	○																	兼1	
	音楽論（オーケストラ音楽を聴く）	1前	2	○																	兼1	
	音楽論（実用作曲法）	1前・後	2	○																	兼1	
	音楽論（ドイツ歌曲への誘い）	1前	2	○																	兼1	
	音楽論（音楽への誘い）	1後	2	○																	兼1	
	音楽論（音楽芸能文化概論）	1後	2	○																	兼1	
音楽論（ピアノ基礎（連弾））	1後	2	○																	兼1		
社会科学科目	法学分野	法学入門（法とは何か）	1前	2	○																兼1	
		法学入門（立法体験：まちづくり条例制定の体験）	1前	2	○																兼1	
		日本国憲法（憲法）	1前	2	○																兼1	
		日本国憲法（統治機構論）	1前	2	○																	兼1
		日本国憲法（教職のための憲法）	1後	2	○																	兼1
		日本国憲法（教職のための憲法）	1後	2	○																	兼1
		民事法（家族生活と法）	1前	2	○																	兼1
		民事法（財産と法）	1後	2	○																	兼1
		社会法（労働と法）	1後	2	○																	兼1
		社会法（福祉と法）	1後	2	○																	兼1
		ジェンダー法（ジェンダーと法）	1前	2	○																	兼1
		裁判法（市民と裁判）	1後	2	○																	兼1
		刑事法（犯罪と刑罰について）	1後	2	○																	兼1
	国際法（国際法入門）	1後	2	○																	兼1	
	知的財産権法（知的財産権法入門）	1前	2	○																	兼1	
	政治学分野	政治学入門（政治とは何か）	1後	2	○																	兼1
		現代政治論（現代日本の政治）	1前	2	○																	兼1
		現代政治論（日本の政治と世界）	1後	2	○																	兼1
		現代政治論（近代日本の政治と行政）	1後	2	○																	兼1
		現代政治論（政治理論と現代日本の政治）	1後	2	○																	兼1
平和学（戦争の被害と加害，そして抵抗）		1前	2	○																	兼1	
平和学（戦争と平和の法制度）		1後	2	○																	兼1	

経済学分野	経済学入門（現代の日本経済）	1前	2	○														兼1	
	経済学入門（社会における経済の仕組み）	1前	2	○														兼1	
	経済学史（日本経済論）	1後	2	○														兼1	
	マクロ経済学（銀行論・金融政策論）	1前	2	○														兼1	
	ミクロ経済学（交通経済学）	1前	2	○														兼1	
経営学分野	経営学入門（経営学とは何か）	1前	2	○														兼1	
	マネージメント論（マーケティング論入門）	1前	2	○														兼1	
	社会学分野	社会学入門（社会階層論）	1前	2	○														兼1
		現代社会論（少子高齢化社会）	1前	2	○														兼1
		現代社会論（現代を生きる家族）	1前	2	○														兼1
		現代社会論（社会の基盤）	1後	2	○		1												兼1
		現代社会論（宇宙時代を生きる）	1後	2	○														兼1
		現代社会論（Amishのライフスタイルから現代社会を考える）	1後	2	○														兼1
		現代社会論（やさしいジェンダー学入門）	1後	2	○														兼1
		メディア論（メディア論の基礎）	1前	2	○														兼1
		メディア論（メディアの特徴・歴史・現状・課題）	1前	2	○														兼1
		メディア論（国際メディア論）	1後	2	○														兼1
	広報・PR論入門（岐阜大学をケーススタディに）	1前	2	○														兼1	
	地理・地域論分野	地理学（都市論）	1前	2	○														兼1
地理学（地図・環境・立地・都市）		1前	2	○														兼1	
教育学分野	教育論（障害学への招待）	1前	2	○														兼1	
	教育論（現代社会問題と教育）	1前	2	○														兼1	
	教育論（岐阜大学の歴史と高等教育論）	1前・後	2	○														兼1	
	教育論（障害児教育臨床学）	1前	2	○														兼1	
	教育論（教育哲学）	1前	2	○														兼1	
	教育論（学校の社会的意味を問う）	1後	2	○														兼1	
社会・総合	社会総合（生活の経済）	1前	2	○														兼1	
	社会総合（環境、CSR（企業の社会的責任）とマネジメント）	1前	2	○														兼1 集中	
自然科学科目	数学分野	教養の数学（数学概論（実数と数列））	1後	2	○													兼1	
		教養の数学（コンピュータのための数学概論）	1前	2	○													兼1	
		教養の数学（図学）	1後	2	○													兼1	
		基礎代数学（数学概論）	1後	2	○													兼1	
		基礎代数学（古典数学へのいざない）	1前	2	○													兼1	
		基礎解析学（解析学の基礎）	1前	2	○													兼1	
		基礎解析学（微分積分学）	1前	2	○													兼1	
		基礎統計学（統計学の基礎）	1後	2	○													兼1	
		基礎統計学（実感する統計学）	1後	2	○													兼1	
		物理学分野	物理学入門（身のまわりの物理学）	1前	2	○													
	物理学入門（現代物理学の基礎（相対論と量子論入門））		1前	2	○														兼1
	教養の物理学（物理学の基礎）		1後	2	○														兼1
	教養の物理学（雷の科学）		1前	2	○														兼1
	教養の物理学（物性の力学）		1後	2	○														兼1
	教養の物理学（力学現象の数学的見方）		1後	2	○														兼1
	教養の物理学（日曜大工からはじめる力学）		1前	2	○														兼1
	現代物理学（現代物理のトピックス（ポピュラーサイエンス））		1前	2	○														兼1
	現代物理学（表面張力の物理学）	1後	2	○														兼1	
	化学分野	化学入門（日常生活でよく見る化学現象や化学製品を学ぶ）	1前	2	○														兼1
		化学入門（身近なものから学ぶ化学）	1前	2	○														兼1
化学入門（身の回りで起こる現象から最先端技術に関わる化学）		1後	2	○														兼1	
教養の化学（化学概論）		1後	2	○														兼1	
教養の化学（現代の視点から、古典に学ぶ（化学系））		1後	2	○														兼1	
教養の化学（有機化合物を分子模型で探る）	1後	2	○														兼1		

生物学分野	教養の化学（化学結合と反応のしくみ）	1前	2	○									兼1
	現代化学（ケミカルエンジニアリング入門）	1前	2	○									兼1
	現代化学（プラスチック材料の基礎）	1前	2	○									兼1
	現代化学（ソフトマター）	1後	2	○									兼1
	生物学入門（現代生物学入門）	1前	2	○									兼1
	生物学入門（微生物と病気）	1前	2	○									兼1
	教養の生物学（動物と病気）	1後	2	○									兼1
	教養の生物学（ヒトのからだ）	1後	2	○									兼1
	教養の生物学（生命の仕組み）	1前	2	○									兼1
	教養の生物学（分子から地球レベルの光合成）	1前	2	○									兼1
	現代生物学（ウィルスの話）	1前	2	○									兼1
	現代生物学（生きよもやま話）	1後	2	○									兼1
	現代生物学（薬の細胞生物学）	1後	2	○									兼1
	医学分野	現代医学（生体防御・腫瘍病理基礎）	1後	2	○								
宇宙地球科学分野	宇宙地球科学入門（天文学への招待）	1後	2	○									兼1
	教養の宇宙地球科学（気象学概論）	1前	2	○									兼1
	教養の宇宙地球科学（地球環境の変遷）	1後	2	○		1							
	教養の宇宙地球科学（ESD入門）	1前	2	○									兼1
	現代宇宙地球科学（宇宙科学）	1前	2	○									兼1
環境学分野	教養の環境学（自然災害と生活）	1後	2	○		1							
	教養の環境学（生物の多様性と人間社会）	1前	2	○									兼1
	教養の環境学（土の物理的環境）	1前	2	○									兼1
	教養の環境学（生物生産と環境）	1後	2	○									兼1
	現代環境学（エネルギー問題）	1前	2	○									兼1
	現代環境学（生物多様性を支える森林と動物たち）	1前	2	○									兼1
	現代環境学（世界の食料と人口問題）	1前	2	○									兼5 オムニバス
自然科学総合分野	現代環境学（ESD実践研究）	1後	2	○									兼1
	自然科学総合（化学と生物のインターフェース）	1後	2	○									兼1
	自然科学総合（日本刀で学ぶ金属工学入門）	1前	2	○									兼1
	自然科学総合（科学的なものの考え方）	1前	2	○									兼1
	自然科学総合（情報・通信の基礎）	1後	2	○									兼1
	自然科学総合（数値シミュレーション入門）	1前	2	○									兼1
	自然科学総合（ものの科学）	1後	2	○									兼1
	自然科学総合（化学と生命科学）	1前	2	○									兼1
実験講座分野	自然科学総合（古典に学ぶ（偉大な科学者の学問と人生）	1後	2	○									兼1
	自然科学実験講座（ご飯までのフィールド科学）	1前	2	○									兼1
	自然科学実験講座（家畜たちのフィールド科学）	1前	2	○									兼1
	自然科学実験講座（森と川のフィールド科学）	1前	2	○									兼1
情報学分野	自然科学実験講座（金属を使ったものづくり）	1後	2	○									兼1 集中
	情報学入門（ITの歴史と未来）	1前	2	○									兼1
	情報学入門（経営のためのオペレーションズ・リサーチ）	1後	2	○									兼1
	情報学入門（インターネットのやさしい数理）	1後	2	○									兼1
	教養の情報学（オペレーションズ・リサーチにおけるモデリング）	1前	2	○									兼1
複合領域科目	教養の情報学（データサイエンス入門）	1前・後	2	○									兼1
	社会の中の看護	1後	2	○									兼1
	食の教養	1前・後	2	○									兼1
	栄養と運動	1後	2	○									兼1
	交通安全の科学	1前	2	○									兼1
	畜産・水産業の歴史と食文化	1後	2	○									兼1
	医学史	1前	2	○									兼1
	健康とQOL	1前	2	○									兼1
	身近な薬と毒の科学	1後	2	○									兼1
	世界の農業事情	1後	2	○									兼1
	生物共生論	1前	2	○									兼1
	現代医療の最前線	1前	2	○									兼1
	環境マネジメントと環境経営	1前・後	2	○									兼5 オムニバス

工学部 社会基盤工学科	岐阜学 分野	免疫学	1前	2	○								兼1			
		森と美術	1後	2	○									兼1		
		実践生物化学	1前	2	○									兼1		
		食と調理	1後	2	○									兼1		
		岐阜県の生物の分布と生態	1後	2	○									兼1		
		現代のまちづくりと住民	1後	2	○									兼1		
		岐阜の自然（地質・活断層と水環境）	1前	2	○		1									
		岐阜県の農産物の生産・流通・消費	1後	2	○									兼1		
		岐阜県誌：岐阜県の歴史・文化・自然	1前	2	○		1									
		岐阜の自然と都市、そこに生きる生き物と人	1前	2	○									兼3	オムニバス	
		岐阜県の食構造	1前	2	○									兼1		
		フューチャーセンター入門	1前・後	2		○								兼1		
		フューチャーセンター実践	1・2前	2		○								兼1	集中	
		フューチャーセンター実践	1・2後	2		○								兼1	集中	
		人と自然との関わりから見た岐阜	1前	2		○								兼1		
		人と自然の関わりから見た岐阜（実践）	1後	2		○								兼1		
		岐阜の産業：地域で活躍する企業と人	1前	2		○								兼1		
		岐阜の伝統産業：陶磁器、刃物、石灰、紙、繊維	1後	2		○								兼1		
		地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る	1前	2		○								兼4	共同	
		岐阜にまつわる東洋史	1前	2		○								兼1		
		地域防災リーダー基礎	1前・後	2		○		3						兼7	集中 オムニバス 共同（一部）	
		地域防災リーダー実践	1前・後	2		○		2						兼2	集中 共同	
		地域防災リーダー実践	1前・後	2		○		2						兼2	集中 共同	
		現代 分野	ワーク・ライフ・バランス（男女共同参画論）	1後	2		○								兼1	
		学び 創造 分野	学びをデザインする	1後	2		○								兼1	
			ひろがる学び、つながる学び	1前	2		○								兼1	
			共に支え、学び合う「ピア・サポート」演習：岐大基盤的能力特講	1後	2		○								兼1	
			高年次教養セミナー	1前	1		○								兼1	集中
			高年次教養セミナー	1後	1		○								兼1	集中
			自分らしいキャリア設計	1前・後	2		○								兼1	
		キャリア 形成 分野	現代社会を支える企業	1後	2		○								兼1	
			生活と金融・人生設計と資産形成	1後	2		○								兼1	
			アントレプレナーシップ入門	1前	2		○								兼1	
			地域系インターンシップ	1・2前	1		○								兼1	集中
			地域系インターンシップ	1・2後	1		○								兼1	集中
			産業系インターンシップ	1・2前	1		○								兼1	集中
			産業系インターンシップ	1・2後	1		○								兼1	集中
			社会の多様な働き方	1前	2		○								兼1	
			キャリア形成論	1前・後	2		○								兼1	
ライフコース論（人生設計と生活保障）	1後		2		○								兼1			
プロジェクト型インターンシップ	1後		2		○								兼1			
現代社会とボランティア・地域活動	1前・後		2		○								兼1			
自己省察と将来のキャリア設計	1後		2		○								兼1			
リ ー ダ ー 実 践 学 習	地域リーダー実践（上級）		1前	2		○								兼1	集中	
	地域リーダー実践（上級）		1後	2		○								兼1	集中	
産 業 リ ー ダ ー 実 践	産業リーダー実践	2前・後	2		○								兼1			
	英語1	1前	1		○								兼12			
外国 語 科 目	英語2	1前	1		○								兼12			
	英語3	1後	1		○								兼8			
	英語4	1後	1		○								兼8			
	ドイツ語	1前	1		○								兼4			
	ドイツ語	1後	1		○								兼4			
	フランス語	1前	1		○								兼2			
	フランス語	1後	1		○								兼2			
	中国語	1前	1		○								兼3			

	中国語	1後	1			○									兼3	
	朝鮮・韓国語	1前	1			○									兼1	
	朝鮮・韓国語	1後	1			○									兼1	
	ポルトガル語	1前	1			○									兼1	
	ポルトガル語	1後	1			○									兼1	
スポーツ・健康科学科目	健康科学	1後	2			○									兼1	
	ヘルスプロモーションと地域保健	1後	2			○									兼1	
	スポーツコンディショニング	1後	2			○									兼1	
	剣道	1前	2			○									兼1	
	雪上スポーツで学ぶ(スキー)	1後	2			○									兼1	集中
	ヨガ・エアロビクス	1前	2			○									兼1	
	トレーニング	1後	2			○									兼1	
	ハンドボール	1前	2			○									兼1	
	新卓球(ラージボール)	1後	2			○									兼1	
	ファストピッチ・ソフトボール(ウインドミル投法入門)	1前	2			○									兼1	
	卓球・水泳	1前	2			○									兼1	
	バドミントンA	1前・後	2			○									兼2	
	女子サッカーA	1前	2			○									兼1	
	女子サッカーB	1後	2			○									兼1	
	サッカー	1前・後	2			○									兼1	
	卓球	1前・後	2			○									兼1	
	ボールゲーム	1後	2			○									兼1	
	バレーボールA	1前	2			○									兼1	
	テニス	1前	2			○									兼1	
	テニス	1後	2			○									兼1	
	バスケットボールA	1前・後	2			○									兼1	
	ソフトボールB	1前	2			○									兼1	
	泳法探求(バタフライ)	1前	2			○									兼1	
	バランスボールエクササイズ	1前・後	2			○									兼1	
	フライングディスク	1前・後	2			○									兼1	
	アダブテッドスポーツ	1前	2			○									兼1	
	フットサル	1後	2			○									兼1	
	ジョギング	1後	2			○									兼1	
小計(282科目)	-	6	538	0		-		5	1	0	1	0		兼230	-	
教養基礎	社会基盤工学概論	1前	1					6							兼1	オムニバス
	機械工学概論	1前	1												兼12	オムニバス 共同(一部)
	化学・生命工学概論	1前	1												兼6	オムニバス
	電気電子・情報工学概論	1前	1												兼8	オムニバス
	技術と技術者の倫理	3前	2					1							兼5	オムニバス
小計(5科目)	-	6	0	0		-		7	0	0	0	0		兼32	-	
基礎科目	微分積分	1前	2												兼1	
	微分積分	1後	2												兼1	
	線形代数	1前	2												兼1	
	線形代数	1後	2					1								
	微分方程式	2前	2					1								
	確率統計	1後	2					1								
	力学	1前	2					1								
	電磁気学基礎	2前	2												兼1	
	振動波動	2後	2												兼1	
	現代物理学概論	4前	2												兼1	
	化学基礎	2前	2												兼1	
	生物学基礎	2後	2												兼1	
	地学	1前	2					1								
	情報処理入門	1後	2												兼1	
	プログラミング基礎	1後	2												兼1	
	工学基礎実験	2後	1									2				オムニバス
	社会基盤工学英語	3前	2												兼1	
	社会基盤工学英語	3後	2					3	1							オムニバス
	技術表現法	2前	2												兼7	共同
	技術経営概論	4前	2												兼1	集中
	海外インターンシップ	1・2・3・4	2												兼1	集中
小計(21科目)	-	23	18	0		-		8	1	0	2	0		兼19	-	

学科共通科目	土木史	1前	2					9	3							オムニバス
	ベクトル解析・複素解析	2前	2						1							
	測量学	2前	2												兼1	
	測量学実習	2前	1												兼1	
	応用測量学	2後	2												兼1	
	応用数学	3前	2												兼1	
	土木工学実験	3前	1					6	3		3				兼7	オムニバス
	施工管理と建設行政	3後	2					2								オムニバス
	構造力学	1後	2						1		1					オムニバス
	構造力学	2前	2						1		1					オムニバス
	鋼構造学	3前	2						1		1					オムニバス
	土木材料学	2前	2					2								オムニバス
	コンクリート構造学	2後	2					2								オムニバス
	コンクリート構造学	3前	2					2								オムニバス
	コンクリート構造設計学	3後	2					2							兼1	オムニバス
	維持管理工学	3後	2					2							兼1	オムニバス
	土木計画システム	2前	2					1								
	都市地域計画論	3前	2												兼1	
	都市交通計画	2後	2					1								
	空間表現	2前	2												兼1	
	景観デザイン	2後	2						1							
	プロジェクトマネジメント	3後	2					1							兼7	オムニバス
	道路工学	3後	2					2								オムニバス
	水環境科学	2後	2						1							
	環境衛生工学	3前	2												兼1	
	水理学基礎	2前	2					1								
	水理学	2後	2					1								
	水理学	3前	2												兼1	
	気象水文学	3後	2												兼2	オムニバス
	河川工学	3後	2								1				兼1	オムニバス
	海岸工学	3後	2					1								
	土質力学	2前	2					1								
	土質力学	2後	2					1								
	土質力学	3前	2												兼1	
	地域地盤学	3後	2					2							兼1	オムニバス
	卒業研究	4通	8					11	4		3					
小計(36科目)	-	38	38	0	-		12	4	0	3	0	兼21	-			
コース科目	環境コース科目	環境デザイン	3前	2				1								
		環境セミナー	3前	2				5	2		1		兼4	オムニバス		
		環境衛生工学	3後	2					1				兼1	オムニバス		
		地盤圏環境・資源管理工学	3後	2					1		1		兼1	オムニバス		
		環境工学数値実験	3後	1					1				兼1	オムニバス		
		小計(5科目)	-	9	0	0	-	5	2	0	1	0	兼5	-		
	防災コース科目	防災デザイン	3前	2				2					兼2	オムニバス		
		防災セミナー	3前	2				7	3		2		兼7	オムニバス		
		地震工学	3前	2				1					兼1	オムニバス		
		応用地質学	3後	2				2						オムニバス		
防災工学数値実験	3後	1				2					兼1	オムニバス				
小計(5科目)	-	9	0	0	-	8	3	0	2	0	兼8	-				
金型創成技術科目	金型概論	4後	2									兼3	オムニバス			
	金型設計基礎	4後	2									兼3	オムニバス			
	金型設計実習	4後	1									兼3	共同			
	金型加工実習	4後	1									兼2	共同			
	金型加工実習	4後	1									兼2	共同			
	成形加工実習	4後	1									兼3	共同			
	小計(6科目)	-	0	8	0	-	0	0	0	0	0	兼4	-			

航空宇宙生産技術科目	航空宇宙生産技術概論	3通		2		○									兼1	集中
	航空宇宙生産技術(品質工学)	3通		2											兼1	集中
	航空宇宙生産技術(経営工学)	3後		2											兼1	集中
	航空宇宙生産技術(学外研修)	3通		1											兼1	集中
	航空宇宙生産技術(生産管理工学)	4通		2											兼1	集中
	航空宇宙生産技術(機械工学概論)	4通		2											兼1	集中
	航空宇宙生産技術(機械工学概論)	4通		2											兼1	集中
	航空宇宙生産技術(情報工学概論)	4通		2											兼1	集中
	航空宇宙生産技術(情報工学概論)	4通		2											兼1	集中
小計(9科目)	-	0	17	0	-		0	0	0	0	0	0	0	兼9	-	
合計(369科目)		-	91	619	0	-	12	4	0	3	0	0	0	兼296	-	
学位又は称号		学士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>教養科目34単位以上(初年次セミナー2単位,人文科学科目から6単位,社会科学科目から6単位,自然科学科目から4単位,複合領域科目から2単位,外国語科目から英語4単位,第二外国語2単位,スポーツ・健康科学科目から2単位,教養基礎科目から6単位),基礎科目25単位以上(必修科目23単位を含む。),学科共通科目及びコース科目63単位以上(必修科目47単位を含む。)を修得し,132単位以上修得すること。なお金型創成技術科目の修得単位は8単位まで,航空宇宙生産技術科目の修得単位は17単位まで算入することができる。 (履修科目の登録の上限:30単位(1学期) ただし1年次は34単位)</p>							1学年の学期区分			2学期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

教育課程等の概要															
(連係協力学部：工学部 機械工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手	
	初年次セミナー	1前	2			○				1		2		オムニバス	
教養科目 人文科学科目	哲学入門(正義について哲学しよう)	1前		2		○								兼1	
	哲学入門(西洋哲学入門)	1後		2		○								兼1	
	人間・死生学(現代人間論)	1後		2		○								兼1	
	近現代思想(日本の近代思想)	1後		2		○								兼1	
	科学論(生命と癒しの科学論)	1前		2		○								兼1	
	科学論(科学論入門：近代的自然観と自然科学)	1前		2		○								兼1	
	東洋・日本思想(インド思想の特質)	1前		2		○								兼1	
	東洋・日本思想(中国の古典思想)	1前		2		○								兼1	
	倫理学(倫理学とは何か)	1後		2		○								兼1	
	宗教学(比較宗教学概論)	1前		2		○								兼1	
	宗教学(社会問題と宗教)	1後		2		○								兼1	
	歴史学分野	歴史学入門(歴史学とは何か)	1前		2		○								兼1
		西洋・中東史(西洋史(イギリス近代史))	1前		2		○								兼1
		西洋・中東史(西欧諸国形成史)	1前		2		○								兼1
		中国・朝鮮半島史(朝鮮・韓国の文化と日本との交流史)	1後		2		○								兼1
		中国・朝鮮半島史(中国史)	1後		2		○								兼1
		世界近現代史(現代国際関係史)	1前		2		○								兼1
		世界近現代史(アメリカ概論)	1前		2		○								兼1
		世界近現代史(ドイツ文化史)	1後		2		○								兼1
		日本史(日本の歴史)	1後		2		○								兼1
		日本近世史(近世文化史)	1後		2		○								兼1
		日本近・現代史(近現代日本における女性)	1前		2		○								兼1
		日本近・現代史(近現代日本の政治と国家主義運動)	1後		2		○								兼1
	文学分野	文学(文学とは何か)	1前		2		○								兼1
		外国文学(朝鮮・韓国の神話・文学・伝統芸能)	1前		2		○								兼1
		外国文学(英米文学を読む)	1後		2		○								兼1
		外国文学(三国志時代の文学)	1後		2		○								兼1
		外国文学(西洋文学論)	1後		2		○								兼1
		外国文学(ロシア革命と文学)	1後		2		○								兼1
		日本文学(百人一首の世界)	1前		2		○								兼1
		日本文学(近世文学の世界)	1後		2		○								兼1
	言語分野	言語学入門(日本語学入門)	1前・後		2		○								兼1
		言語学入門(岐阜県の方言,日本語,世界の言語)	1後		2		○								兼1
		言語学(北欧のことばと地域の方言)	1前		2		○								兼1
		言語学(言語地理学)	1前		2		○								兼1
		言語学(フランス語論)	1前		2		○								兼1
		言語学(アイスランドのことばと文化)	1後		2		○								兼1
		言語学(児童の文章表現)	1後		2		○								兼1
		言語学(映画で見る英語の諸言語現象と欧米文化)	1後		2		○								兼1
		日本語表現論(劇作における会話表現)	1前		2		○								兼1
		日本語表現論(日本語口頭表現)	1前・後		2		○								兼1
	日本語表現論(実用的な日本語表現を学ぶ)	1前・後		2		○								兼1	
心理・行動学分野	心理学入門(心理学概論)	1前		2		○								兼1	
	心理学(幼児発達支援入門)	1後		2		○								兼1	
	心理学実験・調査法(心理学実験・調査法)	1前		2		○								兼1	
	西洋文化論(ロシア人の生活と言語)	1前		2		○								兼1	
	西洋文化論(西洋建築史)	1後		2		○								兼1	
	西洋文化論(ロシアの自然と言語)	1後		2		○								兼1	

文化・芸術分野	日本文化論（日本語文化論：国語教育史）	1前	2	○															兼1	
	日本文化論（衣生活文化史）	1前	2	○															兼1	
	日本文化論（金属で学ぶ日本文化史）	1後	2	○															兼1	
	現代文化論（現代の文化研究）	1後	2	○															兼1	
	現代文化論（科学技術と人間社会）	1前	2	○						1										
	韓国文化論（発音から学ぶ韓国語）	1前	2	○															兼1	
	異文化論（通過儀礼（人の一生）に見る世界の諸地域）	1後	2	○															兼1	
	美術論（美術史）	1前	2	○															兼1	
	美術論（デザイン論）	1前	2	○															兼1	
	音楽論（オーケストラ音楽を聴く）	1前	2	○															兼1	
	音楽論（実用作曲法）	1前・後	2	○															兼1	
	音楽論（ドイツ歌曲への誘い）	1前	2	○															兼1	
	音楽論（音楽への誘い）	1後	2	○															兼1	
	音楽論（音楽芸能文化概論）	1後	2	○															兼1	
音楽論（ピアノ基礎（連弾））	1後	2	○															兼1		
社会科学科目	法学分野	法学入門（法とは何か）	1前	2	○														兼1	
		法学入門（立法体験：まちづくり条例制定の体験）	1前	2	○														兼1	
		日本国憲法（憲法）	1前	2	○														兼1	
		日本国憲法（統治機構論）	1前	2	○														兼1	
		日本国憲法（教職のための憲法）	1後	2	○														兼1	
		日本国憲法（教職のための憲法）	1後	2	○														兼1	
		民法法（家族生活と法）	1前	2	○															兼1
		民法法（財産と法）	1後	2	○															兼1
		社会法（労働と法）	1後	2	○															兼1
		社会法（福祉と法）	1後	2	○															兼1
		ジェンダー法（ジェンダーと法）	1前	2	○															兼1
		裁判法（市民と裁判）	1後	2	○															兼1
		刑事法（犯罪と刑罰について）	1後	2	○															兼1
		国際法（国際法入門）	1後	2	○															兼1
	知的財産権法（知的財産権法入門）	1前	2	○															兼1	
	政治学分野	政治学入門（政治とは何か）	1後	2	○															兼1
		現代政治論（現代日本の政治）	1前	2	○															兼1
		現代政治論（日本の政治と世界）	1後	2	○															兼1
		現代政治論（近代日本の政治と行政）	1後	2	○															兼1
		現代政治論（政治理論と現代日本の政治）	1後	2	○															兼1
		平和学（戦争の被害と加害，そして抵抗）	1前	2	○															兼1
	経済学分野	平和学（戦争と平和の法制度）	1後	2	○															兼1
		経済学入門（現代の日本経済）	1前	2	○															兼1
		経済学入門（社会における経済の仕組み）	1前	2	○															兼1
経済学史（日本経済論）		1後	2	○															兼1	
経営学分野	マクロ経済学（銀行論・金融政策論）	1前	2	○															兼1	
	ミクロ経済学（交通経済学）	1前	2	○															兼1	
社会学分野	経営学入門（経営学とは何か）	1前	2	○															兼1	
	マネージメント論（マーケティング論入門）	1前	2	○															兼1	
	社会学入門（社会階層論）	1前	2	○															兼1	
	現代社会論（少子高齢化社会）	1前	2	○															兼1	
	現代社会論（現代を生きる家族）	1前	2	○															兼1	
	現代社会論（社会の基盤）	1後	2	○															兼1	
	現代社会論（宇宙時代を生きる）	1後	2	○						1										
	現代社会論（Anishのライフスタイルから現代社会を考える）	1後	2	○															兼1	
	現代社会論（やさしいジェンダー学入門）	1後	2	○															兼1	
	メディア論（メディア論の基礎）	1前	2	○															兼1	
メディア論（メディアの特徴・歴史・現状・課題）	1前	2	○															兼1		
メディア論（国際メディア論）	1後	2	○															兼1		

		広報・PR論入門（岐阜大学をケーススタディに）	1前	2	○								兼1	
	地理・地域論分野	地理学（都市論）	1前	2	○								兼1	
	地理・地域論分野	地理学（地図・環境・立地・都市）	1前	2	○								兼1	
	教育学分野	教育論（障害学への招待）	1前	2	○								兼1	
	教育学分野	教育論（現代社会問題と教育）	1前	2	○								兼1	
	教育学分野	教育論（岐阜大学の歴史と高等教育論）	1前・後	2	○								兼1	
	教育学分野	教育論（障害児教育臨床学）	1前	2	○								兼1	
	教育学分野	教育論（教育哲学）	1前	2	○								兼1	
	教育学分野	教育論（学校の社会的意味を問う）	1後	2	○								兼1	
	社会総合	社会総合（生活の経済）	1前	2	○								兼1	
	社会総合	社会総合（環境、CSR（企業の社会的責任）とマネジメント）	1前	2	○								兼1 集中	
自然科学科目	数学分野	教養の数学（数学概論（実数と数列））	1後	2	○								兼1	
		教養の数学（コンピュータのための数学概論）	1前	2	○								兼1	
		教養の数学（図学）	1後	2	○	1								
		基礎代数学（数学概論）	1後	2	○									兼1
		基礎代数学（古典数学へのいざない）	1前	2	○									兼1
		基礎解析学（解析学の基礎）	1前	2	○									兼1
		基礎解析学（微分積分学）	1前	2	○									兼1
		基礎統計学（統計学の基礎）	1後	2	○	1								
		基礎統計学（実感する統計学）	1後	2	○	1								
	物理学分野	物理学入門（身のまわりの物理学）	1前	2	○									兼1
		物理学入門（現代物理学の基礎（相対論と量子論入門））	1前	2	○									兼1
		教養の物理学（物理学の基礎）	1後	2	○									兼1
		教養の物理学（雷の科学）	1前	2	○									兼1
		教養の物理学（物性の力学）	1後	2	○									兼1
		教養の物理学（力学現象の数学的見方）	1後	2	○	1								
		教養の物理学（日曜大工からはじめる力学）	1前	2	○		1							
		現代物理学（現代物理のトピックス（ポピュラーサイエンス））	1前	2	○									兼1
		現代物理学（表面張力の物理学）	1後	2	○									兼1
	化学分野	化学入門（日常生活でよく見る化学現象や化学製品を学ぶ）	1前	2	○									兼1
		化学入門（身近なものから学ぶ化学）	1前	2	○									兼1
		化学入門（身の回りで起こる現象から最先端技術に関わる化学）	1後	2	○									兼1
		教養の化学（化学概論）	1後	2	○									兼1
		教養の化学（現代の視点から、古典に学ぶ（化学系））	1後	2	○									兼1
		教養の化学（有機化合物を分子模型で探る）	1後	2	○									兼1
		教養の化学（化学結合と反応のしくみ）	1前	2	○									兼1
		現代化学（ケミカルエンジニアリング入門）	1前	2	○									兼1
		現代化学（プラスチック材料の基礎）	1前	2	○									兼1
	生物学分野	現代化学（ソフトマター）	1後	2	○									兼1
		生物学入門（現代生物学入門）	1前	2	○									兼1
		生物学入門（微生物と病気）	1前	2	○									兼1
		教養の生物学（動物と病気）	1後	2	○									兼1
		教養の生物学（ヒトのからだ）	1後	2	○									兼1
		教養の生物学（生命の仕組み）	1前	2	○									兼1
		教養の生物学（分子から地球レベルの光合成）	1前	2	○									兼1
		現代生物学（ウィルスの話）	1前	2	○									兼1
		現代生物学（生き物よもやま話）	1後	2	○									兼1
医学分野 宇宙地球科学分野	現代生物学（葉の細胞生物学）	1後	2	○									兼1	
	現代医学（生体防御・腫瘍病理基礎）	1後	2	○									兼1	
	宇宙地球科学入門（天文学への招待）	1後	2	○									兼1	
	教養の宇宙地球科学（気象学概論）	1前	2	○									兼1	
	教養の宇宙地球科学（地球環境の変遷）	1後	2	○									兼1	
	教養の宇宙地球科学（ESD入門）	1前	2	○									兼1	
	現代宇宙地球科学（宇宙科学）	1前	2	○									兼1	
	環境学分野	教養の環境学（自然災害と生活）	1後	2	○									兼1
		教養の環境学（生物の多様性と人間社会）	1前	2	○									兼1
教養の環境学（土の物理的環境）		1前	2	○									兼1	
教養の環境学（生物生産と環境）		1後	2	○									兼1	
現代環境学（エネルギー問題）		1前	2	○									兼1	
現代環境学（生物多様性を支える森林と動物たち）		1前	2	○									兼1	

自然科学総合分野	現代環境学（世界の食料と人口問題）	1前	2	○								兼5	オムニバス
	現代環境学（ESD実践研究）	1後	2	○								兼1	
	自然科学総合（化学と生物のインターフェース）	1後	2	○								兼1	
	自然科学総合（日本で学ぶ金属工学入門）	1前	2	○								兼1	
	自然科学総合（科学的なものの考え方）	1前	2	○								兼1	
	自然科学総合（情報・通信の基礎）	1後	2	○								兼1	
	自然科学総合（数値シミュレーション入門）	1前	2	○		1							
	自然科学総合（ものの科学）	1後	2	○			1						
	自然科学総合（化学と生命科学）	1前	2	○								兼1	
	自然科学総合（古典に学ぶ（偉大な科学者の学問と人生））	1後	2	○								兼1	
	自然科学実験講座（ご飯までのフィールド科学）	1前	2	○								兼1	
	自然科学実験講座（家畜たちのフィールド科学）	1前	2	○								兼1	
	自然科学実験講座（森と川のフィールド科学）	1前	2	○								兼1	
	自然科学実験講座（金属を使ったものづくり）	1後	2	○								兼1	集中
情報学分野	情報学入門（ITの歴史と未来）	1前	2	○		1							
	情報学入門（経営のためのオペレーションズ・リサーチ）	1後	2	○								兼1	
	情報学入門（インターネットのやさしい数理）	1後	2	○								兼1	
	教養の情報学（オペレーションズ・リサーチにおけるモデリング）	1前	2	○								兼1	
教養の情報学（データサイエンス入門）	1前・後	2	○								兼1		
複合領域科目	生活と科学分野	社会の中の看護	1後	2	○							兼1	
		食の教養	1前・後	2	○							兼1	
		栄養と運動	1後	2	○							兼1	
		交通安全の科学	1前	2	○							兼1	
		畜産・水産業の歴史と食文化	1後	2	○							兼1	
		医学史	1前	2	○							兼1	
		健康とQOL	1前	2	○							兼1	
		身近な薬と毒の科学	1後	2	○							兼1	
		世界の農業事情	1後	2	○							兼1	
		生物共生論	1前	2	○							兼1	
		現代医療の最前線	1前	2	○							兼1	
		環境マネジメントと環境経営	1前・後	2	○							兼5	オムニバス
	岐阜学分野	免疫学	1前	2	○							兼1	
		森と美術	1後	2	○							兼1	
		実践生物化学	1前	2	○							兼1	
		食と調理	1後	2	○							兼1	
		岐阜県の生物の分布と生態	1後	2	○							兼1	
		現代のまちづくりと住民	1後	2	○							兼1	
		岐阜の自然（地質・活断層と水環境）	1前	2	○							兼1	
		岐阜県の農産物の生産・流通・消費	1後	2	○							兼1	
		岐阜県誌：岐阜県の歴史・文化・自然	1前	2	○							兼1	
		岐阜の自然と都市，そこに生きる生き物と人	1前	2	○							兼3	オムニバス
		岐阜県の食構造	1前	2	○							兼1	
		フューチャーセンター入門	1前・後	2	○							兼1	
フューチャーセンター実践	1・2前	2	○							兼1	集中		
フューチャーセンター実践	1・2後	2	○							兼1	集中		
人と自然との関わりから見た岐阜	1前	2	○							兼1			
人と自然の関わりから見た岐阜（実践）	1後	2	○							兼1			
岐阜の産業：地域で活躍する企業と人	1前	2	○							兼1			
岐阜の伝統産業：陶磁器，刃物，石灰，紙，繊維	1後	2	○							兼1			
地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る	1前	2	○							兼4	共同		
岐阜にまつわる東洋史	1前	2	○							兼1			
地域防災リーダー基礎	1前・後	2	○							兼10	兼中 オムニバス 共同（一部）		
地域防災リーダー実践	1前・後	2	○							兼4	兼中 共同		
地域防災リーダー実践	1前・後	2	○							兼4	兼中 共同		
現代分野	ワーク・ライフ・バランス（男女共同参画論）	1後	2	○							兼1		

学び創造分野	学びをデザインする	1後	2	○									兼1			
	ひろがる学び，つながる学び	1前	2	○									兼1			
	共に変え，学び合う「ピア・サポート」演習：級大基礎的能力特講	1後	2	○									兼1			
	高年次教養セミナー	1前	1	○									兼1	集中		
	高年次教養セミナー	1後	1	○									兼1	集中		
	キャリア形成分野	自分らしいキャリア設計	1前・後	2	○									兼1		
		現代社会を支える企業	1後	2	○									兼1		
		生活と金融・人生設計と資産形成	1後	2	○									兼1		
		アントレプレナーシップ入門	1前	2	○									兼1		
		地域系インターンシップ	1・2前	1		○								兼1	集中	
		地域系インターンシップ	1・2後	1		○								兼1	集中	
		産業系インターンシップ	1・2前	1		○								兼1	集中	
		産業系インターンシップ	1・2後	1		○								兼1	集中	
		社会の多様な働き方	1前	2	○									兼1		
		キャリア形成論	1前・後	2	○									兼1		
		ライフコース論（人生設計と生活保障）	1後	2	○									兼1		
		プロジェクト型インターンシップ	1後	2		○								兼1		
		現代社会とボランティア・地域活動	1前・後	2		○								兼1		
		自己省察と将来のキャリア設計	1後	2		○								兼1		
	リーダー養成実践演習	地域リーダー実践（上級）	1前	2		○							兼1	集中		
		地域リーダー実践（上級）	1後	2		○							兼1	集中		
	産業実践演習	産業リーダー実践	2前・後	2		○							兼1			
	外国語科目	英語	英語1	1前	1		○							兼12		
		英語	英語2	1前	1		○							兼12		
		英語	英語3	1後	1		○							兼8		
		英語	英語4	1後	1		○							兼8		
		第二外国語	ドイツ語	ドイツ語	1前	1		○							兼4	
			ドイツ語	ドイツ語	1後	1		○							兼4	
			フランス語	フランス語	1前	1		○							兼2	
			フランス語	フランス語	1後	1		○							兼2	
			中国語	中国語	1前	1		○							兼3	
中国語			中国語	1後	1		○							兼3		
朝鮮・韓国語			朝鮮・韓国語	1前	1		○							兼1		
朝鮮・韓国語			朝鮮・韓国語	1後	1		○							兼1		
ポルトガル語		ポルトガル語	1前	1		○							兼1			
ポルトガル語		ポルトガル語	1後	1		○							兼1			
スポーツ・健康科学科目	健康科学講義	健康科学講義	1後	2		○							兼1			
	ヘルスプロモーションと地域保健	ヘルスプロモーションと地域保健	1後	2		○							兼1			
	スポーツコンディショニング	スポーツコンディショニング	1後	2		○							兼1			
	スポーツ演習分野	剣道	剣道	1前	2		○							兼1		
		雪上スポーツで学ぶ(スキー)	雪上スポーツで学ぶ(スキー)	1後	2		○							兼1	集中	
		ヨガ・エアロピクス	ヨガ・エアロピクス	1前	2		○							兼1		
		トレーニング	トレーニング	1後	2		○							兼1		
		ハンドボール	ハンドボール	1前	2		○							兼1		
		新卓球（ラージボール）	新卓球（ラージボール）	1後	2		○							兼1		
		ファストピッチ・ソフトボール(ウインドミル投法入門)	ファストピッチ・ソフトボール(ウインドミル投法入門)	1前	2		○							兼1		
		卓球・水泳	卓球・水泳	1前	2		○							兼1		
		バドミントンA	バドミントンA	1前・後	2		○							兼2		
		女子サッカーA	女子サッカーA	1前	2		○							兼1		
		女子サッカーB	女子サッカーB	1後	2		○							兼1		
		サッカー	サッカー	1前・後	2		○							兼1		
		卓球	卓球	1前・後	2		○							兼1		
		ボールゲーム	ボールゲーム	1後	2		○							兼1		
		バレーボールA	バレーボールA	1前	2		○							兼1		
		テニス	テニス	1前	2		○							兼1		
		テニス	テニス	1後	2		○							兼1		
		バスケットボールA	バスケットボールA	1前・後	2		○							兼1		
		ソフトボールB	ソフトボールB	1前	2		○							兼1		
		泳法探求（バタフライ）	泳法探求（バタフライ）	1前	2		○							兼1		
		バランスボールエクササイズ	バランスボールエクササイズ	1前・後	2		○							兼1		
		フライングディスク	フライングディスク	1前・後	2		○							兼1		
		アダプトeddスポーツ	アダプトeddスポーツ	1前	2		○							兼1		
		フットサル	フットサル	1後	2		○							兼1		
		ジョギング	ジョギング	1後	2		○							兼1		
		小計（282科目）		-	6	538	0	-							兼221	-

教養基礎	社会基盤工学概論	1前	1										兼7	オムニバス
	機械工学概論	1前	1					7	5					オムニバス 共同(一部)
	化学・生命工学概論	1前	1										兼6	オムニバス
	電気電子・情報工学概論	1前	1										兼8	オムニバス
	技術と技術者の倫理	3後	2					4	3				兼6	オムニバス
	小計(5科目)	-	6	0	0	-		8	6	0	0	0	兼27	-
基礎科目	微分積分	1前	2										兼1	
	微分積分	1後	2					1	1					オムニバス
	線形代数	1前	2										兼1	
	線形代数	1後	2					1	1					オムニバス
	微分方程式	2前	2					1	1					オムニバス
	確率統計	1後	2										兼1	
	力学	1前	2					1	1					オムニバス
	電磁気学基礎	1後	2										兼2	オムニバス
	振動波動	2前	2					2						オムニバス
	現代物理学概論	3後	2										兼1	
	化学基礎	2前	2										兼1	
	生物学基礎	3前	2										兼2	オムニバス
	地学	2後	2										兼1	
	情報処理入門	1後	2						2					オムニバス
	プログラミング基礎	2前	2						1		1			オムニバス
	工学基礎実験	2後	1								4			オムニバス
	機械英語	3後	2										兼1	
	機械英語	3前	2					1	2				兼1	オムニバス
	技術表現法	2前	2			○			1				兼6	共同
	技術経営概論	4前	2						1					集中
	海外インターンシップ	1・2・3・4	2										兼1	集中
小計(21科目)	-	27	14	0	-		7	8	0	5	0	兼18	-	
学科共通科目	数学演習	1前	1								2			オムニバス
	数学演習	1後	1								2			オムニバス
	力学演習	1前	1					1	1					オムニバス
	複素関数フーリエ変換	2前	2					1	1					オムニバス
	工業力学	1後	2					1	1				兼1	オムニバス
	工業力学演習	1後	1					1	1					オムニバス
	計測工学	2前	2					1	1					オムニバス
	機械安全工学	3後	2										兼1	
	設計製図基礎	2前	1					2						オムニバス
	CAD	2後	1					1	1					オムニバス
	設計製図	3前	1						2					オムニバス
	機械工学実験実習	3前	1						1					
	機械工学実験実習	3後	1						1					
	材料力学	2前	2					1	1					オムニバス
	材料力学	2後	2					1	1					オムニバス
	構造・機能材料学	2前	2					2						オムニバス
	機械要素と機構	2後	2					2						オムニバス
	生産加工学	2後	2						1				兼1	オムニバス
	機械力学	2後	2					2						オムニバス
	機械力学	3前	2					2						オムニバス
	流体工学	2前	2						2					オムニバス
	流体工学	2後	2						2					オムニバス
	工業熱力学	2前	2					2						オムニバス
	工業熱力学	2後	2					1	1					オムニバス
	電気回路システム	2前	2					1	1					オムニバス
	電子回路システム	2後	2					1	1					オムニバス
	制御工学	2後	2						2					オムニバス
	制御工学	3前	2					1	1					オムニバス
	ベクトル解析	2前	2					1	1					オムニバス
	機械工学基礎演習	2後	1						2		4			オムニバス
	機械工学創造演習	3後	1						2		4			オムニバス
	卒業研究	4通	8					16	14		11			
小計(32科目)	-	37	22	0	-		16	14	0	11	0	兼3	-	

コース科目	機械コース科目	機械工学応用演習	3前	1					2	2							オムニバス		
		C A E	3前	2					1										
		設計製図	3後	1						1									
		弾塑性学	3後		2				1										
		材料強度学	3後		2				1										
		構造・機能材料学	2後		2					1									
		構造・機能材料学	3前		2				1										
		生産加工学	3前		2					1									
		生産加工学	3後		2				2										オムニバス
		流体システム工学	3前		2						1								
		流体力学	3後		2						1								
		エネルギーシステム工学	3前		2				1										
		伝熱工学	3前		2				1										
		エネルギーと環境	3後		2			○			2								オムニバス
小計(14科目)	-	4	22	0		-		8	6	0	0	0	0	0	兼0		-		
コース科目	知能機械コース科目	知能機械工学演習	3前	1					1	1								オムニバス	
		プログラミング論・演習	2後	1.5						1									
		プログラミング論・演習	3前	1.5						1									
		シミュレーション工学	3後		2				1										
		計算機システム	3前		2				1	1									オムニバス
		デジタル信号処理	3前		2					1									
		視覚情報処理	3後		2				1										
		有限要素法	3前		2					1									
		生産システム学	3前		2				1										
		ロボット工学	3後		2				1										
		制御工学	3後		2				1										
		宇宙推進工学	3前		2				1										
		応用熱工学	3後		2														兼1
		生体システム工学	3後		2						1								
小計(14科目)	-	4	22	0		-		5	4	0	0	0	0	0	兼1		-		
金型創成技術科目	金型概論	4後		2				1	2									オムニバス	
	金型設計基礎	4後		2				1	2									オムニバス	
	金型設計実習	4後		1				1	2									共同	
	金型加工実習	4後		1					2									共同	
	金型加工実習	4後		1					2									共同	
	成形加工実習	4後		1				1	2									共同	
	小計(6科目)	-	0	8	0		-		2	2	0	0	0	0	0	兼0		-	
航空宇宙生産技術科目	航空宇宙生産技術概論	3通		2			○											兼1 集中	
	航空宇宙生産技術(品質工学)	3通		2														兼1 集中	
	航空宇宙生産技術(経営工学)	3後		2														兼1 集中	
	航空宇宙生産技術(学外研修)	3通		1														兼1 集中	
	航空宇宙生産技術(生産管理工学)	4通		2														兼1 集中	
	航空宇宙生産技術(機械工学概論)	4通		2														兼1 集中	
	航空宇宙生産技術(機械工学概論)	4通		2														兼1 集中	
	航空宇宙生産技術(情報工学概論)	4通		2														兼1 集中	
	航空宇宙生産技術(情報工学概論)	4通		2														兼1 集中	
小計(9科目)	-	0	17	0		-		0	0	0	0	0	0	0	兼9		-		
合計(383科目)		-	84	643	0		-	16	15	0	11	0	0	0	兼271		-		
学位又は称号		学士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係											
卒業要件及び履修方法							授業期間等												
教養科目34単位以上(初年次セミナー2単位,人文科学科目から6単位,社会科学科目から6単位,自然科学科目から4単位,複合領域科目から2単位,外国語科目から英語4単位,第二外国語2単位,スポーツ・健康科学科目から2単位,教養基礎科目から6単位),基礎科目29単位以上(必修科目27単位を含む。),学科共通科目43単位以上(必修科目37単位を含む。),コース科目10単位以上(必修科目4単位を含む。)を修得し,132単位以上修得すること。なお金型創成技術科目の修得単位は8単位まで,航空宇宙生産技術科目の修得単位は17単位まで算入することができる。 (履修科目の登録の上限:30単位(1学期)ただし1年次は34単位)							1学年の学期区分				2学期								
							1学期の授業期間				15週								
							1時限の授業時間				90分								

教育課程等の概要															
(関係協力学部：工学部 化学・生命工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	初年次セミナー	1前	2			○			2	4				オムニバス	
教養科目	人文学科 哲学分野	哲学入門(正義について哲学しよう)	1前		2		○							兼1	
		哲学入門(西洋哲学入門)	1後		2		○							兼1	
		人間・死生学(現代人間論)	1後		2		○							兼1	
		近現代思想(日本の近代思想)	1後		2		○							兼1	
		科学論(生命と癒しの科学論)	1前		2		○							兼1	
		科学論(科学論入門：近代的自然観と自然科学)	1前		2		○							兼1	
		東洋・日本思想(インド思想の特質)	1前		2		○							兼1	
		東洋・日本思想(中国の古典思想)	1前		2		○							兼1	
		倫理学(倫理学とは何か)	1後		2		○								兼1
		宗教学(比較宗教学概論)	1前		2		○								兼1
		宗教学(社会問題と宗教)	1後		2		○								兼1
		歴史学 歴史学分野	歴史学入門(歴史学とは何か)	1前		2		○							
	西洋・中東史(西洋史(イギリス近代史))		1前		2		○								兼1
	西洋・中東史(西欧諸国形成史)		1前		2		○								兼1
	中国・朝鮮半島史(朝鮮・韓国の文化と日本との交流史)		1後		2		○								兼1
	中国・朝鮮半島史(中国史)		1後		2		○								兼1
	世界近現代史(現代国際関係史)		1前		2		○								兼1
	世界近現代史(アメリカ概論)		1前		2		○								兼1
	世界近現代史(ドイツ文化史)		1後		2		○								兼1
	日本史(日本の歴史)		1後		2		○								兼1
	日本近世史(近世文化史)		1後		2		○								兼1
	日本近・現代史(近現代日本における女性)		1前		2		○								兼1
	日本近・現代史(近現代日本の政治と国家主義運動)		1後		2		○								兼1
	文学 文学分野	文学(文学とは何か)	1前		2		○								兼1
		外国文学(朝鮮・韓国の神話・文学・伝統芸能)	1前		2		○								兼1
		外国文学(英米文学を読む)	1後		2		○								兼1
		外国文学(三国志時代の文学)	1後		2		○								兼1
		外国文学(西洋文学論)	1後		2		○								兼1
		外国文学(ロシア革命と文学)	1後		2		○								兼1
		日本文学(百人一首の世界)	1前		2		○								兼1
		日本文学(近世文学の世界)	1後		2		○								兼1
	言語 言語分野	言語学入門(日本語学入門)	1前・後		2		○								兼1
		言語学入門(岐阜県の方言, 日本語, 世界の言語)	1後		2		○								兼1
		言語学(北欧のことばと地域の方言)	1前		2		○								兼1
		言語学(言語地理学)	1前		2		○								兼1
		言語学(フランス語論)	1前		2		○								兼1
		言語学(アイスランドのことばと文化)	1後		2		○								兼1
		言語学(児童の文章表現)	1後		2		○								兼1
		言語学(映画で見る英語の諸言語現象と欧米文化)	1後		2		○								兼1
		日本語表現論(劇作における会話表現)	1前		2		○								兼1
		日本語表現論(日本語口頭表現)	1前・後		2		○								兼1
	日本語表現論(実用的な日本語表現を学ぶ)	1前・後		2		○								兼1	
心理・行動学 心理・行動学分野	心理学入門(心理学概論)	1前		2		○								兼1	
	心理学(幼児発達支援入門)	1後		2		○								兼1	
	心理学実験・調査法(心理学実験・調査法)	1前		2		○								兼1	
西洋文化論	西洋文化論(ロシア人の生活と言語)	1前		2		○								兼1	
	西洋文化論(西洋建築史)	1後		2		○								兼1	
	西洋文化論(ロシアの自然と言語)	1後		2		○								兼1	

文化・芸術分野	日本文化論（日本語文化論：国語教育史）	1前	2	○															兼1		
	日本文化論（衣生活文化史）	1前	2	○															兼1		
	日本文化論（金属で学ぶ日本文化史）	1後	2	○															兼1		
	現代文化論（現代の文化研究）	1後	2	○															兼1		
	現代文化論（科学技術と人間社会）	1前	2	○															兼1		
	韓国文化論（発音から学ぶ韓国語）	1前	2	○															兼1		
	異文化論（通過儀礼（人の一生）に見る世界の諸地域）	1後	2	○															兼1		
	美術論（美術史）	1前	2	○															兼1		
	美術論（デザイン論）	1前	2	○															兼1		
	音楽論（オーケストラ音楽を聴く）	1前	2	○															兼1		
	音楽論（実用作曲法）	1前・後	2	○															兼1		
	音楽論（ドイツ歌曲への誘い）	1前	2	○															兼1		
	音楽論（音楽への誘い）	1後	2	○															兼1		
	音楽論（音楽芸能文化概論）	1後	2	○															兼1		
	音楽論（ピアノ基礎（連弾））	1後	2	○															兼1		
	社会科学科目	法学分野	法学入門（法とは何か）	1前	2	○														兼1	
			法学入門（立法体験：まちづくり条例制定の体験）	1前	2	○														兼1	
日本国憲法（憲法）			1前	2	○														兼1		
日本国憲法（統治機構論）			1前	2	○														兼1		
日本国憲法（教職のための憲法）			1後	2	○														兼1		
日本国憲法（教職のための憲法）			1後	2	○														兼1		
民法（家族生活と法）			1前	2	○														兼1		
民法（財産と法）			1後	2	○														兼1		
社会法（労働と法）			1後	2	○														兼1		
社会法（福祉と法）			1後	2	○														兼1		
ジェンダー法（ジェンダーと法）			1前	2	○														兼1	集中	
裁判法（市民と裁判）			1後	2	○															兼1	
刑事法（犯罪と刑罰について）			1後	2	○															兼1	
国際法（国際法入門）			1後	2	○															兼1	
知的財産権法（知的財産権法入門）			1前	2	○															兼1	
政治学分野			政治学入門（政治とは何か）	1後	2	○															兼1
			現代政治論（現代日本の政治）	1前	2	○															兼1
		現代政治論（日本の政治と世界）	1後	2	○															兼1	
		現代政治論（近代日本の政治と行政）	1後	2	○															兼1	
		現代政治論（政治理論と現代日本の政治）	1後	2	○															兼1	
		平和学（戦争の被害と加害，そして抵抗）	1前	2	○															兼1	
経済学分野		平和学（戦争と平和の法制度）	1後	2	○															兼1	
		経済学入門（現代の日本経済）	1前	2	○															兼1	
		経済学入門（社会における経済の仕組み）	1前	2	○															兼1	
		経済学史（日本経済論）	1後	2	○															兼1	
		マクロ経済学（銀行論・金融政策論）	1前	2	○															兼1	
経営学分野		ミクロ経済学（交通経済学）	1前	2	○															兼1	
		経営学入門（経営学とは何か）	1前	2	○															兼1	
社会学分野		マネージメント論（マーケティング論入門）	1前	2	○															兼1	
		社会学入門（社会階層論）	1前	2	○															兼1	
		現代社会論（少子高齢化社会）	1前	2	○															兼1	
		現代社会論（現代を生きる家族）	1前	2	○															兼1	
	現代社会論（社会の基盤）	1後	2	○															兼1		
	現代社会論（宇宙時代を生きる）	1後	2	○															兼1		
	現代社会論（Amishのライフスタイルから現代社会を考える）	1後	2	○															兼1		
	現代社会論（やさしいジェンダー学入門）	1後	2	○															兼1		
	メディア論（メディア論の基礎）	1前	2	○															兼1		
	メディア論（メディアの特徴・歴史・現状・課題）	1前	2	○															兼1		
メディア論（国際メディア論）	1後	2	○															兼1			

自然 科学 科目	地理・ 地域 論分 野	広報・PR論入門（岐阜大学をケーススタディに）	1前		2	○														兼1	
		地理学（都市論）	1前		2	○															兼1
		地理学（地図・環境・立地・都市）	1前		2	○															兼1
	教育 学 分 野	教育論（障害学への招待）	1前		2	○															兼1
		教育論（現代社会問題と教育）	1前		2	○															兼1
		教育論（岐阜大学の歴史と高等教育論）	1前・後		2	○															兼1
		教育論（障害児教育臨床学）	1前		2	○															兼1
		教育論（教育哲学）	1前		2	○															兼1
		教育論（学校の社会的意味を問う）	1後		2	○															兼1
		社会総合（生活の経済）	1前		2	○															兼1
	社会・ 総合	社会総合（環境、CSR（企業の社会的責任）とマネジメント）	1前		2	○															兼1
																					集中
	自然 科学 科目	数学 分 野	教養の数学（数学概論（実数と数列））	1後		2	○														兼1
			教養の数学（コンピュータのための数学概論）	1前		2	○														兼1
			教養の数学（図学）	1後		2	○														兼1
			基礎代数学（数学概論）	1後		2	○														兼1
			基礎代数学（古典数学へのいざない）	1前		2	○														兼1
			基礎解析学（解析学の基礎）	1前		2	○														兼1
			基礎解析学（微積分学）	1前		2	○														兼1
			基礎統計学（統計学の基礎）	1後		2	○														兼1
			基礎統計学（実感する統計学）	1後		2	○														兼1
物理 学 分 野			物理学入門（身のまわりの物理学）	1前		2	○														
		物理学入門（現代物理学の基礎（相対論と量子論入門））	1前		2	○															兼1
		教養の物理学（物理学の基礎）	1後		2	○														兼1	
		教養の物理学（雷の科学）	1前		2	○														兼1	
		教養の物理学（物性の力学）	1後		2	○														兼1	
		教養の物理学（力学現象の数学的見方）	1後		2	○														兼1	
		教養の物理学（日曜大工からはじめる力学）	1前		2	○														兼1	
		現代物理学（現代物理のトピックス（ポピュラーサイエンス））	1前		2	○															兼1
		現代物理学（表面張力の物理学）	1後		2	○															兼1
		化学 分 野	化学入門（日常生活でよく見る化学現象や化学製品を学ぶ）	1前		2	○			1											
化学入門（身近なものから学ぶ化学）			1前		2	○				1											
化学入門（身の回りで起こる現象から最先端技術に関わる化学）			1後		2	○															兼1
教養の化学（化学概論）	1後			2	○															兼1	
教養の化学（現代の視点から、古典に学ぶ（化学系））	1後			2	○			1													
教養の化学（有機化合物を分子模型で探る）	1後			2	○			1													
教養の化学（化学結合と反応のしくみ）	1前			2	○			1													
現代化学（ケミカルエンジニアリング入門）	1前			2	○			1													
現代化学（プラスチック材料の基礎）	1前			2	○			1													
現代化学（ソフトマター）	1後			2	○				1												
生物 学 分 野	生物学入門（現代生物学入門）	1前		2	○															兼1	
	生物学入門（微生物と病気）	1前		2	○															兼1	
	教養の生物学（動物と病気）	1後		2	○															兼1	
	教養の生物学（ヒトのからだ）	1後		2	○															兼1	
	教養の生物学（生命の仕組み）	1前		2	○															兼1	
	教養の生物学（分子から地球レベルの光合成）	1前		2	○															兼1	
	現代生物学（ウイルスの話）	1前		2	○															兼1	
	現代生物学（生き物よもやま話）	1後		2	○															兼1	
現代生物学（薬の細胞生物学）	1後		2	○				1													
医 学 分 野	現代医学（生体防御・腫瘍病理基礎）	1後		2	○															兼1	
	宇 宙 地 球 科 学 分 野	宇宙地球科学入門（天文学への招待）	1後		2	○															兼1
教養の宇宙地球科学（気象学概論）		1前		2	○															兼1	
教養の宇宙地球科学（地球環境の変遷）		1後		2	○															兼1	
教養の宇宙地球科学（ESD入門）		1前		2	○															兼1	
現代宇宙地球科学（宇宙科学）		1前		2	○															兼1	
教養の環境学（自然災害と生活）	1後		2	○															兼1		

環境学分野	教養の環境学（生物の多様性と人間社会）	1前	2	○							兼1
	教養の環境学（土の物理的環境）	1前	2	○							兼1
	教養の環境学（生物生産と環境）	1後	2	○							兼1
	現代環境学（エネルギー問題）	1前	2	○							兼1
	現代環境学（生物多様性を支える森林と動物たち）	1前	2	○							兼1
	現代環境学（世界の食料と人口問題）	1前	2	○							兼5 オムニバス
自然科学総合分野	現代環境学（ESD実践研究）	1後	2	○							兼1
	自然科学総合（化学と生物のインターフェース）	1後	2	○							兼1
	自然科学総合（日本刀で学ぶ金属工学入門）	1前	2	○							兼1
	自然科学総合（科学的なものの考え方）	1前	2	○	1						
	自然科学総合（情報・通信の基礎）	1後	2	○							兼1
	自然科学総合（数値シミュレーション入門）	1前	2	○							兼1
	自然科学総合（ものの科学）	1後	2	○							兼1
	自然科学総合（化学と生命科学）	1前	2	○	1						
実験講座分野	自然科学総合（古典に学ぶ（偉大な科学者の学問と人生）	1後	2	○							兼1
	自然科学実験講座（ご飯までのフィールド科学）	1前	2	○							兼1
	自然科学実験講座（家畜たちのフィールド科学）	1前	2	○							兼1
	自然科学実験講座（森と川のフィールド科学）	1前	2	○							兼1
情報学分野	自然科学実験講座（金属を使ったものづくり）	1後	2	○							兼1 集中
	情報学入門（ITの歴史と未来）	1前	2	○							兼1
	情報学入門（経営のためのオペレーションズ・リサーチ）	1後	2	○							兼1
	情報学入門（インターネットのやさしい数理）	1後	2	○							兼1
複合領域科目	教養の情報学（オペレーションズ・リサーチにおけるモデリング）	1前	2	○							兼1
	教養の情報学（データサイエンス入門）	1前・後	2	○		1					兼1
	社会の中の看護	1後	2	○							兼1
	食の教養	1前・後	2	○							兼1
	栄養と運動	1後	2	○							兼1
	交通安全の科学	1前	2	○							兼1
	畜産・水産業の歴史と食文化	1後	2	○							兼1
	医学史	1前	2	○							兼1
	健康とQOL	1前	2	○							兼1
	身近な薬と毒の科学	1後	2	○							兼1
	世界の農業事情	1後	2	○							兼1
	生物共生論	1前	2	○							兼1
	現代医療の最前線	1前	2	○							兼1
	環境マネジメントと環境経営	1前・後	2	○		1					兼4 オムニバス
	免疫学	1前	2	○							兼1
	森と美術	1後	2	○							兼1
	実践生物化学	1前	2	○	1						
食と調理	1後	2	○							兼1	
岐阜学分野	岐阜県の生物の分布と生態	1後	2	○							兼1
	現代のまちづくりと住民	1後	2	○							兼1
	岐阜の自然（地質・活断層と水環境）	1前	2	○							兼1
	岐阜県の農産物の生産・流通・消費	1後	2	○							兼1
	岐阜県誌：岐阜県の歴史・文化・自然	1前	2	○							兼1
	岐阜の自然と都市，そこに生きる生き物と人	1前	2	○							兼3 オムニバス
	岐阜県の食構造	1前	2	○							兼1
	フューチャーセンター入門	1前・後	2	○							兼1
	フューチャーセンター実践	1・2前	2	○							兼1 集中
	フューチャーセンター実践	1・2後	2	○							兼1 集中
	人と自然との関わりから見た岐阜	1前	2	○							兼1
	人と自然の関わりから見た岐阜（実践）	1後	2	○							兼1
	岐阜の産業：地域で活躍する企業と人	1前	2	○	1						
	岐阜の伝統産業：陶磁器，刃物，石灰，紙，繊維	1後	2	○	1						
地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る	1前	2	○							兼4 共同	
岐阜にまつわる東洋史	1前	2	○							兼1	
地域防災リーダー基礎	1前・後	2	○							兼10 兼中 オムニバス 共同（一部）	
地域防災リーダー実践	1前・後	2	○							兼4 兼中 共同	
地域防災リーダー実践	1前・後	2	○							兼4 兼中 共同	
現代分野	ワーク・ライフ・バランス（男女共同参画論）	1後	2	○							兼1
	学びをデザインする	1後	2	○							兼1

学び創造分野	ひろがる学び, つながる学び	1前		2		○							兼1		
	共に支え, 学び合う「ピア・サポート」演習: 岐大基盤的能力特講	1後		2		○							兼1		
	高年次教養セミナー	1前		1		○							兼1	集中	
	高年次教養セミナー	1後		1		○							兼1	集中	
	キャリア形成分野	自分らしいキャリア設計	1前・後		2		○							兼1	
		現代社会を支える企業	1後		2		○							兼1	
		生活と金融・人生設計と資産形成	1後		2		○							兼1	
		アントレプレナーシップ入門	1前		2		○							兼1	
		地域系インターンシップ	1・2前		1			○						兼1	集中
		地域系インターンシップ	1・2後		1			○						兼1	集中
		産業系インターンシップ	1・2前		1			○						兼1	集中
		産業系インターンシップ	1・2後		1			○						兼1	集中
		社会の多様な働き方	1前		2			○						兼1	
		キャリア形成論	1前・後		2			○						兼1	
		ライフコース論(人生設計と生活保障)	1後		2			○						兼1	
		プロジェクト型インターンシップ	1後		2				○					兼1	
		現代社会とボランティア・地域活動	1前・後		2				○					兼1	
		自己省察と将来のキャリア設計	1後		2				○					兼1	
	地域系実践	地域リーダー実践(上級)	1前		2				○					兼1	集中
		地域リーダー実践(上級)	1後		2				○					兼1	集中
産業系実践	産業リーダー実践	2前・後		2				○					兼1		
外国語科目	英語	英語1	1前	1				○						兼12	
		英語2	1前	1				○						兼12	
		英語3	1後	1				○						兼8	
		英語4	1後	1				○						兼8	
	第二外国語	ドイツ語	1前		1				○						兼4
		ドイツ語	1後		1				○						兼4
		フランス語	1前		1				○						兼2
		フランス語	1後		1				○						兼2
		中国語	1前		1				○						兼3
		中国語	1後		1				○						兼3
		朝鮮・韓国語	1前		1				○						兼1
		朝鮮・韓国語	1後		1				○						兼1
		ポルトガル語	1前		1				○						兼1
		ポルトガル語	1後		1				○						兼1
スポーツ・健康科学科目	健康科学講義	健康科学	1後		2			○						兼1	
		ヘルスプロモーションと地域保健	1後		2			○						兼1	
		スポーツコンディショニング	1後		2			○						兼1	
	スポーツ演習分野	剣道	1前		2				○						兼1
		雪上スポーツで学ぶ(スキー)	1後		2				○						兼1
		ヨガ・エアロビクス	1前		2				○						兼1
		トレーニング	1後		2				○						兼1
		ハンドボール	1前		2				○						兼1
		新卓球(ラージボール)	1後		2				○		1				
		ファストピッチ・ソフトボール(ウインドミル投法入門)	1前		2				○						兼1
		卓球・水泳	1前		2				○						兼1
		バドミントンA	1前・後		2				○						兼2
		女子サッカーA	1前		2				○						兼1
		女子サッカーB	1後		2				○						兼1
		サッカー	1前・後		2				○						兼1
		卓球	1前・後		2				○						兼1
		ボールゲーム	1後		2				○						兼1
		バレーボールA	1前		2				○						兼1
		テニス	1前		2				○						兼1
		テニス	1後		2				○						兼1
		バスケットボールA	1前・後		2				○						兼1
		ソフトボールB	1前		2				○						兼1
		泳法探求(バタフライ)	1前		2				○						兼1
		バランスボールエクササイズ	1前・後		2				○						兼1
		フライングディスク	1前・後		2				○						兼1
		アダプテッドスポーツ	1前		2				○						兼1
		フットサル	1後		2				○						兼1

教養基礎	ジョギング	1後		2		○									兼1	
	小計 (282科目)	-	6	538	0	-			12	7	0	0	0	0	兼219	-
	社会基盤工学概論	1前	1												兼7	オムニバス
	機械工学概論	1前	1												兼12	オムニバス 共同(一部)
	化学・生命工学概論	1前	1					5	1							オムニバス
	電気電子・情報工学概論	1前	1												兼8	オムニバス
基礎科目	技術と技術者の倫理	3後	2						2						兼6	オムニバス
	小計 (5科目)	-	6	0	0	-		5	3	0	0	0	0	兼33	-	
	微分積分	1前	2												兼1	
	微分積分	1後		2											兼1	
	線形代数	1前	2												兼1	
	線形代数	1後		2											兼1	
	微分方程式	2前		2											兼1	
	確率統計	1後	2												兼1	
	力学	1前		2											兼1	
	電磁気学基礎	2前		2											兼1	
	振動波動	1後		2											兼1	
	現代物理学概論	2前		2											兼1	
	化学基礎	1前	2					2								オムニバス
	生物学基礎	1前	2					2	1							オムニバス
	地学	2前		2											兼1	
	情報処理入門	1後	2												兼1	
	プログラミング基礎	2前		2											兼1	
	工学基礎実験	2前	1						1		1				兼5	オムニバス
	化学英語	3前	2					1							兼1	オムニバス
	化学英語	3後	2					3								オムニバス
	技術表現法	2前	2				○		1						兼6	オムニバス
	技術経営概論	4前		2											兼1	集中
海外インターンシップ	1・2・3・4		2											兼1	集中	
小計 (21科目)	-	19	22	0	-		8	3	0	1	0	0	0	兼25	-	
学科共通科目	基礎物理化学	1後	2					1	2							オムニバス
	基礎物理化学	2前	2					2	1							オムニバス
	基礎無機化学	2前	2					2								オムニバス
	基礎分析化学	2前	2					2								オムニバス
	基礎有機化学	1後	2					1	2							オムニバス
	基礎有機化学	2前	2					3								オムニバス
	基礎生物化学	2前	2					1	3							オムニバス
	基礎化学実験	2後	2						15		14				兼1	共同
	課題セミナー	4前	1					2	2							集中 オムニバス
	課題セミナー	4後	1					2	2							集中 オムニバス
	卒業研究	4通	8					24	15		15					
小計 (11科目)	-	26	0	0	-		24	15	0	15	0	0	0	兼1	-	
コース科目	量子化学 a	2後	2					1	1		1					オムニバス
	固体化学	2後	2					1								
	無機化学	2後	2					1								
	分析化学 a	2後	2					1								
	機器分析 a	3後	1												兼1	
	有機化学 a	2後	2					1								
	有機化学 a	3前	2												兼1	
	有機機器分析	3後	1					1			1					オムニバス
	高分子合成	2後	2						2							オムニバス
	高分子物性	3前	2					1	1							オムニバス
	化学工学	2後	2					1	1							オムニバス
	化学環境安全工学	2後	2					1								
	物質化学演習	2後	1					4	1		1					共同
	物質化学実験	3前	5						5		8				兼1	共同
	物質化学実験	3後	3						2		3				兼1	共同
	分子分光学	3前		2					1							
	集合体化学	3後		2				1	1							オムニバス
	固体物性	3前		2				1			1					オムニバス
	電子材料化学	3後		2				2								オムニバス
	材料の力学	2後		2				1			1					オムニバス
	機能材料科学	3後		2				3			1					オムニバス
	電気化学	3後		1				1								
	無機工業化学	3後		1				1								
	有機工業化学	3後		2				2	1							オムニバス
	高分子物性	3後		2				1								
	化学工学	3前		2				1								
	化学工学	3後		2				1	1							オムニバス
小計 (27科目)	-	31	22	0	-		12	7	0	9	0	0	0	兼3	-	

生命化学コース科目	有機化学 b	2後	2					1	1								オムニバス	
	有機化学 b	3前	2						1									
	物理化学	2後	2					1	1								オムニバス	
	機器分析 b	2後	2					1										
	生物化学	2後	2					1										
	細胞分子生物学	2後	2						2									オムニバス
	生物生産工学	2後	2						1									
	生命化学実験	3前	4						8		5							共同
	生命化学実験	3後	4						8		5							共同
	量子化学b	2後		2					1									
	物理化学	3後		2					1									
	化学安全工学	3前		2					1								兼1	オムニバス
	生物有機化学	3前		2					1									
	精密有機化学	3前		2					1									
	分析化学 b	3前		2					1									
	遺伝子工学	3前		2					1									
	細胞生物学	3前		2					1									
	有機合成化学	3後		2					1									
	分子組織化学	3前		2					1									
	生体有機化学	3後		2						1								
	生命情報科学	3後		2					1									
	醗酵工学	3後		2					1									
	先端生命化学	3前		2								5						オムニバス
	病態制御学	3後		2					1									
小計(24科目)	-	22	30	0		-		11	9	0	5	0	0	兼1	-			
金型創成技術科目	金型概論	4後		2													兼3	オムニバス
	金型設計基礎	4後		2													兼3	オムニバス
	金型設計実習	4後		1													兼3	共同
	金型加工実習	4後		1													兼2	共同
	金型加工実習	4後		1													兼2	共同
	成形加工実習	4後		1													兼3	共同
	小計(6科目)	-	0	8	0		-		0	0	0	0	0	0	兼4	-		
航空宇宙生産技術科目	航空宇宙生産技術概論	3通		2		○											兼1	集中
	航空宇宙生産技術(品質工学)	3通		2													兼1	集中
	航空宇宙生産技術(経営工学)	3後		2													兼1	集中
	航空宇宙生産技術(学外研修)	3通		1													兼1	集中
	航空宇宙生産技術(生産管理工学)	4通		2													兼1	集中
	航空宇宙生産技術(機械工学概論)	4通		2													兼1	集中
	航空宇宙生産技術(機械工学概論)	4通		2													兼1	集中
	航空宇宙生産技術(情報工学概論)	4通		2													兼1	集中
	航空宇宙生産技術(情報工学概論)	4通		2													兼1	集中
小計(9科目)	-	0	17	0		-		0	0	0	0	0	0	兼9	-			
合計(385科目)		-	110	637	0	-		24	16	0	15	0	0	兼278	-			
学位又は称号	学士(工学)	学位又は学科の分野					工学関係											
卒業要件及び履修方法						授業期間等												
<p>教養科目34単位以上(初年次セミナー2単位,人文科学科目から6単位,社会科学科目から6単位,自然科学科目から4単位,複合領域科目から2単位,外国語科目から英語4単位,第二外国語2単位,スポーツ・健康科学科目から2単位,教養基礎科目から6単位),基礎科目25単位以上(必修科目19単位及び選択必修科目4単位を含む。),学科共通科目必修26単位以上,物質化学コースはコース科目37単位以上(必修科目31単位及び選択必修科目6単位を含む。),生命化学コースはコース科目必修22単位以上を修得し,132単位以上修得すること。なお金型創成技術科目の修得単位は8単位まで,航空宇宙生産技術科目の修得単位は17単位まで算入することができる。(履修科目の登録の上限:30単位(1学期)ただし1年次は34単位)</p> <p>なお,基礎科目のうち力学,電磁気学基礎,振動波動から4単位を,物質化学コース科目のうち分子分光,集合体化学,固体物性,電子材料化学,材料の力学,機能材料学から6単位を選択必修とする。</p>						1学年の学期区分						2学期						
						1学期の授業期間						15週						
						1時限の授業時間						90分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(連係協力学部：工学部 電気電子・情報工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	初年次セミナー	1前	2			○			3	7		6		兼1	オムニバス
教養科目 人文科学科目	哲学分野	哲学入門(正義について哲学しよう)	1前	2		○								兼1	
		哲学入門(西洋哲学入門)	1後	2		○								兼1	
		人間・死生学(現代人間論)	1後	2		○								兼1	
		近現代思想(日本の近代思想)	1後	2		○								兼1	
		科学論(生命と癒しの科学論)	1前	2		○								兼1	
		科学論(科学論入門：近代的自然観と自然科学)	1前	2		○								兼1	
		東洋・日本思想(インド思想の特質)	1前	2		○								兼1	
		東洋・日本思想(中国の古典思想)	1前	2		○								兼1	
		倫理学(倫理学とは何か)	1後	2		○								兼1	
		宗教学(比較宗教学概論)	1前	2		○								兼1	
		宗教学(社会問題と宗教)	1後	2		○								兼1	
		歴史学分野	歴史学入門(歴史学とは何か)	1前	2		○								兼1
	西洋・中東史(西洋史(イギリス近代史))		1前	2		○								兼1	
	西洋・中東史(西欧諸国形成史)		1前	2		○								兼1	
	中国・朝鮮半島史(朝鮮・韓国の文化と日本との交流史)		1後	2		○								兼1	
	中国・朝鮮半島史(中国史)		1後	2		○								兼1	
	世界近現代史(現代国際関係史)		1前	2		○								兼1	
	世界近現代史(アメリカ概論)		1前	2		○								兼1	
	世界近現代史(ドイツ文化史)		1後	2		○								兼1	
	日本史(日本の歴史)		1後	2		○								兼1	
	日本近世史(近世文化史)		1後	2		○								兼1	
	日本近・現代史(近現代日本における女性)		1前	2		○								兼1	
	日本近・現代史(近現代日本の政治と国家主義運動)		1後	2		○								兼1	
	文学分野	文学(文学とは何か)	1前	2		○								兼1	
		外国文学(朝鮮・韓国の神話・文学・伝統芸能)	1前	2		○								兼1	
		外国文学(英米文学を読む)	1後	2		○								兼1	
		外国文学(三国志時代の文学)	1後	2		○								兼1	
		外国文学(西洋文学論)	1後	2		○								兼1	
		外国文学(ロシア革命と文学)	1後	2		○								兼1	
		日本文学(百人一首の世界)	1前	2		○								兼1	
		日本文学(近世文学の世界)	1後	2		○								兼1	
	言語分野	言語学入門(日本語学入門)	1前・後	2		○								兼1	
		言語学入門(岐阜県の方言, 日本語, 世界の言語)	1後	2		○								兼1	
		言語学(北欧のことばと地域の方言)	1前	2		○								兼1	
		言語学(言語地理学)	1前	2		○								兼1	
		言語学(フランス語論)	1前	2		○								兼1	
言語学(アイスランドのことばと文化)		1後	2		○								兼1		
言語学(児童の文章表現)		1後	2		○								兼1		
言語学(映画で見る英語の諸言語現象と欧米文化)		1後	2		○								兼1		
日本語表現論(劇作における会話表現)		1前	2		○								兼1		
日本語表現論(日本語口頭表現)		1前・後	2		○								兼1		
日本語表現論(実用的な日本語表現を学ぶ)		1前・後	2		○								兼1		

心理・行動学分野	心理学入門（心理学概論）	1前	2	○								兼1		
	心理学（幼児発達支援入門）	1後	2	○								兼1		
	心理学実験・調査法（心理学実験・調査法）	1前	2	○								兼1		
文化・芸術分野	西洋文化論（ロシア人の生活と言語）	1前	2	○								兼1		
	西洋文化論（西洋建築史）	1後	2	○								兼1		
	西洋文化論（ロシアの自然と言語）	1後	2	○								兼1		
	日本文化論（日本語文化論：国語教育史）	1前	2	○								兼1		
	日本文化論（衣生活文化史）	1前	2	○								兼1		
	日本文化論（金属で学ぶ日本文化史）	1後	2	○								兼1		
	現代文化論（現代の文化研究）	1後	2	○								兼1		
	現代文化論（科学技術と人間社会）	1前	2	○								兼1		
	韓国文化論（発音から学ぶ韓国語）	1前	2	○			1							
	異文化論（通過儀礼（人の一生）に見る世界の諸地域）	1後	2	○								兼1		
	美術論（美術史）	1前	2	○								兼1		
	美術論（デザイン論）	1前	2	○								兼1		
	音楽論（オーケストラ音楽を聴く）	1前	2	○								兼1		
	音楽論（実用作曲法）	1前・後	2	○								兼1		
	音楽論（ドイツ歌曲への誘い）	1前	2	○								兼1		
	音楽論（音楽への誘い）	1後	2	○								兼1		
	音楽論（音楽芸能文化概論）	1後	2	○								兼1		
音楽論（ピアノ基礎（連弾））	1後	2	○								兼1			
社会科学科目	法学入門（法とは何か）	1前	2	○								兼1		
	法学入門（立法体験：まちづくり条例制定の体験）	1前	2	○								兼1		
	日本国憲法（憲法）	1前	2	○								兼1		
	日本国憲法（統治機構論）	1前	2	○								兼1		
	日本国憲法（教職のための憲法）	1後	2	○								兼1		
	日本国憲法（教職のための憲法）	1後	2	○								兼1		
	民法（家族生活と法）	1前	2	○								兼1		
	民法（財産と法）	1後	2	○								兼1		
	社会法（労働と法）	1後	2	○								兼1		
	社会法（福祉と法）	1後	2	○								兼1		
	ジェンダー法（ジェンダーと法）	1前	2	○								兼1	集中	
	裁判法（市民と裁判）	1後	2	○								兼1		
	刑事法（犯罪と刑罰について）	1後	2	○								兼1		
	国際法（国際法入門）	1後	2	○								兼1		
	知的財産権法（知的財産権法入門）	1前	2	○								兼1		
	政治学入門（政治とは何か）	1後	2	○								兼1		
	現代政治論（現代日本の政治）	1前	2	○								兼1		
	現代政治論（日本の政治と世界）	1後	2	○								兼1		
	現代政治論（近代日本の政治と行政）	1後	2	○								兼1		
	現代政治論（政治理論と現代日本の政治）	1後	2	○								兼1		
	平和学（戦争の被害と加害、そして抵抗）	1前	2	○								兼1		
	平和学（戦争と平和の法制度）	1後	2	○								兼1		
	経済学分野	経済学入門（現代の日本経済）	1前	2	○								兼1	
		経済学入門（社会における経済の仕組み）	1前	2	○								兼1	
		経済学史（日本経済論）	1後	2	○								兼1	
マクロ経済学（銀行論・金融政策論）		1前	2	○								兼1		
ミクロ経済学（交通経済学）		1前	2	○								兼1		
経営学分野	経営学入門（経営学とは何か）	1前	2	○								兼1		
	マネージメント論（マーケティング論入門）	1前	2	○								兼1		
	社会学入門（社会階層論）	1前	2	○								兼1		

社会学分野	現代社会論（少子高齢化社会）	1前	2	○																兼1			
	現代社会論（現代を生きる家族）	1前	2	○																	兼1		
	現代社会論（社会の基盤）	1後	2	○																	兼1		
	現代社会論（宇宙時代を生きる）	1後	2	○																	兼1		
	現代社会論（Amishのライフスタイルから現代社会を考える）	1後	2	○																	兼1		
	現代社会論（やさしいジェンダー学入門）	1後	2	○																	兼1		
	メディア論（メディア論の基礎）	1前	2	○																	兼1		
	メディア論（メディアの特徴・歴史・現状・課題）	1前	2	○																	兼1		
	メディア論（国際メディア論）	1後	2	○																	兼1		
	広報・PR論入門（岐阜大学をケーススタディに）	1前	2	○																	兼1		
地理・地域論分野	地理学（都市論）	1前	2	○																	兼1		
	地理学（地図・環境・立地・都市）	1前	2	○																	兼1		
教育学分野	教育論（障害学への招待）	1前	2	○																	兼1		
	教育論（現代社会問題と教育）	1前	2	○																	兼1		
	教育論（岐阜大学の歴史と高等教育論）	1前・後	2	○																	兼1		
	教育論（障害児教育臨床学）	1前	2	○																	兼1		
	教育論（教育哲学）	1前	2	○																	兼1		
	教育論（学校の社会的意味を問う）	1後	2	○																	兼1		
社会・総合	社会総合（生活の経済）	1前	2	○																	兼1		
	社会総合（環境、CSR（企業の社会的責任）とマネジメント）	1前	2	○																	兼1	集中	
自然科学科目	数学分野	教養の数学（数学概論（実数と数列））	1後	2	○																兼1		
		教養の数学（コンピュータのための数学概論）	1前	2	○				1														
		教養の数学（図学）	1後	2	○																	兼1	
		基礎代数学（数学概論）	1後	2	○				1														
		基礎代数学（古典数学へのいざない）	1前	2	○						1												
		基礎解析学（解析学の基礎）	1前	2	○									1									
		基礎解析学（微分積分学）	1前	2	○																	兼1	
		基礎統計学（統計学の基礎）	1後	2	○																	兼1	
	基礎統計学（実感する統計学）	1後	2	○																	兼1		
	物理学分野	物理学入門（身のまわりの物理学）	1前	2	○				1														
		物理学入門（現代物理学の基礎（相対論と量子論入門））	1前	2	○						1												
		教養の物理学（物理学の基礎）	1後	2	○						1												
		教養の物理学（雷の科学）	1前	2	○				1														
		教養の物理学（物性の力学）	1後	2	○																	兼1	
		教養の物理学（力学現象の数学的見方）	1後	2	○																	兼1	
		教養の物理学（日曜大工からはじめる力学）	1前	2	○																	兼1	
現代物理学（現代物理のトピックス（ポピュラーサイエンス））		1前	2	○									1										
現代物理学（表面張力の物理学）	1後	2	○																	兼1			
化学分野	化学入門（日常生活でよく見る化学現象や化学製品を学ぶ）	1前	2	○																	兼1		
	化学入門（身近なものから学ぶ化学）	1前	2	○																	兼1		
	化学入門（身の回りで起こる現象から最先端技術に関わる化学）	1後	2	○																	兼1		
	教養の化学（化学概論）	1後	2	○																	兼1		
	教養の化学（現代の視点から、古典に学ぶ（化学系））	1後	2	○																	兼1		
	教養の化学（有機化合物を分子模型で探る）	1後	2	○																	兼1		
	教養の化学（化学結合と反応のしくみ）	1前	2	○																	兼1		
	現代化学（ケミカルエンジニアリング入門）	1前	2	○																	兼1		
	現代化学（プラスチック材料の基礎）	1前	2	○																	兼1		
	現代化学（ソフトマター）	1後	2	○																	兼1		
生物学分野	生物学入門（現代生物学入門）	1前	2	○																	兼1		
	生物学入門（微生物と病気）	1前	2	○																	兼1		
	教養の生物学（動物と病気）	1後	2	○																	兼1		
	教養の生物学（ヒトのからだ）	1後	2	○																	兼1		
	教養の生物学（生命の仕組み）	1前	2	○																	兼1		

		教養の生物学（分子から地球レベルの光合成）	1前	2	○								兼1	
複合領域科目		現代生物学（ウィルスの話）	1前	2	○								兼1	
		現代生物学（生き物よもやま話）	1後	2	○								兼1	
		現代生物学（葉の細胞生物学）	1後	2	○								兼1	
		現代生物学（葉の細胞生物学）	1後	2	○								兼1	
	医学分野	現代医学（生体防御・腫瘍病理基礎）	1後	2	○								兼1	
		現代医学（生体防御・腫瘍病理基礎）	1後	2	○								兼1	
	宇宙地球科学分野	宇宙地球科学入門（天文学への招待）	1後	2	○			1						
		教養の宇宙地球科学（気象学概論）	1前	2	○								兼1	
		教養の宇宙地球科学（地球環境の変遷）	1後	2	○								兼1	
		教養の宇宙地球科学（ESD入門）	1前	2	○								兼1	
		現代宇宙地球科学（宇宙科学）	1前	2	○						1			
	環境学分野	教養の環境学（自然災害と生活）	1後	2	○								兼1	
		教養の環境学（生物の多様性と人間社会）	1前	2	○								兼1	
		教養の環境学（土の物理的環境）	1前	2	○								兼1	
		教養の環境学（生物生産と環境）	1後	2	○								兼1	
		現代環境学（エネルギー問題）	1前	2	○			1						
		現代環境学（生物多様性を支える森林と動物たち）	1前	2	○								兼1	
		現代環境学（世界の食料と人口問題）	1前	2	○								兼5	オムニバス
	自然科学総合分野	現代環境学（ESD実践研究）	1後	2	○								兼1	
		自然科学総合（化学と生物のインターフェース）	1後	2	○								兼1	
		自然科学総合（日本刀で学ぶ金属工学入門）	1前	2	○								兼1	
		自然科学総合（科学的なものの考え方）	1前	2	○								兼1	
		自然科学総合（情報・通信の基礎）	1後	2	○			1					兼1	
		自然科学総合（数値シミュレーション入門）	1前	2	○								兼1	
		自然科学総合（ものの科学）	1後	2	○								兼1	
	実験講座分野	自然科学総合（化学と生命科学）	1前	2	○								兼1	
		自然科学総合（古典に学ぶ（偉大な科学者の学問と人生））	1後	2	○			1						
		自然科学実験講座（ご飯までのフィールド科学）	1前	2	○								兼1	
		自然科学実験講座（家畜たちのフィールド科学）	1前	2	○								兼1	
	情報学分野	自然科学実験講座（森と川のフィールド科学）	1前	2	○								兼1	
		自然科学実験講座（金属を使ったものづくり）	1後	2	○								兼1	集中
		情報学入門（ITの歴史と未来）	1前	2	○								兼1	
		情報学入門（経営のためのオペレーションズ・リサーチ）	1後	2	○			1						
情報学入門（インターネットのやさしい数理）		1後	2	○			1							
複合領域科目	生活と科学分野	教養の情報学（オペレーションズ・リサーチにおけるモデリング）	1前	2	○		1							
		教養の情報学（データサイエンス入門）	1前・後	2	○								兼1	
		社会の中の看護	1後	2	○								兼1	
		食の教養	1前・後	2	○								兼1	
		栄養と運動	1後	2	○								兼1	
		交通安全の科学	1前	2	○								兼1	
		畜産・水産の歴史と食文化	1後	2	○								兼1	
		医学史	1前	2	○								兼1	
		健康とQOL	1前	2	○								兼1	
		身近な薬と毒の科学	1後	2	○								兼1	
		世界の農業事情	1後	2	○								兼1	
		生物共生論	1前	2	○								兼1	
		現代医療の最前線	1前	2	○								兼1	
		環境マネジメントと環境経営	1前・後	2	○								兼5	オムニバス
		免疫学	1前	2	○								兼1	
		森と美術	1後	2	○								兼1	
		実践生物化学	1前	2	○								兼1	
		食と調理	1後	2	○								兼1	
		岐阜県の生物の分布と生態	1後	2	○								兼1	
		現代のまちづくりと住民	1後	2	○								兼1	
岐阜の自然（地質・活断層と水環境）	1前	2	○								兼1			
岐阜県の農産物の生産・流通・消費	1後	2	○								兼1			

		岐阜県誌：岐阜県の歴史・文化・自然	1前	2	○								兼1	
		岐阜の自然と都市，そこに生きる生き物と人	1前	2	○								兼3	オムニバス
		岐阜県の食構造	1前	2	○								兼1	
		フューチャーセンター入門	1前・後	2	○								兼1	
		フューチャーセンター実践	1・2前	2	○								兼1	集中
		フューチャーセンター実践	1・2後	2	○								兼1	集中
		人と自然との関わりから見た岐阜	1前	2	○								兼1	
		人と自然の関わりから見た岐阜（実践）	1後	2	○								兼1	
		岐阜の産業：地域で活躍する企業と人	1前	2	○								兼1	
		岐阜の伝統産業：陶磁器，刃物，石灰，紙，繊維	1後	2	○								兼1	
		地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る	1前	2	○								兼4	共同
		岐阜にまつわる東洋史	1前	2	○								兼1	
		地域防災リーダー基礎	1前・後	2	○								兼7	集中 オムニバス 共同（一部）
		地域防災リーダー実践	1前・後	2	○								兼2	集中 共同
		地域防災リーダー実践	1前・後	2	○								兼2	集中 共同
	現代分野	ワーク・ライフ・バランス（男女共同参画論）	1後	2	○								兼1	
	学び創造分野	学びをデザインする	1後	2	○								兼1	
	学び創造分野	ひろがる学び，つながる学び	1前	2	○								兼1	
	学び創造分野	共に支え，学び合う「ピア・サポート」演習：岐大基盤的能力特講	1後	2	○								兼1	
	学び創造分野	高年次教養セミナー	1前	1	○								兼1	集中
	学び創造分野	高年次教養セミナー	1後	1	○								兼1	集中
	キャリア形成分野	自分らしいキャリア設計	1前・後	2	○								兼1	
	キャリア形成分野	現代社会を支える企業	1後	2	○								兼1	
	キャリア形成分野	生活と金融・人生設計と資産形成	1後	2	○								兼1	
	キャリア形成分野	アントレプレナーシップ入門	1前	2	○								兼1	
	キャリア形成分野	地域系インターンシップ	1・2前	1	○								兼1	集中
	キャリア形成分野	地域系インターンシップ	1・2後	1	○								兼1	集中
	キャリア形成分野	産業系インターンシップ	1・2前	1	○								兼1	集中
	キャリア形成分野	産業系インターンシップ	1・2後	1	○								兼1	集中
	キャリア形成分野	社会の多様な働き方	1前	2	○								兼1	
	キャリア形成分野	キャリア形成論	1前・後	2	○								兼1	
	キャリア形成分野	ライフコース論（人生設計と生活保障）	1後	2	○								兼1	
	キャリア形成分野	プロジェクト型インターンシップ	1後	2	○								兼1	
	キャリア形成分野	現代社会とボランティア・地域活動	1前・後	2	○								兼1	
	キャリア形成分野	自己省察と将来のキャリア設計	1後	2	○								兼1	
	リサーチ実践	地域リーダー実践（上級）	1前	2	○								兼1	集中
	リサーチ実践	地域リーダー実践（上級）	1後	2	○								兼1	集中
	産業リーダー実践	産業リーダー実践	2前・後	2	○								兼1	
	英語	英語1	1前	1	○								兼12	
	英語	英語2	1前	1	○								兼12	
	英語	英語3	1後	1	○								兼8	
	英語	英語4	1後	1	○								兼8	
	第二外国語	ドイツ語	1前	1	○								兼4	
	第二外国語	ドイツ語	1後	1	○								兼4	
	第二外国語	フランス語	1前	1	○								兼2	
	第二外国語	フランス語	1後	1	○								兼2	
	第二外国語	中国語	1前	1	○								兼3	
	第二外国語	中国語	1後	1	○								兼3	
	第二外国語	朝鮮・韓国語	1前	1	○								兼1	
	第二外国語	朝鮮・韓国語	1後	1	○								兼1	
	第二外国語	ボルトガル語	1前	1	○								兼1	
	第二外国語	ボルトガル語	1後	1	○								兼1	

スポーツ・健康科学科目	健康科学講義	健康科学	1後	2	○										兼1	
		ヘルスプロモーションと地域保健	1後	2	○										兼1	
		スポーツコンディショニング	1後	2	○										兼1	
		剣道	1前	2		○									兼1	
		雪上スポーツで学ぶ(スキー)	1後	2		○									兼1	集中
		ヨガ・エアロピクス	1前	2		○									兼1	
		トレーニング	1後	2		○									兼1	
		ハンドボール	1前	2		○									兼1	
		新卓球(ラージボール)	1後	2		○									兼1	
		ファストピッチ・ソフトボール(ウインドミル投法入門)	1前	2		○									兼1	
		卓球・水泳	1前	2		○									兼1	
		バドミントンA	1前・後	2		○									兼2	
		女子サッカーA	1前	2		○									兼1	
		女子サッカーB	1後	2		○									兼1	
		サッカー	1前・後	2		○									兼1	
		卓球	1前・後	2		○									兼1	
		ボールゲーム	1後	2		○									兼1	
		バレーボールA	1前	2		○									兼1	
		テニス	1前	2		○									兼1	
		テニス	1後	2		○									兼1	
		バスケットボールA	1前・後	2		○									兼1	
		ソフトボールB	1前	2		○									兼1	
		泳法探求(バタフライ)	1前	2		○									兼1	
		バランスボールエクササイズ	1前・後	2		○									兼1	
		フライングディスク	1前・後	2		○									兼1	
		アダプテッドスポーツ	1前	2		○									兼1	
	フットサル	1後	2		○									兼1		
	ジョギング	1後	2		○									兼1		
	小計(282科目)	-	6	538	0	-			6	17	0	7	0	兼216	-	
教養基礎	社会基盤工学概論	1前	1											兼7	オムニバス	
	機械工学概論	1前	1											兼12	オムニバス 共同(一部)	
	化学・生命工学概論	1前	1											兼6	オムニバス	
	電気電子・情報工学概論	1前	1						8						オムニバス	
	技術と技術者の倫理	3前	2						5	3				兼6	オムニバス	
	小計(5科目)	-	6	0	0	-			12	3	0	0	0	兼31	-	
基礎科目	微分積分	1前	2						2					兼1	オムニバス	
	微分積分	1後	2						2	1					オムニバス	
	線形代数	1前	2						1	1				兼1	オムニバス	
	線形代数	1後	2						1	1					オムニバス	
	微分方程式	2前	2							1						
	確率統計	1後	2						1	2					オムニバス	
	力学	1前	2							2					オムニバス	
	電磁気学基礎	1後	2						2					兼1	オムニバス	
	振動波動	2前	2						1					兼1	オムニバス	
	現代物理学概論	4前	2											兼1		
	化学基礎	2前	2							1				兼1	オムニバス	
	生物学基礎	2後	2											兼1		
	地学	1前	2											兼2	オムニバス	
	情報処理入門	1後	2						1	2					オムニバス	
	プログラミング基礎	1後	2						1	1		1			オムニバス	
	工学基礎実験	1前	1						1	2		1		兼2	オムニバス	
	電気電子・情報英語	3前	2											兼2	オムニバス	
	電気電子・情報英語	3後	2											兼2	オムニバス	
	技術表現法	2前	2				○		1			1		兼5	共同	
	技術経営概論	4前	2											兼1	集中	
	海外インターンシップ	1・2・3・4	2						1						集中	
小計(21科目)	-	27	14	0	-			12	9	0	3	0	兼17	-		

学科共通科目	微分方程式応用	2後		2						1									
	応用数学	2前		2						1		1						オムニバス	
	物理数学基礎	1前		2					4								兼1	オムニバス	
	量子力学概論	2前		2					1	1		1						オムニバス	
	統計力学概論	2後		2					1	1								オムニバス	
	電気回路学基礎	2前		2					2									オムニバス	
	電子回路学基礎	2後		2					2									オムニバス	
	数値解析	2・3前		2					1	1								オムニバス	
	情報数学	1後		2					1										
	プログラミング応用	2前		2					1	2								オムニバス	
	通信工学	3後		2					1	1								オムニバス	
	信号処理	3前		2					2	1								オムニバス	
	情報理論	2後		2					2									オムニバス	
	制御工学基礎	2後		2									1				兼1	オムニバス	
	光学	3前		2					1										
	計算機支援設計製図	3後		2						1									
	卒業研究	4通	8						25	26		14							
小計(17科目)	-	8	32	0		-		25	26	0	14	0	兼2	-					
コース科目	電気電子コース科目	電磁気学	2前	2						1									
		電磁気学	2後	2					1										
		電磁気学演習	1後	1						2								オムニバス	
		電磁気学演習	2前	1					1	1								オムニバス	
		電磁気学演習	2後	1					1	1		1						オムニバス	
		電気回路学	2後	2					1										
		電気回路学演習	2前	1					1			1						オムニバス	
		電気回路学演習	2後	1						1		1						オムニバス	
		電子回路学	3前	2						1									
		電子回路学演習	2後	1						1		1						オムニバス	
		電子回路学演習	3前	1					1	1								オムニバス	
		電気電子工学実験	2前	2						1		1						オムニバス	
		電気電子工学実験	2後	2						2								オムニバス	
		電気電子工学実験	3前	2								3						オムニバス	
		電気電子工学実験	3後	2						1		1						オムニバス	
		固体電子物性	2後		2						1								
		半導体工学	3前		2					1									
		デバイス工学	3後		2					1									
		磁性材料工学	3前		2						1								
		半導体プロセス工学	3後		2					1									
		誘電体工学	3後		2						1								
		電力工学基礎	2後		2					1									
		電力ネットワーク	3後		2					1									
		電気エネルギーシステム工学	3後		2					1									
		電気機器	3前		2					1									
		パワーエレクトロニクス	3後		2					1									
		電気電子計測学	3前		2					1									
		電気法規と施設管理	3前		2													兼1	
		電磁波工学	3前		2					1									
		システム制御	3前		2								1						
		システム工学	3後		2						1								
		計算機工学	2後		2						1								
		計算機工学	3前		2						1								
		回路網設計	3後		2						1								
小計(34科目)	-	23	38	0		-		9	10	0	6	0	兼1	-					

情報 科 目	プログラミング実践	2後	2								1													
	プログラミング実践	3前	2							1	1									オムニバス				
	情報工学セミナー	3後	2							1	1										オムニバス			
	確率統計応用	2前		2							1													
	多変量解析	2後		2								1												
	オートマトン理論	3前		2						1														
	アルゴリズム論	2前		2						1														
	ヒューマンインターフェイス	3後		2								1												
	コンピュータアーキテクチャー	2前		2																兼1				
	オペレーティングシステム	2後		2								1												
	コンピュータネットワーク	3前		2								1												
	符号理論	3前		2								1												
	画像処理	3前		2						1														
	パターン認識	3前		2						1	1												オムニバス	
	暗号と情報セキュリティ	3前		2						1														
	人工知能	3後		2								1												
	機械学習	3後		2								1												
	論理回路	2後		2						1														
	データベース論	3後		2								1												
	情報工学実験	2前	2							1			1										オムニバス	
	情報工学実験	2後	2										2										オムニバス	
	情報工学実験	3後	2									1											オムニバス	
小計(22科目)	-	12	32	0	-				6	8	0	4	0	兼1								-		
応用 物 理 科 目	ベクトル解析	2前	2								1													
	応用数学	2後	2								1													
	基礎数学セミナー	3前	2						1	3													オムニバス	
	数理モデリング	3後	2						1	2													オムニバス	
	モデリング実践	3前	2						2	1													オムニバス	
	幾何学	3前	2						1															
	代数学	3前		2							1													
	物理数学	3前		2					1															
	ダイナミカルシステム	3後		2					1															
	数理物理	4前		2					1															
	応用物理入門	2後	2						2				1										オムニバス	
	解析力学	2前	2										1											
	応用電磁気学	2後	2						1															
	量子力学	2後	2						1	1			1										オムニバス	
	流体・弾性体力学	3前		2																兼1				
	物性物理学	3前		2									1											
	光エレクトロニクス	3前		2					1															
	半導体物理学	3後		2					1															
	原子核・素粒子物理学	3後		2					1	1													オムニバス	
	宇宙電波工学	3後		2							1													
	ナノスケール工学	4前		2					1											兼1			オムニバス	
	基礎数学演習	1後	1											1										
	基礎数学演習	2前	1											1										
	基礎数学演習	2後	1											1										
	応用物理学演習	2前	1											1										
	応用物理学演習	2後	1											1										
	応用物理学演習	3前	1								1													
	応用物理学実験	2後	2								2			1										オムニバス
応用物理学実験	3前	2							2				1										オムニバス	
応用物理セミナー	3後	2							1	1													オムニバス	
小計(30科目)	-	32	22	0	-				5	8	0	3	0	兼2									-	

金型 創 成 技 術 科 目	金型概論	4後		2										兼3	オムニバス
	金型設計基礎	4後		2										兼3	オムニバス
	金型設計実習	4後		1										兼3	共同
	金型加工実習	4後		1										兼2	共同
	金型加工実習	4後		1										兼2	共同
	成形加工実習	4後		1										兼3	共同
	小計(6科目)	-	0	8	0				0	0	0	0	0	兼4	-
航 空 宇 宙 生 産 技 術 科 目	航空宇宙生産技術概論	3通		2		○								兼1	集中
	航空宇宙生産技術(品質工学)	3通		2										兼1	集中
	航空宇宙生産技術(経営工学)	3後		2										兼1	集中
	航空宇宙生産技術(学外研修)	3通		1				1							集中
	航空宇宙生産技術(生産管理工学)	4通		2										兼1	集中
	航空宇宙生産技術(機械工学概論)	4通		2										兼1	集中
	航空宇宙生産技術(機械工学概論)	4通		2										兼1	集中
	航空宇宙生産技術(情報工学概論)	4通		2										兼1	集中
	航空宇宙生産技術(情報工学概論)	4通		2										兼1	集中
	小計(9科目)	-	0	17	0				1	0	0	0	0	兼8	-
合計(426科目)		-	114	701	0			25	26	0	15	0	兼271	-	
学位又は称号		学士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p>教養科目34単位以上(初年次セミナー2単位,人文科学科目から6単位,社会科学科目から6単位,自然科学科目から4単位,複合領域科目から2単位,外国語科目から英語4単位,第二外国語2単位,スポーツ・健康科学科目から2単位,教養基礎科目から6単位),基礎科目について電気電子コースは必修27単位以上,情報コース及び応用物理コースは29単位以上(必修27単位を含む。),学科共通科目について電気電子コースは26単位以上(必修8単位を含む。),情報コースは28単位以上(必修8単位を含む。),応用物理コースは22単位以上(必修8単位及び選択必修6単位を含む。),コース科目について電気電子コースは39単位以上(必修23単位を含む。),情報コースは36単位以上(必修12単位を含む。),応用物理コースは38単位以上(必修32単位を含む。)を修得し,132単位以上修得すること。なお金型創成技術科目の修得単位は8単位まで,航空宇宙生産技術科目の修得単位は17単位まで算入することができる。 (履修科目の登録の上限:30単位(1学期)ただし1年次は34単位) なお,学科共通科目について,応用物理コースは微分方程式応用,応用数学,物理数学基礎,数値解析から6単位を選択必修とする。</p>							1学年の学期区分				2学期				
							1学期の授業期間				15週				
							1時限の授業時間				90分				

教育課程等の概要																		
(連係協力学部：応用生物科学部 応用生命科学課程)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
教養科目	人文科学科目	哲学分野	初年次セミナー	1前	2			○			1	1				兼2		
			哲学入門(正義について哲学しよう)	1前		2			○								兼1	
			哲学入門(西洋哲学入門)	1後		2			○								兼1	
			人間・死生学(現代人間論)	1後		2			○								兼1	
			近現代思想(日本の近代思想)	1後		2			○								兼1	
			科学論(生命と癒しの科学論)	1前		2			○								兼1	
			科学論(科学論入門：近代的自然観と自然科学)	1前		2			○								兼1	
			東洋・日本思想(インド思想の特質)	1前		2			○								兼1	
			東洋・日本思想(中国の古典思想)	1前		2			○								兼1	
			倫理学(倫理学とは何か)	1後		2			○								兼1	
			宗教学(比較宗教学概論)	1前		2			○								兼1	
			宗教学(社会問題と宗教)	1後		2			○								兼1	
			歴史学分野	歴史学入門(歴史学とは何か)	1前		2			○								兼1
				西洋・中東史(西洋史(イギリス近代史))	1前		2			○								兼1
				西洋・中東史(西欧諸国形成史)	1前		2			○								兼1
				中国・朝鮮半島史(朝鮮・韓国の文化と日本との交流史)	1後		2			○								兼1
	中国・朝鮮半島史(中国史)	1後			2			○								兼1		
	世界近現代史(現代国際関係史)	1前			2			○								兼1		
	世界近現代史(アメリカ概論)	1前			2			○								兼1		
	世界近現代史(ドイツ文化史)	1後			2			○								兼1		
	日本史(日本の歴史)	1後			2			○								兼1		
	日本近世史(近世文化史)	1後			2			○								兼1		
	日本近・現代史(近現代日本における女性)	1前			2			○								兼1		
	日本近・現代史(近現代日本の政治と国家主義運動)	1後			2			○								兼1		
	文学分野	文学(文学とは何か)	1前		2			○								兼1		
		外国文学(朝鮮・韓国の神話・文学・伝統芸能)	1前		2			○								兼1		
		外国文学(英米文学を読む)	1後		2			○								兼1		
		外国文学(三国志時代の文学)	1後		2			○								兼1		
		外国文学(西洋文学論)	1後		2			○								兼1		
		外国文学(ロシア革命と文学)	1後		2			○								兼1		
		日本文学(百人一首の世界)	1前		2			○								兼1		
		日本文学(近世文学の世界)	1後		2			○								兼1		
	言語分野	言語学入門(日本語学入門)	1前・後		2			○								兼1		
		言語学入門(岐阜県の方言、日本語、世界の言語)	1後		2			○								兼1		
		言語学(北欧のことばと地域の方言)	1前		2			○								兼1		
		言語学(言語地理学)	1前		2			○								兼1		
		言語学(フランス語論)	1前		2			○								兼1		
		言語学(アイスランドのことばと文化)	1後		2			○								兼1		
		言語学(児童の文章表現)	1後		2			○								兼1		
		言語学(映画で見る英語の諸言語現象と欧米文化)	1後		2			○								兼1		
		日本語表現論(劇作における会話表現)	1前		2			○								兼1		
		日本語表現論(日本語口頭表現)	1前・後		2			○								兼1		
	日本語表現論(実用的な日本語表現を学ぶ)	1前・後		2			○								兼1			
	心理・行動学分野	心理学入門(心理学概論)	1前		2			○								兼1		
		心理学(幼児発達支援入門)	1後		2			○								兼1		
		心理学実験・調査法(心理学実験・調査法)	1前		2			○								兼1		

文化・芸術分野	西洋文化論（ロシア人の生活と言語）	1前		2		○																兼1	
	西洋文化論（西洋建築史）	1後		2		○																兼1	
	西洋文化論（ロシアの自然と言語）	1後		2		○																兼1	
	日本文化論（日本語文化論：国語教育史）	1前		2		○																兼1	
	日本文化論（衣生活文化史）	1前		2		○																兼1	
	日本文化論（金属で学ぶ日本文化史）	1後		2		○																兼1	
	現代文化論（現代の文化研究）	1後		2		○																兼1	
	現代文化論（科学技術と人間社会）	1前		2		○																兼1	
	韓国文化論（発音から学ぶ韓国語）	1前		2		○																兼1	
	異文化論（通過儀礼（人の一生）に見る世界の諸地域）	1後		2		○																兼1	
	美術論（美術史）	1前		2		○																兼1	
	美術論（デザイン論）	1前		2		○																兼1	
	音楽論（オーケストラ音楽を聴く）	1前		2		○																兼1	
	音楽論（実用作曲法）	1前・後		2		○																兼1	
	音楽論（ドイツ歌曲への誘い）	1前		2		○																兼1	
	音楽論（音楽への誘い）	1後		2		○																兼1	
	音楽論（音楽芸能文化概論）	1後		2		○																兼1	
	音楽論（ピアノ基礎（連弾））	1後		2		○																兼1	
	法学入門（法とは何か）	1前		2		○																兼1	
	法学入門（立法体験：まちづくり条例制定の体験）	1前		2		○																兼1	
	日本国憲法（憲法）	1前		2		○																兼1	
	日本国憲法（統治機構論）	1前		2		○																兼1	
	日本国憲法（教職のための憲法）	1後		2		○																兼1	
	日本国憲法（教職のための憲法）	1後		2		○																兼1	
	民法（家族生活と法）	1前		2		○																兼1	
	民法（財産と法）	1後		2		○																兼1	
	社会法（労働と法）	1後		2		○																兼1	
	社会法（福祉と法）	1後		2		○																兼1	
	ジェンダー法（ジェンダーと法）	1前		2		○																兼1	集中
	裁判法（市民と裁判）	1後		2		○																兼1	
	刑事法（犯罪と刑罰について）	1後		2		○																兼1	
	国際法（国際法入門）	1後		2		○																兼1	
	知的財産権法（知的財産権法入門）	1前		2		○																兼1	
	政治学入門（政治とは何か）	1後		2		○																兼1	
	現代政治論（現代日本の政治）	1前		2		○																兼1	
	現代政治論（日本の政治と世界）	1後		2		○																兼1	
	現代政治論（近代日本の政治と行政）	1後		2		○																兼1	
	現代政治論（政治理論と現代日本の政治）	1後		2		○																兼1	
	平和学（戦争の被害と加害、そして抵抗）	1前		2		○																兼1	
	平和学（戦争と平和の法制度）	1後		2		○																兼1	
経済学入門（現代の日本経済）	1前		2		○																兼1		
経済学入門（社会における経済の仕組み）	1前		2		○																兼1		
経済学史（日本経済論）	1後		2		○																兼1		
マクロ経済学（銀行論・金融政策論）	1前		2		○																兼1		
ミクロ経済学（交通経済学）	1前		2		○																兼1		
経営学入門（経営学とは何か）	1前		2		○																兼1		
マネジメント論（マーケティング論入門）	1前		2		○																兼1		
社会学入門（社会階層論）	1前		2		○																兼1		
現代社会論（少子高齢化社会）	1前		2		○																兼1		
現代社会論（現代を生きる家族）	1前		2		○																兼1		
現代社会論（社会の基盤）	1後		2		○																兼1		
現代社会論（宇宙時代を生きる）	1後		2		○																兼1		
現代社会論（Amishのライフスタイルから現代社会を考える）	1後		2		○																兼1		
現代社会論（やさしいジェンダー学入門）	1後		2		○																兼1		
メディア論（メディア論の基礎）	1前		2		○																兼1		
メディア論（メディアの特徴・歴史・現状・課題）	1前		2		○																兼1		
メディア論（国際メディア論）	1後		2		○																兼1		

自然 科学 科目	地理・ 地域 論分野	広報・PR論入門（岐阜大学をケーススタディに）	1前		2		○									兼1			
		地理学（都市論）	1前		2		○										兼1		
		地理学（地図・環境・立地・都市）	1前		2		○										兼1		
	教育 学 分 野	教育論（障害学への招待）	1前		2		○										兼1		
		教育論（現代社会問題と教育）	1前		2		○										兼1		
		教育論（岐阜大学の歴史と高等教育論）	1前・後		2		○										兼1		
		教育論（障害児教育臨床学）	1前		2		○										兼1		
		教育論（教育哲学）	1前		2		○										兼1		
		教育論（学校の社会的意味を問う）	1後		2		○										兼1		
		社会総合（生活の経済）	1前		2		○										兼1		
	社会 ・ 総合	社会総合（環境、CSR（企業の社会的責任）とマネジメント）	1前		2		○										兼1	集中	
		教養の数学（数学概論（実数と数列））	1後		2		○										兼1		
	数学 分 野	教養の数学（コンピュータのための数学概論）	1前		2		○										兼1		
		教養の数学（図学）	1後		2		○										兼1		
		基礎代数学（数学概論）	1後		2		○										兼1		
		基礎代数学（古典数学へのいざない）	1前		2		○										兼1		
		基礎解析学（解析学の基礎）	1前		2		○										兼1		
		基礎解析学（微分積分学）	1前		2		○										兼1		
		基礎統計学（統計学の基礎）	1後		2		○										兼1		
		基礎統計学（実感する統計学）	1後		2		○										兼1		
		物理 学 分 野	物理学入門（身のまわりの物理学）	1前		2		○										兼1	
			物理学入門（現代物理学の基礎（相対論と量子論入門））	1前		2		○										兼1	
			教養の物理学（物理学の基礎）	1後		2		○										兼1	
教養の物理学（雷の科学）			1前		2		○										兼1		
教養の物理学（物性の力学）			1後		2		○										兼1		
教養の物理学（力学現象の数学的見方）			1後		2		○										兼1		
教養の物理学（日曜大工からはじめる力学）	1前			2		○										兼1			
現代物理学（現代物理のトピックス（ポピュラーサイエンス））	1前			2		○										兼1			
現代物理学（表面張力の物理学）	1後			2		○				1							兼1		
化学 分 野	化学入門（日常生活でよく見る化学現象や化学製品を学ぶ）		1前		2		○										兼1		
	化学入門（身近なものから学ぶ化学）	1前		2		○										兼1			
	化学入門（身の回りで起こる現象から最先端技術に関わる化学）	1後		2		○										兼1			
	教養の化学（化学概論）	1後		2		○										兼1			
	教養の化学（現代の視点から、古典に学ぶ（化学系））	1後		2		○										兼1			
	教養の化学（有機化合物を分子模型で探る）	1後		2		○										兼1			
	教養の化学（化学結合と反応のしくみ）	1前		2		○										兼1			
	現代化学（ケミカルエンジニアリング入門）	1前		2		○										兼1			
	現代化学（プラスチック材料の基礎）	1前		2		○										兼1			
	現代化学（ソフトマター）	1後		2		○										兼1			
	生物 学 分 野	生物学入門（現代生物学入門）	1前		2		○										兼1		
生物学入門（微生物と病気）		1前		2		○										兼1			
教養の生物学（動物と病気）		1後		2		○										兼1			
教養の生物学（ヒトのからだ）		1後		2		○										兼1			
教養の生物学（生命の仕組み）		1前		2		○										兼1			
教養の生物学（分子から地球レベルの光合成）		1前		2		○										兼1			
現代生物学（ウィルスの話）		1前		2		○										兼1			
現代生物学（生き物よもやま話）		1後		2		○										兼1			
現代生物学（薬の細胞生物学）		1後		2		○										兼1			
医 学 分 野	現代医学（生体防御・腫瘍病理基礎）	1後		2		○										兼1			
	宇宙地球科学入門（天文学への招待）	1後		2		○										兼1			
宇 宙 地 球 科 学 分 野	教養の宇宙地球科学（気象学概論）	1前		2		○										兼1			
	教養の宇宙地球科学（地球環境の変遷）	1後		2		○										兼1			
	教養の宇宙地球科学（ESD入門）	1前		2		○										兼1			
	現代宇宙地球科学（宇宙科学）	1前		2		○										兼1			
環 境 学 分 野	教養の環境学（自然災害と生活）	1後		2		○										兼1			
	教養の環境学（生物の多様性と人間社会）	1前		2		○										兼1			
	教養の環境学（土の物理的環境）	1前		2		○										兼1			
	教養の環境学（生物生産と環境）	1後		2		○										兼1			
現代環境学（エネルギー問題）	1前		2		○										兼1				

自然科学総合分野	現代環境学（生物多様性を支える森林と動物たち）	1前	2	○														兼1		
	現代環境学（世界の食料と人口問題）	1前	2	○				1										兼4	オムニバス	
	現代環境学（ESD実践研究）	1後	2	○														兼1		
	自然科学総合（化学と生物のインターフェース）	1後	2	○				1												
	自然科学総合（日本刀で学ぶ金属工学入門）	1前	2	○														兼1		
	自然科学総合（科学的なものの考え方）	1前	2	○														兼1		
	自然科学総合（情報・通信の基礎）	1後	2	○														兼1		
	自然科学総合（数値シミュレーション入門）	1前	2	○														兼1		
	自然科学総合（ものの科学）	1後	2	○														兼1		
	自然科学総合（化学と生命科学）	1前	2	○														兼1		
	自然科学総合（古典に学ぶ（偉大な科学者の学問と人生）	1後	2	○														兼1		
	実験講座分野	自然科学実験講座（ご飯までのフィールド科学）	1前	2	○														兼1	
		自然科学実験講座（家畜たちのフィールド科学）	1前	2	○														兼1	
		自然科学実験講座（森と川のフィールド科学）	1前	2	○														兼1	
		自然科学実験講座（金属を使ったものづくり）	1後	2	○														兼1	集中
	情報学分野	情報学入門（ITの歴史と未来）	1前	2	○														兼1	
		情報学入門（経営のためのオペレーションズ・リサーチ）	1後	2	○														兼1	
		情報学入門（インターネットのやさしい数理）	1後	2	○														兼1	
		教養の情報学（オペレーションズ・リサーチにおけるモデリング）	1前	2	○														兼1	
		教養の情報学（データサイエンス入門）	1前・後	2	○														兼1	
	複合領域科目 生活と科学分野	社会の中の看護	1後	2	○														兼1	
		食の教養	1前・後	2	○				1											
		栄養と運動	1後	2	○														兼1	
交通安全の科学		1前	2	○														兼1		
畜産・水産業の歴史と食文化		1後	2	○														兼1		
医学史		1前	2	○														兼1		
健康とQOL		1前	2	○														兼1		
身近な薬と毒の科学		1後	2	○														兼1		
世界の農業事情		1後	2	○														兼1		
生物共生論		1前	2	○														兼1		
現代医療の最前線		1前	2	○														兼1		
環境マネジメントと環境経営		1前・後	2	○														兼5	オムニバス	
免疫学		1前	2	○														兼1		
森と美術		1後	2	○														兼1		
実践生物化学		1前	2	○														兼1		
食と調理		1後	2	○														兼1		
岐阜学分野		岐阜県の生物の分布と生態	1後	2	○														兼1	
		現代のまちづくりと住民	1後	2	○														兼1	
		岐阜の自然（地質・活断層と水環境）	1前	2	○													兼1		
		岐阜県の農産物の生産・流通・消費	1後	2	○				1											
		岐阜県誌：岐阜県の歴史・文化・自然	1前	2	○														兼1	
		岐阜の自然と都市，そこに生きる生き物と人	1前	2	○														兼3	オムニバス
		岐阜県の食構造	1前	2	○				1											
	フューチャーセンター入門	1前・後	2	○														兼1		
	フューチャーセンター実践	1・2前	2	○														兼1	集中	
	フューチャーセンター実践	1・2後	2	○														兼1	集中	
	人と自然との関わりから見た岐阜	1前	2	○														兼1		
	人と自然の関わりから見た岐阜（実践）	1後	2	○														兼1		
	岐阜の産業：地域で活躍する企業と人	1前	2	○														兼1		
	岐阜の伝統産業：陶磁器，刃物，石灰，紙，織維	1後	2	○														兼1		
地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る	1前	2	○														兼4	共同		
岐阜にまつわる東洋史	1前	2	○														兼1			

現代理論分野	地域防災リーダー基礎	1前・後	2		○								兼10	兼中 オムニバス 共同(一部)		
	地域防災リーダー実践	1前・後	2			○							兼4	兼中 共同		
	地域防災リーダー実践	1前・後	2			○							兼4	兼中 共同		
	ワーク・ライフ・バランス(男女共同参画論)	1後	2			○							兼1			
	学び創造分野	学びをデザインする	1後	2			○							兼1		
		ひろがる学び, つながる学び	1前	2			○							兼1		
		共に変え, 学び合う「ピア・サポート」演習: 最大基盤的能力特講	1後	2			○							兼1		
		高年次教養セミナー	1前	1			○							兼1	集中	
		高年次教養セミナー	1後	1			○							兼1	集中	
	キャリア形成分野	自分らしいキャリア設計	1前・後	2			○							兼1		
		現代社会を支える企業	1後	2			○							兼1		
		生活と金融・人生設計と資産形成	1後	2			○							兼1		
		アントレプレナーシップ入門	1前	2			○							兼1		
		地域系インターンシップ	1・2前	1				○						兼1	集中	
		地域系インターンシップ	1・2後	1				○						兼1	集中	
		産業系インターンシップ	1・2前	1				○						兼1	集中	
		産業系インターンシップ	1・2後	1				○						兼1	集中	
		社会の多様な働き方	1前	2				○						兼1		
		キャリア形成論	1前・後	2				○						兼1		
		ライフコース論(人生設計と生活保障)	1後	2				○						兼1		
		プロジェクト型インターンシップ	1後	2					○					兼1		
現代社会とボランティア・地域活動		1前・後	2					○					兼1			
自己省察と将来のキャリア設計	1後	2					○					兼1				
リーダー実践	地域リーダー実践(上級)	1前	2					○					兼1	集中		
	地域リーダー実践(上級)	1後	2					○					兼1	集中		
産業リーダー実践	産業リーダー実践	2前・後	2						○				兼1			
外国語科目	英語	英語1	1前	1					○				兼6			
		英語2	1前	1					○				兼6			
		英語3	1後	1					○				兼4			
		英語4	1後	1					○				兼6			
	第二外国語	ドイツ語	1前	1						○				兼5		
		ドイツ語	1後	1						○				兼5		
		フランス語	1前	1						○				兼2		
		フランス語	1後	1						○				兼2		
		中国語	1前	1						○				兼2		
		中国語	1後	1						○				兼2		
		朝鮮・韓国語	1前	1						○				兼1		
		朝鮮・韓国語	1後	1						○				兼1		
		ポルトガル語	1前	1						○				兼1		
		ポルトガル語	1後	1						○				兼1		
		スポーツ・健康科学科目	健康科学演習分野	健康科学	1後	2					○				兼1	
				ヘルスプロモーションと地域保健	1後	2					○				兼1	
スポーツコンディショニング	1後			2						○				兼1		
剣道	1前			2							○			兼1		
雪上スポーツで学ぶ(スキー)	1後			2							○			兼1	集中	
ヨガ・エアロビクス	1前			2							○			兼1		
トレーニング	1後			2							○			兼1		
ハンドボール	1前			2							○			兼1		
新卓球(ラージボール)	1後			2							○			兼1		
ファストピッチ・ソフトボール(ウインドミル投法入門)	1前			2							○			兼1		
卓球・水泳	1前			2							○			兼1		
バドミントンA	1前・後			2							○			兼2		
女子サッカーA	1前			2							○			兼1		
女子サッカーB	1後			2							○			兼1		
サッカー	1前・後			2							○			兼1		
卓球	1前・後			2							○			兼1		
ボールゲーム	1後			2							○			兼1		
バレーボールA	1前			2							○			兼1		
テニス	1前			2							○			兼1		
テニス	1後			2							○			兼1		
バスケットボールA	1前・後			2							○			兼1		
ソフトボールB	1前			2							○			兼1		
泳法探求(バタフライ)	1前			2							○			兼1		
													1			

		バランスボールエクササイズ	1前・後		2				○					兼1			
		フライングディスク	1前・後		2				○					兼1			
		アダブテッドスポーツ	1前		2				○					兼1			
		フットサル	1後		2				○					兼1			
		ジョギング	1後		2				○					兼1			
小計(282科目)		-	6	538	0			-		4	1	0	0	0	兼228	-	
教養基礎科目		基礎数学	1前	2											兼1		
		物理学	1前	2											兼1		
		化学	1前	2						1	1					オムニバス	
		生物学	1前	2											兼7	オムニバス	
		生命倫理学	2後	2											兼2	オムニバス	
		物理学	1後		2										兼1		
		化学	1後		2					1							
		生物学	1後		2					1						兼8	オムニバス
		地学	2前		2											兼1	
		小計(9科目)		-	10	8	0			-		3	1	0	0	0	兼15
専門基礎科目		応用生命科学概論	1前	2						14					兼2	オムニバス 共同(一部)	
		情報処理演習	1前	1									2			オムニバス	
		有機化学概論	1後	2						1							
		応用生命科学実習	1後	1						1			1				共同
		基礎統計学	1後	2												兼1	
		生化学	2前	2						1							
		分析化学	2前	2												兼1	
		物理化学	2前	2						1							
		基礎微生物学	2前	2						2							オムニバス
		有機化学	2前	2						1							
		応用生命科学実習	2前	1						5	1						共同
		基礎科学英語	2前・後	4						3	2					兼1	オムニバス
		応用生命科学演習	2後	2						4	7		5			兼1	共同
		応用生命科学実験	2後	4						4	7		5			兼2	共同
		栄養化学	2後	2						1							
		有機化学	2後	2							1						
		生化学	2後	2						1							
		機器分析学	2後	2							1						
		食品化学	2前		2					1							
		無機化学	2前		2											兼1	
食品衛生学	2前		2						1								
微生物機能学	2後		2						1								
食品化学	2後		2					1									
小計(23科目)		-	37	10	0			-		14	7	0	5	0	兼7	-	
専門科目	食品生命科学コース	食品生命科学実験	3前	4						1			1			共同	
		食品生命科学演習	3前	2						4	4		2			兼1	共同
		専門科学英語	3前・後	4						1						兼1	オムニバス
		卒業研究	3後~4通	6						7	4		1			兼1	
		食品工学	3前		2					2							オムニバス
		栄養化学	3前		2					1							
		食品安全性学	3前		2					1							
		酵素科学	3前		2					1							
		微生物遺伝学	3前		2					2							オムニバス
		ポストハーベスト工学	3前		2											兼1	
		グローバルインターンシップ	3前		1					2							集中 共同
		食品成分化学	3後		2						1						
		免疫化学	3後		2					1			1				オムニバス
		公衆衛生学	3後		2					1	1						オムニバス
		食品微生物学	3後		2					1							
		動物性食品化学	3後		2						1						
		食品加工学	3後		2					1	1						オムニバス
		食品物理化学	3後		2					1							
		食品保蔵学	3後		2						1					兼1	オムニバス
		食品関連法規	3後		2						1						
小計(20科目)		-	16	31	0			-		10	4	0	2	0	兼5	-	
分子生命科学コース		分子生命科学実験	3前	4						2	3		1		兼1	共同	
		分子生命科学演習	3前	2						4	4		1			共同	
		専門科学英語	3前・後	4						1					兼1	オムニバス	
		卒業研究	3後~4通	6						7	4		3		兼2		
		栄養化学	3前		2					1							
		環境微生物学	3前		2						1						
微生物遺伝学	3前		2					2							オムニバス		

立体化学	3前		2											兼1	
機器分析学	3前		2					1							
酵素科学	3前		2					1							
バイオマス化学	3前		2					1							
グローバルインターンシップ	3前		1					2						集中 共同	
免疫化学	3後		2					1			1			オムニバス	
食品微生物学	3後		2					1							
生理活性物質学	3後		2					1							
分子細胞生物学	3後		2					1							
生物有機化学	3後		2					1							
天然物化学	3後		2					1							
生物物理化学	3後		2											兼1	
ゲノム生物学	3後		2					2						オムニバス	
環境微生物工学	3後		2					1							
植物栄養学	4前		2					1	1					オムニバス	
小計(22科目)	-	16	35	0	-	-	-	12	4	0	4	0	兼6	-	
合計(356科目)	-	85	622	0	-	-	-	14	8	0	5	0	兼257	-	
学位又は称号	学士(応用生物科学)		学位又は学科の分野				農学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
教養科目38単位以上(初年次セミナー2単位,人文科学科目から4単位,社会科学科目から4単位,自然科学科目から2単位,複合領域科目から4単位,外国語科目から英語4単位,第二外国語2単位,スポーツ・健康科学科目から2単位,自由選択科目2単位,教養基礎科目12単位以上(必修科目10単位を含む。)),専門基礎科目43単位以上(必修科目37単位を含む。),専門科目47単位以上(所属するコースの必修科目16単位を含む。)を修得し,128単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:30単位(1学期)) なお,専門基礎科目のうち,食品化学,無機化学,食品衛生学,微生物機能学,食品化学 から6単位を選択必修とする。							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要																
(連係協力学部：応用生物科学部 生産環境科学課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	初年次セミナー	1前	2			○			1			1				
教養科目 人文科学科目	哲学入門(正義について哲学しよう)	1前		2		○								兼1		
	哲学入門(西洋哲学入門)	1後		2		○								兼1		
	人間・死生学(現代人間論)	1後		2		○								兼1		
	近現代思想(日本の近代思想)	1後		2		○								兼1		
	科学論(生命と癒しの科学論)	1前		2		○								兼1		
	科学論(科学論入門：近代的自然観と自然科学)	1前		2		○								兼1		
	東洋・日本思想(インド思想の特質)	1前		2		○								兼1		
	東洋・日本思想(中国の古典思想)	1前		2		○								兼1		
	倫理学(倫理学とは何か)	1後		2		○								兼1		
	宗教学(比較宗教学概論)	1前		2		○								兼1		
	宗教学(社会問題と宗教)	1後		2		○								兼1		
	歴史学分野	歴史学入門(歴史学とは何か)	1前		2		○								兼1	
		西洋・中東史(西洋史(イギリス近代史))	1前		2		○								兼1	
		西洋・中東史(西欧諸国形成史)	1前		2		○								兼1	
		中国・朝鮮半島史(朝鮮・韓国の文化と日本との交流史)	1後		2		○								兼1	
		中国・朝鮮半島史(中国史)	1後		2		○								兼1	
		世界近現代史(現代国際関係史)	1前		2		○								兼1	
		世界近現代史(アメリカ概論)	1前		2		○								兼1	
		世界近現代史(ドイツ文化史)	1後		2		○								兼1	
		日本史(日本の歴史)	1後		2		○								兼1	
		日本近世史(近世文化史)	1後		2		○								兼1	
		日本近・現代史(近現代日本における女性)	1前		2		○								兼1	
		日本近・現代史(近現代日本の政治と国家主義運動)	1後		2		○								兼1	
		文学分野	文学(文学とは何か)	1前		2		○								兼1
			外国文学(朝鮮・韓国の神話・文学・伝統芸能)	1前		2		○								兼1
	外国文学(英米文学を読む)		1後		2		○								兼1	
	外国文学(三国志時代の文学)		1後		2		○								兼1	
	外国文学(西洋文学論)		1後		2		○								兼1	
	外国文学(ロシア革命と文学)		1後		2		○								兼1	
	日本文学(百人一首の世界)		1前		2		○								兼1	
	日本文学(近世文学の世界)		1後		2		○								兼1	
	言語分野	言語学入門(日本語学入門)	1前・後		2		○								兼1	
		言語学入門(岐阜県の方言, 日本語, 世界の言語)	1後		2		○								兼1	
		言語学(北欧のことばと地域の方言)	1前		2		○								兼1	
		言語学(言語地理学)	1前		2		○								兼1	
		言語学(フランス語論)	1前		2		○								兼1	
		言語学(アイスランドのことばと文化)	1後		2		○								兼1	
		言語学(児童の文章表現)	1後		2		○								兼1	
		言語学(映画で見る英語の諸言語現象と欧米文化)	1後		2		○								兼1	
		日本語表現論(劇作における会話表現)	1前		2		○								兼1	
		日本語表現論(日本語口頭表現)	1前・後		2		○								兼1	
	日本語表現論(実用的な日本語表現を学ぶ)	1前・後		2		○								兼1		
心理・行動学分野	心理学入門(心理学概論)	1前		2		○								兼1		
	心理学(幼児発達支援入門)	1後		2		○								兼1		
	心理学実験・調査法(心理学実験・調査法)	1前		2		○								兼1		
文化・芸術分野	西洋文化論(ロシア人の生活と言語)	1前		2		○								兼1		
	西洋文化論(西洋建築史)	1後		2		○								兼1		
	西洋文化論(ロシアの自然と言語)	1後		2		○								兼1		
	日本文化論(日本語文化論：国語教育史)	1前		2		○								兼1		
	日本文化論(衣生活文化史)	1前		2		○								兼1		
	日本文化論(金属で学ぶ日本文化史)	1後		2		○								兼1		
現代文化論(現代の文化研究)	1後		2		○								兼1			

社会科学科目	現代文化論（科学技術と人間社会）	1前	2	○							兼1		
		韓国文化論（発音から学ぶ韓国語）	1前	2	○							兼1	
		異文化論（通過儀礼（人の一生）に見る世界の諸地域）	1後	2	○							兼1	
		美術論（美術史）	1前	2	○							兼1	
		美術論（デザイン論）	1前	2	○							兼1	
		音楽論（オーケストラ音楽を聴く）	1前	2	○							兼1	
		音楽論（実用作曲法）	1前・後	2	○							兼1	
		音楽論（ドイツ歌曲への誘い）	1前	2	○							兼1	
		音楽論（音楽への誘い）	1後	2	○							兼1	
		音楽論（音楽芸能文化概論）	1後	2	○							兼1	
	音楽論（ピアノ基礎（連弾））	1後	2	○							兼1		
	法学分野	法学入門（法とは何か）	1前	2	○							兼1	
		法学入門（立法体験：まちづくり条例制定の体験）	1前	2	○							兼1	
		日本国憲法（憲法）	1前	2	○							兼1	
		日本国憲法（統治機構論）	1前	2	○							兼1	
		日本国憲法（教職のための憲法）	1後	2	○							兼1	
		日本国憲法（教職のための憲法）	1後	2	○							兼1	
		民法（家族生活と法）	1前	2	○							兼1	
		民法（財産と法）	1後	2	○							兼1	
		社会法（労働と法）	1後	2	○							兼1	
		社会法（福祉と法）	1後	2	○							兼1	
		ジェンダー法（ジェンダーと法）	1前	2	○							兼1 集中	
		裁判法（市民と裁判）	1後	2	○							兼1	
		刑事法（犯罪と刑罰について）	1後	2	○							兼1	
		国際法（国際法入門）	1後	2	○							兼1	
		知的財産権法（知的財産権法入門）	1前	2	○							兼1	
		政治学分野	政治学入門（政治とは何か）	1後	2	○							兼1
	現代政治論（現代日本の政治）		1前	2	○							兼1	
	現代政治論（日本の政治と世界）		1後	2	○							兼1	
	現代政治論（近代日本の政治と行政）		1後	2	○							兼1	
	現代政治論（政治理論と現代日本の政治）		1後	2	○							兼1	
	平和学（戦争の被害と加害、そして抵抗）		1前	2	○							兼1	
	平和学（戦争と平和の法制度）		1後	2	○							兼1	
	経済学分野		経済学入門（現代の日本経済）	1前	2	○							兼1
		経済学入門（社会における経済の仕組み）	1前	2	○							兼1	
		経済学史（日本経済論）	1後	2	○							兼1	
		マクロ経済学（銀行論・金融政策論）	1前	2	○							兼1	
		ミクロ経済学（交通経済学）	1前	2	○							兼1	
	経営学分野	経営学入門（経営学とは何か）	1前	2	○							兼1	
		マネージメント論（マーケティング論入門）	1前	2	○							兼1	
		社会学分野	社会学入門（社会階層論）	1前	2	○							兼1
			現代社会論（少子高齢化社会）	1前	2	○							兼1
	現代社会論（現代を生きる家族）		1前	2	○							兼1	
	現代社会論（社会の基盤）		1後	2	○							兼1	
	現代社会論（宇宙時代を生きる）		1後	2	○							兼1	
	現代社会論（Amishのライフスタイルから現代社会を考える）		1後	2	○							兼1	
	現代社会論（やさしいジェンダー学入門）		1後	2	○							兼1	
	メディア論（メディア論の基礎）		1前	2	○							兼1	
	メディア論（メディアの特徴・歴史・現状・課題）		1前	2	○							兼1	
	メディア論（国際メディア論）		1後	2	○							兼1	
	広報・PR論入門（岐阜大学をケーススタディに）	1前	2	○							兼1		
	地理・地域論分野	地理学（都市論）	1前	2	○							兼1	
		地理学（地図・環境・立地・都市）	1前	2	○							兼1	
	教育学分野	教育論（障害学への招待）	1前	2	○							兼1	
		教育論（現代社会問題と教育）	1前	2	○							兼1	
		教育論（岐阜大学の歴史と高等教育論）	1前・後	2	○							兼1	
		教育論（障害児教育臨床学）	1前	2	○							兼1	
		教育論（教育哲学）	1前	2	○							兼1	
		教育論（学校の社会的意味を問う）	1後	2	○							兼1	
	総合	社会総合（生活の経済）	1前	2	○							兼1	
		社会総合（環境、CSR（企業の社会的責任）とマネジメント）	1前	2	○							兼1 集中	

自然科学科目	数学分野	教養の数学（数学概論（実数と数列））	1後	2	○								兼1	
		教養の数学（コンピュータのための数学概論）	1前	2	○									兼1
		教養の数学（図学）	1後	2	○									兼1
		基礎代数学（数学概論）	1後	2	○									兼1
		基礎代数学（古典数学へのいざない）	1前	2	○									兼1
		基礎解析学（解析学の基礎）	1前	2	○									兼1
		基礎解析学（微積分分子）	1前	2	○									兼1
		基礎統計学（統計学の基礎）	1後	2	○									兼1
		基礎統計学（実感する統計学）	1後	2	○									兼1
	物理学分野	物理学入門（身のまわりの物理学）	1前	2	○									兼1
		物理学入門（現代物理学の基礎（相対論と量子論入門））	1前	2	○									兼1
		教養の物理学（物理学の基礎）	1後	2	○									兼1
		教養の物理学（雷の科学）	1前	2	○									兼1
		教養の物理学（物性の力学）	1後	2	○		1							
		教養の物理学（力学現象の数学的見方）	1後	2	○									兼1
		教養の物理学（日曜大工からはじめる力学）	1前	2	○									兼1
		現代物理学（現代物理のトピックス（ポピュラーサイエンス））	1前	2	○									兼1
		現代物理学（表面張力の物理学）	1後	2	○									兼1
	化学分野	化学入門（日常生活でよく見る化学現象や化学製品を学ぶ）	1前	2	○									兼1
		化学入門（身近なものから学ぶ化学）	1前	2	○									兼1
		化学入門（身の回りで起こる現象から最先端技術に関わる化学）	1後	2	○									兼1
		教養の化学（化学概論）	1後	2	○									兼1
		教養の化学（現代の視点から、古典に学ぶ（化学系））	1後	2	○									兼1
		教養の化学（有機化合物を分子模型で探る）	1後	2	○									兼1
		教養の化学（化学結合と反応のしくみ）	1前	2	○									兼1
		現代化学（ケミカルエンジニアリング入門）	1前	2	○									兼1
		現代化学（プラスチック材料の基礎）	1前	2	○									兼1
		現代化学（ソフトマター）	1後	2	○									兼1
	生物学分野	生物学入門（現代生物学入門）	1前	2	○		1							
		生物学入門（微生物と病気）	1前	2	○									兼1
		教養の生物学（動物と病気）	1後	2	○									兼1
		教養の生物学（ヒトのからだ）	1後	2	○									兼1
		教養の生物学（生命の仕組み）	1前	2	○									兼1
		教養の生物学（分子から地球レベルの光合成）	1前	2	○		1							
		現代生物学（ウィルスの話）	1前	2	○									兼1
		現代生物学（生き物よもやま話）	1後	2	○									兼1
	医学分野	現代医学（生体防御・腫瘍病理基礎）	1後	2	○									兼1
	宇宙地球科学分野	宇宙地球科学入門（天文学への招待）	1後	2	○									兼1
		教養の宇宙地球科学（気象学概論）	1前	2	○									兼1
		教養の宇宙地球科学（地球環境の変遷）	1後	2	○									兼1
		教養の宇宙地球科学（ESD入門）	1前	2	○									兼1
		現代宇宙地球科学（宇宙科学）	1前	2	○									兼1
		教養の環境学（自然災害と生活）	1後	2	○									兼1
	環境学分野	教養の環境学（生物の多様性と人間社会）	1前	2	○			1						
		教養の環境学（土の物理的環境）	1前	2	○			1						
		教養の環境学（生物生産と環境）	1後	2	○		1							
現代環境学（エネルギー問題）		1前	2	○									兼1	
現代環境学（生物多様性を支える森林と動物たち）		1前	2	○									兼1	
現代環境学（世界の食料と人口問題）		1前	2	○		1	2						兼2 オムニバス	
現代環境学（ESD実践研究）		1後	2	○									兼1	
自然科学総合分野	自然科学総合（化学と生物のインターフェース）	1後	2	○									兼1	
	自然科学総合（日本刀で学ぶ金属工学入門）	1前	2	○									兼1	
	自然科学総合（科学的なものの考え方）	1前	2	○									兼1	
	自然科学総合（情報・通信の基礎）	1後	2	○									兼1	
	自然科学総合（数値シミュレーション入門）	1前	2	○									兼1	
	自然科学総合（ものの科学）	1後	2	○									兼1	
	自然科学総合（化学と生命科学）	1前	2	○									兼1	
	自然科学総合（古典に学ぶ（偉大な科学者の学問と人生））	1後	2	○									兼1	

複合領域科目	実験講座分野	自然科学実験講座(ご飯までのフィールド科学)	1前	2	○							兼1		
		自然科学実験講座(家畜たちのフィールド科学)	1前	2	○		1							
		自然科学実験講座(森と川のフィールド科学)	1前	2	○								兼1	
		自然科学実験講座(金属を使ったものづくり)	1後	2	○								兼1	集中
	情報学分野	情報学入門(ITの歴史と未来)	1前	2	○								兼1	
		情報学入門(経営のためのオペレーションズ・リサーチ)	1後	2	○								兼1	
		情報学入門(インターネットのやさしい数理)	1後	2	○								兼1	
		教養の情報学(オペレーションズ・リサーチにおけるモデリング)	1前	2	○								兼1	
	生活と科学分野	教養の情報学(データサイエンス入門)	1前・後	2	○								兼1	
		社会の中の看護	1後	2	○								兼1	
		食の教養	1前・後	2	○								兼1	
		栄養と運動	1後	2	○								兼1	
		交通安全の科学	1前	2	○								兼1	
		畜産・水産業の歴史と食文化	1後	2	○		1							
		医学史	1前	2	○								兼1	
		健康とQOL	1前	2	○								兼1	
		身近な薬と毒の科学	1後	2	○								兼1	
		世界の農業事情	1後	2	○		1							
		生物共生論	1前	2	○								兼1	
		現代医療の最前線	1前	2	○								兼1	
環境マネジメントと環境経営		1前・後	2	○								兼5	オムニバス	
岐阜学分野		免疫学	1前	2	○								兼1	
	森と美術	1後	2	○								兼1		
	実践生物化学	1前	2	○								兼1		
	食と調理	1後	2	○								兼1		
	岐阜県の生物の分布と生態	1後	2	○								兼1		
	現代のまちづくりと住民	1後	2	○								兼1		
	岐阜の自然(地質・活断層と水環境)	1前	2	○								兼1		
	岐阜県の農産物の生産・流通・消費	1後	2	○								兼1		
	岐阜県誌:岐阜県の歴史・文化・自然	1前	2	○								兼1		
	岐阜の自然と都市,そこに生きる生き物と人	1前	2	○								兼3	オムニバス	
	岐阜県の食構造	1前	2	○								兼1		
	フューチャーセンター入門	1前・後	2	○								兼1		
	フューチャーセンター実践	1・2前	2	○								兼1	集中	
	フューチャーセンター実践	1・2後	2	○								兼1	集中	
	人と自然との関わりから見た岐阜	1前	2	○								兼1		
	人と自然の関わりから見た岐阜(実践)	1後	2	○								兼1		
現代と	岐阜の産業:地域で活躍する企業と人	1前	2	○								兼1		
	岐阜の伝統産業:陶磁器,刃物,石灰,紙,織維	1後	2	○								兼1		
	地域産業と企業戦略入門:岐阜の企業を知る	1前	2	○								兼4	共同	
	岐阜にまつわる東洋史	1前	2	○								兼1		
	地域防災リーダー基礎	1前・後	2	○								兼10	高中 オムニバス 共同(一部)	
	地域防災リーダー実践	1前・後	2	○								兼4	集中 共同	
	地域防災リーダー実践	1前・後	2	○								兼4	集中 共同	
	ワーク・ライフ・バランス(男女共同参画論)	1後	2	○								兼1		
	学び創造分野	学びをデザインする	1後	2	○								兼1	
		ひろがる学び,つながる学び	1前	2	○								兼1	
共に支え,学び合う「ピア・サポート」演習:岐大基礎的能力特講		1後	2	○								兼1		
高年次教養セミナー		1前	1	○								兼1	集中	
キャリア形成分野	高年次教養セミナー	1後	1	○								兼1	集中	
	自分らしいキャリア設計	1前・後	2	○								兼1		
	現代社会を支える企業	1後	2	○								兼1		
	生活と金融・人生設計と資産形成	1後	2	○								兼1		
	アントレプレナーシップ入門	1前	2	○								兼1		
	地域系インターンシップ	1・2前	1	○								兼1	集中	
	地域系インターンシップ	1・2後	1	○								兼1	集中	
	産業系インターンシップ	1・2前	1	○								兼1	集中	
	産業系インターンシップ	1・2後	1	○								兼1	集中	
	社会の多様な働き方	1前	2	○								兼1		
キャリア形成分野	キャリア形成論	1前・後	2	○								兼1		
	ライフコース論(人生設計と生活保障)	1後	2	○								兼1		
	プロジェクト型インターンシップ	1後	2	○								兼1		

現代社会とボランティア・地域活動	現代社会とボランティア・地域活動	1前・後		2			○										兼1			
	自己省察と将来のキャリア設計	1後		2			○										兼1			
	地域リーダー実践(上級)	地域リーダー実践(上級)	1前		2			○									兼1	集中		
		地域リーダー実践(上級)	1後		2			○									兼1	集中		
	産業リーダー実践	2前・後		2			○										兼1			
	英語	英語1	1前	1				○										兼6		
		英語2	1前	1				○										兼6		
		英語3	1後	1				○										兼4		
		英語4	1後	1				○										兼6		
		第二外国語	ドイツ語	1前		1			○										兼5	
			ドイツ語	1後		1			○										兼5	
			フランス語	1前		1			○										兼2	
			フランス語	1後		1			○										兼2	
			中国語	1前		1			○										兼2	
			中国語	1後		1			○										兼2	
朝鮮・韓国語			1前		1			○										兼1		
朝鮮・韓国語			1後		1			○										兼1		
ポルトガル語		1前		1			○										兼1			
ポルトガル語		1後		1			○										兼1			
健康科学講義	健康科学	1後		2			○										兼1			
	ヘルスプロモーションと地域保健	1後		2			○										兼1			
	スポーツコンディショニング	1後		2			○										兼1			
	剣道	1前		2			○										兼1			
	雪上スポーツで学ぶ(スキー)	1後		2			○										兼1	集中		
	ヨガ・エアロビクス	1前		2			○										兼1			
	トレーニング	1後		2			○										兼1			
	ハンドボール	1前		2			○										兼1			
	新卓球(ラージボール)	1後		2			○										兼1			
	ファストピッチ・ソフトボール(ウインドミル投げ入門)	1前		2			○										兼1			
	卓球・水泳	1前		2			○			1										
	バドミントンA	1前・後		2			○										兼2			
	女子サッカーA	1前		2			○										兼1			
	女子サッカーB	1後		2			○										兼1			
	サッカー	1前・後		2			○										兼1			
	卓球	1前・後		2			○										兼1			
	ボールゲーム	1後		2			○										兼1			
	バレーボールA	1前		2			○										兼1			
	テニス	1前		2			○										兼1			
	テニス	1後		2			○										兼1			
	バスケットボールA	1前・後		2			○										兼1			
	ソフトボールB	1前		2			○										兼1			
	泳法探求(バタフライ)	1前		2			○										兼1			
	バランスボールエクササイズ	1前・後		2			○										兼1			
フライングディスク	1前・後		2			○										兼1				
アダプテッドスポーツ	1前		2			○										兼1				
フットサル	1後		2			○										兼1				
ジョギング	1後		2			○										兼1				
小計(282科目)	-	6	538	0		-		8	5	0	1	0		兼219	-					
基礎基礎科目	基礎数学	1前	2														兼1			
	物理学	1前	2														兼1			
	化学	1前	2														兼2	オムニバス		
	生物学	1前	2					2									兼5	オムニバス		
	生命倫理学	2後	2														兼2	オムニバス		
	物理学	1後	2														兼1			
	化学	1後	2														兼1			
	生物学	1後	2					2	2								兼5	オムニバス		
	地学	2前	2														兼1			
小計(9科目)	-	10	8	0		-	2	2	0	0	0	0		兼17	-					
専門基礎科目	情報処理演習	1前	1															オムニバス		
	生物生産科学概論	1前	2					8	10		2							オムニバス		
	フィールド科学基礎実習	1前	1						1							兼1	集中 オムニバス			
	フィールド科学応用実習	1通	2					1	1									オムニバス		
	生物環境科学概論	1後	2					4	1									オムニバス		
	科学英語基礎演習	2前	1														兼3	オムニバス		
	生産環境科学基礎実験	2前	1					11	11		7						兼1	オムニバス		
遺伝学	2前	2					2										オムニバス			
植物生態学	2前	2						1												

	生物化学	2前	2					2									オムニバス	
	動物生理学	2前	2					1										
	農業気象学	2後	2						1									
	植物生理学	2後	2					1										
	生物統計学	2後	2					1	1			1					オムニバス	
	動物生態学	2後	2					1										
	植物生産科学	2後	2					1										
	動物生産管理学	2後	2					1										
	科学英語基礎演習	2後	1													兼3	オムニバス	
	生物形態学	2前		2				2									オムニバス	
	土壌環境学	2前		2					1									
	地域資源学	2前		2					1			1					オムニバス	
	水文学	2前		2					1									
	生物系統分類学	2後		2				3	2								オムニバス	
	細胞生物学	2後		2				2									オムニバス	
	微生物学	2後		2												兼2	オムニバス	
	農業・環境経済学	2後		2					1									
	フィールド科学	1後		2				1	2								オムニバス	
	生産環境関係法規	2前		2					1									
	野生動物管理学入門	2後		2				1	2								オムニバス	
	小計 (29科目)	-	31	22	0		-	15	18	0	7	0		兼10		-		
専門科目	応用植物科学実験実習	3前	2					4	6			2					オムニバス	
	応用植物科学実験法	3前	1					4	6			2					オムニバス	
	情報処理実習	3前	1						2			1					オムニバス	
	応用植物科学演習	3前	1						1									
	専門英語演習	3通	2					1									集中	
	応用植物科学実験実習	3後	2					4	6			2					オムニバス	
	卒業研究	3後～4通	6					6	8			2						
	園芸学	3前		2				1										
	植物環境制御学	3前		2					1									
	植物病理学	3前		2					1							兼1	オムニバス	
	植物栄養学	3前		2				1	1								オムニバス	
	植物分子生理学	3前		2				1										
	食料生産管理学	3前		1												兼1		
	園芸植物栽培学	3前		2					1									
	資源植物学	3前		2				1										
	作物学	3前		2				1										
	地域農業技術論	3前		2												兼1		
	応用昆虫学	3前		2				1										
	インターンシップ実習	3通		1					1									集中
	農業政策学	3後		1					1									
	植物育種学	3後		2					1									
	生理生態学	3後		2				1								兼1	オムニバス	
	植物生産工学	3後		2					1			1						オムニバス
	植物保護学	3後		2					1									
	ゲノム生物学	3後		2				2	1									オムニバス
	食品関連法規	3後		2					1									
	ピオトープ論	4前		2				1	2									オムニバス
	物理化学	4前		2				1										
	農業環境修復学	4前		2					1									
	動物生産栄養学	4後		2				1										
	栄養化学	4後		2				1										
	食品保蔵学	4後		2					1							兼1	オムニバス	
	食品流通システム科学	4後		2												兼1		
	食品衛生学	4後		2					1									
	アグリビジネス論	3後		2			○		1									
	農業経済学・経営学入門	3後		2			○		1	1							兼6	
	小計 (36科目)	-	15	55	0		-	10	13	0	3	0		兼12		-		

応用動物科学コース	牧場実習	3前	1							1					1			集中・共同
	動物園学実験実習	3前	1								1							共同
	野生生物フィールド実習	3前	1							2	3							共同
	情報処理実習	3前	1								2				1			オムニバス
	専門英語演習	3通	2							1								集中
	動物機能形態学実習	3後	2								1				1			共同
	卒業研究	3後～4通	6							5	4				2			
	動物園学(博物館概論)	2後		2							1							
	動物遺伝学	3前		2						1								
	動物発生学	3前		2							1							
	動物繁殖学	3前		2						1								
	動物栄養学	3前		2						1								
	動物卵科学	3前		1						2	1							オムニバス
	応用動物行動学	3前		2							1							
	ピオトープ論	3前		2						1	2							オムニバス
	動物免疫学	3前		2							1							
	動物発生学実験及び実験法	3前		1							1				1			オムニバス
	動物分子遺伝学実験及び実験法	3前		1						1	2				1			オムニバス
	動物生理学実験及び実験法	3前		2						1	1				2			オムニバス
	動物園動物管理学	3前		2						1	1							オムニバス
	インターンシップ実習	3通		1											1			集中
	動物育種学	3後		2							1							
	動物機能形態学	3後		2							1				1			オムニバス
	動物系統進化学	3後		2							1							
	動物発生工学	3後		2											1			
	動物生産栄養学	3後		2						1								
	動物管理学	3後		2							1							
	家庭動物学	3後		1														兼1
	実験動物学	3後		2														兼1
	動物性食品化学	3後		2							1							
	動物栄養学実験及び実験法	3後		2						2								オムニバス
	動物行動管理学実験実習	3後		1							1				1			オムニバス
	食品関連法規	3後		2							1							
	アグリビジネス論	3後		2				○			1							
	農業経済学・経営学入門	3後		2				○		1	1							兼6
小計(35科目)	-	14	50	0	-	-			7	11	0	3	0	8			兼8	
環境生態科学コース	生物計測学実験及び実験法	3前	2						3	2				2				オムニバス
	水環境計測学実験及び実験法	3前	2						1	1								オムニバス
	情報処理実習	3前	1							2				1				オムニバス
	樹木識別実習	3通	1							2				1				オムニバス
	草本植物識別実習	3通	1						1	1								オムニバス
	鳥類識別実習	3通	1						1	1				1				オムニバス
	昆虫識別実習	3通	1						1					1			兼1	オムニバス
	水棲生物識別実習	3通	1							1								
	専門英語演習	3通	2						6	5				2				集中 オムニバス
	土壌環境計測学実験及び実験法	3後	2							2								オムニバス
	卒業研究	3後～4通	6						8	7				5				
	環境水理学	3前		2					1									
	農業環境修復学	3前		2						1								
	農業生態学	3前		2					1					1				オムニバス
	水利環境学	3前		2					1					1				オムニバス
	生態系生態学	3前		2														兼3
	ピオトープ論	3前		2					1	2								オムニバス
	夏季フィールド実習	3前		2					1	1								集中 オムニバス
	応用昆虫学	3前		2					1									
	インターンシップ実習	3通		1					1									集中
	水圏環境生態学	3後		2					1									
	構造力学	3後		2					1									
	土壌工学	3後		2						1								
	環境施設学	3後		2						1								
	森林管理学	3前		2						1								集中
	生理生態学	3後		2					1									兼1
	保全生態学	3後		2					1									オムニバス
	測量学	3後		2					1	1								オムニバス
	測量学実習	3後		1						1								
	環境生態科学キャリア演習	3後		1					1	2					1			オムニバス

測量学	4前	2					1									
GIS・GAD技術	4前	2					1							兼1	オムニバス	
植物病理学	4前	2						1						兼1	オムニバス	
測量学実習	4前	1					1									
樹木医学	4後	2					1									
植物保護学	4後	2						1								
アグリビジネス論	3後	2			○			1								
農業経済学・経営学入門	3後	2			○		1	1						兼6		
小計(38科目)	-	20	50	0	-		9	13	0	4	0			兼11	-	
合計(429科目)	-	96	723	0	-		16	18	0	8	0			兼263	-	
学位又は称号	学士(応用生物科学)		学位又は学科の分野				農学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
教養科目38単位以上(初年次セミナー2単位,人文科学科目から4単位,社会科学科目から4単位,自然科学科目から2単位,複合領域科目から4単位,外国語科目から英語4単位,第二外国語2単位,スポーツ・健康科学科目から2単位,自由選択科目2単位,教養基礎科目12単位以上(必修科目10単位を含む。)),専門基礎科目47単位以上(必修科目31単位を含む。),専門科目43単位以上(所属するコースの必修科目(応用植物科学コース15単位,応用動物科学コース14単位,環境生態科学コース20単位)を含む。)を修得し,128単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:30単位(1学期)) なお,専門基礎科目のうち,生物形態学,土壌環境学,地域資源学,水文学,生物系統分類学,細胞生物学,微生物学,農業・環境経済学から10単位を選択必修とする。							1学年の学期区分			2学期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要			
(社会システム経営学環)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	- - 初年次セミナー	<p>(概要)</p> <p>高校までの学習とは異なる大学での学習方法、学習への態度・姿勢、課外活動や学外も含めた過ごし方を学ぶ。具体的には、カリキュラムの軸であるPBL(Project based learning)の基本であるコミュニケーションやグループワーク、文章の書き方、メールやSNSの使い方等について学ぶとともに、企業・行政・NPO法人の経営者や起業家の講話と意見交換、および企業見学会やまち歩きを通して、マネジメントの実際に触れる。また、合宿に参加し、4年間一緒に学ぶ仲間とお互いを理解し、信頼関係を築く切っ掛けとする。他に、学習・生活支援、健康管理、災害対策、図書館の利用法等、大学生活で必要な事柄を学ぶ。</p> <p>(目標)</p> <p>大学での学習方法を理解し、学習に取り組む姿勢・態度をとることができる。 PBLの基本であコミュニケーションやグループワークの基礎を修得する。 文章の書き方、メールやSNSの使い方の基本を修得する。 企業・行政・NPO法人等の実際のマネジメントを理解する。 4年間一緒に学ぶ仲間とお互いを理解し、信頼関係を築く。 健康で健全な大学生活を送るための素養を身に付ける。</p>	
教養科目	人文科学科目 哲学分野 哲学入門(正義について哲学しよう)	<p>(概要)</p> <p>現実の社会の様々な問題を取りあげ、古代ギリシャの哲学者アリストテレス、17世紀イギリスの哲学者ジョン・ロック、18世紀ドイツの哲学者カント、そして20世紀アメリカの政治哲学者ロールズらの社会哲学、倫理学の思想を学びます。哲学とは、抽象的な思考のみの学問ではなくて、われわれの生活の至る所に關与していることを学び、現実の社会に存在する様々な問題と取りあげ、哲学の観点から学習していきます。最終的に、哲学とは人間の生き方の学問でもあることを学び、philosophyとは、知を愛するという営みであるということを理解し、自ら知を愛し、それを実際の自分の生き方や自分の価値観に生かせるようになることを目標とします。授業の進め方に関しては、出席者の理解度に合わせて丁寧に説明し、理解させることを第一の目標とします。</p> <p>(目標)</p> <p>この授業を通じて、(1)現代社会の諸問題を自分の思考力によって考えられるようになることを目標とします。また、(2)ヨーロッパ哲学の流れのなかで考え出されてきた、さまざまな考え方、つまり自由主義、平等主義、共同体主義、個人主義、功利主義などの考え方を学び、それらの立場の長所と欠点を理解いたします。そして、(3)ただ一つの視点で物事を捉えるのではなく、さまざまな視点で考えるとともに、自分の立場を絶対化するのではなく、ものごとについての考え方がいくつも存在することを理解し、実際にさまざまな考え方ができるようになることが目標です。</p>	
教養科目	人文科学科目 哲学分野 哲学入門(西洋哲学入門)	<p>(概要)</p> <p>私たちは自分自身や身の回りのことについても、この世界についても、いろいろなことを知っているように思われる。しかしそもそも知っているとはどのようなことだろうか。人は何を知ることができるのだろうか。また、もし何かを知ることができるのだとしたら、その知識はどのようにして得られるのだろうか。こうした問いに取り組む哲学の領域は、認識論や知識の哲学などと呼ばれる。西洋哲学、とりわけ近代の哲学において、認識論的な領域は中心的な位置を占めてきた。この講義では、主にデカルトからカントまでの西洋哲学を、認識論の問題を軸に概観していく。</p> <p>(目標)</p> <p>(1) 認識論とはどのような分野であり、どんな問題が中心的に問われてきたのかを理解する。 (2) 授業で取り上げる各哲学者が、認識論に関してどんな立場をとっていたのかを理解する。</p>	

教養科目	人文科学科目	哲学分野	人間・死生学（現代人間論）	<p>（概要） 「どうして自分は生まれてきたのだろうか」「死んだらどうなるのだろうか」 わたしたちは、このような問いに明確な「正解」はなく、考えても意味がないと思いがちです。しかし、わたしたちにとって大切な人を失うなど、人生の意味をつきつけられる場面は避けることができません。この授業では、人間の死生観にかかわる問題をつうじて、これらの問いを考えていきます。</p> <p>（目標） 社会の中で遭遇する死生観にかかわる問題についての知識を修得する。 自らが直面する死生観の問題に取り組み、対応能力を養うことを目指す。</p>
教養科目	人文科学科目	哲学分野	近現代思想（日本の近代思想）	<p>（概要） 本授業では、近現代の日本の思想を担当を決めて読み、近現代の日本において何が課題になっているかを討論を通じて把握する。そのうえで近現代の日本社会について考え、自らの意見を形成するてがかりを得る。意見ないし感想の発表を中心に授業運営を行う。</p> <p>（目標） 活字資料読解能力の獲得、資料をもとに議論する力の育成、自身の意見を形成する力の発展</p>
教養科目	人文科学科目	哲学分野	科学論（生命と癒しの科学論）	<p>（概要） 「生命と癒し」にかかわる人類の知恵や技を科学論の視点から人分科学的に読み解くまなざしを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学とは何か？科学と非科学の違いとは？</li> <li>・一般的な科学観の特性</li> <li>・天動説から地動説への転換と科学者の役割</li> <li>・「ガリレオ裁判」の真相</li> <li>・「裸のデータ」の認知とは</li> <li>・自然科学的「事実」とは</li> <li>・科学論の視点から一般的科学観を批判的に見る</li> <li>・医学の歴史におけるパラダイムシフト</li> <li>・何時、近代医学の治療力が他の治療法より勝るようになったか？</li> <li>・病気とは何か？</li> <li>・正常と異常とは</li> <li>・医学・医療とは何か？</li> <li>・実験医学のジレンマ</li> <li>・生命と癒やしの民族誌</li> <li>・病むことと癒やされること</li> </ul> <p>（目標） 生命と癒しにかかわる諸科学の歴史や流れの特徴について述べる事が出来る。今後、自らが関わる生命と癒しにかかわる諸科学について、科学論の視点から批判的に分析し考える事が出来る。</p>
教養科目	人文科学科目	哲学分野	科学論（科学論入門：近代的自然観と自然科学）	<p>（概要）科学論は、哲学の一分野であり、Philosophy of Science である。本講義は、科学に限らず、科学・技術を視野に収め、その現代における問題を考察していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・731部隊と科学・技術</li> <li>・原子爆弾の開発</li> <li>・原子爆弾製造計画マンハッタン計画から離脱した科学者</li> <li>・核兵器廃止をめざす科学者運動</li> <li>・核兵器禁止条約と科学・技術</li> <li>・公害をめぐる三つの「科学」論争</li> <li>・過去の公害はなぜいまだに解決しないのか</li> <li>・今日なお深刻な公害</li> <li>・公害輸出</li> <li>・平和資料館の見学</li> <li>・三つのオルターナティブ・テクノロジー 人間中心システム</li> </ul> <p>（目標）今日の科学・技術のありかたを批判的に検討できる。</p>

教養科目	人文科学科目	哲学分野	東洋・日本思想（インド思想の特質）	<p>（概要）古代インドでは、バラモン思想、仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー哲学などの多数の思想・哲学・宗教が出現した。これらの影響力は、インド国内にとどまることなく国外文化にも波及しており、その点で何らかの普遍性を有する知と見なし得よう。</p> <p>本講義では、インド思想を歴史的に概観しつつ、古代インド人がいかなる哲学的問題に思索を巡らせ、またどのような世界観を信仰に基づいて形成したかをみていく。その際、「現象世界」理解を共通テーマとして哲学諸派・宗教の理論体系を検討し、それらの特徴を浮き上がらせたい。</p> <p>なお、古代インドの理解に際しては、思想・哲学・宗教という三つの観点をそれぞれ独立したものとして扱うことはしばし困難を伴う。従って、本講義では敢えて分けずに取り組みたい。</p> <p>（目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インド哲学史の理解</li> <li>2. なじみの薄いインド的思考に触れ、新たな思考枠を獲得する</li> <li>3. インド文化の日本文化への影響を知る。</li> </ol>
教養科目	人文科学科目	哲学分野	東洋・日本思想（中国の古典思想）	<p>（概要）二千年以上の歴史を有する中国の古典思想について概述する。そのうち、特に春秋・戦国時代の諸子百家の主要な思想家について、おおむね成立時代順に概説する。</p> <p>この時代の思想は、後漢以後の仏教が伝来し道教が発生して、三教交渉の様相を呈するようになる後の中国思想とは異なり、純粹の中国固有の思想であり、いわば中国思想の原点と言うべき思想である。この時代に成立した様々な思想について解説し、中国古典思想の多様性について説明する。先人の思索内容を知る事によって、個人の主体性の確立に資する事を期待する。</p> <p>（目標）個々の思想家の主張内容・論理を理解することができる。</p>
教養科目	人文科学科目	哲学分野	倫理学（倫理学とは何か）	<p>（概要）現代の社会において、セクハラやパワハラなどの「倫理的問題」はわたしたちの日常生活に密接にかかわり、個人の「倫理観」が問われる場面は少なくありません。しかし、そもそも「倫理」とはいったいどのようなものなのでしょうか？ また、どのような行為が「倫理的に正しい」のでしょうか？</p> <p>このような問いに答えるために、本講義では、まずソクラテスやニーチェなどの哲学者たちの倫理についての考え方を確認し、それから現代の倫理的問題を考えるうえで避けて通れない議論を検討していきます。</p> <p>（目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理学説についての基本的知識を身につける。</li> <li>・現代社会の倫理的問題について自身の見解を述べる事ができるようになる。</li> </ul>
教養科目	人文科学科目	哲学分野	宗教学（比較宗教学概論）	<p>（概要）昨今、宗教と関連したさまざまな出来事が国際社会で多発している。その点において宗教は現代の国際社会を理解するための不可欠なキーワードといえよう。</p> <p>授業では、世界の三大宗教である仏教、キリスト教、イスラム教をテーマ別に比較考察する。テーマには、教祖、宗派、死生観などを設定する。また、必要に応じてユダヤ教やヒンドゥー教にも言及して三大宗教の理解を深める。</p> <p>主要な宗教に対する基礎知識が単に古代に関する知識であるだけでなく、現代を読み解く鍵となることを関連する新聞記事などを適宜配布し確認する。</p> <p>また、宗教に対する各自の先入観を大切にしつつ、授業を先入観の誤解を解く場、あるいは根拠付ける場としてもらいたい。</p> <p>（目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 仏教、キリスト教、イスラム教の基本的知識を修得する。</li> <li>2. 三大宗教の共通点と相違点が説明できるようになる。</li> <li>3. 自身の宗教観を構築できるようになる。</li> </ol>

教養科目	人文学科 科目	哲学 分野	宗教学（社会問題と宗教）	<p>（概要） 生活の様々な場面に宗教的なものが登場していたとしても、宗教が自らの生活と意識に深くかかわっていると考える受講生は少ないのではないだろうか。その一方で、アイデンティティーの確立を課題とする青年期に宗教が深くかかわり、我が国の遠くない過去において、若者たちが未曾有の大事件を引き起こした事実があったことを忘れるわけにはいかないだろう。現代社会で生じる様々な問題を宗教という視角から考察し、青年期を生きる若者の生活と意識に宗教がどのような影響を及ぼしているかを考える、そのことに気づくことができる授業として位置づけたい。</p> <p>（目的） 宗教という視角から現代の社会的問題と自分自身の生活とを関連づけて理解できることを目標とする。</p>	
教養科目	人文学科 科目	歴史学 分野	歴史学入門（歴史学とは何か）	<p>（概要） 「歴史学とは何か」を講じるこの授業では、まず最初に、歴史学という学問がどのような作法・ルールをとらせた知的営みであるのかを解説します。つぎに、歴史学という学問が、長い時間の流れのなかでどのような歴史認識や世界史像（あるいは人類史像）をとらせないながら形成されてきたのかを検討していきます。具体的には、歴史学の形成において先導役をはたしたとされる西洋世界の、古代～現代の代表的な歴史家や思想家たちの作品などを素材にしながら、各時代の歴史認識・世界史像の基本的特徴を説明していきます。また、講義全体を通じて、グローバル化や地球環境問題など、現在私たちが直面しているテーマについて、過去・現在・未来という歴史的な時間認識とグローバルな空間認識のなかで、柔軟に思考するための基礎を築いていきます。</p> <p>（目標） (1) 歴史家は史料を通じて歴史像を構築する、という歴史学の基本的仕組みを説明できる。 (2) 古代・中世の西洋の歴史家・思想家たちがうみだした歴史認識・世界史像の基本的な特徴を説明できる。 (3) 近代歴史学はどのように確立されたのか、またどのような事情を背景にして現代歴史学への転換が生じてくるのか説明できる。</p>	
教養科目	人文学科 科目	歴史学 分野	西洋・中東史（西洋史（イギリス近代史））	<p>（概要） ヨーロッパの端に位置する島国イギリスは、近世以降、世界史の展開にきわめて重要な役割を果たしてきました。なかでも、他国に先駆けて市民革命、産業革命を達成し、19世紀にはヘゲモニー国家として君臨するに至ったこと、そしてそうした「先進性」ゆえに、かつて日本を含めた世界各国から見習うべき近代化のモデルとみなされていたことはよく知られているでしょう。</p> <p>では、このように近代世界の形成を牽引したイギリスとは実際にいかなる国だったのでしょうか。この授業では、近世・近代を中心とするイギリスの歴史を、政治・経済・宗教・社会・文化などさまざまな観点から学んでいきます。一般的なイメージを裏切るような歴史的事実を交えながら、みなさんのイギリスに対する理解を深めていきたいと思えます。授業は講義形式で行いますが、映画や絵画や写真など視聴覚資料を利用しながら、できる限り具体的にわかりやすく進めていくつもりです。</p> <p>（目標） 1. イギリスの歴史・文化を多面的に理解する。 2. 現代世界がいかに形成されてきたのかについて考える力を身につける。 3. イギリスの歴史・文化について学ぶことで、日本の歴史・文化を客観的に捉える視点を獲得する。</p>	

教養科目	人文科学科目	歴史学分野	西洋・中東史（西欧諸国形成史）	<p>（概要） この善し悪しはさておき、世界の歴史のなかで、資本主義、市民社会や国際関係の基本ルールといった現代世界の枠組みを形作るうえで大きな役割をはたしたのは、近世以降の西欧諸国（イギリス、フランス、ドイツなど）でした。「西欧諸国形成史」を講じるこの授業では、そうした西欧諸国が長い歴史を通じてどのように形成されてきたのか、またアジア、アフリカや南北アメリカなど世界の他の諸地域の人々とどのような関わりをもってきたのかについての基本的知識を身につけていきます。より具体的にいえば、西欧諸国形成の歴史を古代・中世・近世・近現代という時代にわけたうえで、それぞれの時代の大きなトレンド（あるいはモチーフ）とは何であったのかを、各時代の主要なできごとやトピックを取り上げながら説明していきます。</p> <p>（目標） (1) 古代地中海世界でギリシア・ローマの文明がどのように形成されたのか、またそれはその後の西ヨーロッパ世界にとってどのような歴史的意義をもったのかを説明できる。 (2) 中世西ヨーロッパ世界がどのように形成されたのか、それはどのような特徴をもつ世界だったのかを説明できる。 (3) 近世～近現代の西欧諸国が選び取っていった国や社会の仕組みの特徴を説明できる。</p>
教養科目	人文科学科目	歴史学分野	中国・朝鮮半島史（朝鮮・韓国の文化と日本との交流史）	<p>（概要） 二千年以上中国や朝鮮半島より先進文化・文明を輸入してきた日本は明治維新を境に近代国民国家へのかじ取りを果敢に進んできた。それは西洋・ヨーロッパの舶来品を日本化するプロセスだったともいえる。現在の日本は世界でもトップクラスの経済大国となり、さまざまな役割を果たしている。ところが、日本は東アジア、中でも中国や韓国など近隣諸国とは過去の歴史をめぐってトラブルや葛藤が絶えない。本講義では再び朝鮮半島と日本との交流史に温かいまなざしをあててみたい。複雑で迷路のような現代社会と文化には誰でも惑わされやすいが、日本の若い世代と一緒に迷いながらも、日本と東アジア、とくに日韓関係の中でも交流史に注目する。近代の国民国家のもつ矛盾と限界をめぐる最新の理論も踏まえ、日本と朝鮮半島との交流史を深く理解することが、未来への展望を立てることにつながるようにしたい。</p> <p>（目標） 日韓交流史の講義を通して、国民国家の持つ虚構性と近代化の矛盾を紐解いていく。と同時に、東アジアにおける平和と安定に日韓相互の理解と協調がいかに重要であるのかを具体的に認識することが目標である。もう一つの目標は、日韓関係の歴史認識の違いと狭小なエスニック・ナショナリズムに陥ることなく、より客観的な視点で東アジアを展望することができることと言えよう。</p>
教養科目	人文科学科目	歴史学分野	中国・朝鮮半島史（中国史）	<p>（概要） 日本は古来、中国大陸からの影響を受けてきた。学び取った中には当時最先端であった、今でいうところの科学技術も含まれている。前近代の中国ではどのような科学観を持ってきたのか、どのような技術に支えられてきたのか、を確認する。中国史の基本的な概要を押さえながら、内在的な発展と外部からの刺激の両輪で発達していた中国の科学について、主に建築と天文学の側面から解説する。</p> <p>（目標） 中国における科学技術の変遷を知る 文章で書かれた理想と実際の技術で実現されたものとの関連を知る</p>
教養科目	人文科学科目	歴史学分野	世界近現代史（現代国際関係史）	<p>（概要） とくに十九世紀後半から二十世紀前半のアジア太平洋地域に重点をおいて、現代における国際関係の歴史的展開を考察します。二十世紀は「アメリカの世紀」とも呼ばれたように、米国の影響力が世界大に拡大していく世紀でもありました。そのため、アジア太平洋地域の歴史を振り返る際にも、どのようにして米国がそれぞれの地域に進出し、どのような関係を築いていったかという過程を軸に据えて検討したい。</p> <p>（目標） 現代の国際秩序の生成と展開に関する体系的理解を得ることによって、現在も存在する国際問題に対する歴史的な理解を共に深めていきたいと思えます。</p>

<p>教養科目</p>	<p>人文科学科目</p>	<p>歴史学分野</p>	<p>世界近現代史（アメリカ概論）</p>	<p>（概要）アメリカ合衆国は、良くも悪くも、近現代史で中心的役割を果たしてきました。また近年の日本は、アメリカの政治・経済・文化から多大な影響を受けています。あまりに身近な国家なため、アメリカのことならだいたい知っていると思いがちですが、私たちは本当にアメリカについて理解しているのでしょうか？そこでもう少しアメリカ合衆国についての理解を深めようというのが大きなねらいです。</p> <p>そのためにこの授業では、いくつかのテーマに沿って概説的にアメリカ社会を学んでいきます。例えば「なぜ銃をなくせないのか？」という観点からアメリカ社会を眺めてみると、風土や国の成り立ちが、人の考え方にも影響を与えてきたことが分かってきます。アメリカ人はどのように物事を考えるのか、またそれはなぜなのか、などを知ったり考えたりすることは、より深くアメリカ（人）の行動を理解できるようになる助けになると考えます。</p> <p>概論ですので、あまり突っ込んだ話はしませんが、これを発端に、多角的に物事を見据えられるように、知識と考察力を養っていただければとも思っています。</p> <p>（目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知識をつける。 テーマごとの概説を通して、アメリカ合衆国についての理解を深める。</li> <li>2. 考察力をつける。 ・授業で得た知識などを考慮に入れながら、各個人が合衆国の問題について自分なりの意見を持てるようになる。 ・多角的・客観的に物事を捉えられるようになる。（物事を様々な側面から見られるようになる。）</li> <li>3. 論理性を養う。 多角的・客観的な物の考え方を訓練し、それを論理的に表現する練習の場として、レポートを書く。</li> </ol>	
<p>教養科目</p>	<p>人文科学科目</p>	<p>歴史学分野</p>	<p>世界近現代史（ドイツ文化史）</p>	<p>（概要）この授業では、ドイツの文化がどのような歴史的変化をたどっていったのかを学びます。とくに、文化の中でもとくに政治に焦点を当て、それが生み出され、発展し、場合によっては廃れ、再生していくとき、そこに人々の考えや生き方がどのように反映されたのか、逆に政治が人々の考えや生き方にどのような影響を与えたのかという思想史のアプローチを取りながら、ドイツ政治の歴史を探っていきます。</p> <p>（目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ政治の歴史的な形成過程や変遷を学ぶことで、ドイツについての知識を身につけます。</li> <li>・政治と思想の結びつき方についての理解を深めます。</li> </ul>	
<p>教養科目</p>	<p>人文科学科目</p>	<p>歴史学分野</p>	<p>日本史（日本の歴史）</p>	<p>（概要）この講義では古代から現代までを「平和」という統一テーマでみていきます。それぞれの時代にはその時代特有の制度、習慣、価値観があります。各時代を単純に比較することはできません。「平和」に対する意識も、現在と異なる面が多くあったと考えられます。では、先人たちが希求した「平和」を学ぶ意義はどこにあるのでしょうか。そのことを考えるには、各時代の特徴をできるだけ多く身につけ、過去と現在の「平和」意識の違いを検討することが重要です。今後、皆さんが歩んでいかれる際の教訓をみつけることができればと思っています。</p> <p>（目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的な出来事の概要を理解することができる。</li> <li>・歴史的な出来事を図や文でまとめることができる。</li> <li>・1つ1つの歴史的な出来事を、相互に関連づけて考えることができる。</li> <li>・主体的に疑問や関心を持ち、表現することができる。</li> <li>・過去の出来事から学んだことを、現代の出来事に結びつけて考えることができる。</li> </ul>	

教養科目	人文科学科目	歴史学分野	日本近世史（近世文化史）	<p>（概要） 歴史を学ぶことは、たんに過去の事実を知識として修得することではない。過去と現在との間には密接な関係が、ときには緊張感さえたよう関係が存在している。現代社会をより自覚的に生きるために、歴史を学ぶことが必要なのではないだろうか。 この授業では、近世都市・江戸に展開した町人文化、とくに芸能をおもなテーマとして取り上げる。大道芸・見世物や寄席芸能、茶道、歌舞伎などの芸能について、たんにその歴史的な概略を述べるのではなく、それらの芸能が成立する基盤となった町人社会との関連を重視しながら説明する。それにより、社会における文化の位置づけについて考えることをねらいとしている。</p> <p>（目標） (1)近世都市について認識を深める。 (2)歴史学的方法を理解する。</p>
教養科目	人文科学科目	歴史学分野	日本近・現代史（近現代日本における女性）	<p>（概要） 女性にとって、近現代はどのような時代なのか。近現代の歴史を、女性の立場から捉え直していきます。近代になり、社会のあり方は大きく変わりました。しかし、男性が社会を支配し、それを女性が従属的に支える仕組みはそれまでと変わらず、それは現代も変わりません。また、日本は先進国といわれながら、女性の地位の低さは際立っています。それらは一体なぜなのでしょう。 授業では政治や権力者の視点からではなく、様々な階層の女性が置かれた状況を取り上げ、そこから女性にとっての日本の近現代を明らかにしていきます。女性たちは何を思い、主張し、行動したのか。時代のなかを懸命に、そして、たくましく駆け抜けた、生身の女性の生き方に触れていきたいと思えます。 それらを通して、長期的には物の生産と生命再生産のあり方が女性の生き方を規定したこと、近現代では日本がおかれた特有の状況が、日本独特の女性と男性の生き方を作り出したことをみていきます。なお、毎回資料（ビデオ鑑賞も）を配付し、それを参考にしながらテーマを論じていきます。</p> <p>（目標） 近現代の特徴とジェンダーを理解する。日本の女性史を理解する。女性をめぐる近代と現代の共通点と相違点を理解し、現代の課題を明確にする。近現代の女性の生き様から、今日を生きる姿勢を学ぶ。</p>
教養科目	人文科学科目	歴史学分野	日本近・現代史（近現代日本の政治と国家主義運動）	<p>（概要） 本講義は、幕末から戦後までの近現代日本の歴史を学ぶ。幕末における天皇権威の上昇、明治新政府の成立と日清・日露戦争、大正デモクラシー期の政治と社会、昭和初期のテロ事件と満洲事変、日中戦争～アジア・太平洋戦争、戦後の象徴天皇制といった、重要な事項の背景・展開・意義を歴史学の成果に基づきながら解説する。さらに、政治史の概説に加えて、近年の研究を一部挙げながら、歴史学がイメージにとらわれず疑問を持ち、自ら考える学問であることを紹介する。</p> <p>（目標） 1.教養としての日本近現代史の知識を得る。 2.歴史学の知見にもとづき自分なりの疑問点を持つ。 3.歴史学の知見にもとづき論述する力を身につける。</p>
教養科目	人文科学科目	文学分野	文学（文学とは何か）	<p>（概要） 「時代を映す鏡」として、まずは多くの文学作品に関する知識を得る。一方で、ひとつの作品を深く掘り下げて読むことで、自分の読み方を会得して、今後の人生においても長く文学に親しんでゆける素地をつくる。本講座では、その基礎として、あらずじは知っている作品、あるいは映画やアニメで内容は知っているという作品の原作を詳しく読み、映像作品と比較検討してみる。とりわけ童話や子ども向けの文学と捉えられている文学作品に対する先入観を瓦解させ、大人としての新しい読み方を模索したい。また、精読から得られる魅力を味わうために、原典講読のおもしろさも体験する。</p> <p>（目標） 幾つかの文学作品を読了し、高校までの「国語」の読解とは全く異質の味わい方を獲得し、その作品に対する感触を自分の言葉で表現できるようにすること。</p>

教養科目	人文科学科目	文学分野	外国文学（朝鮮・韓国の神話・文学・伝統芸能）	<p>（概要） 朝鮮半島（朝鮮・韓国）の神話と伝承文化（文学）そして伝統芸能などを比較文化論の立場で読み解いていく。そのためには 朝鮮・韓国のシャーマニズム（巫俗信仰）を熟知する必要がある。朝鮮半島の巫俗信仰はこれら神話・文学・伝統芸能と密接に関連しており、それらの原形ともいえる。朝鮮半島の神話・文学・伝統芸能の特徴をより楽しく理解するためにも 日韓の比較文化論の視点（方法）は極めて重要であり、多岐にわたるテーマ（文化）の比較を試みる。朝鮮半島の儒教と日本の仏教そして武士道との比較も欠かせない。授業をより円滑に進め、講義内容の理解度を高めるためにも ビジュアル資料を援用する。そしてなによりも本講義では積極的な姿勢で授業に臨む皆さんの姿勢を歓迎する。</p> <p>（目標） 朝鮮・韓国の神話とシャーマニズムが現代の韓国社会と文化にいかに関連しており、影響を与えているか、その実態と形成過程を熟知できること。仮面劇のような朝鮮・韓国の伝統芸能が民衆文化運動へと変容し、今の韓国の政治的文化的のみならず韓国の独特なナショナリズムの高揚にいかに関与されてきたか、その実態と貢献についても直視できるようになること、そして講義では伝統的な文学（神話・シャーマニズム・仮面劇など）の従来の説、様々な先行研究の分析と斬新な仮説を持って現代の韓国社会と文化の動態について多角的に検討できるようになることが学習到達目標である。最終的には立派な日本人としての自画像の再認識につながるであろう。</p>
教養科目	人文科学科目	文学分野	外国文学（英米文学を読む）	<p>（概要） この授業は、英語で書かれた文学作品を楽しんで読めるようになることを目標とする。これまで洋書を読んだことがなくても、翻訳映画作品や邦訳を入り口としながら、原作を英語で楽しむことができるようにサポートする。また、イギリスとアメリカを中心に、いろいろな年代の多種多様な物語に触れることで、それらが成立した時代の雰囲気を学んだり、文章と映像の表現方法の違いや特性について考えたりする機会を提供する。授業は、英語で書かれた文学作品の部分的な講読とグループ・ディスカッションを含む。</p> <p>（目標） （１）邦訳や翻訳映画作品を入り口として、英米の文学作品を英語で楽しむことができるようになる。 （２）さまざまな物語にふれることによって、異なる時代や社会に生きる人間についての知識や考察の幅を広げる。</p>
教養科目	人文科学科目	文学分野	外国文学（三国志時代の文学）	<p>（概要） 「三国志」という時代は小説をはじめとして、様々な分野で現在でも親しまれているが、中国文学史に於いてもこの時期の文学は「建安の風骨」と称され、中国古典詩の創生期にあたる極めて重要な時代であった。本講義の前半では、三国志の歴史の流れを追いながら、曹操の人生とその詩を取り上げる。後半は、曹操のもとで活躍した詩人たちや諸葛孔明「出師の表」などを紹介していき、日本文学には見られない中国古典文学独特の魅力を解説する。</p> <p>（目標） 1. 漢詩・漢文を読むための基本的な知識を身につける 2. 三国志の歴史や文化に対する理解を深める 3. 中国古典詩の読解を通じて、文学作品を読み解く観点を学ぶ</p>
教養科目	人文科学科目	文学分野	外国文学（西洋文学論）	<p>（概要） 活字や映像で与えられる情報の真偽を見分けるリテラシーを必要としなかった時代は終わり、いまや受容している情報の意味内容を掴むだけでなく、その情報が自分に与えられていること自体の意味を把握しなければならない。芸術作品は、たんに作家の内面世界をリアルに伝えているだけでなく、世界の謎を映し出している。そのことを作品から考察できる力をつける。</p> <p>（目標） 精読から得られる魅力を味わうために、原作を精読することのおもしろさを体験し、今後の独学を活かせるよう応用力をつける。</p>

<p>教養科目</p>	<p>人文科学科目</p>	<p>文学分野</p>	<p>外国文学（ロシア革命と文学）</p>	<p>（概要） この授業は、次の3点から構成されます。 まずは帝政ロシアから革命を経て、ソヴィエト連邦に移行していく歴史を通史として学び、その上で 革命の理念と目的を、当時の社会状況に照らして紐解いていきます。それを踏まえて、当時の作家（詩人）が果たした役割と、テキスト（和訳文）を読み解いていきます。文学を通じて、隣国ロシアの歴史と文化を学ぶことが、本授業のねらいです。 2017年はロシア革命100周年にあたり、ロシアでもニュースや出版物を通じて、ロシア革命を振り返る機会が多く持たれました。日本ではあまり注目されませんでした。この世界史的な出来事について文学を通じて振り返り、ソ連やロシアの文化・社会について、深い理解と自ら考える力を身に付けていくことを目標にしています。</p> <p>（目標） 時代背景を念頭にロシア文学に触れることで、テキストに関する、より内在的な理解ができるようにする。 ロシア文学を通じてその文化に触れ、隣国への興味と関心を養う。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>人文科学科目</p>	<p>文学分野</p>	<p>日本文学（百人一首の世界）</p>	<p>（概要） 現代において百人一首は「かるた」のイメージが強いかと思います。『ちはやふる』の漫画や映画などで、1音・2音を耳にただけで礼をとる競技かるたの世界を垣間見た人も多いでしょう。たしかに百人一首はかるた遊びとしても長いあいだ親しまれてきましたが、本来は「百人」の和歌を「一首」ずつ選び集めたものです。百首の歌がそれぞれに豊かな世界を持っているのです。この授業では、ひとつひとつの和歌について、まずは昔の文字（くずし字）で書かれたものを読んだ上で、誰が、どのような背景のもとで詠んだのか、そこに用いられた技巧にも目を向けながら、丁寧に見ていきます。具体的な和歌の読解を通して上代文学・中古文学とその背景となる文化や歴史についての理解を深めることをねらいとしています。</p> <p>（目標） 1．百人一首および和歌文学についての基本的な知識を身につける 2．上代・中古の歴史や文化に対する理解を深める 3．くずし字読解の基礎を身につける</p>	
<p>教養科目</p>	<p>人文科学科目</p>	<p>文学分野</p>	<p>日本文学（近世文学の世界）</p>	<p>（概要） 近世文学とは、一般に江戸時代の文学を指します。江戸時代は約250年続きますが、その間にはさまざまな文学作品が登場します。それらが現在の皆さんの毎日に直接影響していることはまずないだろうと思いますが、知らず知らずのうちに生活や心にしみこんでいることがあります。この授業では、それを表面に浮き上がらせて現在と過去の間を学んでもらいたいと思っています。</p> <p>授業では、必要に応じて作品の読解もしますが、個別の作品を深く読んで分析することよりも、大局から近世文学を捉え、そのバラエティーの豊かさを楽しむことを主眼としています。そして、文学の背景にある当時の社会を、現在と断絶したものでなく、現在とつながるものとして意識する機会を提供したいと思っています。取り上げる作品は、短いものとして俳句（俳諧）、長いものとして小説（戯作）を予定しています。</p> <p>（目標） 1．近世文学（特に俳句／俳諧と小説）について基本的な知識を得る。 2．文学の背景にある当時の社会（出版環境、恋愛事情等）について知識を得る。 3．近世文学を知ることを通して、現在と過去のつながりを理解する。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>人文科学科目</p>	<p>言語分野</p>	<p>言語学入門（日本語学入門）</p>	<p>（概要） この授業は、日本語について、日本語母語話者が普段あまり意識していない「日本語の特徴」を考えていきます。音声や語の成り立ちなどをテーマに、基礎的知識や理論を学び、グループ活動を中心に議論や分析を行います。留学生の母語である様々な言語との比較も行い、他言語との共通点・相違点を中心に日本語の特徴を考えていきます。</p> <p>（目標） 1. 他言語との比較を通して、日本語とはどのような言語なのかを分析する力を身につける 2. 留学生とのグループ活動を通して、様々な背景を考慮したコミュニケーション技術を養う 3. 発表の場で、自らの意見を論理的にわかりやすく発信できる力を身につける</p>	

教養科目	人文科学科目	言語分野	言語学入門（岐阜県の方言，日本語，世界の言語）	<p>（概要）</p> <p>岐阜県の方言について，文法，語彙，音声・音韻，言語行動の観点から学びます。方言は，地域の個性であり財産です。方言の価値は，国語教育で誤って低く教えられてきました。しかし，いまや，医療や介護の現場のみならず，観光や地域興しても方言の価値は認められる時代となりました。最新の学習指導要領では，方言の伝承も学習すべきこととされています。</p> <p>この授業では，方言の言語的特質を学ぶことで，岐阜県を見直していきます。授業方法について，本授業では，岐阜県方言の会話を修得し，使えるようになることを目指します。授業に積極的に関わっていく学生にきてもらいたいと思います。</p> <p>（目標）</p> <p>岐阜県方言の理解。特に，語彙や文法に関する基礎知識を持つことを目標とします。次に，岐阜県方言での会話力。流暢さはもとめませんが，適切なコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。最後に，方言に関する調査・分析能力をつけます。授業内外での実践を求めます。</p>	
教養科目	人文科学科目	言語分野	言語学（北欧のことばと地域の方言）	<p>（概要）</p> <p>この講義では，言語一般に関する知識を修得するとともに，外国語である北欧諸語を初歩的に学び，外国語と日本語，地域の方言（主に岐阜），自身の方言を客観的な視点で観察し，その違いや特徴を発見，理解できることを目指す。そして，外国語を知ることが，自身の母語や方言の客観的な理解につながることを学ぶ。</p> <p>（目標）</p> <p>言語一般に関する基本的な知識を修得する。          北欧諸語や北欧諸国について初歩的な知識を修得する。          日本語やその方言に関する基本的な知識を修得する。          日本語や地域の方言を客観的な視点で観察し，言語または方言の違いや特徴を発見，理解することができる。</p>	
教養科目	人文科学科目	言語分野	言語学（言語地理学）	<p>（概要）</p> <p>言語地理学は方言学の一分野・一手法です。方言語形の分布のありようから，当該地域における言語史（の一部）を再構成することを目的とします。講義参加者は，各自，『山梨県言語地図集』より1項目を選び，どのように各語形が変遷したかを報告してもらいます（毎時3人程度）。この報告をもとに，講義参加者間でディスカッションをおこない，考察を深めていきます。</p> <p>（目標）</p> <p>方言分布による言語史再構の手法を修得する。          言葉と人間・文化の関係についての諸相を知る。          言葉への関心と見識を涵養する。</p>	
教養科目	人文科学科目	言語分野	言語学（フランス語論）	<p>（概要）</p> <p>まず1つは，グループ学習：各小グループにテーマを1つずつこちらから提示する。それをもとに，各グループは授業外で学習・まとめをし最後に発表をする（テーマを提示してからのちは，毎週90分のうち始めの15分程度で1グループが発表をしていく）次に教師側から発表したグループと同じテーマについて，学生から出てこなかった内容を伝える授業を行っていく。テーマ以外にも，簡単な会話をしたり，映画を見て文化に触れたりする。          また，フランスの最新の情報を伝え皆で考える。</p> <p>（目標）</p> <p>グループで協力して，フランスやフランス語圏の生活・文化に触れ理解できる。</p>	
教養科目	人文科学科目	言語分野	言語学（アイスランドのことばと文化）	<p>（概要）</p> <p>この講義では，北欧の国の1つであるアイスランドの言語と歴史・文化・文学を学ぶことで，普段あまり触れることのない外国の言語・文化に対する理解を深める。あわせて，アイスランド語の特徴を日本語や英語と比較しながら学ぶことで，言語の多様性について理解する。</p> <p>（目標）</p> <p>アイスランドの歴史，文化，文学について知識を修得する。          アイスランド語の発音，文字，簡単な挨拶表現等を修得する。          アイスランド語の特徴を学び，言語の多様性を理解する。</p>	

<p>教養科目</p>	<p>人文科学科目</p>	<p>言語分野</p>	<p>言語学（児童の文章表現）</p>	<p>（概要）  「文章表現」というと文章の書き方や技法、あるいは書き手の感覚や能力、技能といったものをしばしば思い浮かべます。しかし、私たちが日常的に行っている「書く」ことは、個人の能力や言語の技術にとどまらず歴史、社会、文化、制度などによって形作られてきたものでもあります。  本授業では、明治以降に書かれた児童の文章を具体的に取り上げながら、子どもを取り巻く社会の変化を読み解いていくとともに、それぞれの時代において、世の中が子供たちの表現に何を見出し、何を求めてきたのか考察していきます。学校で書かれた作文だけではなく雑誌や映画化された作文なども取り上げ、文章を書くことと社会の移り変わりの関係をふまえながら、子どもにとって「書く」こととは何なのかを考えていきます。</p> <p>（目標）  各時代の児童の文章の特徴を具体的な事例に即して理解するとともに、その特徴と子どもを取り巻く社会との関係を論じることができる。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>人文科学科目</p>	<p>言語分野</p>	<p>言語学（映画で見る英語の諸言語現象と欧米文化）</p>	<p>（概要）  映画（ドラマ、アニメも含む）は様々な点で良い学びの教材となる。まず、各作品の内容と公開年を照らし合わせれば、その時代の世界情勢や社会的背景などに関係したメッセージを読み解けることがある。また、英語の映画の場合は、学校の教科書や学習参考書には登場しない特殊な英語表現や、新語・造語など各時代特有の表現を多数観察することができる。さらに海外の映画からは、その国の文化の一端を知ることできる。  本授業では主に最近のアメリカ映画を取り上げ、教科書の英文読解を通して各ヒット作と当時の社会との関係を学び、映画スクリプトを通して多角的に英語（や日本語）を観察することで「ことば」に対する知見を広め、英語圏の文化に対する理解を深めることを目指す。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>人文科学科目</p>	<p>言語分野</p>	<p>日本語表現論（劇作における会話表現）</p>	<p>（概要）  人と人のコミュニケーションの基本である「会話」や「対話」の構造を、最先端の現代口語演劇の会話研究を切り口に、実践的、模擬経験的に探求してもらいます。日々の日常会話と会話劇の類似点や差異を見つめながら、実際に自己表現を試みてもらいます。膨張するネット社会にあって再構築が求められる「生きたコミュニケーション能力」を、演劇の基本要素である「自信を客観視する」体験を通じ、他者へのアプローチ、その方法などの幅を広げましょう。具体的にはミニゲームや短いエチュード芝居を経験してもらったり、実際に短い台本を書いてもらったりします。演劇というスタイルを武器に、いろんな角度から、コミュニケーション能力を向上を目指しましょう。</p> <p>（目標）  表現にまつわる自分のクセや個性を認識する。他者への影響力のコントロールを確認する。日常生活、社会生活の場で生きる「自己表現」の引き出しを増やす。自分を客観視することの豊かさや楽しさを味わう。書き手側の疑似体験により「話し言葉」への意識を高める。</p>	

<p>教養科目</p>	<p>人文科学科目</p>	<p>言語分野</p>	<p>日本語表現論（日本語口頭表現）</p>	<p>（概要） 日本に定住する外国人が増加している今日、隣近所、会社、学校、病院など、様々な場所で外国人とのコミュニケーションを円滑に進めることが求められている。こうしたコミュニケーションでは、単なる日本語でのやり取りに留まらず、同じ母語や社会背景を持つ人に対してのものは異なる対応が必要になり、実際に外国人と接して初めて分かる事柄が多い。 こうしたコミュニケーションにおける最重要項目は必ずしも「日本語を正しく流暢に話すこと」ではない。聞き手の社会的・文化的背景を踏まえた適切な表現をし、話し手の意図を汲んだ適切な反応をすることも重要である。 また、日本語母語話者は日常的に自然なコミュニケーションを行なっているが、何が「適切」なのか、何が「自然」なのかを完全に意識化しているわけではない。 この授業は、外国人日本語学習者との口頭表現活動を通じ、日本語による口頭コミュニケーションについて考えるものである。</p> <p>（目標） この授業では、外国人日本語学習者との表現活動を通じ、何が「適切」な表現・反応であるかを考えていく。具体的には、日本語学習者と日本語によって意見交換をすること、演劇的アプローチを取り入れた演習や即興、口頭発表などを行なうことを通じ、学習者とともに考え、試行する中で、日本語コミュニケーションを意識化していく。 またこの授業では、その日の活動を振り返る短い課題レポートを課す。授業の中で感じたことを整理し文章化することで、活動の意味を客観的に捉えることができると考える。 キーワード：身体性、パラ言語、アイコンタクト、対人距離、会話の自然性、場と関係性、等</p>	
<p>教養科目</p>	<p>人文科学科目</p>	<p>言語分野</p>	<p>日本語表現論（実用的な日本語表現を学ぶ）</p>	<p>（概要） 受験勉強で学んだ「国語」ではなく、日常使っている「日本語」について、会話や実用文の作成から、論文執筆の基本的知識まで、適切かつ効果的に表現できる能力を育成することをねらいとしています。自らの言語感覚を磨き、進んで表現活動に取り組むことで、よりよいコミュニケーション力を身に付け、日本語力の向上や良好な人間関係を柱とする社会生活の充実を図れる態度を養います。</p> <p>（目標） 1．基本的な文章が正しく作成できる日本語表現力を身に付ける。 2．場面や状況に応じて、適切なコミュニケーションをとれる能力を身に付ける。 3．良好な人間関係を基盤とする社会生活ができるための実践力を身に付ける。 4．レポートや論文作成に必要な基本的な知識を身に付ける。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>人文科学科目</p>	<p>心理・行動学分野</p>	<p>心理学入門（心理学概論）</p>	<p>（概要）心理学とは何かについて、基礎となる知識や概念から専門的な知見までを学ぶ。心理学のさまざまな領域について基本的な知識や考え方、対象とする問題を学習する。つまり、心の仕組みと働き、心のダイナミズム、社会のなかの心、心の適応と臨床に至るまでの領域を体系的に学習することになる。</p> <p>（目標）心理学における基礎知識・概念を説明できるようになること。基本的な専門用語を再生できるようになること。心理学的知見・理論に基づいて、心理学に関わる現象を説明できるようになること。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>人文科学科目</p>	<p>心理・行動学分野</p>	<p>心理学（幼児発達支援入門）</p>	<p>（概要） わが国においては少子化が進む中、同胞の数も少なくなったこともあり、幼児と接する機会がほとんどない大学生が増加している。教育、医療の場への進路を求める学生のみならず、在学中の地域における諸活動への参加や、ひいては、将来、自身が父母となった時の幼児の発達支援の基本的な構えについて講義する。</p> <p>（目標） 幼児の発達支援、そのなかでも身辺処理の具体的な方策を立案できるようになる。</p>	

教養科目	人文科学科目	心理・行動学分野	心理学実験・調査法（心理学実験・調査法）	<p>（概要） 心理学は、長年にわたって心理的な事象を科学的に研究するために様々な手段・方法を開発してきた。本授業は、これらの手段・方法を実際に体験した上でその実験の意義や得られた結果が意味するところ、その後の研究の発展等を解説することで理解をさらに深めることを目的としている。扱うテーマは知覚のズレ、学習の転移、葛藤、印象評価、尺度構成 などである。 上記の実験・調査の内容を的確に理解するために、予め心理学に関する授業を受講し、心理学の枠組みが理解できていることが望ましい。そのため1年生の受講は認めない。</p> <p>（目標） 1.心理学の実験・調査についての理解を深める 2.実験・調査結果の分析方法・検定について理解する 3.実験・調査レポートの書き方について理解する</p>	
教養科目	人文科学科目	文化・芸術分野	西洋文化論（ロシア人の生活と言語）	<p>（概要） ロシアという隣国で暮らす人々の日常生活を知るとともに、公用語であるロシア語の初歩の初歩を学習します。語学をマスターするというよりは文化の一部としての外国語に触れ、日本語や英語との発想の違いが楽しくしてほしいと思います。後半はロシアの映画やアニメを視聴する時間を取ります。</p> <p>（目標） ロシアの文化や生活に興味を持ち、ごく簡単なロシア語が理解できるようになること。この授業を取ればロシア語で用いる文字（ ， ， などのキリル文字）が読めるようになるはずで</p>	
教養科目	人文科学科目	文化・芸術分野	西洋文化論（西洋建築史）	<p>（概要） 新しい生活空間を創造・享受するためには、自然と人間の在り方を歴史的に理解することが必要である。本授業では、西洋の建築と都市に関する様々な思想を知ること、および建築作品や都市景観を見ることを通して、現代の状況を多角的に把握し、未来を見通す力を涵養する。</p> <p>（目標） ・インテリア・住居・建築に関する教養・専門知識を修得する。 ・西洋建築の空間や意匠の特徴を理解する。 ・西洋建築を取り巻く環境や技術の歴史的経緯を理解する。</p>	
教養科目	人文科学科目	文化・芸術分野	西洋文化論（ロシアの自然と言語）	<p>（概要） ロシアという隣国で暮らす人々と自然との付き合い方を知るとともに、公用語であるロシア語の初歩の初歩を学習します。語学をマスターするというよりは文化の一部としての外国語に触れ、日本語や英語との発想の違いが楽しくしてほしいと思います。後半はロシア人と自然のかかわり方が分かるようなロシアの映画やアニメを視聴する時間を取ります。また学習したロシア語の挨拶表現などを聞き取ってみましょう。自然科学としてのロシアの自然を紹介するのではなく、ロシアの人々が日常生活の中でどのように自然とかがわっているのかを中心とした内容です。</p> <p>（目標） ロシア人の生活習慣や考え方の一端を知るとともに、ロシア語でのごく基本的な表現ができるようになることを目指します。この授業を取ればキリル文字（いわゆるロシア文字）を読めるようになるはずで</p>	
教養科目	人文科学科目	文化・芸術分野	日本文化論（日本語文化論：国語教育史）	<p>（概要） 昭和戦前・戦中期の小学校（国民学校）の国語教科書を講読する。そこから、昭和戦前期の人々が求めていた理想的な人間像を想像する。また、当時の日本人の価値観、美意識、倫理観などを学ぶ。当時の小学校国語教科書には、その時代を生きるにあたって重要とされる徳目が隠されている場合も多い。その中には、時代を経てもある程度の普遍性を有する、基本的規範も含まれている。そうした普遍的価値観を、本講義を通じて再確認していきたい。</p> <p>（目標） （1）昭和戦前期という、今から80年前に書かれた文献であるが、そのような過去の文献についても、簡単なものは自力で読めるようになること。 （2）近代日本の教育の中で、ある程度の普遍性を持った人生上の価値観や倫理観、労働観などを再確認すること。 （3）戦前の国語教科書の読解を通して、近代国民教育史の一面を理解すること。</p>	

教養科目	人文科学科目	文化・芸術分野	日本文化論（衣生活文化史）	<p>（概要） 本授業では、日本の古代から現代に至るまでの文化の特質を衣生活を通して学ぶことを目的としている。特に時代の転換期には衣生活文化も著しく変化するが、その要因を政治・経済・文化など多方面から分析し、自ら日本の衣生活文化の特質について考察する。主な授業内容としては、奈良時代の養老律令等の政治制度と衣服令との関係や平安時代の束帯・唐衣裳にみられる貴族文化の特質、鎌倉期の武士独自の衣文化の成立、室町期の下剋上が衣生活に及ぼした影響、江戸期の武士と袴、さらに西洋文化の影響による明治期の衣服改良運動や大正期の服装改善運動等、それぞれの時代の社会背景と衣文化との関係について、映像や写真等具体的な資料を通して学んでいく。</p> <p>（目標） 各時代の衣生活文化に関する知識の修得、政治・経済などの社会背景と衣生活への影響について分析・考察できること、日本文化の特質を衣生活文化を通して考察することができる。各自が日本文化、日本の衣生活文化に興味を持ち、自らその特質について論述できることを期待する。</p>	
教養科目	人文科学科目	文化・芸術分野	日本文化論（金属で学ぶ日本文化史）	<p>（概要） 人類の歴史を「石器時代」、「青銅器時代」、「鉄器時代」に分ける三時代区分法が示すとおり、人類の歴史には「材料」が深く関わっており、特に『金属』の寄与が大きい。日本列島で金属の利用が始まったのは弥生時代頃とされており、当初は近隣の国より輸入された金属製品の利用にとどまっていた。やがて、金属を様々な形に変える加工技術や鉱石から金属を取り出す製錬技術も伝来し、自国内で金属製品を作り出すことが可能になった。その後、先人達のたゆまぬ努力によって金属の製錬や加工技術は発展を続けるが、その多くはその時代の情勢や文化と密接に関わっている。その代表が、武家文化との関わりが深い日本刀や黄金の文化を築いた奥州藤原氏による平泉などである。本講義では、日本の歴史や文化について、『金属』に注目して講義を行う。その際、講師の専門である金属工学の視点も取り入れることで、日本の文化史について幅広い視点で理解を深める。</p> <p>（目的）  <ul style="list-style-type: none"> <li>◆古代の金属利用について知る</li> <li>◆金属によって製作されたもの（金工品）について知る</li> <li>◆金属を通じて日本文化史への理解を深める</li> </ul> </p>	
教養科目	人文科学科目	文化・芸術分野	現代文化論（現代の文化研究）	<p>（概要） この講義では、現代の文化研究における文化概念の意味的な広がりとその実態を示す一つの試みとして、人文科学の異なった学問領域を交差させながら今日的な視点から人間文化を再検討してみたい。教員が専門分野の斬新な切り口から現代の文化を新たに捉え直します。すると、それまで普段あまり意識することのなかった人間文化の新しい側面が見えてきます。</p>	
教養科目	人文科学科目	文化・芸術分野	現代文化論（科学技術と人間社会）	<p>（概要） 現代において、人間は科学技術の成果を大いに取り入れて生活しており、人間社会のありようが科学技術に高度に依存している。一方、科学技術の発展は、エネルギー、地球環境、人間の生物性という限界から挑戦を受けており、人間社会への影響も必ずしも順調とはいえなくなる。本講義では、機械技術、人間支援システム、メカトロニクス、インテリジェントシステム、医療、核エネルギー、情報産業、ロボット、燃焼技術、宇宙機器などの技術を取り上げ、その発展と人間社会に及ぼす影響を、過去・現在・将来にわたって議論する。</p> <p>（目標）  <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間生活がどのように科学技術に依存しているのかを理解する。</li> <li>2. 人間生活に影響を及ぼす幅広い科学技術について、今後どのように活かしていくのかについて考える力を身につける。</li> </ol> </p>	
教養科目	人文科学科目	文化・芸術分野	韓国文化論（発音から学ぶ韓国語）	<p>（概要） 語学は自分の意見を第三者に伝えるために必要な手段である。しかし外国語を学ぶときに一番難しいのがネイティブ発音である。本講義では韓国文化を学びながら日本人にできない発音を練習し、韓国語を上達することを目的とする。 以下の内容を理解することを目標とする。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国の文化</li> <li>・韓国語の発音</li> </ul> </p>	

<p>教養科目</p>	<p>人文科学科目</p>	<p>文化・芸術分野</p>	<p>異文化論（通過儀礼（人の一生）に見る世界の諸地域）</p>	<p>（概要） この授業は、日本の生活文化、とくに通過儀礼（通過儀礼を、誕生儀礼、年齢集団、婚姻儀礼、葬送儀礼に細分する）について学ぶ。まず、教材となる資料をもとに、教員による講義がある。その後、細分したテーマごとにグループ学習・報告を行う。日本人学生とともに、日本の文化と各国の文化を比較考察することによって、現代日本についての認識を深める。</p> <p>（目標） (1)日本の伝統社会における生活文化と現代文化を比較し、その変化を知る。 (2)諸外国の生活文化と日本の生活文化を比較し、その相違を知る。 (3)1と2をもとに、異なった文化背景を持つ人たちが集うクラス（多文化空間）の中で、「異文化」についての認識を深める。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>人文科学科目</p>	<p>文化・芸術分野</p>	<p>美術論（美術史）</p>	<p>（概要） 美術というと、「絵を描くこと」を思い浮かべる人が多いかもしれませんが、ここでは、美術作品を徹底的に「見ること」を学びます。その意味で、この講義は美術史学の入門的な性格をもっています。美術作品は、各個人が自由に見ていいのですが、作品には「見方」があります。その「見方」を学ぶことで、美術作品がいかに多くのことを語りかけてくるかに気づくにちがいありません。美術作品は、たんなる趣味や楽しみだけでなく、じつは、宗教や思想、経済、社会状況、情緒・感情などと密接な関係にあり、人間が世界をいかに認識しているかを示しています。ですから、美術作品の「見方」を学ぶことは、人間や世界を知ることにつながるのです。そのような考え方で、次の項目に沿いながら、美術作品の面白さと重要性を理解できるよう、平易に講義します。</p> <p>（目標） 学習目標は次の3つです。授業では、美術作品を比較しながら考察する方法を学びますが、その鑑賞方法を身につけること。できるだけ数多くの美術作品に触れ、それらに慣れ親しんで、今後も継続的に美術体験を行えるようになること。美術作品、および美術家について情報を収集し、理解を深める方法を身につけること。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>人文科学科目</p>	<p>文化・芸術分野</p>	<p>美術論（デザイン論）</p>	<p>（概要） 文字は情報を貯え、場所や時代を超えて人々に伝達される重要なメディアのひとつです。古代の書き文字からルネサンスの印刷活字、そして情報化された今日のデジタルフォントにいたるまで、文字書体は人々によってさまざまにデザインされ、発展してきました。そのかたちの移り変わりをたどることは、同時代の社会や文化の変化を把握することにつながるでしょう。この授業では、時代ごとの代表的な文字書体の特徴や技法をスライド等で捉えるとともに、レタリングやカリグラフィといった手作業による実習を通して、人と文字デザインとの歴史的なつながりを体験的に考察します。</p> <p>（目標） 文字書体のかたちがどのように変化してきたか、なぜ変化したかを知る。 書き文字や印刷活字、デジタルフォント等の技術とデザインの関わりを探る。 実習を通して、歴史における文字デザインの変化を理解する。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>人文科学科目</p>	<p>文化・芸術分野</p>	<p>音楽論（オーケストラ音楽を聴く）</p>	<p>（概要） オーケストラ音楽は身近な存在である。交響曲やオペラと言ったクラシック音楽だけがオーケストラの音楽ではありません。バレエ音楽、ミュージカル、CM、テレビ、街中で聴こえてくる音楽、歌謡曲、映画音楽、ゲーム音楽等幅広いジャンルにオーケストラが関わっています。この授業では、クラシック音楽を中心とした幅広いジャンルに渡るオーケストラの音楽に触れ、オーケストラ音楽が身近であることを体験する。授業では毎回ミニレポートを課し自身の考え書いてもらう。すなわち単なる感想文ではなく大学生として根拠を持った説得力のあるレポートが書けるよう導くのがねらいである。</p> <p>（目標） 鑑賞を通してオーケストラの魅力を感じ取り、音楽に親しみ豊かな心情を養うことを目的とする。 オーケストラの仕組みや各楽器の役割及びその魅力を感じ取る。 様々な形態のオーケストラ作品を通して自分の考えを述べる。 単なる感想文ではなく根拠のあるレポートが書けるようになる。</p>	

教養科目	人文学科科目	文化・芸術分野	音楽論（実用作曲法）	<p>（概要） クラシック、ジャズ、ポップス、民謡等、古今のさまざまな作品を鑑賞、分析しながら、音楽作品の仕組みについて考え、それらを模倣した作曲法について考える。参加学生独自の作品（ジャンルは問わない）があればそれらも取り扱う。また、毎授業の冒頭で1、2名の学生が各自の好きな音楽について短時間で紹介する枠を設け、それについて教員が作曲学的観点から分析してコメントをする。</p> <p>（目標） それぞれの作品の仕組みを理解し工夫を味わうことができる。また自ら作曲を試みることができる。</p>	
教養科目	人文学科科目	文化・芸術分野	音楽論（ドイツ歌曲への誘い）	<p>（概要） 歌とピアノによる極めてシンプルな芸術であるドイツ歌曲は、華やかさとは一線を画し虚飾を排した深みをもって、長く日本人に親しまれてきた。中学音楽で鑑賞教材に用いられたシューベルトの「魔王」を記憶する人も多いだろう。 この授業ではベートーヴェンから後期ロマン派までの作曲家の名歌曲を取り上げ、詩を味わい、作曲者がその曲に込めた想いを紐解き、それらの歌曲の魅力に迫ることをねらいとしている。</p> <p>（目標） ・ドイツ歌曲の分野にはどのような傑作歌曲集が生み出されたかを知る。 ・授業で取り上げるドイツ歌曲の詩の内容を理解する。 ・それぞれの作曲家の作品、またそれぞれの作品がどのような特徴を持っているかを知る。 ・ドイツ歌曲の作品の中で好きな作品の魅力について議論できる。</p>	
教養科目	人文学科科目	文化・芸術分野	音楽論（音楽への誘い）	<p>（概要） ベートーヴェンであれ、AKB48であれ、ケチャであれ、人は音楽を聴くことに興味・関心を持っているといえるだろう。また、聴くだけでなく、自分で演奏することが好きな人も多くいることであろう。 この授業で扱うのはいわゆるクラシック音楽である。クラシック音楽のいろいろな楽曲が生まれてきた背景、楽曲の構造等を明らかにしていくことによって、音楽を聴く耳を持つことができるようにすることを目的とする。各回、楽曲を聴きながら、曲の構造、時代背景等を理解し、その音楽の魅力に迫る。この授業では交響曲、協奏曲等を中心に扱う。なお、授業内容については、さらなる検討を通して変更することがある。</p> <p>（目標） 1 音楽構造（ソナタ形式、ロンド形式など）を理解する。 2 音楽と文化との関わりを理解する。 3 音楽の知覚と感受を通して、楽曲を批評することができるようにする。</p>	
教養科目	人文学科科目	文化・芸術分野	音楽論（音楽芸能文化概論）	<p>（概要） 日本の音楽芸能に含まれる様々な種目についての授業である。古代より現代までの日本に存在した様々な音楽芸能について文化的背景を含め学習する。</p> <p>（目標） 授業を通じ音楽芸能について考察する手がかりを得るようにする。音楽芸能が催されている現場において各自がフィールドワークを行いながら、注意力や観察力を養う。読書、調べ学習、フィールドワークなどをもとにした討議ができるようにする。受講生は口頭発表（10～15分程度）をつづじてプレゼンテーション能力を養う。</p>	
教養科目	人文学科科目	文化・芸術分野	音楽論（ピアノ基礎（連弾））	<p>（概要） この授業では、基礎的なピアノ演奏法だけでなく発展的なピアノ演奏法も修得します。課題は、フランス・ロマン派の作曲家「ガブリエル・フォーレ」の作品です。授業内では、自分で楽譜を読み、自分で音にして、パートナーと音を合わせ、自分達の音楽を聴き、意見交換しながらよりよい音楽を作っていく、という作業をしていきます。</p> <p>（目標） 正しい譜面の読み方を修得する。指の独立と強化を目指す。良い姿勢で演奏できるようにする。自主的に目標を設定・計画して練習できるようにする。予習・復習の習慣をつけるようにする。自分の問題点を把握したうえで適切な練習ができる。フランスピアノ音楽の雰囲気や表現を体得する。</p>	

教養科目	社会科学科目	法学分野	法学入門（法とは何か）	<p>（概要）</p> <p>みなさんは、日常生活を送る際に、特に「法」を意識しながら生活していないかもしれません。しかし、法律は日常生活に大きな関わりをもっています。また、多種多様な価値観をもった人間が共同社会を形成していくうえにおいては、如何に自らが注意していたとしても、争いごとに巻き込まれる可能性は否定できません。可能な限り紛争が発生しないように、また仮に紛争が発生した場合であっても、その解決手段となるのが「法」です。そのため、「法」についての知識や法的考え方を身に付けておくことは、これからの人生において無駄なことではありません。本授業では、社会で起きている具体的なトピックを素材に、法的観点からその対処法について考えていきます。</p> <p>（目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法的な基礎的知識を修得できます。</li> <li>2. 具体的な法律問題を解決する能力を身につけます。</li> <li>3. 社会的な問題に関心をもつことができるようになります。</li> </ol>
教養科目	社会科学科目	法学分野	法学入門（立法体験：まちづくり条例制定の体験）	<p>（概要）</p> <p>地方公共団体が制定する法である条例は、国が制定する法律等の制約のなかで制定せざるをえません。また定め方次第で不利益を被る人々が出てきます。そうした条例の制定過程を素人なりにたどることで、条例制定にかかる手続・諸制約や、一定の理想を現実化する難しさや危険性、おもしろさ、住民参加の重要性を自ら発見してもらいたいと考えています。</p> <p>本講義では、できればゼミのような形式で行いたいと思います。人数が多ければチームをつくりそこで共同作業となります。そのためには、受講生の皆さんには、真面目に参加し、かつ他の受講生と協力・連携していただきますし、授業時間外にもいろいろと調査・研究が課されることはいまでもありません（楽はできません）。</p> <p>なお、人数が多ければ一部の方々には議会改革条例案も策定してもらいたいと思っています。その条例案を通して、住民自治の視点から民主主義についても考えていただきたいと思っています。</p> <p>（目標）</p> <p>この授業では、受講生自から「まちづくり条例」・「自治基本条例」を制定することを目標にします。その制定作業に伴う、発見、苦労、喜びも体験していただきます。住民自治を考える契機になると幸いです。</p>
教養科目	社会科学科目	法学分野	日本国憲法（憲法）	<p>（概要）</p> <p>通例、憲法学には大きく分けて「統治機構」と「人権」という二つの領域があるといわれる。本講義では、そのうち、日本国憲法の「人権」に関わる重要論点を中心に解説する。ただし、「統治機構」と「人権」というのは、相互に関連する側面もあるため、両者を連動的に捉えることを心掛けたい。</p> <p>本講義で扱う主な論点として、立憲主義と憲法尊重擁護義務、人権の主体と外国人、法の下での平等と非嫡出子、良心の自由と日の丸・君が代、信教の自由と学校教育、表現の自由とヘイトスピーチ、職業選択の自由と参入規制、選挙権と一票の格差等を予定している。</p> <p>（目標）</p> <p>日本国憲法が定める人権の基本構造を理解し、それをふまえて現実に起きている政治問題・社会問題を憲法の観点から論評できるようになること。</p>
教養科目	社会科学科目	法学分野	日本国憲法（統治機構論）	<p>（概要）</p> <p>通例、憲法学には大きく分けて「統治機構」と「人権」という二つの領域があるといわれる。本講義では、そのうち、日本国憲法の「統治機構」に関わる重要論点を中心に解説する。ただし、「統治機構」と「人権」というのは、相互に関連する側面もあるため、両者を連動的に捉えることを心掛けたい。</p> <p>本講義で扱う主な論点として、立憲主義と憲法尊重擁護義務、象徴天皇制と生前退位、平和主義と集団的自衛権、国民主権と選挙制度、議院内閣制と衆議院の解散、司法権とその限界、憲法改正の作法等を予定している。</p> <p>なお、本講義は、教員免許取得のための必要科目としても位置づけられている。</p> <p>（目標）</p> <p>日本国憲法が定める統治の基本構造を理解し、それをふまえて現実に起きている政治問題・社会問題を憲法の観点から論評できるようになること。</p>

教養科目	社会科学科目	法学分野	日本国憲法（教職のための憲法）	<p>（概要）</p> <p>憲法は国の最高法規であり、国民主権・人権尊重・平和主義などの基本原則をベースとした「国家統治の基本法」であり、「人権保障のバイブル」である。もちろん、憲法は私たちの日常生活と密接な関係を持っているのだが、憲法の規定はかなり抽象的で、わかりにくく、それを縁遠いものと感じているひとが多いかもしれない。本講義では、日本国憲法を素材とし、重要箇所の条文解釈を行うが、同時に、最新の憲法問題を取り上げ、憲法を身近なものとして実感できるような「興味深くわかりやすい学修」の時間にしたい。テキストに沿って授業を行うが、毎回スライド（パワーポイント）を使用する。さらに、できる限り世界各国の憲法の話もしたいと考えている。</p> <p>（目標）</p> <p>到達目標は、憲法（人権・統治機構）についての基礎知識を修得し、法の支配や権力分立、民主主義、立憲主義というキーワードを説明できるようにすることである。学説・判例などの学修を通じて、法的・論理的思考力（リーガルマインド）を養成する。</p>
教養科目	社会科学科目	法学分野	日本国憲法（教職のための憲法）	<p>（概要）</p> <p>「憲法」については中学や高校での学習やニュースで触れる機会があり、多くの人がどのようなことを規定しているのかについて一定の知識を持っていると思います。しかし、憲法が具体的にどのような内容を定めており、実際にどのような役割を果たしているのかについて考えることは少なかったのではないのでしょうか。そこで、この授業では 憲法が定める基本的人権の尊重を中心に、それを支える国家制度について解説することにします。その際、過去の事件や判決などを取り上げ、憲法に基づいてどのように判断され、解決されたのかを考えていきたいと思えます。</p> <p>（目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本国憲法の基本的内容を理解すること（教職に必要な知識の修得）</li> <li>2. 日常の問題を日本国憲法の視点から考える基礎をつくること</li> <li>3. 憲法に関わる問題を法的に論述できること</li> </ol>
教養科目	社会科学科目	法学分野	民事法（家族生活と法）	<p>（概要）</p> <p>この授業は、家族生活に関わる法についての知識を養うことをねらいとしています。生殖医療技術をはじめ、現代の家族をめぐる環境は大きく変化しています。このような状況の中で、家族を規律し、その紛争解決の指針となる家族法をどう考えていくのか・・・その答えを模索するためには、まず現行家族法の定める諸制度、判例の展開、学説の議論状況などについて学習する必要があります。講義では、時事的なトピックも紹介しつつ、進めていきたいと思えます。</p> <p>（目標）</p> <p>この授業の第一の目標は、家族行為に関する日本の法制度についての知識を修得することです。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 婚姻や離婚、親子関係、相続など、家族生活に関して法律で定められるルールはどうなっているのか、</li> <li>2) 家族関係において法的な紛争が生じた際、法律はどのような解決手法を定めているのか、</li> </ol> <p>これらの知識を修得することが目標です。</p> <p>より進んだ到達目標としては、単なる法的な知識の修得に留まらず、これからの家族と法のあり方を考察するところまで、進んで頂きたいと思えます。</p>
教養科目	社会科学科目	法学分野	民事法（財産と法）	<p>（概要）</p> <p>本講義では、「民法」のうちの「財産法」と言われる分野を扱います。「民法」と言う言葉を一度も耳にしたことがない人は、おそらくいないでしょう。「民法」という言葉を聞くとなんだか難しく堅苦しいイメージを持ってしまいそうですが、実はたいへん私たちの日常生活と密接したもののなのです。私たちの生活に身近な存在である民法の財産法分野の基本的なルールを理解することを本講義のねらいにします。本講義では、民法を初めて勉強しようとする人を対象にしますので、民法の財産法分野の重要な制度を重点的に分かりやすく解説します。法律学習の基本である条文と判例の解説を中心に授業は進みますが、現代日本社会の状況を説明しつつ授業を進めたいと考えています。日本の社会状況に裁判所の判断が適合しているのか、法的な整備がされているのか（条文を適用した結果は妥当なのか）を受講者自身に考えていただけるような授業を目指します。</p> <p>（目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 民法の財産法分野の基本的なルールが理解できる。</li> <li>(2) 民法財産法分野の基礎知識が修得できる。</li> </ol>

教養科目	社会科学科目	法学分野	社会法（労働と法）	<p>（概要） 生きていく上で労働にかかわらない者はほとんどいないでしょう。多くの者が、学生時代はアルバイト、卒業後は正社員やパート・派遣などとして働くことになります。しかし、労働に関するルールを知った上で働いているでしょうか。内定した会社から突然内定取消し通知がきたらどうすればよいのか？残業は断ることができないのか？アルバイトは有給休暇を取れないの？仕事中にけがをしたら治療費はどうか？本講義では、働き始めてから仕事をやめるまでの過程で労働者が遭遇するであろうトラブルについて取り上げ、どのような法的対応がとられるのかをみていきます。</p> <p>（目標） この講義では、職場で起こりうるトラブルについて具体的な事例を示して考えていきます。当事者の立場になって、あるいは自分自身に置き換えて、問題どう解決すべきかを考えられるようになります。そして、将来、社会に出てから雇用をめぐるトラブルに遭遇したときに、自ら解決できるような知識や考え方を身につけてほしいです。</p>
教養科目	社会科学科目	法学分野	社会法（福祉と法）	<p>（概要） 社会福祉法は、高齢者、障害者、など生活上のハンディキャップを負っている人々に福祉サービスを提供することによって、その自立を支援するとともに社会参加を促すことを目的とする法です。人は誰でも老いるし、いつ怪我や病気によって障害を負うかもわかりません。そのような場合に、どうすれば福祉サービスを利用できるのか、費用の支払いはどうするのか、などを学びます。また、いつも私たちが利用している医療保険や今後お世話になるであろう年金保険など社会保険についても扱うことを予定しています。</p> <p>（目標） 社会福祉や社会保障に関する知識を得て、現在の日本社会で生じているさまざまな問題に目を向けられるようになること。また、自分や家族が生活保護を受けなければならなくなったり、介護が必要になったらどうすればよいか、将来起こりうる問題を解決できるような力を身に付けること。</p>
教養科目	社会科学科目	法学分野	ジェンダー法（ジェンダーと法）	<p>（概要） 私たちを取り巻く現実の社会において、男女平等はどの程度実現しているでしょうか。人生のさまざまな選択において、「女性だから...」「男性だから...」という制約は、案外大きくないでしょうか。法は、一見中立的で公正なもののように思われるかもしれませんが、ジェンダー意識に基づいた一定の価値観によって形成されている側面もあります。本講義では、性別・ジェンダーという視点から、現行法の法文・裁判例・法解釈・法実務に、どのようなバイアスがかかっているのかを明らかにしていきます。</p> <p>（目標） 具体的には、家庭内の問題、職場での問題など、性別に関わる身近な事例を通じて、日本の法律を性別・ジェンダーという切り口で検証する視点を養うことを目標とします。まずは、法律学を、性別の視点でアプローチする必要性について、しっかりと認識していただきたいと思います。そのうえで、各トピックの論点について、その問題点と解決の方向性について考察する力を養っていきます。</p>
教養科目	社会科学科目	法学分野	裁判法（市民と裁判）	<p>（概要） 日々、新聞やテレビなどで、「損害賠償として300万円支払うように命じられました」、「裁判員裁判で懲役15年が言い渡されました」という、裁判事件が報道されています。また、しかし、「裁判」とは具体的にどのようなものなのか、誰がどのように行うのか、裁判にはどのような種類があるのかについては、あまり知られていないのではないのでしょうか。本授業では、民事裁判、刑事裁判を中心に、裁判及び法の役割と裁判の基本的な仕組みについて学びます。</p> <p>（目標） 1. 裁判制度の全体像を把握するとともに、裁判制度の基本的な事項を説明できるようになることを目標とします。 2. 社会生活で役立つリーガル・リテラシー（法律の知識と活用力）を養います。</p>

教養科目	社会科学科目	法学分野	刑事法（犯罪と刑罰について）	<p>（概要） 連日、犯罪に関する報道がなされています。テレビではサスペンス・ドラマが放映されていますし、書店に行けば多くの推理小説が書架に並べられています。おそらく、まったく刑事法に興味がないという方は稀ではないでしょうか。また、裁判員制度が始まったことにより、国民の誰もが、これまで以上に刑事法について考えるべき時期を迎えています。そこで、本授業では「刑事法に関する正確な知識」をみなさんと一緒に学んでいきたいと考えています。</p> <p>（目標） 1．刑事法の全体像を把握し、刑事法の基礎的知識と考え方を修得します。 2．刑事法の観点から犯罪現象を考察する能力を修得します。</p>
教養科目	社会科学科目	法学分野	国際法（国際法入門）	<p>（概要） テレビ、新聞またはインターネットなどで日頃よく見聞きする主要な出来事（事件や問題）は、実はどれも国際法に関連するものばかりです。この国際法は、グローバル化がますます進行する現代社会において、私たちの日常生活（国内社会や国内問題）に対しても今まで以上のインパクトを持つようになってきています。私たちの生きる社会・世界をよりの確に認識するためにも、また国内の諸問題に適切に対処するためにも、国際法の知見はますます欠かせないものとなっているのです。このような国際法を是非知ってもらい、知的興奮を覚えてもらいたい、そして願わくは「法」というものの奥行きの深さと面白さを味わって欲しい、そう思っています。</p> <p>以上のような目的の下、本授業では、国際法の基本的な分野・論点の中でも特に入門段階にとって重要と思われるものを取り上げ、それについてできるだけ分かりやすくかつ丁寧に解説を行っていきます。</p> <p>（目標） （1）国際法の意義と機能をイメージすることができる。 （2）国際法の基本部分に関する主要な国際事例や裁判例について、その概要を理解することができる。 （3）日常で見聞きするニュースや情報を国際法の視点から捉えることができるようになる。</p>
教養科目	社会科学科目	法学分野	知的財産権法（知的財産権法入門）	<p>（概要） 特許権や著作権などの知的財産権制度は、研究・論文執筆で学生時代から身近になる。また、社会人になれば、あらゆる業種・職種で知的財産権制度に関する基礎的な知識が不可欠である。この授業では、まず、知的財産権制度の概要、特許制度、意匠制度、商標制度、著作権制度の個別の制度の概要、仕組みや最近の話題などにも触れながら、今後、知的財産権制度の活用を行う上での基礎的な知識を修得することを目標とします。</p> <p>（目標） 学生時代の研究・論文執筆、将来の仕事の場面で必要となる、知的財産権制度に関する基本的な知識を身につける。</p>
教養科目	社会科学科目	政治学分野	政治学入門（政治とは何か）	<p>（概要） 本授業では、政治学についての初学者を対象にして、政治学の基本的な概念や制度を講義する。講義は大きく四部構成になる。第一部では、政治、国家、民主主義といった政治学の基本的概念を学ぶ。第二部では、社会における諸利益を集約し、政治の場に表出する機能をもった集団として、政党と利益集団の役割を学ぶ。第三部は、国家における具体的な政治過程として、国会、内閣、官僚の役割を扱う。第四部は、近年の日本の新しい政治課題として、国境を越える政治や多文化共生の政治を学ぶ。</p> <p>（目標） 1．政治とは何かを理解できるようになる。 2．政党、利益集団の機能、国会、内閣、官僚の役割を理解できるようになる。 3．現在の日本政治の課題となっている多文化共生の政治の在り方について理解できるようになる。</p>

教養科目	社会科学科目	政治学分野	現代政治論（現代日本の政治）	<p>（概要） 日本の政治についての入門的講義です。かつての自民党の長期政権期、いわゆる「五五年体制」（1955年～93年）の時代から、現在の日本政治までを扱います。戦後政治の歴史的概略、基本的構造とその問題点、そこから提起された「改革」の諸課題（「政治改革」、小泉「構造改革」等）を解説していきます。最終的には、かつての自民党と、現在の自民党政権の性格の違い、日本政治の現局面の特質を理解していきます。 また、これらを通じ、政治学的に考えるとどのようなことが、政治の現象をとらえるとはどのようなことなのか考えていきます。</p> <p>（目標） 1. 日本政治の理解のための基本的用語、概念を理解し、説明できる。 2. 長期政権期の自民党政権の基本的特質、政党としての機能を理解し、説明できる。 3. 90年代以降の「政治改革」等による日本政治の転換、その結果としての今日の日本政治の特徴について理解し、説明できる。</p>
教養科目	社会科学科目	政治学分野	現代政治論（日本の政治と世界）	<p>（概要） 後期の授業では、世界の政治経済に目を向け、いわゆるグローバル化時代における、国家と政治の本質について考えていきます。現代の政治経済の理解に必須の概念、観点をおさえた上で、主として第二次大戦後の日本とアメリカの政治経済の動き、相互関係を、順を追って考察します。 戦後体制の確立、高度経済成長期と、その後の危機の時期を経て、「経済大国」化した日本の政治経済の特質は、「冷戦」後のアメリカの対日政策の変化にともない、さらに大きく変容したと考えられます。これらについて、前期とは全く異なる観点から理解していきます。 最終的には、発展途上国の政治経済の状況も概観した上で、現代の政治と国家の本質的性格についての理解を深めていきます。</p> <p>（目標） 1. 政治学の最も基本的な用語、概念を理解し、説明できる。 2. 現代の政治経済の動きを作り出していく基本的要素、仕組みを理解し、説明できる。 3. 1, 2の理解により、戦後の日米の政治の基本的特徴と動態を説明できる。</p>
教養科目	社会科学科目	政治学分野	現代政治論（近代日本の政治と行政）	<p>（概要） 本講義は、明治維新から第二次世界大戦にかけての日本の政治体制、すなわち明治憲法体制を対象に、その政治と行政の日本の特徴について理解を深めることを目標とします。明治憲法体制の特徴は、さまざまな法律や制度が、国家目標である「富国強兵」の達成という一点に向けて最大限に動員された点にあったのではないかと考えられます。その根拠は、日本を取り巻く国際関係の特殊性と、これまた特殊な国家と社会の結びつき方にありました。そこで本講義では、世界システムにおける日本の地位と、その国内社会構造との関連性に留意しつつ、近代日本の政治と行政の歩みを振り返ってみようと思います。</p> <p>（目標） 近代化の日本の特色について理解を深める 「一国史」的な日本近代史ではなく、世界史との関連の中で日本の歩みを考える 現代日本の政治・行政との比較を通じ、戦前前後の連続性ないし断絶性についての理解を深める</p>
教養科目	社会科学科目	政治学分野	現代政治論（政治理論と現代日本の政治）	<p>（概要） 本講義は、現代の日本社会の課題、とりわけ少子高齢化とそれに関連する外国人労働者の拡大の問題に対して政治学的視点からの確に考察し、判断する力を養うために、政治学の諸々の古典や現代政治の理論及び諸外国の政治の事例を学ぶ。</p> <p>（目標） 1. 現代日本社会に関わる諸問題を政治学の分析視角から理解できるようになる。 2. 政治学の基本的な概念（正義、国家、権力、民主主義）について正しい理解を得る。</p>

教養科目	社会科学科目	政治学分野	平和学（戦争の被害と加害，そして抵抗）	<p>（概要） 20世紀は「戦争の世紀」と言われた。19世紀末から20世紀半ばまでの半世紀にわたって、日本は日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦、アジア太平洋戦争と多くの戦争を続けた。これまで戦争の被害については比較的多く語り継がれてきた。しかし戦争加害の語りは「中国帰還者連絡会」の会員をはじめとした一部の人々に限られてきた。また、当時の日本軍（皇軍）の中にあつて、戦争体制に抵抗した兵士が僅かながらも存在していた。戦争の様々な側面を明らかにするためには、戦争を直接体験した人々の証言に耳を傾け、検証する必要がある。 本講義ではこれまでの被害証言、加害証言、抵抗証言の聴き取りをもとに、高校の歴史の授業ではあまり取り上げてこなかった戦争の側面について考える。数多の被害を受けたアジアの人々の立場・視点から、戦争加害の実相を知り、抵抗する兵士の勇気ある姿勢に学んだ皆さんが「平和の世紀 21世紀」の礎となってくれることを期待する。</p> <p>（目標） 戦争の多様な側面を理解し、それを広範な視点で分析出来るようになる。 自己の立場のみならず、相手の立場に立って、平和を思索する姿勢を身につける。 戦争を二度と繰り返さない「平和国家の一員」として過去に学び、そのうえで現代のアジアの若者と向き合えるようになる。</p>
教養科目	社会科学科目	政治学分野	平和学（戦争と平和の法制度）	<p>（概要） 「平和」を語るにおいて「戦争」という言葉・概念を使わずにそれをするのは難しい。そして、最近のニュースなどからも分かるように、この「戦争」が現代国際社会においても「対テロ戦争」や「武力紛争」といった形で頻発しているというのは紛れもない事実です。人は「戦争」とこれまでどのように向き合ってきたのか、そして現在どのように向き合うことができるのか。そこに「法」なり「制度」なりが構築されているとすれば、それは一体どのようなものなのか。本授業では、以上のような問題意識の下、平和学の領域において法（特に国際法）が果たす役割という観点から、「戦争と平和」に関する法制度について解説していきます。特にその中でも、戦争違法化の過程と意義、国際連合による集団安全保障、自衛権、平和維持活動（PKO）、武力紛争法といった重要分野を扱う予定です。</p> <p>（目標） （1）「戦争と平和」に関する諸制度についてその仕組みや機能を理解することができる。 （2）関連する主要事例についてその概要を理解することができる。 （3）戦争や武力紛争に関する日常のニュースや情報または歴史的な事象についてそれらを上記諸制度の観点から捉えることができる。</p>
教養科目	社会科学科目	経済学分野	経済学入門（現代の日本経済）	<p>（概要） 2017年6月に発表された日本の相対的貧困率は15.6%であり、OECD加盟国の中でも高い率を示した。このような日本経済の変容をどう理解すればよいか。 本講義では、日本経済の発展と停滞の要因を歴史的・構造的に取り上げることで、今日の日本社会の格差・貧困化の諸原因と今後の日本経済の方向性を検討する。</p> <p>（目標） 日本経済をめぐる時事的なトピックを取り上げることで、基礎的な経済理論を解説しつつも、なるべく具体的な問題について紹介する。映像資料なども用いて、いま日本で何が問題になっているのかを、経済学を初めて学ぶ学生にもわかりやすく説明する。 以下が本講義の学習到達目標である。 (1)日本における格差・貧困化の広がりについて、具体例をもとに説明できるようにする。 (2)現代の労働問題についての理解を深める。 (3)経済理論をもとに日本企業の行動様式を説明できるようにする。 (4)日々の日本経済をめぐる様々なニュースについて説明できるようにする。</p>

教養科目	社会科学科目	経済学分野	<p>経済学入門（社会における経済の仕組み）</p> <p>（概要） 私たちの日常生活は目には見えませんが、経済によって運営されています。人や物、お金は私たちの思いとは別に、経済法則・メカニズムに従って動いており、私たちの生活を支え、時に危害を加えてきます。それらの法則を学ぶのが経済学ですが、個々の人や企業の動きを見るミクロ経済学では、商品や価格、賃金や貨幣について学び、社会全体の動きを見るマクロ経済学では様々な経済指標から、経済成長や景気循環、経済政策を学びます。本講義ではこのような経済や経済学というものを、私たちの身近なものや実生活から考えて理解することで、目には見えない経済法則を皆さん自身が使いこなせることをめざします。また本講義はアクティブ・ラーニング型の講義ですので、ただ座って教員の話の聞いているだけの講義ではなく、自分で調べたり、話し合ったり、分析をしたりします。高校までの授業とは形式がかなり異なるので、最初は戸惑うこともあるかもしれませんが、受講生のみなさん一人一人を大切にしたい講義を心掛けます。知識を暗記するのではなく、実践的に学ぶことで知識を使えるように身につけ、将来に役に立つような講義をめざします。</p> <p>（目標） ・経済学の考え方を理解できるようになる ・ミクロ経済学の知識によって、身近なものを経済学の視点から考えられるようになる ・マクロ経済学の知識によって、社会現象を理解し、経済政策によって大まかな解決策を考えられるようになる ・経済学にも様々な見方、考え方があることを理解できるようになる</p>
教養科目	社会科学科目	経済学分野	<p>経済学史（日本経済論）</p> <p>（概要） 経済学の発展に関わる代表的な経済学者ならびに経済理論を順次取り上げ、そのエッセンスと展開を解説する。加えて、日本経済のこれまでの歩みを理解するために必要となるトピックスを取り上げ、日本経済・社会のあり方と特徴について検討する。また、これからの日本経済、ならびに資本主義経済のあり方について考察するための分析視角を構築する。</p> <p>（目標） ・経済学という学問ならびに日本経済のあり方に関する基礎的な知識と考え方を身につける。 ・日本経済・社会の現状と課題に対する自身の分析・考察を理論的に述べるができるようになる。</p>
教養科目	社会科学科目	経済学分野	<p>マクロ経済学（銀行論・金融政策論）</p> <p>（概要） マクロ経済学は国家や市場といった大きな視点から経済の仕組みを研究する学問であり、有効な経済政策（政府の財政・金融政策など）を実行するにあたり、その理論的基礎にもなります。この講義では、GDP、物価、消費、投資、金融といった経済の仕組みを理解するための基本的な概念・理論の説明を行い、次いでそれらに基づきながら近年の日本の経済状況や金融政策などについて、その現状と問題点を解説していきます。加えて日本の株式市場の現状や株式投資の舞台裏などについても合わせて講義したいと思います。</p> <p>（目標） GDP、物価、消費、投資、金融などの経済の仕組みを理解するための基本的な概念・理論を修得する。 近年の日本の経済状況（長期的な経済の停滞）と金融政策などについて理解する。</p>
教養科目	社会科学科目	経済学分野	<p>ミクロ経済学（交通経済学）</p> <p>（概要） 「バスがよく遅れてて不便。その割に運賃も高いしどうにかしてほしい。」 「近所の道はいつも渋滞しているけど、どうにかならないのか？」 「LCCとか高速バスって安いけどその理由は？安全性が心配。」 このように、交通は誰にも身近な問題で、その分だけ色々な疑問が浮かんでくるものです。 この講義では、身近な交通問題について単なる感情論ではなく一つの学問（経済学）の思考法をベースに考えられるようになることを目標とします。 感情論を抜け出し、学問を用いて交通問題を議論できるようになりましょう。</p> <p>（目標） 交通経済学の基本的な考え方を理解すること。 交通経済学の考え方を使得って日常の交通に関する諸問題を論理的に議論できるようになること。</p>

教養科目	社会科学科目	経営学分野	経営学入門（経営学とは何か）	<p>（概要） ヒト・モノ・カネ・情報の動きから経営学の基礎的な知識を学ぶ。加えて、経営学の理論的な枠組みの概説と企業経営に関する事例紹介から、経営学に基づく思考方法や分析視角に対する理解を深める。</p> <p>（目標） ・経営の視点を持つ企業人・社会人になるための基礎的な知識を身につける。 ・現代企業の経営動向について、論理的に説明することができる。</p>	
教養科目	社会科学科目	経営学分野	マネージメント論（マーケティング論入門）	<p>（概要） 私たちの身の周りには様々な商品やサービスがあり、それらによって日常生活が成り立っています。便利なものに囲まれて生活していると、それが当たり前のように感じてしまいますが、その便利さはマーケティングによって私たちの思いやニーズをくみ取って商品化されたものです。本講義ではマーケティングの基本的な考え方を学ぶことで、私たちの身の周りの商品やサービスがどのように私たちの思いに応え、どのように提供されているのかを分析します。また、マーケティングによって利益追求以外の分野、様々な社会問題の解決にも活用することで、マーケティングの応用可能性を学びます。最終的にはみなさんのような学生でも取り組める、小さなビジネスモデルを考案することで、みなさんがこれから身につける専門能力や興味・関心のあることをいかした商品やサービスを、必要とする人に届ける方法を考えます。本講義はアクティブ・ラーニング型の講義ですので、ただ座って教員の話の聞いているだけの講義ではなく、自分で調べたり、話し合ったり、プランを考えたりします。高校までの授業とは形式がかなり異なるので、最初は戸惑うこともあるかもしれませんが、受講生のみなさん一人一人を大切に講義を心掛けます。知識を暗記するのではなく、実践的に学ぶことで知識を使えるように身につけ、将来に役に立つような講義をめざします。</p> <p>（目標） 1．マーケティングの基礎的な知識を身につけ、経営の分析ができる。 2．社会問題をマーケティングの視点で解決する方法を考えることができる。 3．小規模なビジネスモデルを考えることができる。</p>	
教養科目	社会科学科目	社会学分野	社会学入門（社会階層論）	<p>（概要） 現代社会では産業・情報の発展及び都市化の進行とともに、個人と個人との関係、個人と社会との関わり方も大きく変容してきている。現代のさまざまな社会問題を考える上で、この関わり方の変容を認識することはとても重要なことであると考えられる。本授業では、近年関心が高まってきている社会の格差や不平等といった社会問題について、個人を取り巻く社会的変化を時系列的に踏まえながら、社会学的視点に基づいて考察していくこととする。</p> <p>（目標） 1．社会学的な見方について理解する。 2．個人と社会との関係性について理解する。 3．さまざまな社会問題について関心をもち、理解を深める。</p>	
教養科目	社会科学科目	社会学分野	現代社会論（少子高齢化社会）	<p>（概要） 「少子高齢化」という言葉はすでに聞き慣れた言葉であるが、将来の私たちの生活に不安を抱かせる言葉にもなっている。本授業では、少子高齢化をキーワードに、私たちに身近な社会である家族や地域社会がどのように変化してきたのか、現代そこでどのような課題が生じているのか、さらに今後家族や地域社会における課題をどのように解決していけるのかなどについて社会学的視点で考察していくこととする。</p> <p>（目標） 少子高齢化の変遷を通して、 1．家族の変容について理解する。 2．地域社会の変容について理解する。 3．子どもや高齢者への支援について考察する。</p>	

<p>教養科目</p>	<p>社会科学科目</p>	<p>社会学分野</p>	<p>現代社会論（現代を生きる家族）</p>	<p>（概要）          少子高齢化をはじめ、核家族化、高度情報化、高学歴志向等が伸展する現代社会の中でも家族は生まれ、育ち、滅び、また新たな誕生から消滅までのサイクルを繰り返しています。本科目では、現代社会の中にある家族について、家族の置かれている家庭・学校・職場・地域等の環境的側面の特徴を理解していきます。</p> <p>（目標）          1. さまざまな数値データから現代家族がおかれている社会の状況を説明できる。          2. 現代の子どもと親世代の生活と心身の特徴を踏まえた上で、健康上の問題を説明できる。          3. 成人・高齢期の健康に及ぼす身体・社会・精神・環境的要因について説明できる。          4. 健康を維持増進するために生涯を通じた健康づくりへの取り組みの必要性が理解できる。          5. 現代社会の中でどのように適応するかについて考えることができる。          6. 現代社会における心の問題について理解し、自己の課題について記述することができる。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>社会科学科目</p>	<p>社会学分野</p>	<p>現代社会論（社会の基盤）</p>	<p>（概要）          地域社会の発展に不可欠な基盤の整備・管理を担う社会基盤学について概説する。特に、近年における都市化、情報化、多様化、国際化、さらには自然災害、環境保全などへの関心の深まりに対応した、人間と社会の関係を踏まえた基盤整備や管理のあり方について学ぶ。</p> <p>（目標）          1. 地域社会の発展に不可欠なソフトからハードまでの幅広い意味の基盤の整備・管理を担う社会基盤学について理解する。          2. 自然と社会と人間の関係を踏まえた基盤整備や管理のあり方、地域や社会の制度・システムについて理解する。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>社会科学科目</p>	<p>社会学分野</p>	<p>現代社会論（宇宙時代を生きる）</p>	<p>（概要）          月に初めて人類が降り立ったのはすでに50年前であり、その後落ち着いたように見えていた宇宙ミッション。しかし、その間、人工衛星の打ち上げによる宇宙利用が進み、気象衛星等の活躍はいまや生活と切り離せなくなっている。          そして、50年後の現在、3億キロ以上離れた小惑星への「はやぶさ2」のタッチダウン成功、月有人宇宙ステーション「GATEWAY」の計画等、地球を離れた宇宙空間を含む本格的な宇宙時代を迎えようとしている。宇宙開発はこれまでその社会・経済状況に大きく左右されてきたが、今後も当然、様々な影響を受けることが予想される。          そこで、本講義では、これからの本格的な宇宙時代を生きるために、宇宙ミッションに関する基本的な理解を進め、今後の対応力を養成することを目的とする。</p> <p>（目標）          まず、これまでの宇宙開発の経緯について、米ソ冷戦等社会背景との関わりを交えながら説明し、宇宙利用時代のコストや社会への波及効果に触れながら現状の宇宙ミッション計画の詳細を紹介する。講義は初めて宇宙開発に触れる学生にも分かりやすいように、極力数式を使用せず、動画等を積極的に活用して行う。          以下が本講義の到達目標である。          1) 宇宙開発が社会情勢に密接に影響を受けながら進められてきたことについて理解を深める。          2) 宇宙開発が本格化（利用、探査）してきた現状について理解を深める。          3) 今後の本格的な宇宙時代において必要な環境を考えることができる。          4) 今後の本格的な宇宙時代において自分自身で対応できる能力を身につける。</p>	

教養科目	社会科学科目	社会学分野	現代社会論（Amishのライフスタイルから現代社会を考える）	<p>（概要） アメリカには、現在も200年来のライフスタイルを実践しているキリスト教プロテスタントの教会派であるアーミッシュAmishという人々が平和に暮らしている。彼らは今も電気を使わず、馬車での生活を営んでいる。彼らは文明を知らない訳ではない。世界の最先進国であるアメリカ・ニューヨークのすぐ近くで、文明を知りながら、自分達のペースで生活しようとしているのである。彼らのライフスタイルを読みながら、現代社会に必要なライフスタイルとは何か、環境にやさしく、家族の関係が緊密で人口増加をすすめるためのライフスタイルとはどうあるべきかについて考える。</p> <p>（目標） 様々なライフスタイルを理解し、自分の感想を的確に書くことができ、人に伝えることができる。現代社会に必要なライフスタイルを考えることができ、最終的に自分の考えをまとめたレポートを書くことができる。</p>
教養科目	社会科学科目	社会学分野	現代社会論（やさしいジェンダー学入門）	<p>（概要） 働き方改革，女性活躍，イクメン，保活，年金問題…。私たちがニュースで見聞きするこれらの社会問題は、実はジェンダーと密接な関係にあるのです。授業では、私たちが暮らす現代社会における様々な問題，諸制度や慣習のなかに「ジェンダー」がどのように関わっているのかについて，世界各国との比較も取り入れながら理解を深めます。</p> <p>（目標） ジェンダーという概念および社会制度・規範とジェンダーの関係性について理解する。 ジェンダー平等な社会のあり方について自分の意見を述べられるようになる。</p>
教養科目	社会科学科目	社会学分野	メディア論（メディア論の基礎）	<p>（概要） メディアは私たちの生活のあらゆるところに存在していますが、私たちはそれを十分に理解した上で使っているのでしょうか。そもそもメディアとは何でしょう。この講義では特に私たちの暮らしに密接した存在である情報を伝達する媒体としてのメディアを取り上げます。メディアといっても多種多様にあり、その特性はそれぞれに異なっています。情報を伝達するという行為は基本的に人によって行われるものですが、メディアが多様化したことによってその伝え方も受け取り方も大きく変化してきました。そこで、すべてではありませんが、いくつかの代表的なメディアを取り上げて、その特性や社会的な位置づけを学び、より活用できるユーザーとしての基礎知識を得てもらうことを目的としています。</p> <p>（目標） 社会におけるメディアの基本的な役割を理解する。日常的に使うメディアの特性を理解して活用するための基礎知識を身につける。</p>
教養科目	社会科学科目	社会学分野	メディア論（メディアの特徴・歴史・現状・課題）	<p>（概要） 現代社会に生きる私たちにとってマスメディアから得る情報は、日常生活を送る上で必要不可欠だけでなく、私たちの考え方や生き方にも大きな影響を与えている。したがって、マスメディアから得る情報の特質や傾向、さらには各メディアの特性や歴史などを正しく理解しなければ、自己を取り巻く社会環境の認識や自己形成に致命的なダメージを与えかねない。 本講義では、現代社会でマスメディアが果たすべき機能と責任について、政治・経済および日常生活や人間形成との関係性の中で理論的に把握した上で、メディアの特徴・歴史・現状・課題と、あるべき姿について、具体的な事例をもとに実践的に学び、自分で問題点を探ることを目標とする。</p> <p>（目標） 現代社会におけるマスメディアの果たすべき機能と責任を、自分自身の生活と関連づけて理解できることを目標とする。</p>

教養科目	社会科学科目	社会学分野	メディア論（国際メディア論）	<p>（概要） 現場に行かなくても世界の情勢がわかるのが当たり前のように感じています。ところが、私たちは外国で起こっていることは外国のことで自分にはあまり関係がないと感じやすいものです。社会的人間の行動は、必ず他の社会的人間の行動に影響を及ぼし、広い意味での社会の方向性を変えていきます。それは価値観の変化でもあり、正当性の変化でもあります。この講義では、日常的に接しているメディアの特性、及びその地域に根付いたメディアの社会的位置づけを理解した上で、世界の動向を把握し、様々な可能性を考えることができる活用者としての基礎知識を身につけてもらいたいと思います。</p> <p>（目標） 国内から世界の動向を理解することの重要性がわかる。メディアの特性と社会的位置づけの違いを理解し、活用するための基礎知識を身につける。</p>	
教養科目	社会科学科目	社会学分野	広報・PR論入門（岐阜大学をケーススタディに）	<p>（概要） 広報（＝PR；Public Relation）とは、人々に伝えたい・伝えるべき情報を広く知らせる活動である。しかし現代社会においては情報を広く知らせるのみならず、送り手である個人・組織のブランド力を高めることも求められている。本講義では、広報・PRおよびブランドに関する基本的な理論を学び、その理論を活用するケーススタディの対象として、岐阜大学を設定している。このケーススタディにより、岐阜大学全体に関する理解を深めるとともに、大学に対する関心を喚起することを第一の目的とする。さらに、岐阜大学のブランド力およびイメージの向上のため、広報・PR活動をどのように実践していくのか、受講生自身がグループを作りディスカッションをしながら、具体的な方策を考案し実施することを第二の目的とする。</p>	
教養科目	社会科学科目	地理・地域論分野	地理学（都市論）	<p>（概要） 都市の構造は、各国の歴史や自然、社会によって個性的であるとともに、都市経済や都市計画の仕組みを通じた共通性と特殊性を帯びている。都市の歴史と都市理論を通じて基本的な認識を学び、現代の都市空間と都市問題を探り、21世紀に入った現代の住民参加とサステナビリティを基軸とした都市政策について考えたい。</p> <p>（目標） 都市についての基本的な考え方を学ぶ。国内外の諸都市における特徴を理解する。住民の生活空間や空間認識を自身の問題としても考えて、まちづくりのあり方を考えていく。</p>	
教養科目	社会科学科目	地理・地域論分野	地理学（地図・環境・立地・都市）	<p>（概要） 高等学校の地理と大学の地理学との橋渡しを意図する。視聴覚教材を活用し、地理学の見方・考え方の一端に触れる。</p> <p>（目標） 地理的な考察が地域差と地域性に基づくものであること、これを理解することが目標である。</p>	
教養科目	社会科学科目	教育学分野	教育論（障害学への招待）	<p>（概要） 「障害（障がい）」や「障害者（障がい者）」について、これまでに形成されてきた医療・リハビリテーション・教育（特別支援教育）・社会福祉（障害者福祉）という「枠組み」に加えて、社会・文化・ディスアビリティの面からノーマライゼーションの理念を学習することで、障害児・者一人一人の社会参加と社会自立について考えを深めたい。受講者は、それぞれの授業に関する諸テーマについて、レポートを作成して、発表（プレゼンテーション）する。また、休日等を利用した障がいのある人との交流及び共同活動を体験することで、「共に生きる」社会における一市民としての在り方について考えを深める。</p> <p>（目標） 障がいのある人と「共に生きる」市民としての基盤となる知識と能力を修得する。</p>	

教養科目	社会科学科目	教育学分野	教育論（現代社会問題と教育）	<p>（概要） 「学び、学習、教育」と聞くと、多くの人びとは「学校」における諸活動をまず思い浮かべることだろう。しかし、学校以外のさまざまな場所や社会においても、「学び、学習、教育」の営みは多様に展開されている。社会教育とは、こうした「学校以外の社会において行われる」多様な教育活動を指す。本授業では、岐阜県内地域・自治体を中心としたすぐれた社会教育実践例を取り上げつつ、社会教育の本質についての理解を深めることをねらいとする。</p> <p>（目標） 学習者が、学校以外の子ども・若者、成人、高齢者の学習・教育活動や社会教育施設（公民館等）の諸活動の原理・歴史的な分析及び子育て支援事業等の実態分析等を行い、社会教育の本質についての理解ができていく。</p>
教養科目	社会科学科目	教育学分野	教育論（岐阜大学の歴史と高等教育論）	<p>（概要） 諸君は、大学生になろうと努力し、大学生として数年間を過ごし、そして大学卒業後として社会で活躍する。しかしこれほど長期に渡って関わる「大学」とは、いったいどのような制度であり、それはどのような歩みを経て今日に至ったのだろうか。岐阜大学は今年、創立70周年を迎える。さらに遡れば140年以上の歴史がある。岐阜大学に学ぶことは、この歴史に自らが身を置きそれを引き継ぐことを意味する。本授業では、岐阜大学の歩みを日本の大学制度及びその変遷と照らし合わせながら講義する。これを通じて大学史と岐阜大学の歴史を理解し、自己をその連続性の担い手として認識することを目指す。</p> <p>（目標） ・日本の高等教育について、他者に説明できるようになる。 ・岐阜大学の歴史について、他者に説明できるようになる。 ・自らを、岐阜大学の歴史の当事者として自覚し、より能動的な学習態度を身につける。 ・大学生としての水準を満たすレポートを仕上げられるようになる。</p>
教養科目	社会科学科目	教育学分野	教育論（障害児教育臨床学）	<p>（概要） 障害のある子どもの家庭生活、社会生活（学校、職場）、地域での生活の実際と課題について学習する。障害のある子ども、家族、学校、施設のドキュメンタリー番組のVTRを視聴したり、出版されている当事者（本人・家族）の手記等の資料をもとに、障害のある子どもがさまざまな人とのかかわりの中で、どのように成長発達していくのかを理解する。また、本人を支える親・家族のニーズやその支援の在り方について理解する。そして、地域社会で共に生きる私たちに当事者（本人・家族）に対してどのような理解やかかわりが求められているかについて考える。</p> <p>（目標） 地域社会と共に生きる仲間として、障害のある子どもや親の願いや思いを、当事者の視点から考えることができる。</p>
教養科目	社会科学科目	教育学分野	教育論（教育哲学）	<p>（概要） 教育についての諸理論や原理・原則を解説すると共に、今日の教育的な諸問題を多角的に考察する。特に、プラグマティズムに基づく教育理論を紹介し、他の教育思想と比較検討しながら検討する。また、J. デューイの教育理論に基づく問題解決学習や体験学習を取り上げ検討する。子どもの自己実現論や社会貢献の意義に注目し、子どもの成長・発達を促す教育のあり方を考察する。さらに、日米の教育理論や指導方法を比較検討する。例えば、アクティブ・ラーニングと「主体的・対話的で深い学び」、人格教育（キャラクターエデュケーション）と道徳教育の類似点や相違点を吟味する。</p> <p>（目標） 教育の基礎理論や原理・原則を理解することができるようになること。教育の諸理論をもとに、今日的な教育の諸問題を哲学的に分析すると共に、多面的・多角的に考察することができるようになること。教育学の諸理論を応用して、実際の学校現場で活用・応用できる指導方法を探究することができるようになること。</p>

<p>教養科目</p>	<p>社会科学科目</p>	<p>教育学分野</p>	<p>教育論（学校の社会的意味を問う）</p>	<p>（概要）          多くの子ども・若者が通う「学校」という機関について、社会との関連性を軸に問うていく。学校は何よりもまず、教育機関として存在するが、「そこでの教育は何のために行なわれるのか」ということを詰めていくと、必ずしも自明ではないことが分かる。また、教育が営まれるのは学校だけに限らないし、学校は教育活動以前に社会生活を営む場としてもある。          「学校とは何か」「なぜ学校に通うのか」「学校は必要なのか」などなど、それぞれ多様な解釈が可能で論争的な問いであるが、日常の中ではなかなか問う機会もないし、自分の固有の経験を自明視しがちである。こうした問いに対し、さまざまな視点・角度から学校を捉え返し、自ら考えを巡らせ他者と意見を交わし合うような機会としたい。</p> <p>（目標）          学校は、多くの者が経てきた道であり、各人固有の経験を持っている場であるが、本講義では、自身の経験を自明視せず、相対化して捉えられるようになることを目指す。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>社会科学科目</p>	<p>社会・総合</p>	<p>社会総合（生活の経済）</p>	<p>（概要）          生活に必要な“お金”に関する知識を獲得する。家計に関する知識をつけ、自分の家計簿を3ヶ月間つけることで、実態を知り、分析することで今後の生活改善につなげる。</p> <p>（目標）          家計簿記帳と自己分析と家計に関連する知識の獲得</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、家計のキホンの家計簿のつけ方と分類方法</li> <li>2. お金のイロハ、価格決定のしくみ、おかねのいろいろ</li> <li>3. 家計のキホン（エンゲル係数、貯蓄と預貯金）</li> <li>4. 家計のキホン（黒字と貯蓄の違い、物価指数）</li> <li>5. 一人暮らしのお金、学生のアルバイト</li> <li>6. 給与明細の見方、サラリーマンの家計（人生設計ゲーム）</li> <li>7. 一生涯の収入、共働き世帯の家計、結婚費用と出産費用</li> <li>8. 教育費と計算</li> <li>9. 住宅購入、母子世帯の家計</li> <li>10. 高齢者家計と介護、相続、エンディング・プランニング・ゲーム</li> <li>11. 社会保障制度と自助・公助・共助、生活設計とリスクへの備え</li> <li>12. 年金</li> <li>13. クレジット・多重債務と自己破産</li> <li>14. 金融、銀行の役割</li> <li>15. 円高・円安、単利と複利</li> </ol>	
<p>教養科目</p>	<p>社会科学科目</p>	<p>社会・総合</p>	<p>社会総合（環境、CSR（企業の社会的責任）とマネジメント）</p>	<p>（概要）          人類は豊かで便利な生活を求めて、活発な生産活動や豊かな消費生活を続け、地球上の多くの資源やエネルギーを消費し、地球温暖化やオゾン層の破壊、野生生物の絶滅、砂漠化、熱帯林の減少などの複雑・多様化した地球環境問題を招いています。現代の社会では、生産活動を展開する企業には、利益を追求するだけでなく、法律の遵守、環境への配慮、コミュニティーへの貢献などが求められ、企業の社会的責任（CSR）が問われるようになりました。このことは、教育の場である大学にとっても同様で、「教育・研究」「経済・財政」「環境・社会」の側面から「大学の社会的責任」（USR）が求められています。この講義では、「環境」、さらには「CSR、USR」をマネジメント・システムの一環として捉え、社会の中の企業・大学のあり方、社会人として皆さんが将来どのように社会に貢献していくべきか、を理解することをねらいとしています。</p> <p>（目標）          本講義では、環境責任はもとより、社会的存在としての企業や大学が、いかにしてその社会的責任を果たしていくか、企業におけるマネジメントのあり方、さらにはマネジメント・システムの一環としてのCSRへの取組みを理解し、皆さんが社会に出てから様々な業務をする上での指針を得ることを目的としています。</p>	

教養科目	自然科学科目	数学分野	<p>教養の数学（数学概論Ⅰ（実数と数列））</p> <p>（概要） 微積分学に代表されるように、解析学は数理学の理論的土台の1つである。本講義では、全学共通教育の後に続く専門教育において、特に解析系の科目の理論的基礎を作る。また、大学の数学に必要な用語に慣れもらう。さらに、数学を初めとする科学一般に必要な論理力を養ってもらう。この授業では（極限を含む）数列の知識のみしか用いない。そのため、高校の知識自体は、それほど要求はしないが、内容は決して簡単なものではない。問題も答えを求めるような問題ではなく、殆どが証明である。本講義は、理系の学生や数学に自信のある文系の学生に向いている。教養の数学という名前から想像されるような簡単な内容ではない。“決して単位の取りやすい授業ではない”ので、覚悟を持って臨むこと。</p> <p>（目標） 解析学を学ぶ上で重要な実数の連続性と数列の収束概念について、定義・用語等の基本的な内容の導入から始める。最終的には、<math>N</math>論法を用いた数列の収束の厳密な取り扱いを修得することを目標とする。また、これらを通して、自然科学全般において必要な論理力を養ってもらう。</p>
教養科目	自然科学科目	数学分野	<p>教養の数学（コンピュータのための数学概論）</p> <p>（概要） 記号や整数などの組合せ的な対象を扱う数学は、コンピュータのための数学として近年急速に発達してきているが、その内容は身近な例で理解できるものが多い。本講義では、そうした具体的な問題を扱う方法を体験し修得していくことを目的とする。また、現代では、いたるところにマイクロプロセッサ(小さなコンピュータ)が使用されており、それらは大量のデータに基づいて様々な判断を行うことで人間の推測能力を凌駕しつつある。こうした分野の現状を理解するための基本的な事項の説明と、将来こうしたコンピュータをうまく利用していくためにはどうすればよいのか、などについて講義を行うとともに討論/演習を行う。</p> <p>（目標） 1. パズルや誤り訂正符号の理解を通して、離散的な数学に対する理解力を養う。 2. 命題論理、述語論理の学習を通して、計算機による「思考」の基礎を理解するとともに、自然言語による論理的な推論能力を向上させる。 3. アルゴリズムについて学び、現実社会でのコンピュータの使われ方や役割について学習する。</p>
教養科目	自然科学科目	数学分野	<p>教養の数学（図学）</p> <p>（概要） 3次元物体を2次元平面上の図形で表す各種の投影法を学び、投影図上で3次元立体構成の解析を行う。基礎的な項目としては(1)真上から見た投影図と真正面から見た投影図の、2種類の投影図から、直線の実際の長さを求めることや、三角形の実際の大きさを求めることを学ぶ。(2)空間の2直線が交わっているのか、あるいは交わっていない(交わっていない)かをこの2種類の投影図から判断する方法を学ぶ。講義の後、毎回問題演習を行うことにより講義内容の理解を助ける。</p> <p>（目標） 投影図上で3次元立体構成の解析を通じて各種の造形形態の図的表現法を理解すると同時に、与えられた投影図から3次元物体イメージを構築する能力を高める。</p>
教養科目	自然科学科目	数学分野	<p>基礎代数学（数学概論）</p> <p>（概要） 数学という学問は、紀元前から現代までの長い歴史を持っている。過去の数学者は何を考え、どんなことにチャレンジし、何を得たか。さらに、そのときどきの人間社会とどう関わってきたか。この講義では、歴史的な事柄もふまえながら、いろいろな数学のトピックを紹介し、現代につながる数学を概観する。</p> <p>（目標） 数学の文化とその思考法を理解することによって、教養としての数学を身につける。</p>

教養科目	自然科学科目	数学分野	基礎代数学（古典数学へのいざない）	<p>（概要） 高校まで2次方程式を解くということを繰り返ししてきたと思う。では、3次以上の方程式の解は、その係数に対する四則演算と根号の有限個の組み合わせで表すことができるのだろうか。1830年代エヴァリエスト・ガロアは当時、まだ確立されていなかった群や体という考えを用いて、この問題を考察することを提案した。この講義では、抽象数学の入り口に入り、難しいと言われるガロアの理論を少し体験してもらう。</p> <p>（目標） 群や体の考え方を理解し、3次以上の方程式を解くという意味を理解すること。</p>	
教養科目	自然科学科目	数学分野	基礎解析学（解析学の基礎）	<p>（概要） 一変数関数の微分と積分は、高等学校の数学の授業でも習います。微分や積分は、計算の仕方を曲がりなりに理解できたつもりでいても、何処か得体が知れないものが残るのが通常感覚ではないでしょうか。その奇妙さの由縁は、微分と積分が長さや面積、面積と体積のような異なる次元間の量を繋ぐ道具であり、無限進法に相当するものだからである。どことなく曖昧な無限という概念を紡ぐための道具は、集合である。この授業では、集合の観点から関数の概念を把握し直すことからはじめます。その上で、一変数関数の微積分学のアウトラインを図形的な直感を足場として学びます。また、指数・対数関数や三角関数などの初等関数の定義を理解し直します。それらは、関数の概念をまったく新たに学ぶことだといえよいかと思います。また、論理的な手続きに基づいて微分や積分の計算を記述するための礎を築くこととなります。</p> <p>（目標） (1) 物事を自分の頭で考えて、また、吟味する習慣を身につける必要性を認識する。とくに、論理性が機能しなくなることを防ぐために、"論理的な意味をもつ数式"と"式という名の絵"との間の分別を認識できるようにする。 (2) 微積分学の主要な対象である関数に対して、無定義語の関数による迷信を把握して、本来の対応としての関数とはどのような概念なのかを理解し直す。 (3) 指数・対数関数や三角関数などの初等関数を、どのように定義される関数なのかを把握して理解し直す。</p>	
教養科目	自然科学科目	数学分野	基礎解析学（微分積分学）	<p>（概要） 高校で学習する微積分を基礎に、その復習と大学で新たに学ぶであろう数学を同時に講義する。講義の前半では、初等関数を復習しその性質を確認する。後半では、連続関数の定義から始まり、微分法を復習した後、逆関数の導関数の求め方、対数微分法、平均値の定理を実際に初等関数に当てはめて計算する。</p> <p>（目標） 高校で既に学習済みの内容も多く含むが、それらの復習と共に、正確な記号の定義も含めて学習し直す講義とする。数学的には、逆関数の導関数の求め方、対数微分法、平均値の定理を実際に初等関数に適用できることを学習到達目標とする。</p>	
教養科目	自然科学科目	数学分野	基礎統計学（統計学の基礎）	<p>（概要） 平均値や偏差値、あるいは期待値など統計学から算出される数字は、身の回りにあるさまざまな事柄、例えば視聴率や内閣の支持率、選挙速報など、を示すために良く使われています。講義では、具体例を挙げながらこれらの値の意味や算出方法を学び、統計的データを正しく整理・処理する手法について説明を行うとともに、Excelを使った統計処理方法について簡単な演習を行います。最終的に、統計量について説得力のある説明ができるよう、統計学の初歩について平易に解説します。</p> <p>（目標） 1. 数値データの見方および整理の仕方を理解する 2. データから全体像を推測する手法を理解する</p>	
教養科目	自然科学科目	数学分野	基礎統計学（実感する統計学）	<p>（概要） 統計値として導出される数字は、我々が生活するうえで重要な意味を持つにもかかわらず、示された数字と実際に感覚として感じる印象が異なる経験はないだろうか。本講義では、統計値の数値が持つ本質を、実験などを通して実感しながら、統計学の基礎を学ぶ。</p> <p>（目標） データの整理やまとめ方、統計値の算出方法と使用方法など、統計学の基礎を理解できるようになる。</p>	

教養科目	自然科学科目	物理学分野	物理学入門（身のまわりの物理学）	<p>（概要） 高校、大学で学んだ物理学を現実の世界に持ち込み、応用に活かしていくのは意外に大変なことです。その多くの原因は物理現象を表現しているはずの数式から物理を感じとりにくいことが原因ではないでしょうか？そこで、本講義では、身の回りで目にする物理現象や電子・機械産業製品などを題材にしながら、高校で学んだ物理学を咀嚼し、時には数学で表現された物理学を正しく理解することによって応用力を身につけることをねらいとします。</p> <p>（目標） 1．身の回りにある電子・機械機器に隠れた物理を見抜き、応用する力を身につける 2．身の回りで見られる自然現象を理解する能力を身につける 3．基本的な物理学を理解し、応用技術へ発展させる能力を身につける</p>
教養科目	自然科学科目	物理学分野	物理学入門（現代物理学の基礎（相対論と量子論入門））	<p>（概要） 現代物理学は今日の高度な科学技術を根底で支える礎石であるとともに、ミクロな素粒子からマクロな宇宙まで、この世界の成り立ちを理解するために不可欠な学です。本授業では、「古典物理学の成立と崩壊」の過程を概観し近代以前の物質観・世界観について考察した後、現代物理学の主要な柱である「相対性理論」と「量子力学」の成立過程を学び、20世紀以降に発展した新しい物質観・世界観について考察します。</p> <p>（目標） 19世紀までに築かれた「古典物理学」は、身近な物体の運動の説明には有効であるが、近似法則であること、及びその物質観・世界観には欠陥があることを理解する。また、「古典物理学」を超越し自然の真の姿により迫る物理法則として「相対性理論」や「量子力学」が誕生する契機となった重要な現象の発見や思考実験について学習し、これらの法則の基礎と現代物理学に基づく自然像について理解する。</p>
教養科目	自然科学科目	物理学分野	教養の物理学（物理学の基礎）	<p>（概要） 将来、物理学の修得が必要となる1年生を対象とした、物理学の基礎についての講義である。「力学」、「電磁気学」の単元について扱う。これらの修得に必要な数学等の知識も合わせて授ける。</p> <p>（目標） 問題を式に表すこと、式変形、結果の解釈などは基礎的必須事項であるが、グラフ等を用いて結果を可視化し解をイメージする能力も身に付ける。</p>
教養科目	自然科学科目	物理学分野	教養の物理学（雷の科学）	<p>（概要） 雷は、身近で発生する巨大な放電現象である。昔の人々は、洋の東西を問わず、雷を神の怒り、神の仕業と考えてきた。18世紀に、フランクリン等によって雷が電気現象であることが実証された。20世紀に入ると、数多くの観測装置が開発され、それらの性能が高まるにつれて、雷の正体が次第に明らかになりつつある。一方、物理学者ハッブルがドップラー効果と三角関数を使った測量で宇宙が膨張していることを発見してノーベル賞を受賞したように、雷研究においてもその過程で使われた知識の大半は高校までで習う内容である。この講義では、高校までに習った物理の理解を深め、雷の正体を明らかにすると共に、習った知識を使いこなせるようにする力を身につけることに力点を置いている。</p> <p>（目標） 本講義では、 1．雷放電現象、地球における雷の役割および雷から身を守る方法を理解する。 2．雷現象を通して、高校までに修得した数学・物理学の内容を理解する。 3．習った知識を現象や機器に適用・応用する力を養う。 を学習到達目標としている。すなわち、一見難解な雷という現象を高校までの知識で論理的に理解することによって、自らのように雷から身を守るか考えられるようになり、第一線での研究においても高校までの知識を用いて行われていることを知ることである。修得した知識が使える知識となり、さまざまな問題解決へとつなげられるようになること授業の目的としている。</p>

教養科目	自然科学科目	物理学分野	<p>教養の物理学（物性の力学）</p> <p>（概要） 我々の身近にある物はなんらかの物性を有しており、それらの性質は、すべからずその物性によって共通に示される。力学的観点から見た場合、物性は固体・流体の弾性及び粘性としてマクロ的に近似・区別される。これらをふまえ、本授業では物性の力学について日々の日常的な現象と関連づけてわかりやすく講義する。</p> <p>（目標） (1)固体・流体の力学的性質について理解を深める。 (2)身近な力学的現象について科学的に捉えることが出来る</p>
教養科目	自然科学科目	物理学分野	<p>教養の物理学（力学現象の数学的見方）</p> <p>（概要） 物体の運動や水や空気の流れなどの力学現象を、きちんと捉えて分析しようとするとき、我々は数学という言葉を用いる。泳ぐ、飛ぶ、歩く、などということ。このような身近な力学現象を、特に運動という側面に注目し、数式で具体的に表してみる。これらの運動はいずれもすべて目に見えている事象であるが、適切に捉えて数学という言葉で語ることは、意外と難しい。というのも、我々は日常、見えているものを見ておらず、見ようとしているものを見ておらずに過ぎないためなのだ。そこで本授業では、「いままでそういう視点では見ていなかった」というものをしっかりと捉えるように概念の構築を図ったうえで、目に見えている現象とその数式表現を一体のものとしてほしい。</p> <p>（目標） (1)高校数学の発展的な利用法を修得する。 (2)道具としての大学教養数学（線形代数・微分積分・ベクトル解析）や、各種の力学系科目への導入を支援するという側面から、大学教養数学を実社会の力学問題へ応用展開するための知識を修得する。 (3)空間中での運動を図解できるようになる。</p>
教養科目	自然科学科目	物理学分野	<p>教養の物理学（日曜大工からはじめる力学）</p> <p>（概要） 本講義では、以下の2つの視点を交互に実施します。 A)「高校物理」の「力学」を再認識（班活動）： 身近な物品を使って高校物理の力学を実際に体験します。既に知っていることでも、頭の中だけでなく実際に体験してみると、新たな気づきがあり理解がより深くなるはずですよ。これを踏まえて、いくつかの発展的課題にも触れる予定です。 B)工作を通してモノづくりのための「材料力学・構造力学」を体験（班活動）： 発泡スチロールを熱線カッターで切って、またバスタを接着剤で組み立ててできるだけ「強い」ブリッジを作ります。そのうえで、これらのブリッジにおもりを載せていったときの壊れにくさを競います。このような工作と実験を通して、「モノづくり」の基礎となる力学や設計の考え方を学びます。</p> <p>（目標） 本講義を受講することにより、皆さんが身の回りの「力学」に目を向ける機会が増すことを期待します。また、これをきっかけに、純化する方向では「数学」に、応用する方向では「工学」や「モノづくり」にも興味を持ってもらえるとうれしいです。</p>
教養科目	自然科学科目	物理学分野	<p>現代物理学（現代物理のトピックス（ポピュラーサイエンス））</p> <p>（概要） ポピュラーサイエンス（通俗科学）とは、「科学知識を難解な専門用語を用いずに、平易な表現や図解で一般大衆にもわかりやすく説明したものの（wikiより）」である。本講義では、現代物理学の多岐に渡る話題を、ポピュラーサイエンスの精神に則ってできるだけ数式を用いずに解説する。</p> <p>（目標） 様々な物理学の話題に触れ、物理学の考え方を理解する。 簡単な英文記事等を読み、英文読解力を身につける。</p>

教養科目	自然科学科目	物理学分野	現代物理学（表面張力の物理学）	<p>（概要） 滴（しずく）や泡（あわ）は、日頃から親しみのあるものだが、多くの疑問を投げかける。本講義では、このような毛管現象と濡れ現象を、実験や工業での具体例を豊富に取り上げながら解説をし、身近にある現象から科学の本質を学ぶことを授業のねらいとする。毛管現象から表面現象の物理計算をできるようにするのが、本講義の目標である。</p> <p>（目標） 身近にある毛管現象を導入としてラプラスの式の理解や表面の濡れ現象を理解する。</p>
教養科目	自然科学科目	化学分野	化学入門（日常生活でよく見る化学現象や化学製品を学ぶ）	<p>（概要） 私たちのまわりには「化学」が関わる様々な現象や製品に満ち溢れています。たとえば、ドライクリーニングは、石油系溶剤で洗うので油汚れや皮脂の汚れに効果的、一方、汗やジュースの汚れは家庭用洗濯機で水洗いが効果的です。お風呂の洗剤とトイレの洗剤を両方使うともっときれいになるかと思って使ったら塩素ガスが発生して亡くなった主婦のお話。水のこと、5大栄養素、うまみ成分（昆布、鰹節、干しいたけから発見）、発酵食品の製法と効能、プラスチック、エネルギー、電池などみんな「化学」です。こんな卒業後も役立つ「化学」の基礎知識をいっぱい紹介します。身のまわりの様々な現象も「化学」を学習することで初めて理解でき、説明に納得がいき、充実した社会生活、日常生活を送ることができます。本講義では、少しでも「化学」に親しんでもらうために身近なものや事例をとりあげて、ご自身の実体験とともに整理しながら「化学」の重要性を理解していきます。</p> <p>（目標） 1. [知識・理解] 化学の基本的概念を理解する。 2. [思考・判断・表現] 化学に関して修得、理解した知識を、日常生活と結びつけて科学的・総合的判断に活用することができる。 3. [関心・意欲・態度] 化学と日常生活との関わりに興味や関心を持ち、主体的、意欲的に学習に取り組むことができる。</p>
教養科目	自然科学科目	化学分野	化学入門（身近なものから学ぶ化学）	<p>（概要） 我々は、様々な物質に囲まれて生活しています。身の回りの便利な製品、地球上の自然現象、我々の身体など、あらゆるところで状態変化と化学反応が起きており、それらは化学的に説明することができます。本講義では、身近なものに焦点を当て、ほりくだき、教科書に載っている化学現象へと結びつけることを目的とします。0.1ナノ（10のマイナス10乗メートル）の大きさの原子から説明し、それらが繋がって分子、高分子、固体とサイズが大きくなっていく様子を、聞きなれたモノと関連づけながら、「化学」を学びます。</p> <p>（目標） 「化学」は、暗記するものではなく、論理的に理解する学問です。身の回りにある化学現象に気づき、疑問に思い、理解するプロセスを、自分の中にもてるのが最も大切な目標です。高校までに修得すべき「化学」を中心に、大学初年次に学ぶ内容もとり入れ、系統的に「化学」の基礎を学びます。</p>
教養科目	自然科学科目	化学分野	化学入門（身の回りで起こる現象から最先端技術に関わる化学）	<p>（概要） 我々は、身の回りで起こる現象から最先端技術まで、化学に関わる現象が関与しています。本講義では、身の回りで起こる現象から最先端技術について「化学」を学習することで初めて理解でき、説明に納得がいき、充実した社会生活、日常生活を送ることができます。本講義では、少しでも「化学」に親しんでもらうために身近なものや事例をとりあげて、ご自身の実体験とともに整理しながら「化学」の重要性を理解していきます。</p> <p>（目標） 1. [知識・理解] 化学の基本的概念を理解する。 2. [思考・判断・表現] 化学に関して修得、理解した知識を、日常生活と結びつけて科学的・総合的判断に活用することができる。 3. [関心・意欲・態度] 化学と日常生活とのかわりに興味や関心を持ち、主体的、意欲的に学習に取り組むことができる。</p>

教養科目	自然科学科目	化学分野	<p>教養の化学（化学概論）</p> <p>（概要） 化学は物質の性質や反応を扱う学問分野です。私たちのまわりを見渡したとき、多種多様な物質があります。それらは、生物のからだを形成したり、生命現象のエネルギー源となったり、大気等の環境を構成したりと様々です。 この授業では、主に色に着目した講義および多くの実験を通して、化学に関する様々な事柄を体験的に学びます。主に色に着目した具体的な化学反応を題材として、様々な化学的現象を体験します。また、化学現象に慣れるために、受講生自らに、実際に実験をできるだけ多数行ってもらいます。</p> <p>（目標） （１）環境によって化学現象が変化する可能性を理解する。 （２）検出限界について理解する。 （３）化学変化が検出される前でも化学反応が進行する可能性があることを理解する。 （４）化学的な振動現象の存在を理解する。 （５）化学的エネルギー変化が発光現象をもたらす可能性を理解する。</p>	
教養科目	自然科学科目	化学分野	<p>教養の化学（現代の視点から、古典に学ぶ（化学系））</p> <p>（概要） 化学史上の発見が現代の技術にどのような形でつながってきたか考えます。有機材料化学、高分子化学、医薬品化学、分析化学、無機材料化学等の分野でのトピックを紹介しながら、化学を楽しみます。化学の基礎や応用を違った切り口で見、化学を学ぶ糧とします。</p> <p>（目標） 化学が世の中でどのように役立っているかを知るとともに、それぞれの分野での基礎を理解することを到達目標とします。</p>	
教養科目	自然科学科目	化学分野	<p>教養の化学（有機化合物を分子模型で探る）</p> <p>（概要） 自然界にも莫大な数ある有機化合物、基本は水素、炭素、酸素、窒素原子からなる。その二次元のネットワークに加えて、最も単純な有機化合物であるメタンでさえ、三次元構造を持つ。そこで講義では、分子模型を使いながら、三次元構造をつくる基本を学ぶと同時に、それらの性状や用途についても修得する。</p> <p>（目標） この講義を受講した後に、医薬品、化粧品、アメニティ製品を手にすると、思わずその成分表示を見る自分に気がつく。しかもそこに記された多くの成分のうち、いくつかについては化学構造式や三次元構造がイメージできるようになっている。</p>	
教養科目	自然科学科目	化学分野	<p>教養の化学（化学結合と反応のしくみ）</p> <p>（概要） 樹脂、繊維、金属などの材料や化成品、食品、医・農薬、化粧品、エネルギーなど、現代の生活における化学物質の役割は多岐に渡る。私たちの体も化学物質から成り立っており、生命活動には化学反応が関わっている。すなわち、私たちの生活と化学は不可分とも言え、教養としても最低限の化学的知識を身につけることが望まれる。本授業では化学物質の成り立ち、性質や機能、化学的な変化など、化学の基礎的な概念について学習する。まず、原子構造から化学結合と構造についての基礎的事項を解説し、それが物質の性質や反応とどのように結びついているかを学ぶ。続いて、有機化合物を中心に、化学反応がどのようなしくみで起こり、どのように活用されているのかについて、具体例をあげながら解説する。</p> <p>（目標） 身近にある化学物質の構造や性質、機能を理解するために必要な化学の基本的な考え方を修得する。 化学結合の成り立ちと物質の構造について、原子構造と電子の軌道をもとに説明できる。 化学式、化学反応式の意味を理解し、正確に記述できる。 構造式から有機分子のおよその性質と反応性を予測できる。 化学反応の速度と化学平衡についてエネルギーと関連付けて説明できる。 物質の状態や物質間の相互作用について、分子間に働く力をもとに説明できる。 身のまわりにある化学物質や化学反応の利用について興味を持つとともに、化学的な解釈ができる。</p>	

教養科目	自然科学科目	化学分野	現代化学(ケミカルエンジニアリング入門)	<p>(概要) ケミカルエンジニアリング(化学工学)とは、実際の化学産業において最も需要の高い学問領域である。本講義では、化学工学の初歩的な知識、実際の化学産業、またそこに使われる材料などについて学ぶ。</p> <p>(目標) 化学工学を基本として、実際に実用化、商業化されている事例や身近にある現象に触れ、教養としての化学工学を学び、理解する事を本講義の到達目標とする。</p>	
教養科目	自然科学科目	化学分野	現代化学(プラスチック材料の基礎)	<p>(概要) ビニール袋とポリ袋の違いは？ プラスチックを燃やすと本当に環境に悪い？ プラスチックは身近な材料ですが、皆さんはその性質の多様性を知らずに使用しています。ペットボトルには、耐熱タイプと耐圧タイプがあることを知っていましたか。プラスチックの容器に消しゴムがくっついてしまったことはありませんか、熱い車内でファイルケースが曲がってしまった経験は如何ですか。プラスチックには融点がないものもあります。融点がなくとも融けます。なぜこのような事が起こるのでしょうか。プラスチックは、高分子と呼ばれる長い鎖状の分子からなる材料です。この長い鎖の形に秘密があります。身の回りに存在するプラスチック、すなわち高分子材料について、一歩踏み込んだ見方ができることを目的として平易に講義します。前半は、理解に必要な構造と性質について、後半は、日常に関わる特性について講義します。</p> <p>(目標) 1. 高分子の構造について理解します。 2. 高分子の物性について理解します。 3. プラスチックの用途と性質について理解します。</p>	
教養科目	自然科学科目	化学分野	現代化学(ソフトマター)	<p>(概要) 私たちは“やわらかい物質”を生活の様々な場で利用しています。たとえば、自転車や自動車のタイヤには柔軟で弾力のあるゴムが利用されていますし、化粧品にはクリーミーなエマルジョンが欠かせません。ソフトマターとは、このようなポリマー、エマルジョン、液晶などの“やわらかい物質”のことです。本講義では、ソフトマターの基礎と応用について学びます。</p> <p>(目標) (1) コロイドについての基本的な性質を理解し、コロイドの分散状態とマクロな特性の関係を理解できること。 (2) ポリマーと液晶についての基本的な性質を理解し、身の回りのポリマー材料および液晶材料が機能を発現するメカニズムを想像できるようになること。 (3) 物質の表面や界面の特性を知ると同時に、接着剤・粘着剤などとの相互作用を界面化学的視点に立って考察できるだけの学識を得ること。</p>	
教養科目	自然科学科目	生物学分野	生物学入門(現代生物学入門)	<p>(概要) 生物学は広範な学問領域と関連し、学問自体が急速に進歩している。本講義では、最新の知見に触れながら、専門教育で実施される生物科学に関連する開講科目を理解するために必要な知識・思考方法を修得することを目的とする。</p> <p>(目標) 生物は複雑な化学反応を営む装置であるが、その元となる全ての情報は核酸の配列として保持され子孫に受け継がれている。この情報は発現すると、生体触媒である酵素や頭髪のようなそれ自体が構造を持つタンパク質となり機能する。このシステムにより多種多様な化合物を合成・分解することが生命活動であるが、生物はシステム自体を維持する仕組みも持っている。これらを理解する基礎として、遺伝学、生化学、生理学に関わる内容について講義する。受講を通じて、現代生活に必要な生物学の概念を身に付けることを目標とする。</p>	

教養科目	自然科学科目	生物学分野	生物学入門（微生物と病気）	<p>（概要） 生物学・生命科学は前世紀に最も進歩した自然科学分野であり、その勢いは現在も継続・加速しています。その一方で、生物学の理解が必要な分野に進もうという学生ですら、受験制度などの影響により、大学入学前に生物学をきちんと学習しているとは言い難い状況にあります。この授業では、分子生物学をはじめとする現代生物学をはじめから読み起こして、そこで主役を果たした細菌などの微生物や、微生物によるヒトの感染症など身近な話題も織り交ぜながら、生命というシステムの理解を目指します。</p> <p>（目標） 現代を生きる人間として相応しい生命科学の知識を身につける。関連する様々な社会的な問題について、自ら考え決断できる礎を築く。生命科学系の専門分野に進む学生にとっては、基礎となる知識を身につける。</p>
教養科目	自然科学科目	生物学分野	教養の生物学（動物と病気）	<p>（概要） 哺乳類や鳥類の体はどのような臓器を持っているのでしょうか。また、それらの臓器はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。動物やヒトが健康に生きていく上で、各臓器は巧妙で複雑な仕組みでその役割を果たしています。それらの仕組みを理解するとともに、それらの仕組みが異常になった時に病気が発生するのです。病気の原因と異常状態を正確に理解すること、これが病気を治すことにつながるのです。この講義を受講することにより、自分の体について今まで以上に興味を持つようになり、健康に気をつけて、充実した毎日を送れるようになれば幸いです。</p> <p>（目標） 1. 動物やヒトの各臓器の構造と機能について理解する。 2. 動物やヒトの代表的な病気について、その原因となっている臓器の異常状態について理解する。 3. 動物やヒトの各臓器の正常と異常の相違点を知ることによって、病気の治療や予防について考えることができる。 4. 動物やヒトが健康に生きていく上で不可欠な、巧妙に関連し合っている臓器間の相互作用を理解する。 5. 講義内容を理解して、自分の生活習慣を顧みて、健康に生活する術を知り、実践する。</p>
教養科目	自然科学科目	生物学分野	教養の生物学（ヒトのからだ）	<p>（概要） “ひと”（人、ヒト、人間、人類）を対象とする学問分野がどんどん増えています。“ひと”をどのような切り口でとらえるにしても、生き物としての“ヒト”の特性を無視しては、“ひと”を正しく理解することはできません。この授業では、“ひと”に関係する学問分野を志向する学生を対象に、形ある生き物としての“ヒト”を知っていただきたいと考えています。</p> <p>（目標） 多彩な特性を有する生き物としてのヒトのからだを、包括的に理解することを目標とする。</p>
教養科目	自然科学科目	生物学分野	教養の生物学（生命の仕組み）	<p>（概要） 受験科目としての生物学は、暗記科目として認識されることが多い。生物学は実験をベースとした学問であり、高校までの授業の中でそのおもしろさを表現することが難しいということである。この授業のねらいは、記憶することを主体とした学習から、能動的に考える学習へ転換することにある。簡単な言い方をすると、100点満点のある世界から抜け出すことを目指すことになる。 このようなねらいを達成するために、生命が私たちに見せてくれる巧妙で合理的な仕組みを題材とする。生命の仕組みは、長い時間をかけて作り上げられたものである。優れたものだけが生き残る自然淘汰の中でできあがったものなので、私たちの想像を遙かに超える感動的な仕組みとなっている。知識の押し売りではなく、生物学のおもしろさを伝える授業、一緒に考えながら学ぶスタイルの授業を目指す。</p> <p>（目標） 生命の仕組みが、いかに巧妙で合理的であるかを理解すること。 興味を持った内容について、自ら調べ、他の人に説明できるレベルにすること。授業の内容を発展させ、自らの考えを文章としてまとめること。</p>

教養科目	自然科学科目	生物学分野	<p>教養の生物学（分子から地球レベルの光合成）</p>	<p>（概要） 光合成で固定された太陽エネルギーは、地球上のほとんど全ての生命を支えています。また、光合成生物の誕生以来、延々と続けられてきた光合成活動によって固定された二酸化炭素は化石燃料として蓄積され、放出された酸素は現在の大気重要な成分です。食糧生産やバイオマス生産など我々の生活に必要な物質やエネルギーの生産を考える上でも、また、化石燃料の使用による二酸化炭素濃度の上昇の仕組みや人間活動への影響を考える上でも光合成に対する理解は必要です。この講義では、分子レベルでの光合成の仕組みを解説し、分子から地球レベルまでの幅広いスケールで光、温度、二酸化炭素などの環境要因が光合成に及ぼす影響を解説し、植物生産や地球環境の保全・修復における光合成の役割について考えます。</p> <p>（目標） ・分子レベルでの光合成の仕組みについての理解 ・葉緑体～群落までの各スケールでの光合成の環境応答についての理解 ・光合成と人間活動（食糧や木材、バイオマス資源の生産）についての理解 ・光合成に関する知識を基に地球環境問題を光合成の視点から考える能力</p>	
教養科目	自然科学科目	生物学分野	<p>現代生物学（ウイルスの話）</p>	<p>（概要） 「ウイルス」とはどのような存在かを様々な視点から考えます。「ウイルス」は目に見えない病気の原因として見つけられ、今でもインフルエンザや麻疹、エボラ出血熱、高病原性鳥インフルエンザ、豚コレラなど現代社会の脅威として捉えられています。その一方で、技術の進歩により、ウイルスは病気とは無関係に広く自然界に存在していることがわかってきました。さらに、人を含む動物の進化にも深く関わっているらしいこともわかってきました。さらに、「目に見える」ウイルスも見つかっています。この授業では、古くて新しい課題である「ウイルスとは何か」をみなさんと一緒に学び、考えます。</p> <p>（目標） 「ウイルスとは何か」について、自分なりの考えを持ち、他の人に伝えることができるようになることです。</p>	
教養科目	自然科学科目	生物学分野	<p>現代生物学（生き物よもやま話）</p>	<p>（概要） みんなで生き物の不思議さや面白さ、すごさを味わいましょう。最近、400歳を超えると推定されるサメの存在が報告されました。世界にはまだ私たちの知らない生き物がたくさんいるはず。また、生き物には私たちの知らない能力や自然界での役割がたくさんあります。環境の維持、感染症、生き物にとりついて暮らす別の生き物など、生き物にまつわる話はきりがありません。この講義では、様々な視点から生き物とは何かを考えていきます。</p> <p>（目標） 「生き物のすばらしさを実感すること」です。そして、その「実感」を文章で表現し、他者に伝える事です。</p>	
教養科目	自然科学科目	生物学分野	<p>現代生物学（薬の細胞生物学）</p>	<p>（概要） 現在、種々の疾病に対する創薬研究が盛んに行われており、特に、ゲノム創薬分野では、標的タンパク質情報を基に薬物がつくられ、それが利用されている。そこで本授業では、「薬とは何か」からはじめ、薬物作用の基礎の基礎および、先端研究の一部などを解説したい。</p> <p>（目標） 特に以下の項目について、理解し、自らが説明できるようになる。 1. 薬とはどのようなものか 2. 薬はどのようにしてつくられるのか 3. 薬はどのようにして作用するのか 4. 創薬に関わる技術にはどのようなものがあるか</p>	

教養科目	自然科学科目	医学分野	現代医学（生体防御・腫瘍病理基礎）	<p>（概要） 今日、高齢化社会を迎え癌制圧は重要な課題として位置づけられている。日本人の死因のトップを占める癌は、どのような仕組みで発生するのか？また、癌にならない予防法はあるのか？知っておかなければならない、癌研究に必要なbiotechnologyはなにか？などを学んでいく。 一方で、アレルギー、自己免疫疾患の制御も重要な課題であり、生体防御としての免疫のシステム・その異常が引き起こす病態についても知っておく必要がある。</p> <p>（目標） 本授業のねらいは、腫瘍の成り立ち、予防、あるいは免疫のメカニズムの理解を深め、各人が健康で文化的な生活の確立に役立てることになります。本授業により腫瘍や免疫に興味を持ち、将来のさらなる学習あるいは研究に役立ててくれたら幸いです。</p>
教養科目	自然科学科目	宇宙地球科学分野	宇宙地球科学入門（天文学への招待）	<p>（概要） ビッグバンから始まる宇宙の創生と進化、銀河の生成、暗黒星雲の中での太陽系、惑星系の生成について、生命とのかかわりを学ぶ。また、日食や月食、流星群などの天文現象について解説することで天文学の面白さを学ぶ。</p> <p>（目標） 太陽系、銀河系の概要を理解する。生命が宇宙の進化に伴って発生したことを学び、地球外生命の存在について思いをはせる。</p>
教養科目	自然科学科目	宇宙地球科学分野	教養の宇宙地球科学（気象学概論）	<p>（概要） 大気を中心に地球表面で起こるさまざまな現象を論じて、我々の住む日本の多様な気象現象を理解し、その背後にある物理法則にも触れるために、具体的な天気図等の気象資料を基に気象学を入門的に概観する。</p> <p>（目標） 各種気象資料の見方を修得し、さまざま気象現象とその背後にある物理法則を概観し理解する。 国家資格・気象予報士試験に合格する程度に気象資料解読の基礎知識を修得する。</p>
教養科目	自然科学科目	宇宙地球科学分野	教養の宇宙地球科学（地球環境の変遷）	<p>（概要） 地球は液体としての水が存在する唯一の太陽系惑星である。水と大気と大地のめぐまれた地球環境の中で人類は今、進化の絶頂にあると同時に環境の破壊を進めている。現在の地球環境は一朝一夕にして生まれたのではなく、46億年という途方もなく長い時間の中で、いくつかの偶然と、水（海）の存在と、その中で生まれた生命の働きと進化により、形成されてきた。そうした46億年にわたる地球環境の変遷をたどり、さらには地球環境の未来を考えてみたい。講義では、まずは水惑星・地球の誕生と海の中での最初の生命誕生の不思議を探り、これら原始生物の活動による大気組成の変遷と、ドラマティックな恐竜の絶滅の不思議を探る。その後、化石エネルギー資源の形成や資源エネルギーの現状を語り、最後には、地球環境の抱える問題を語る。</p> <p>（目標） ・地球誕生から現在に至る地球環境の変遷を理解する。 ・地球環境の形成にきわめて長い時間を必要とすることを理解する。 ・未来における地球環境の問題点を理解する。</p>
教養科目	自然科学科目	宇宙地球科学分野	教養の宇宙地球科学（ESD入門）	<p>（概要） ESD（Education for Sustainable Development）に関連する活動事例やその背景を紹介し、同時にそこで題材とされている現象が地球史においてどういった位置づけにあるのかを示す。 共通の題材に対して、現代社会における持続可能性を考える視点と、地球規模の歴史としてとらえる視点を対比することで、自分自身がどのように物事を考えていこうかを見直す機会としたい。</p> <p>（目標） ESDについて自分なりに整理して説明することができる 複数の考え方を対比して自分の立ち位置を説明することができる</p>

教養科目	自然科学科目	宇宙地球科学分野	現代宇宙地球科学（宇宙科学）	<p>（概要）</p> <p>宇宙は極めて広大なため、直接手にとって観察したり、実験したりすることが難しい。人類は、何億光年も彼方の天体からのシグナルを丹念に拾い集め、限られた観測事実から厳しい論理力や柔軟な発想力をもって、徐々に宇宙の姿を明らかにしてきた。本講義では、その一連の流れをできる限り追体験することで、科学的なものの考え方、また問題解決のアプローチの仕方について理解を深める。実際の観測データを用いて、実習（計算やグラフ化）やレポート課題に取り組むことで、宇宙の基本的な観測原理と手法を学ぶ。また、現代における宇宙観測の技術や装置開発の最前線についても造詣を深めてほしい。</p> <p>（目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科学的な考え方の基礎を理解すること。</li> <li>2) ものごとの大枠やエッセンスを的確に捉え、自らポイントを取捨選択する能力をつけること。</li> <li>3) 高校から大学への勉強の仕方への転換を図ること。</li> </ol>
教養科目	自然科学科目	環境学分野	教養の環境学（自然災害と生活）	<p>（概要）</p> <p>地震や火山噴火、あるいは台風や豪雨といった現象は、それ自身は自然現象であるが、それらが人間活動と接するところで時として恐ろしい災害を引き起こす。いずれの現象もそのエネルギーの巨大さゆえに、人類の英知だけで現象そのものを押さえ込むことは不可能である。本講義は、こうした自然災害から我々の生命・生活・財産を守るために科学が果たし得る役割について考え、受講生の「防災力」を高めることを目的とする。前半では、台風や豪雨のような気象災害に関して、自然現象としての特徴について学び、それらの監視予測技術、水害を防ぐシステムなどについて考える。後半では、日本および世界各地で起きた過去の地震・火山・地すべり災害の実例とその要因となる自然現象のメカニズムについて学び、その被害の特徴と災害対策について考える。</p> <p>（目標）</p> <p>自然災害のもととなる地震、火山噴火、斜面変動、豪雨、暴風といった自然現象のメカニズムや特徴を理解し、それらに対する「防災力」を身につけることを目標とする。</p>
教養科目	自然科学科目	環境学分野	教養の環境学（生物の多様性と人間社会）	<p>（概要）</p> <p>生物多様性とは何でしょうか？ 生物多様性はどのようにして生み出されてきたのでしょうか？ またどのように維持されているのでしょうか？ 生物多様性の危機とは何でしょうか？ なぜ、今人間社会は生物多様性について語らねばならないのでしょうか？ 人間の生活の過去、現在とどのような関係を経験してきたのでしょうか、また将来にはどのような関係に至るのがよいのでしょうか？ その具体的な手だてはあるのでしょうか？？？このような問題について論じます。</p> <p>（目標）</p> <p>自分たちの身の回りにどのような生き物がいるのか、それらはどのように進化してきたのか、そしてそれらは自分たちの生活にどのような関係を持っているかを理期する。このような理解に基づいて生物多様性の重要性と現状を理解し、将来に向けてのあり方を論じる能力を身に付ける。</p>
教養科目	自然科学科目	環境学分野	教養の環境学（土の物理的環境）	<p>（概要）</p> <p>陸上の生き物は土の上で命をはぐくんでいる。草木や作物は土に根を張って育ち、植物が光合成により固定した太陽エネルギーは、動物が生きていくために利用される。その一方で、地すべりや地盤沈下といった災害は、人間に被害をもたらす。このように土は、われわれの生活と深い関わりを持っているものの、そこで生じるさまざまな現象については意外に知られていない。土って石が細かく砕けたものでしょ？ いろんな色の土があるのはなぜ？ 土はどうしてねばねばしているの？ 植物はどうやって水を吸うの？ 霜柱ってどうやってできるの？ 砂漠に雨が降らないのはなぜ？ 本講義では、このような身近な疑問を取り上げながら、土や水の理化学性、土の中での物質の動態、土壌劣化、地表面における水と熱の輸送、土壌圏と植物圏と岩石圏と水圏と大気圏との関連などをわかりやすく解説する。</p> <p>（目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 理科系の受講生も文科系の受講生も、それぞれに「土」の諸性質や「土壌圏」の役割に対する理解を深めてもらう。</li> <li>2) 「土壌圏」とそれを含めた地球環境全体で生じる水や物質やエネルギーの循環と人間活動との関わりを理解する。</li> </ol>

教養科目	自然科学科目	環境学分野	<p>教養の環境学（生物生産と環境）</p> <p>（概要） 生物生産と環境との関係を農業生産，健康の観点から解説する。</p> <p>（目標） 本授業により，生活・命の基盤である食料生産と地球環境との関係に関する近年の情報を吸収し，科学的に理解する能力を身につける。</p>	
教養科目	自然科学科目	環境学分野	<p>現代環境学（エネルギー問題）</p> <p>（概要） エネルギー問題は，資源の少ない日本のみならず地球環境問題と強く結びついた重要な課題です。本講義では，エネルギーの基礎から今日の地球環境問題，これまで使われてきた化石燃料とこれからのエネルギー資源，その活用法・課題について概説し，受講生がエネルギー問題を考えるために必要な知識を修得し，エネルギー利用と地球環境に対する意識が高まることを目標に講義をします。</p> <p>（目標） 1. エネルギー問題の本質を正しく理解すること。 2. エネルギー問題と地球環境問題の関わりについて理解すること。 3. 各種エネルギーの特徴とその活用に関する現状，利点と欠点について理解すること。 4. 日本及び世界のエネルギー事情を把握し，将来に向けてエネルギー問題への実行可能かつ具体的打開策を各自が提案・発信できる能力を身につけること。</p>	
教養科目	自然科学科目	環境学分野	<p>現代環境学（生物多様性を支える森林と動物たち）</p> <p>（概要） わが国の生物多様性国家戦略は，「生物多様性条約に基づき，生物多様性の保全と持続可能な利用に関わる国の施策の目標と取組の方向を定めたもの（環境省のウェブサイトより）」と位置づけられています。しかし，その記述は，保全に関わる目標や方向のみならず，我が国の現状や課題等にも言及されています。本授業は，最新の「生物多様性国家戦略2012-2020」の記述を基盤に，「森林科学・動物園学・野生動物学的視点から保全生物学」の基礎力修得を目的に企画しました。</p> <p>（目標） 1. 保全生物学に関する基礎知識，生物多様性国家戦略の策定経緯を正確に把握する 2. 我が国の抱える保全生物学上の諸課題を認識する 3. 上記の諸課題の解決に向けての方向性や社会的制度，科学的基盤などに関する理解を深める 4. 後に学ぶことになる関連専門科目のための基礎知識を修得するとともに，保全生物学に関わる専門職業人としての考え方や倫理観なども身につける</p>	
教養科目	自然科学科目	環境学分野	<p>現代環境学（世界の食料と人口問題）</p> <p>（概要） FAO（国連食糧農業機関）は，減り続けていた世界の飢餓人口が一昨年来の世界食糧危機のために増加に転じ10億人超になったと警告を発している。すでに地球人口は70億人に達し，生態環境の変化，地球温暖化や紛争，バイオマス燃料への転用，多国籍企業の支配や金融危機などの要因が複雑に絡み合っ，需給が非常に不安定になり世界の穀物価格の変動が激化している。食料の生産から食卓までのさまざまな側面に，現代社会のかかえる深刻な問題がはらまれていることを多面的に解明する。</p> <p>（目標） 世界的な問題を自らの立ち位置から理解し，思考を深めることが目標である。本講義で取り扱う内容は，農学，獣医学，食料科学，経済学などに関わる今日的な内容である。それらを材料として総合的に理解を深める作業を通じて，ものごとを多面的に取り扱う能力を伸ばしてゆく。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （110 小山博之/3回） ガイダンスと導入 食料生産とバイオテクノロジー （11 李侖美/3回） 食料需給構造の現代の特徴 - 不足と過剰との併存 - （186 山根京子/3回） 植物利用の歴史と現状 （188 松山勇人/3回） 食糧問題と動物の保健衛生環境 （105 中川智行/3回） 世界の発酵食品</p>	オムニバス方式

教養科目	自然科学科目	環境学分野	現代環境学（ESD実践研究）	<p>（概要） ESD（Education for Sustainable Development）に関連する実践研究の題材を選択し、チームを組んでそこにある課題について検討を進め、課題の解決や改善に向けた提案をまとめる。 実践研究はグループワークが中心となるが、それ以外に共通の実習を前期に引き続き実施する。</p> <p>（目標） 常に目的意識を持って課題に取り組むことができる。 目的に応じて適切な情報収集と分析を行うことができる。 グループワークの中で適切な傾聴と発信をすることができる。</p>	
教養科目	自然科学科目	自然科学総合分野	自然科学総合（化学と生物のインターフェース）	<p>（概要） 高校では化学と生物を別々の科目として勉強してきたと思う。しかし、化学の目をおして生物現象を見る、あるいは化学の手で生物現象を制御するといった化学と生物のインターフェースを利用すれば、生物の理解をさらに深めることができる。本講義では、このような視点からトピックについて紹介する。</p> <p>（目標） 身の回りのいろいろな事柄（食品や病気など）を科学的（できれば化学的）に理解できるようにする。</p>	
教養科目	自然科学科目	自然科学総合分野	自然科学総合（日本刀で学ぶ金属工学入門）	<p>（概要） 美濃地方では、現在の関市を中心として古くから刀剣づくりに取り組み、現在もその伝統が受け継がれている。さらに、その技術を活かした刃物づくりも盛んであり、刃物の生産量は全国一となっている。日本刀の基本的な製法は平安時代頃に確立し、その後の創意工夫を経て、現在に至っている。その素材は鉄であり、鉄を徹底的に鍛えること、軟質な鋼と硬質な鋼を組み合わせること、さらに焼入れ時の冷却速度を緻密に制御することで、「折れず、曲がらず、よく斬れる」という通常の刃物では両立できない特性を実現している。この製法は手作業が機械を用いるかの違いはあるものの、鉄に与える影響は現在の製法と違いはなく、温度計や顕微鏡などの精密な分析機器が存在しない時代に、これらの製法に至ったことは驚嘆に値する。そこで本講義では、日本刀の製作方法を題材にして、その素材となる鉄の特徴について学ぶ。具体的には、鉄の強化方法やそれに伴い生じる鉄の組織の変化などについて工学的に解説する。また、銅やアルミニウム等の主要な非鉄金属の特徴についても学び、現在の生活に欠かすことができない金属材料に対する理解を深める。学期末には製鉄所への工場見学を行い、ものづくりに対する理解も深める。</p>	
教養科目	自然科学科目	自然科学総合分野	自然科学総合（科学的なものの考え方）	<p>（概要） 講義で学んでおぼえていくといった知識の積み重ねではなく、「自分自身で課題を見つけ、仮説を立て、実験や観察を行い、自分の頭で考察する」という科学的なものの考え方に興味を持ってもらうことを目的とします。 担当者の専門分野から、主に物理、化学の分野について、教員側からの一方的な講義ではなく、学生主体で課題の提案、グループディスカッションなどを行ったり、解決のための実験・観察を行ったりして、学生自ら物理や化学などの法則の概念を構築していけるような授業を展開するつもりです。 さらに、「仮説実験授業」という手軽に実験してたしかめることのできるような素材から「科学的に考えるとはどういうことか」を体験的に実感をもってとらえることができるように工夫されている授業方法についても紹介します。</p> <p>（目標） 「自分自身で課題を見つけ、仮説を立てたり実験や観察を行って証拠（客観的な情報）に基づく結論を導き出す能力を身につける」という科学的なものの考え方の修得を目指します。</p>	

教養科目	自然科学科目	自然科学総合分野	自然科学総合（情報・通信の基礎）	<p>（概要）          情報通信がなければ、現代社会は機能を停止してしまうだろう。通信には、有線と無線という通信経路の違いや、携帯電話や放送など対象の違いがある。また、情報には音、画像、データなどの種類がある。本講義では、現代の通信におけるさまざまな種類やしぐみを、通信の内容となる情報について表現法や使用法、応用の基本を学ぶ。</p> <p>（目標）          ・通信の種類やしぐみを正しく理解し説明できる。          ・情報について表現法や使用法を理解し説明できる。</p>	
教養科目	自然科学科目	自然科学総合分野	自然科学総合（数値シミュレーション入門）	<p>（概要）          工学で問題となる現象はほとんど物理的なものであり、その現象を支配する数式（方程式）を決定することも大きな課題であるが、それを解いてはじめて現象解明に繋がる。しかも、解くべき方程式は代数方程式のほか微分方程式や積分方程式が多いが、ほとんど多元連立であり、状況が現実的であればあるほど解析的に解くことはまず不可能な複雑さであって、コンピュータ援用を前提とする数値的手法によらざるを得ない。それが数値シミュレーションと一般に言われるものである。信頼性と、現象の予測能力が増してきて、現在、工学では数値シミュレーションは実験と並ぶ必要不可欠な手段となっている。講義では、あらゆる工学問題に共通な数値シミュレーションの基礎的知識を学修してもらう。また、数値シミュレーションの多くのめばしい実例を示すことでこの認識の浸透を図る。</p> <p>（目標）          数値シミュレーションに関する基礎知識を身に付ける。数値的解法の基礎事項を理解する。</p>	
教養科目	自然科学科目	自然科学総合分野	自然科学総合（ものの科学）	<p>（概要）          私たちの身の回りにはいろいろな構造物や機械が存在する。いずれも何らかの素材から作られ、それぞれに機能を持っている。技術の発達に伴い、素材にはそれぞれ新たな特性が要求されてくる。たとえば、自動車の軽量化のための材料、人体にとって害の少ない生体用材料、マイクロマシン用材料などの開発が日々行われている。本講義では、ものづくりの視点から要求される金属材料の基本特性、材料の構造・特性、材料の選び方について学ぶ。</p> <p>（目標）          1．金属材料を中心とした材料学の基礎と、関連する学問領域について理解する          2．金属材料の諸特性について学ぶ          3．金属加工法の基礎および応用例について理解を深める          4．金属材料の製造方法および後処理方法について学ぶ</p>	
教養科目	自然科学科目	自然科学総合分野	自然科学総合（化学と生命科学）	<p>（概要）          化学の視点で、特に医薬品、食品、新素材など生命科学に関連する研究内容を解説します。私たちは非常に多くの化学物質に囲まれて生活しています。しかし、それら化学物質がどんなものなのか、どのように開発され、どう利用されているのかを理解している人は少ないと思います。本講義では、私たちが日ごろ接している化学物質や将来お世話になる化学物質について、その機能や開発の過程などを紹介します。将来技術者や研究者を目指す人だけでなく、一般の学生にとっても興味ある内容を紹介したいと思っています。</p> <p>（目標）          化学工業、医薬品の製造開発、食品産業など、幅広い分野に関して、既成の学問領域にとらわれない見識と創造力を培うことを目指します。</p>	

教養科目	自然科学科目	自然科学総合分野	自然科学総合（古典に学ぶ（偉大な科学者の学問と人生））	<p>（概要）</p> <p>皆さんは古典を読んだことがあるでしょうか。古典のなかには、先人の知恵と深い思いが詰まっています。古典を勉強することにより、現代の学問がより深く理解できるようになります。大学生らしく、本気で学問に取り組んでみましょう。偉大な科学者の文章を読み、またエピソードを知ること、先人の苦闘や人生観にじかに触れてみましょう。高校で学んだ科学についても、科学的な視点を通して、理解を深める機会となるでしょう。</p> <p>（目標）</p> <p>本講義は、Einstein、湯川秀樹などによる著名な古典を読み、源流をたどることにより、学問の面白さと現代的意義を学ぶために準備されています。古典を読んでその真髄に触れ現代の学問が迎ってきた系譜を理解します。各講義では、著名な科学者の原著に沿って科学の基本概念を学び、先人の思索と新しい学問の建設のために彼らがどのような思索を行ってきたか、そこにいたる知的な格闘について理解します。</p>
教養科目	自然科学科目	実験講座分野	自然科学実験講座（ご飯までのフィールド科学）	<p>（概要）</p> <p>ご飯として食べられている米は、日本人の主食として日本文化や地域経済の形成・発達と密接な関わりがあります。本講義では、コメとイネについて、世界あるいは日本の様々な品種や栽培様式を文化的側面と生物学的側面から概説します。また、環境変動と食料生産との関係や稲作に関わる生物環境、コメとご飯の特性との物理化学的な関係などを考えます。一連の講義では、教室で学んだことを理解するために、実際にフィールドで栽培体験などを行いながら、理解を深めます。岐阜大学は、東海・近畿では数少ないキャンパス内に農場を持つ大学です。農場で生きた自然に触れることを通して、植物の世界と食べ物のつながりを学んでください。</p> <p>（目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日常私達が食べている米の加工プロセス、品質と流通に関する基礎知識を学びます。</li> <li>2) イネの種類と世界での分布、米食文化に関する基礎知識を深めます。</li> <li>3) 水田の機能と役割、水田維持に関する課題に関する基礎知識を学びます。</li> </ol>
教養科目	自然科学科目	実験講座分野	自然科学実験講座（家畜たちのフィールド科学）	<p>（概要）</p> <p>人類は様々なところで多くの動物たちと関わりを持っている。本授業では、動物たちのなかでもっとも関係が深いにも関わらず、その暮らしや役割をほとんど知らない「食べ物としての動物 家畜」について生物学的側面を中心に概説する。その理解を深めるために、大学農場において実際に家畜の飼養や畜産物の加工実習を体験し、家畜とのつきあい方、家畜から食料が生みだされる過程を学習する。これら講義と実習から、人間と動物の関係、動物の食料生産への貢献を理解する。</p> <p>（目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 動物（家畜）が生まれてから食品として食卓にのるまでのプロセスを具体的に理解し、食べるという事の本質を学ぶ。</li> <li>2) 家畜の成長能力、生産能力がどのような生物学的特徴に基づいて達成されているのかを理解する。</li> </ol>
教養科目	自然科学科目	実験講座分野	自然科学実験講座（森と川のフィールド科学）	<p>（概要）</p> <p>森林に降り注いだ雨は、沢を下り、平地を潤わせる。森と川は流域を形成し、野生生物に多様な生息環境を提供している。下呂市にある岐阜大学位山演習林は、温帯落葉広葉樹林帯に属し、冷涼で落葉性のブナやナラの森がありツキノワグマ、カモンカ、シカなどの大型哺乳類の生息地となっている。沢の水は冷たく透明で、イワナやサンショウウオなど、限られた動物がすんでいる。一方、岐阜大学周辺では常緑性のカシやシイの木が生育し、周辺の池や川にはタイリクバラタナゴやミシシッピーアカミミガメなどの外来種が生息している。この授業では、位山演習林と岐阜大学キャンパスでの野外学習を交え、森林と河川の生態系とその保全について学ぶ。</p> <p>（目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 野外で仲間とともに安全に注意し調査観察ができるようになる。</li> <li>2. 山道を歩けるようになる。</li> <li>3. 水の中に入り水生生物を捕まえられるようになる。</li> <li>4. 草本、木本、線虫、昆虫、クモ類、甲殻類、両生類、魚類、哺乳類などの生物を観察する。</li> <li>5. 生態学、農林学の基礎を基に環境問題を考えられるようになる。</li> </ol>

教養科目	自然科学科目	実験講座分野	自然科学実験講座（金属を使ったものづくり）	<p>（概要） 今日の我々の生活は、金属でできた様々な製品によって支えられている。例えば、様々な機械製品は勿論のこと、文房具や調理器具などの身近な製品にも金属が使用されている。本講座では、金属材料に関する2種類の実験を実施する。実験室のスペースや機材の都合上、実習は二つのグループに分けて実施する。</p> <p>（目標）  <ul style="list-style-type: none"> <li>金属材料の特徴について理解する</li> <li>金属の加工方法について理解する</li> <li>自らの手で金属製品を製作する</li> </ul> </p>	
教養科目	自然科学科目	情報学分野	情報学入門（ITの歴史と未来）	<p>（概要） ITは、Information Technology の略で「情報技術」の意味である。コンピュータとインターネットの普及により情報化社会が浸透し、私たちの暮らしを変えつつある。 現在、我々の社会は情報革命の途上にあるが、ITの歴史に学びながら、これからの情報化社会のありかたについて考えていく。はじめに人類の歴史と計算機の歴史について解説する。次に、コンピュータ発展の歴史、動作原理、産業界における役割および21世紀における産業・私たちの社会の方向性について、メカトロニクス、情報技術、インターネット情報社会、情報化社会の未来などの項目を取りあげながら講義する。</p> <p>（目標） コンピュータがどのようにして生まれ、発展してきたかについて理解する。 コンピュータ、ネットワークなどのITの基礎について理解を深める。 ITが私たちの社会にどのような変化を及ぼし、今後どのような変化を起こしていくのかについて考える力を身につける。</p>	
教養科目	自然科学科目	情報学分野	情報学入門（経営のためのオペレーションズ・リサーチ）	<p>（概要） この講義は、縦と横がバランスよく存在する社会を目標とするオペレーションズ・リサーチ（OR）という学問について知ってもらうことが第一の目標です。</p> <p>（目標） 様々なトピックを通じて、オペレーションズ・リサーチという学問の範囲の広さや奥の深さを知る。</p>	
教養科目	自然科学科目	情報学分野	情報学入門（インターネットのやさしい数理）	<p>（概要） インターネットを形成するコンピュータネットワーク技術の中には現代数学が駆使されているものもあるが、多くの技術はそれほど高度な数学が使われているわけではない。むしろ簡単な数理問題の宝庫である。本講義では、問題を理解するためにインターネット技術を簡単に解説し、問題を解くことによってインターネット技術のエッセンスや巨大な空間を扱う手法について学ぶ。この講義を通して、楽しみながらコンピュータ通信技術の基本を学ぶことができる。</p> <p>（目標）  <ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータネットワーク技術の基本を理解する。</li> <li>コンピュータネットワークに関する数理の基本的な問題を解くことができる。</li> <li>通信技術の考え方や巨大な空間を扱う手法について理解を深める。</li> <li>複雑な現象を数理問題として捉え、今後さらに進展していくネットワーク技術について理解し考える力を身につける。</li> </ul> </p>	
教養科目	自然科学科目	情報学分野	教養の情報学（オペレーションズ・リサーチにおけるモデリング）	<p>（概要） この講義は、縦と横がバランスよく存在する社会を目標とするオペレーションズ・リサーチ（OR）という学問について知ってもらうことが第一の目標です。</p> <p>（目標） 様々なトピックを通じて、オペレーションズ・リサーチという学問の範囲の広さや奥の深さを知る。</p>	

教養科目	自然科学科目	情報学分野	教養の情報学（データサイエンス入門）	<p>（概要） データサイエンスの基本的な考え方を理解し、主たる分析手法及びさまざまな分野のデータ分析を習得することが目的である。データ分析から得られる議論・考察・結論、分析結果から示される内容を伝達する方法について、一連のデータサイエンスとして身につける。</p> <p>（目標） ・データ分析手法を理解し、最適な分析手法を利用できるようになる。 ・表計算ソフト等を使って基本的なデータ分析ができるようになる。 ・情報リテラシーを身につける。</p>	
教養科目	複合領域科目	生活と科学分野	社会の中の看護	<p>（概要） さまざまな価値観を持つ現代社会において、いかに自分らしい生活を送れるかについても個々人の考え方によるところが大きい。しかし、その基盤は健康なこころと体であるといえる。このような中で看護が果たす役割を様々な視点から学ぶことをとおして、健康について理解を深める。</p> <p>（目標） いつもは当たり前前に過ごしている日々の生活を一度立ち止まって自分達の健康を確認し、看護の視点から健康について考察することができる。</p>	
教養科目	複合領域科目	生活と科学分野	食の教養	<p>（概要） 食に関する話題がマスコミに登場しない日はありません。そして、毎年、食に関する事件や事故が発生しています。「食」は我々の生活の基本であり、いつも身近に感じる話題です。しかし、多くの皆さんは、「美味しい新商品が出た」「あそこの料理はとて美味い」といったいわゆるグルメ感覚は持っていても、食の基本原則や基礎知識は意外と不足しているのが現実でしょう。皆さんが日頃から何となく気になっているけれども、その課題の本質にまでは踏み込んで考えてはいないといった状況を解消するのが「食の教養」です。講義では、できる限り写真を活用し、目で見て、話を聞いて、そして頭で楽しみを感じる授業を展開します。</p> <p>（目標） 本講を受講し、講義内容を理解することができれば、社会で話題になる食問題の殆どについて理解できるようになり、食に関わる社会の仕組みを理解できるようになります。さらに、食問題の本質を理解できるようになる。</p>	
教養科目	複合領域科目	生活と科学分野	栄養と運動	<p>（概要） 高校生の生活習慣病のリスクは、既に4割に達している。生活習慣病の一次予防の基本は、栄養と運動である。栄養と運動の必要量は「日本人の食事摂取基準」および「健康づくりのための運動基準」にそれぞれ示されている。この授業では、生活習慣病予防の基本である栄養と運動について、必要量の科学的根拠等を理解し、これを実生活に役立てられるようにする。</p> <p>（目標） 1．講義を通じて栄養と運動の必要量等を理解する。 2．課題を通じて自身の現状と一次予防の方法を知る。</p>	
教養科目	複合領域科目	生活と科学分野	交通安全の科学	<p>（概要） 自動車は物資的に豊かで利便性に富んだ現代社会において、日常生活には不可欠な存在である。本学でも自動車を運転する学生は多く、運転免許取得を目指す学生もいる。しかし、自動車社会となった現在、交通事故や環境破壊といった社会的諸問題も起きている。交通事故による死者は近年減少傾向にあるが、交通事故数そのものは顕著な減少傾向を示していないことにも留意しなければならない。交通安全の問題は政府や警察だけの問題ではなく、自動車を利用する個人個人が深く理解し、取り組むべき問題である。しかし、交通安全については漠然と考えても意義は少なく、自動車交通の諸問題を科学的に理解する必要がある。そこで本テーマでは自動車交通の諸分野のうち、特に交通安全の諸問題に焦点を当てて総合科学的な講義を行い、受講者とともに交通安全対策のあり方について科学的に考察したい。</p> <p>（目標） 交通安全対策のあり方について考察し、自動車交通の諸問題を科学的に理解する。また、日頃から交通安全に対する意識を高め、怪我、病気に対する知識を修得し、適切な対応ができるよう身につける。</p>	

教養科目	複合領域科目	生活と科学分野	畜産・水産業の歴史と食文化	<p>(概要)</p> <p>人間はその歴史の中で長い間、食料源を狩猟採集による獲得に頼る生活を営んでいた。今から数千年前にウシ、ブタ、ニワトリなどが家畜化され、人間社会やその中で人間と動物の関係性は大きく変貌した。家畜化に成功した人間は、長い年月の間に用途に応じたさまざまな品種を作り出し、利用してきた。この講義では、水産資源を含む動物資源の利用形態の多様性を学びながら、その将来を考える。</p> <p>(目標)</p> <p>人間が身の回りの動物をどのように利用してきたか、その歴史と現状を理解する。それに基づいて、将来に向けての人間活動と動物資源との関わり方を考えることのできる力を身に付ける。</p>
教養科目	複合領域科目	生活と科学分野	医学史	<p>(概要)</p> <p>高次神経形態学、嫌気性菌研究、麻酔・疼痛制御学、解剖学、脳神経外科学、高度先進外科学、脳神経内科学、病理学、産婦人科学、病原体制御学など、医学の歴史と現状を概説する。</p> <p>(目標)</p> <p>1. 医学のさまざまな分野の中で、興味をもてる分野を見つけ出す。 2. 各専門分野の歴史や現在の課題の理解を通じて、医学の発展のプロセスを俯瞰的に捉える能力を身につける。</p>
教養科目	複合領域科目	生活と科学分野	健康とQOL	<p>(概要)</p> <p>人の各発達段階における健康の改善、維持・向上に関する知識とスキルを学び、受講者皆さん自身の健康を自己管理する力の修得を目指します。さらにこの学びを通して、皆さんや家族にとり、より豊かな生活(Quality of Life; QOL)を考える機会とします。専門用語をなるべく使用しないなど、様々な工夫をして分かりやすい講義になるようにします。</p> <p>(目標)</p> <p>1. 健康とQOLの概念やその関連性が理解できる。 2. 各発達段階における健康の改善、維持・向上に関する知識とスキルについて理解できる。 3. 学習をかえりみて自らの健康とQOLについて幅広く根拠をもって記述できる。</p>
教養科目	複合領域科目	生活と科学分野	身近な薬と毒の科学	<p>(概要)</p> <p>私たちは日常生活において、薬や毒に関する話題をテレビや新聞・雑誌で目にしています。しかし、私たちはこうした身近にある薬や毒について、コマーシャルやニュース、うわさなどで、名前とその効き目や危険性をなんとなくわかっているようで、実はそれ以上のことを知らないのが一般的です。そのため、薬を過信したり、毒を必要以上に危険視したりしてしまう傾向があります。実は、薬と毒は同じもの(同一物質)であり、摂取する量や使う目的などによって、薬と毒と違って毒と毒と取り上げ、それらの効用や毒性について一歩踏み込んで解説したいと思えます。そして、この授業を通して、知識よりもむしろ「物事を見る目や理解とはどうあるべきか」を最高学府に学ぶ者として感じとってほしいというのが、この講義のねらいとするところです。</p> <p>(目標)</p> <p>身の回りの薬がどのようにして効果を発揮するのか、身近にある毒がどのようにして毒作用を示すのかを理解する。また、これらの化学物質が我々の体の中に入ってからどのような運命をたどるのかを理解する。</p>
教養科目	複合領域科目	生活と科学分野	世界の農業事情	<p>(概要)</p> <p>日本が地球の中で単独に存在することが出来ない大きな一つの例証として、農業問題がある。特に日本の食料自給率は、世界先進国の中でも異常な低さであり、極めて憂慮すべき状況にあるにも関わらず、明確な対応策を見出すことが出来ないままである。しかし、世界的な経済不況が深刻化する中、工業立国としてのわが国の優位性がこれからも安定的に継続する保証はなく、人間生存の根元的な食料の安定供給は、将来にわたって極めて重要な課題となる。さらには、農産品のグローバルな流通の進展は、わが国の農業構造に対して深刻な影響を与えるだろう。よって、全世界の人間が共存していくためには、相互の立場を理解し尊重し合うことが先ず必要となる。その観点から、世界の農業事情を概観するものである。</p> <p>(目標)</p> <p>世界の農業生産環境の実態を把握し、持続可能な農牧業を展開していくためになすべき課題について、理解を深める。さらに、農産品の国際的流通が進む中での、わが国農業の将来について主体的に考える端緒を与える。</p>

<p>教養科目</p>	<p>複合領域科目</p>	<p>生活と科学分野</p>	<p>生物共生論</p>	<p>(概要) この世界には、単独で生きている生物はなく、複数の生物がお互いに複雑な関係を保ちながら共存しています。生物は、共生することで生き延び、種を保存してきました。言い換えれば、共生を成し遂げた生物が地球上に生き残ることができたともいえます。この共生について、特に動物と寄生体の関係から、講述します。講義では、トピックスを交えながら、動物と寄生体との共生そして共生を破ることにより起きる病気とその治療、予防について概説します。また、このような寄生体との共生をヒントに、人間と動物あるいは人間同士の共生についても考えてみます。</p> <p>(目標) 1. 動物と寄生体の関係から、生物間の絶妙な共生関係について理解を深める。 2. 共生の重要性を理解する。 3. 共生のために必要な考え方を身につける。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>複合領域科目</p>	<p>生活と科学分野</p>	<p>現代医療の最前線</p>	<p>(概要) 医療は国民の最大関心事の一つである一方、往々にして個人的な疾患予防や治療への関心にのみとどまり、患者がシステムとして医療の概略を理解した上でたゆまぬ改革を促すという近代的な医療制度にとって不可欠なプロセスが十分に機能しているとは言い難い。医療関係者の説明不足もその原因の一つとしてあげられるならば、誠に不本意なことである。本講義では、このような現状を改革する試みとして現代医療の最先端についてわかりやすく講義し、21世紀の医療の可能性とあるべき姿を展望する。講義を通じ、自らの健康について考え今後の生活に役立たせることにも留意する。講義は個別の先端的医療の紹介が中心であるが、講義の端々に現れるシステムとしての日本の医療を感じ取り、講義を契機に自ら必要な情報を得るなどして、医師を志す者も含めて患者こそが現代医療を担う主体であると自覚することを目指す。</p> <p>(目標) 受講後講義の内容を的確にまとめ、家族や友人に内容の核心を省略せずにわかりやすく説明できることが望ましい。さらに、全講義を通して受講者なりに現代医療のイメージを具体例を挙げながら包括的に語ることでできれば本講義の主目的が達成されたことになる。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>複合領域科目</p>	<p>生活と科学分野</p>	<p>環境マネジメントと環境経営</p>	<p>(概要) 現代は、地球温暖化をはじめとする地球規模の環境問題が深刻さを増しています。そのため企業、自治体などの活動においても環境に配慮した経営、運営が求められています。これらの要求の下、企業、自治体などにおける環境マネジメントの取組みと、環境経営の展開が進められており、環境に配慮しながら事業活動を進めるツールとして環境マネジメントシステム(E MS)の導入が進んでいます。</p> <p>この講義では、E MSの枠組みを理解し、環境負荷の分析評価から効果的な環境経営の手法を理解することをねらいとしています。講義中に、岐阜大学の環境への取組みを紹介するとともに、施設見学会、自治体・銀行・製造業からゲストスピーカーをお招きして、環境マネジメントの取組みの実際についての話を伺う機会を予定しています。大学教員以外のお話しも伺うことができますし、施設見学にも出かけます。</p> <p>(目標) 本講義では、環境問題の状況を理解するとともに、環境マネジメントシステムの枠組みを学び、実際の環境マネジメントシステム構築、システムの内部監査手法を修得しようとするものです。これらの手法を理解し、一人ひとりが環境問題に関する理解を深め、E MSの実践活動につなげていくことを目標としています。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (102 櫻田修/11回) 環境問題概説, エネルギーと環境, 化学と環境, ライフサイクルアセスメント(LCA)手法, 環境マネジメントシステムISO14001と環境監査, ゴミと環境, 自治体の取組み, 銀行などのofficeビルの取組み, 製造業の取組み, 施設見学(岐阜市最終処分場, メガソーラ), まとめ (2 三井栄/1回) 環境経営と環境経済 (124 三谷晋/1回) 環境法概論 (160 向井貴彦/1回) 生物多様性と環境 (114 村瀬哲磨/1回) 大学等の取組み</p>	<p>オムニバス方式</p>

教養科目	複合領域科目	生活と科学分野	免疫学	<p>(概要)</p> <p>私たちの体は免疫系によって守られています。免疫系は微生物の侵入やがん細胞の出現と戦い生体を防御する、生体の恒常性維持機構の一つです。この授業では免疫系の成り立ちとその働きについて最新の知見を交えて講義を行うとともに、免疫系の破綻とその関連疾患についても概説します。その後、「免疫」について多面的に理解するために、受講者各自が課題を見つけ、発表と討論を行います。</p> <p>(目標)</p> <p>微生物やアレルギーなどの異物の侵入に対して生体に備わっている防御機構の構成要素とその働きについて説明することができる。また、私たちを取り巻く社会のなかで免疫学のおよび生命科学的な事象について適切に判断できる素養を身につける。</p>	
教養科目	複合領域科目	生活と科学分野	森と美術	<p>(概要)</p> <p>森林は樹木によって構成される植物群集で多様な環境の中に多くの生物が生活している。人もまた森から生きていく上で不可欠な空気や水、木材、燃料、食料などの様々な恩恵を受けている。樹木の形態的な特徴は種を同定するために必要な知識であるが、同時に芸術的な意匠性に優れたものが少なくない。木材に刻まれた年輪は、木の一生の成長の記録であり、木工作品に深みを与えるパターンでもある。森では、危険生物も生息しており、時として人が遭難することもある。森は自然観察、芸術的創作活動、危険回避能力を鍛錬するよき教育の場でもある。この授業では、実際の森の中で、自然を観察し、材料を採取利用、創作を行うことにより森林の価値を多面的に理解することを目的とする。</p>	
教養科目	複合領域科目	生活と科学分野	実践生物化学	<p>(概要)</p> <p>我々が普段、なにげなく商品等としてふれている食品・化学物質は、実は様々な規制により安全性が担保されている。大学で学ぶ基礎科学を将来実用化する際にも、同様な規制をクリアし安全性を担保したうえで普及させなければならない。その一方で、医薬品のように活用実態により、安全性と有効性のバランスで評価されるべき製品群も存在する。本授業では、様々な物質の性質や活用法を理解したうえで、それらの規制の根拠と実情を学習する。加えて、身近な製品を取り上げて、自らでそれらの特性及びクリアすべき規制を確認し、今後大学で学習する基礎科学の意義と習得知識を実用化へ役立てる練習を行う。</p>	
教養科目	複合領域科目	生活と科学分野	食と調理	<p>(概要)</p> <p>ヒトは生きる上で、食事をすることが必要不可欠である。食べ物は、食品・食材であったが、殺菌を目的とした安全性の担保や消化・吸収を助けることを目的とする調理操作を施すことで変化する。したがって、調理操作のひとつひとつには、何らかの意義があると予想される。</p> <p>そこで本授業では、各食材の調理時の変化を把握するとともに、どのような現象が生じているのかを明確化し、科学的に調理をとらえることを目的とする。</p> <p>(目標)</p> <p>調理操作の意味や食材の変化、長期保存の原理を理解することを目指す。</p> <p>また、日々の食生活を振り返り、食を選択することの大切さについて認識できるようにする。</p>	
教養科目	複合領域科目	岐阜学分野	岐阜県の生物の分布と生態	<p>(概要)</p> <p>自然が豊かで、山紫水明の地として知られている岐阜県においても、近年自然環境は大きく変化させられており、その影響が随所に表れつつある。この講義では、岐阜県に特徴的に分布する生物の種類や動植物にみられる興味深い生態に関する知識を学び、岐阜県がもつ豊かな自然環境の特徴を理解することがねらいである。また、豊かであった岐阜の自然が破壊されつつある現状を理解し、自然保護についても考える。</p> <p>(目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜県の河川環境とそこに生息する魚類、移入種の問題や河川構造物が魚類に与える影響について理解する。</li> <li>・岐阜県の植物区系やフロラ（植物相）とそれに関係する環境要因、植物の生態や植生の成立について理解する。</li> <li>・異種間相互のかかわり合いによる植物の進化や分布、集団の維持、生物多様性の維持のしくみについて理解する。</li> <li>・以上の知識を総合して、自然と人間とのかかわり合いや自然保護のあり方を自分で考えられるようになる。</li> </ul>	

教養科目	複合領域科目	岐阜学分野	現代のまちづくりと住民	<p>(概要) 住民参加のまちづくり」「市民と行政のパートナーシップ」の時代となっている。岐阜市でも各地区における住民・学生の自主的な取り組みや、市民活動交流センターなどでの活動が進められている。この総合科目では、地元におけるこの間の市民・行政・大学のパートナーシップによる研究・調査・実践の成果に基づいた内容で、現状の実態や課題を探ることを通じて、これからのまちづくりのあり方を考えていきたい。</p> <p>(目標) 岐阜市の都市構造、再開発、商店街、郊外団地、近郊農村などの現状と課題を理解して、他と都市との比較でも考える。</p>
教養科目	複合領域科目	岐阜学分野	岐阜の自然（地質・活断層と水環境）	<p>(概要) 岐阜県には、日本の縮図と呼ぶべき地質や活断層、水環境がある。地質では、日本最古の石、日本最古の地層があり、種類も多様である。活断層では、1891年濃尾地震のときに動いた根尾谷断層が世界に紹介され、その後の地震の理解に大きく貢献した。水環境では、清流長良川などの源流から河口までがあり、また地下水に恵まれた地域でもある。これらの豊かな自然について理解を深めるとともに、ふだんは意識をすることの少ない地質や活断層、水環境について知ることにより私たちの身近に潜んでいる問題点を学ぶことが、本授業のねらいである。また、講義で紹介する複数の博物館の中から、いずれか1つを見学し、その内容をレポートにまとめて報告することにより、自らレポートのテーマを設定し、自ら学び、自らその内容をとりまとめる、といった能動的な学習を行う。これにより、主体的に学ぶ能力を身につけることを目指す。</p> <p>(目標) ・岐阜の地質、活断層、水環境を理解する。 ・岐阜の地質、活断層、水環境に関して、私たちの身近に潜んでいる問題点を学ぶ。 ・主体的に学ぶ能力を身につける。</p>
教養科目	複合領域科目	岐阜学分野	岐阜県の農産物の生産・流通・消費	<p>(概要) 地理的に岐阜県は日本の中心部に位置しています。そのため、岐阜県内で生産された商品を国内流通させるには、とても都合のいい場所にあるといえます。さらに海拔ゼロメートル地域（海津市）から標高900メートル地域（飛騨地域）までの標高差があるため、夏秋農産物および冬春農産物がたくさん収穫されています。 本講義では、岐阜県産の特徴的な農産物の生産・流通・消費の現状を紹介し、その内容を理解しながら岐阜県の食状況を学びます。毎回、特定の農産物に着目し、その農産物の特徴を広い視点で捉えることを通じて、毎日食べている食材に関する「気づき」と「発見」を誘導します。たかが農産物、されど農産物です。皆さんの期待を裏切らない講義を提供します。</p> <p>(目標) 岐阜大学は、地域貢献することを目標にしています。そのためには岐阜大学がある「岐阜県」を広く、深く知ることが重要になります。食べることは誰もが毎日繰り返す基本的な生活です。皆さんが今学んでいる場所である、岐阜市・岐阜県を、「食」を通して理解を深めることを目標にします。 岐阜県産農産物の生産・流通・消費の現状を理解して、岐阜を好きになり、岐阜に愛着が湧き、そして岐阜県で学んでいること実感できるようになります。</p>
教養科目	複合領域科目	岐阜学分野	岐阜県誌：岐阜県の歴史・文化・自然	<p>(概要) 岐阜県の歴史・文化・自然を総合的に理解する、典型的な複合領域科目である。総合的理解のために、教員による講義、学生による資料収集や考察、その結果のプレゼンテーションを行うとともに、夏季休業中に2泊3日の野外巡検を行い、実際に岐阜県の歴史・文化・自然を観察することにより岐阜県誌を総合的に理解する。岐阜在住の学生にとっても、岐阜県外の学生にとっても有益な授業となるよう工夫を凝らす。</p> <p>(目標) 岐阜県の歴史・文化・自然を総合的に理解し、岐阜県を例として地域科学の手法を会得する。現地で実際に「もの」に触れ、それを観察し、そこから情報を引き出す力を身につける。地域の歴史・文化・自然を研究するための資料を収集し、それを取りまとめる能力を涵養する。グループワークを通じてコミュニケーション能力、リーダーシップ能力を向上させる。</p>

<p>教養科目</p>	<p>複合領域科目</p>	<p>岐阜学分野</p>	<p>岐阜の自然と都市，そこに生きる生き物と人</p>	<p>(概要) 岐阜県は県土に占める森林の面積割合が約82%と、非常に自然の豊かな土地柄である。もちろん森林だけでなく湿原、河川、湖沼、さらには緑地や農地も含めた、いわゆる生物多様性に岐阜県は恵まれている。ヒトはこのような生物多様性の恩恵をさまざまな形で受けている。一方でヒトは開発や資源搾取により生物多様性に負の影響を及ぼしている。そして、ヒトの生活は極度に人工的な環境である都市を中心に営まれている。ヒト社会が持続的に発展するためには、ヒトと生物多様性のかかわり、さらには生活の中心である都市環境について理解を深める必要がある。この授業では、岐阜という地域における生物多様性や都市環境の特徴について現状だけでなく、歴史的変遷も含めて紹介する。そしてヒトにとって最適な自然と共生する社会や都市形態を模索する方法論を修得することが授業の狙いである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (1 肥後睦輝/8回) ガイダンス、 人と自然環境のかかわり - 破壊の歴史そして生態系サービス、 岐阜の森、美濃・飛騨地方の自然環境、岐阜の里山と植林地、 希少な自然環境、合掌集落に見る人と自然の共生について講義する。 (160 向井貴彦/4回) 岐阜の河川・湖沼と魚たち、長良川河口堰問題、 地域の自然環境の評価：レッドデータブックについて講義する。 外来種問題 (161 十二村佳樹/3回) 都市の熱環境、これからの都市形態について講義する</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>教養科目</p>	<p>複合領域科目</p>	<p>岐阜学分野</p>	<p>岐阜県の食構造</p>	<p>(概要) 皆さんは岐阜で学生生活を送り、毎日食事をしています。日々、食べているメニューの食材供給には、複雑な「食構造」が絡み合っています。本講義では、岐阜県の食構造を15区分に分類して、わかりやすく紹介します。講義は1回毎に完結しています。本講義を受講することにより、自分の食生活が岐阜県の食構造の中に組み込まれていることを実感できます。多様な視点で分析するので、日常生活で見過ごしがちな社会の仕組みとその奥深さを実感できるでしょう。</p> <p>(目標) 1. 岐阜県の食構造を支えている生産構造と流通構造を把握できるようになる。 2. 岐阜県産の食品・食材に関して、15項目の内容を学ぶことを通して、岐阜県の食構造全体を的確に把握できるようになる。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>複合領域科目</p>	<p>岐阜学分野</p>	<p>フューチャーセンター入門</p>	<p>(概要) この授業では、実践・グループワークを通して自発的な学びにより、自分たちで多様な人たちが集まる「対話の場」を作り上げることを目指す。 フューチャーセンター（Future Center）とは、多様な人たちが集まり複雑化したテーマ（課題）について「未来志向」、「未来の価値の創造」といった視点から議論する「対話の場」のことを指す。 授業は、座学とあわせてグループワーク（実践）を軸とした講義形式である。 まず、フューチャーセンターに関する基本的な知識や手法、事例を学び基礎的な素養を修得し、地域の人たちとの対話の場（フューチャーセンター）を実践する。そして、地域など身近にある課題の抽出や解決に向けたフューチャーセンターの活用方法や有効性について理解を深め、地域を志向するための実践的な能力を身につける。</p> <p>(目標) フューチャーセンターの基本的な知識や事例を学び、理解を深める。 「対話の場」としてのフューチャーセンターの活用方法や有効性について実践を通し理解を深める。 フューチャーセンターを自ら企画・立案し、実施するための能力を身につける。 フィードバックから課題、改善策を見出し、次回の実践を改善・向上させる能力を身につける。 対話やワークショップにおけるファシリテーション能力を身につける。</p>	

教養科目	複合領域科目	岐阜学分野	フューチャーセンター実践	<p>(概要) 地域協学センターが主催する「ぎふフューチャーセンター」の参加をとおして、主に他大学の学生や地元企業、自治体職員などとも対話、議論し岐阜県内の様々な地域の課題などについて広く知り、学び、考えることを目的とする。また、フューチャーセンターの参加に向けて受講生は事前に地域の課題などについて調べることで、様々な視点から課題を捉えることを学ぶ。さらに、フューチャーセンターの運営にも一部携わり、フューチャーセンターの企画実施についても学ぶ。「フューチャーセンター (Future Center)」とは、多様な人たちが集まり複雑化したテーマ (課題) について「未来志向」、「未来の価値の創造」といった視点から対話する場のことを指す。</p> <p>(目標) ・地域の課題などについて多様な人たちと対話、議論し、自身の考えや意見を的確に伝えることができる。 ・地域の課題などについて主体的に調査し、適切に情報を集めるとともに様々な視点から物事を捉えることができる。 ・「対話の場」としてのフューチャーセンターの活用方法や有効性について実践を通し理解を深める。</p>	
教養科目	複合領域科目	岐阜学分野	フューチャーセンター実践	<p>(概要) 地域協学センターが主催する「ぎふフューチャーセンター」の参加をとおして、主に地域住民や地域で活動する人たち、自治体職員などとも対話、議論し岐阜県内の様々な地域の課題などについて広く知り、学び、考えることを目的とする。また、フューチャーセンターの参加に向けて受講生は事前に地域の課題などについて調べることで、様々な視点から課題を捉えることを学ぶ。さらに、フューチャーセンターの運営にも一部携わり、フューチャーセンターの企画実施についても学ぶ。「フューチャーセンター (Future Center)」とは、多様な人たちが集まり複雑化したテーマ (課題) について「未来志向」、「未来の価値の創造」といった視点から対話する場のことを指す。</p> <p>(目標) ・地域の課題などについて多様な人たちと対話、議論し、自身の考えや意見を的確に伝えることができる。 ・地域の課題などについて主体的に調査し、適切に情報を集めるとともに様々な視点から物事を捉えることができる。 ・「対話の場」としてのフューチャーセンターの活用方法や有効性について実践を通し理解を深める。</p>	
教養科目	複合領域科目	岐阜学分野	人と自然との関わりから見た岐阜	<p>(概要) 岐阜の地域を学ぶ基礎として、岐阜の自然を通して、人と自然との関わりを学ぶ。また実際のフィールドにおいて、岐阜の豊かな自然環境に接し、その関わりを体験する。限られた資源や国土の中で成り立ってきた私たちの暮らしは、豊かで厳しい自然環境に対して畏敬の念を持ち、乖離や対峙せず関わってきた歴史がある。岐阜は県土の82%が森林であり、それを源とする豊かな水資源や生物の多様性に恵まれた地域である。しかし、経済の成長や生活様式の変化により、人と自然の関わりにも大きな変化が生じている。岐阜の地域における課題の多くもそれらと無関係とは言い切れない。岐阜の自然を学び体験することで、岐阜の地域を知り、課題を見つけ、行動するための素地を修得する。</p> <p>(目標) (1) 岐阜の自然環境に対する基礎的な知識が修得できている (2) 岐阜の自然と人の関わりが理解できている</p>	
教養科目	複合領域科目	岐阜学分野	人と自然の関わりから見た岐阜 (実践)	<p>(概要) 岐阜の地域を学ぶ基礎として、岐阜の自然を通して、人と自然との関わりを学ぶ。また実際のフィールドにおいて、岐阜の豊かな自然環境に接し、その関わりを体験する。 限られた資源や国土の中で成り立ってきた私たちの暮らしは、豊かで厳しい自然環境に対して畏敬の念を持ち、乖離や対峙せず関わってきた歴史がある。岐阜は県土の82%が森林であり、それを源とする豊かな水資源や生物の多様性に恵まれた地域である。しかし、経済の成長や生活様式の変化により、人と自然の関わりにも大きな変化が生じている。岐阜の地域における課題の多くもそれらと無関係とは言い切れない。岐阜の自然を学び体験することで、岐阜の地域を知り、課題を見つけ、行動し、その解決に向けての方向性を定め主体的な行動を実践する。</p> <p>(目標) ・岐阜の自然に対する基礎的な知識が修得できている。 ・岐阜の自然と人の関わりが理解できている。 ・前述を踏まえ、より主体的に行動ができる。</p>	

教養科目	複合領域科目	岐阜学分野	<p>岐阜の産業：地域で活躍する企業と人</p> <p>(概要) 名の知れた企業だけが社会経済を支えている訳ではない。最終製品を生産していないために一般消費者には名があまり知られていないが、評価の高い特有の技術を持ち、当該分野のシェアも高く、業界では有名な企業が岐阜県には多数ある。就職の際、ほとんどの学生はそんな優良企業の存在さえ知らず、選択肢にも入らない。このような企業の存在を知ることができれば、少なくとも就職や働き方、人生設計などの選択肢が広がり、キャリアデザインの視点からも極めて有用である。 この授業では、地域で活躍する企業や人について理解するとともに、他者との対話および質疑応答により、自分の気づきを振り返り、他者の気づきを共有することで、学びを深めることとする。また、企業見学会に参加し、岐阜の産業を理解する。</p> <p>(目標) 1. 岐阜で活躍する企業や人の活動について理解が進み、関心が高まる。 2. 岐阜の産業への知識・意欲が高まり、将来のキャリアデザインを考える基礎となる。 3. 他者との対話、質疑応答を含めて、自身の気づきを学びに変える振り返りができるようになる。</p>	
教養科目	複合領域科目	岐阜学分野	<p>岐阜の伝統産業：陶磁器、刃物、石灰、紙、繊維</p> <p>(概要) 岐阜県には伝統的な産業が数多くあり、その中で現在まで広く知られているものも少なくありません。例えば関市は伝統的な刀で有名で、現在も大きな刃物メーカーもあります。また、東濃は陶磁器の産地として日本一であり、大小の陶磁器やファインセラミックスのメーカーがあります。西濃にはかなり大きな石灰石の鉱山があり、これを利用した産業があります。これらの産業はどの様にしてその地域で発達したのでしょうか。岐阜県内のその地域とどの様な関連があったのでしょうか。この講義では西濃の石灰を使った産業、関市の刀・刃物産業、東濃の陶磁器産業、美濃の和紙、岐阜の繊維についてそれらの産業の工業的な初歩と地域との関連性について講義します。さらにこれらの産業を基礎にした、現代の産業についても講義します。</p> <p>(目標) 岐阜県美濃地方の伝統産業について工業的な位置づけと産業の内容を理解する。伝統産業と地域との関連性に付いて理解を深める。現代にどの様に引き継がれているか理解する。</p>	
教養科目	複合領域科目	岐阜学分野	<p>地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る</p> <p>(概要) この授業は次世代地域リーダー育成プログラム産業リーダーコースの最初の指定科目の一つである。主に岐阜県内の産業を題材に学び、実際に企業見学と企業人との交流会も実施する。見学と交流会は参加を必須とする。 実際の企業の現場を知り企業人と交流することで、実践的な知識や社会性を身につける。また複数の企業との接点をもつことで自分の進路について様々な選択肢があることを知り、自身のキャリア設計についての興味関心を喚起する。</p> <p>(目標) 企業における基本的な経営戦略やリスクマネジメントの考え方について理解する。 実際の見学により、具体的な企業の様相の一端を知る。 見学した企業の人との交流を通じて自身のキャリア設計についての興味関心を喚起する。</p>	共同
教養科目	複合領域科目	岐阜学分野	<p>岐阜にまつわる東洋史</p> <p>(概要) 「岐阜」の名前だけでも意外と奥が深い。日常的に使用している名前や目にしている出来事について、その背景を歴史の面から知り、ものの考え方の一つとして歴史学の手法を知ることによって視野を広げてもらいたい。扱うのは前半が中国の殷周時代、後半は日本の中近世の技術史が中心となる。</p> <p>(目標) ・岐阜に関連する基礎的な東洋史の知識を修得する。 ・歴史学の基礎的な調査方法や論の立て方が理解できる。 ・上記を踏まえて自身でレポートの課題設定をすることができる。</p>	

<p>教養科目</p>	<p>複合領域科目</p>	<p>岐阜学分野</p>	<p>地域防災リーダー基礎</p>	<p>(概要) 災害対策においては、自助だけでも、共助だけでも、公助だけでも不十分であり、すべてが機能することが求められます。特に、防災・減災を実現していくためには、災害発生前に地域の防災力を向上することが必要です。本講義では、地域の災害対策を担うための基礎知識を身につけ、率先して地域防災・減災に貢献できるようになるための基本的スキルを学びます。本講義終了後には、日本防災士機構による「防災士」の受験資格が得られます。</p> <p>(目標) 基礎的な災害関連事象、防災・減災知識および基礎的な防災・減災のためのワークショップ手法を身につける。</p> <p>本講義は1項目1時間として実施します。</p> <p>(オムニバス方式/全24回)</p> <p>(126 小山真紀/11回) オリエンテーション(近年の自然災害に学ぶ防災リーダーの役割) 災害と危機管理、避難所運営訓練(または普通救命講習)、災害とボランティア、岐阜県の風水害・土砂災害のしくみと被害、その対策 災害をもたらず気象現象、普通救命講習(または避難所運営訓練)</p> <p>(3 高木朗義/1回) 平常時の防災活動</p> <p>(31 能島暢呂/1回) 災害とライフライン</p> <p>(198 村岡治道/3回) 災害図上訓練(被害想定とハザードマップ、避難と避難行動、逃げ時マップによる災害図上訓練)</p> <p>(97 小嶋智/1回) 岐阜県の地形・地質と火山災害</p> <p>(133 久世益充/1回) 地震のしくみと被害</p> <p>(134 上野友也/1回) 行政の災害対応</p> <p>(200 深尾琢/1回) 災害時のメンタルケア</p> <p>(201 吉田隆浩/1回) 災害医療</p> <p>(168 小林和成/1回) 災害時要支援者対策</p> <p>(126 小山真紀・198 村岡治道/2回)(共同) ワークショップ:本講座を地域防災に活かすために</p>	<p>オムニバス方式 共同(一部)</p>
<p>教養科目</p>	<p>複合領域科目</p>	<p>岐阜学分野</p>	<p>地域防災リーダー実践</p>	<p>(概要) 「地域防災リーダー基礎」で学んだ防災・減災に関する基礎的素養を総合的に活かし、地域防災・減災の様々な課題に関連するプロジェクトを実践する。防災・減災の実践の場としては、清流の国ぎふ 防災・減災センターで月1回開催している「げんさい楽座」や大学における防災減災に関する課題、地域などと協働して取り組む防災減災の課題などを予定している。</p> <p>本講義では、防災・減災に係わるテーマについて、グループで研究・調査・実践に取り組むプロジェクト学習(Project-Based Learning: PBL)を行う。プロジェクト学習においては、プロジェクト実行のためのフレームワークの設定、実施計画立案、プロジェクト実行を学生が自ら行うことで、課題に対する主体的な学びを実現し、主体的な課題解決プロセスを通じて問題発見・課題解決・実行のための基本的スキルを身につける。</p> <p>(目標) チームによる互学互習を通じて各自が主体的に問題発見、問題解決、実践する力を身につける。プロジェクトの遂行を通じて防災・減災に係わる課題の拡がりや本質について考えるための視点を身につける。</p>	<p>共同</p>

教養科目	複合領域科目	岐阜学分野	地域防災リーダー実践	<p>(概要) 「地域防災リーダー基礎」および「地域防災リーダー実践I」で学んできた防災・減災に関する基礎的素養を総合的に活かし、地域防災・減災の様々な課題に関するプロジェクトを実践する。「地域防災リーダー実践I」の上位科目であり、実践内容のレベルが「地域防災リーダー実践I」よりも高くなる。 本講義では、防災・減災に係わるテーマについて、グループで研究・調査・実践に取り組むプロジェクト学習(Project-Based Learning: PBL)を行う。プロジェクト学習においては、プロジェクト実行のためのフレームワークの設定、実施計画立案、プロジェクト実行を学生が自ら行うことで、課題に対する主体的な学びを実現し、主体的な課題解決プロセスを通じて問題発見・課題解決・実行のためのスキルの拡充を行う。</p> <p>(目標) チームによる互学互習を通じて各自が主体的に問題発見、問題解決、実践する力を発展させる。プロジェクトの遂行を通じて防災・減災に係わる課題の拡がりや本質について考えるための視点を発展させる。</p>	共同
教養科目	複合領域科目	倫理と現代分野	ワーク・ライフ・バランス (男女共同参画論)	<p>(概要) 「ワーク・ライフ・バランス」や「男女共同参画」という言葉を聞いて皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画は、政府や企業が掲げる重点課題であると同時に、私たちの日常生活に深く関わっている事柄でもあります。授業では、政策、キャリア形成、身体、文学、仕事と家庭の両立、テクノロジー、生物学、性暴力などをテーマに「男/女(共同参画)」とは何か、またその関係性について、海外の事例も取り上げながら学びます。</p> <p>(目標) 授業に意欲を持って参加し、多角的な視点から「ワーク・ライフ・バランス」や「男女共同参画」について理解するとともに、これらについて自らの意見を述べられるようになる。授業を通じて、将来のキャリア・プランについてジェンダーの視点から考えられるようになる。</p>	
教養科目	複合領域科目	学び創造分野	学びをデザインする	<p>(概要) 自分から学ぶことは大学の基本原則です。学ぶことは楽しく喜びを感じるものです。この原則を実感することで、より「自律的に学習できる人間」になることを目指します。自らがこの科目の企画立案・コーディネート役となり、今もっとも関心のあることについて自主的に学ぶことを支援して単位を認定する、まさしくアクティブ・ラーニング促進型の科目です。突き詰めるテーマを自由に決められることはもちろん、アドバイザー役の教員を探すことや一学期間の研究活動計画を構想することも、すべては一人ひとりの受講生が行います。そして、探求してまとめた成果を学内で開催する「岐阜大学学生レポートコンテスト」に応募することを目指します。</p> <p>(目標) 学ぶことは面白く、自分を豊かにするということを実感することが第一の目標です。さらには、自分が一番興味のあることをテーマとして研究を進めることで、「初年次セミナー」等で培った大学における自主的な学びを実践し、より確実なものとして体得します。</p>	

教養科目	複合領域科目	学び創造分野	ひろがる学び，つながる学び	<p>(概要) 大学生としての学び方を身につけるための科目です。大学での勉学をもっと意義あるものにするには，どうすればよいのでしょうか？ 大学生生活を無為に過ごしたくないと願う方，なんとなく単位を揃えて就職が決まればそれでよし！...とは思わない方，ぜひ一緒にこの授業を作りあげていきませんか。この授業では，読書やディスカッションを通じて勉強の仕方を共に学び，考え，実践していきます。具体的には，たくさんの本を読み，理想的な授業を自ら企画したり自主ゼミを開催してみることを通じて，大学における教育と学習の魅力について理解を深めます。</p> <p>また，本学の学生スタッフ（SA：Student Assistant，TA：Teaching Assistant）として活躍できる能力の開発も目指します（必ずSA・TAにしなければいけないということではありません）。</p> <p>受講者には，積極的に発言して討論に参加する姿勢が特に期待されます。</p> <p>(目標) ・大学生としての学び方を身に付け，かつ卒業後も学び続けるための力を養う。 ・大学で学びことの意味（特に全学共通教育の意義）を常に考えるようになる。 ・友人と助け合って楽しく学ぶ方法が身につく。 ・他の学生の学びに対してアドバイスができるようになる。 ・本を読むことの楽しさを知り，読書が習慣になる。</p>
教養科目	複合領域科目	学び創造分野	共に支え，学び合う「ピア・サポート」演習：岐大基盤的能力特講	<p>(概要) この授業では，日本ピア・サポート学会によるピア・サポーター養成プログラムをコアプログラムとして用いることで，このような悩みに向き合い，具体的な手法で他の学生と共に解決に向かうための実践的なトレーニングに取り組む。</p> <p>ピア・サポートは多角的なコミュニケーション能力を必要とする取り組みであるため，このプログラムへの参加により，コミュニケーション能力を高めることはもちろん，岐阜大学の学生として共通して身につけて欲しい力＝「基盤的能力」 進める力 伝える力 考える力 の全てにつながる基礎的な力を身につけることができる。</p> <p>さまざまな問題への対応力を高めるため，大学生が直面する発達課題やメンタル面での課題に対応する際に有効なメンタルケアやセルフケアの手法に関する内容，障がいやマイノリティ等さまざまな「生きづらさ」を抱え，サポートを必要としている人たちへの対応に関する内容も扱う。</p>
教養科目	複合領域科目	学び創造分野	高年次教養セミナー	<p>(概要) 主に3～4年生を対象とした教養教育科目である。毎回，様々なトピックを1つ取り上げ，学部を超えた学生が集い，それぞれの専門的見地を活かした議論を重ねていく科目である。全学共通科目の履修を一通り終え専門科目を学び始めた学生や，就職活動，留学，インターンシップ，ボランティア等，学生生活で様々な経験を積んだ学生が，自らの教養を今一度振り返り，さらに深化させていくことを目指す科目である。</p> <p>(目標) ・所属する学部・学科の専門分野と教養教育との繋がりを認識できるようになる。 ・専門分野の見地から，現代的・学際的課題について言及できるようになる。 ・積極的，かつ分かり易く発言できるようになる。 ・しっかりとしたレポートを書けるようになる。</p>
教養科目	複合領域科目	学び創造分野	高年次教養セミナー	<p>(概要) 主に3～4年生を対象とした教養教育科目である。毎回，様々なトピックを1つ取り上げ，学部を超えた学生が集い，それぞれの専門的見地を活かした議論を重ねていく科目である。全学共通科目の履修を一通り終え専門科目を学び始めた学生や，就職活動，留学，インターンシップ，ボランティア等，学生生活で様々な経験を積んだ学生が，自らの教養を今一度振り返り，さらに深化させていくことを目指す科目である。</p> <p>(目標) ・所属する学部・学科の専門分野と教養教育との繋がりを認識できるようになる。 ・専門分野の見地から，現代的・学際的課題について言及できるようになる。 ・積極的，かつ分かり易く発言できるようになる。 ・しっかりとしたレポートを書けるようになる。</p>

教養科目	複合領域科目	キャリア形成分野	自分らしいキャリア設計	<p>(概要) 自分の進む道や仕事選び、人生の過ごし方など、生涯の中には様々な選択肢がある。「やりがいを持って人生を過ごしたい」、「自分の興味や適性をもっと知りたい」等々、キャリア設計は己を知り、各人が自らの責任で前向きに生き、自己実現を目指していくための中心であり、当然、大学での勉強はキャリア設計の基本となるものである。本授業では、多様化した社会の中で、自己を確立し、社会での役割を果たしていくために身につけなければならない事柄は何かを考え、努力方針を明確にすることを目的とする。</p> <p>(目標) 1. 学習者が、望ましい職業観・勤労観及び自己の個性を理解し主体的に進路を選択する能力・態度等、「自分らしいキャリア設計」に必要な基礎的知識・技能を修得できている。 2. 学習者が、「社会人基礎力」(とりわけ、「主体性」(前向きに行動する力等)・「成長意欲」(自己変革の習慣等))を修得できている。</p>
教養科目	複合領域科目	キャリア形成分野	現代社会を支える企業	<p>(概要) この授業では企業よりゲストスピーカーを招き、その企業の特徴や社会的役割などについて学びます。さらに企業から提示された課題に5名までのグループで取り組みます。グループで話し合った課題への提案内容を企業に対して2回発表(中間発表・最終発表)します。中間発表の後、聴衆から得られたコメントをもとに提案内容を改善し、最終発表に活かします。話し合いを通してグループワークの方法を理解し、発表することでプレゼンテーションスキルを身につけることを目指します。(グループが2つ以上になる場合、前半と後半でグループを組み替えます)</p> <p>(目標) 1. 企業の特徴、社会的役割を理解する 2. 企業から与えられた課題にグループで取り組むことで、グループワークの方法を身につける 3. グループで議論した内容を発表することで、プレゼンテーションスキルを身につける</p>
教養科目	複合領域科目	キャリア形成分野	生活と金融・人生設計と資産形成	<p>(概要) 現在の私達の日常生活はお金や資産の出し入れ、運用を基盤としており、その「資産の運用つまり金融」に関わる知識は「生活や人生設計」を考える上で必須のものと言えます。 しかし、実際の社会は金融に関わるトラブルが多様でしかも頻発している傾向にあり、またどう運用したら良いのかについての正確な情報に乏しいと言えます。その初歩として、もっとも身近な「暮らし」に関わるお金や金融システムを身近な事例を踏まえながらわかりやすく講義していきます。 各回ともその場で考えてもらいながら進めていくスタンスとし、一方通行的な授業内容にはしません。社会人としての基礎力として必須の知識を初年次において学習し、金融、お金というものに関して自らの判断基準が明確になることを目的とします。</p> <p>(目標) まずは、社会人として生活していく上での最低限の金融知識を身につける。その上で、普段の生活と金融との関わりを理解し、自らの今後の生活設計や人生設計において、金融の知識を元にした判断基準を持つことを目標とします。</p>
教養科目	複合領域科目	キャリア形成分野	アントレプレナーシップ入門	<p>(概要) アントレプレナーシップ(起業家精神)を醸成し、「自らのアイデアや技術で、世の中に大変革をもたらそうとチャレンジする人材」や「『専門分野における基礎能力』と『鋭利なマインドセット』を併せ持ち、イノベーションをリードしアクションを起こす人材」を育成する。また、会社を起こす人材(アントレプレナー: 起業家)のみならず、会社の中で新規事業を起こす人材(イントレプレナー: 社内起業家)、イノベーションを起こす人材、副業的起業・将来起業を志す人材を育成する。併せて、社会活動において必須スキルである「社会的行動マインド、コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ力」を備え持つ人材を育成する。 上記人材を本学から地域社会・産業界に輩出することにより、東海地域の産業/経済の活性化、新産業創出に寄与することを最終目的としている。</p>

教養科目	複合領域科目	キャリア形成分野	地域系インターンシップ	<p>(概要) この授業では、行政、地域で活動するNPO法人や企業等と連携しインターンシップを体験するものである。岐阜県教育委員会等との協働を通して、俯瞰力(状況把握力)、共同推進力(人間関係構築力)などの必要な能力の理解と、自己の現状と必要な能力との差異を認識し、そのうえで、自ら目標を設定し、今後の大学生活を通して、主体的に取り組み、改善できるようになることを目指す。インターンシップとは、企業や自治体、NPO法人などの現場に実際に行き、就業体験をすることを指す。高校と大学が連携する教育が行われる場に関わり、働くことは何かを考える。 授業は、ガイダンスおよび、事前研修会などの座学と実践への参加で構成する。ガイダンスおよび、事前研修会では、実践において求められる準備を考え、事前に実践期間中の目標設定を行う。最終日には、プレゼンテーションの実施を予定している。</p>	
教養科目	複合領域科目	キャリア形成分野	地域系インターンシップ	<p>(概要) この授業では、自治体と連携しインターンシップを体験するものである。 学内で事前事後の学習に加えて、自治体(岐阜県等)でのインターンシップ実習への参加(3日~5日程度を予定)を通して、公務員として働くことをイメージする。現場の仕事理解と企画業務の体験を通して、自治体で働くことに対する理解を深める。卒業後のキャリア形成に役立つ公務を体験し、コミュニケーション能力や情報リテラシーを向上させ、自己の現状と必要な能力との差異を認識し、そのうえで、自ら目標を設定し、今後の大学生活を通して、主体的に取り組み、改善できるようになることを目指す。また、自治体で働くことに対する理解を深めることに加え、市民生活に果たす自治体行政の役割を理解することを目指す。 授業は、ガイダンスおよび、事前研修会などの座学と、自治体へのインターンシップの参加、及び事後発表会(レポートor発表会)で構成する。また、岐阜県が行う業務の理解を深めるために、統計調査員としての登録を行う。 ガイダンスおよび、事前研修会では、インターンシップの際に求められるビジネスマナー等を学び、事前にインターンシップ中の目標設定を行う。インターンシップ先での就業体験の最終日には、プレゼンテーションの実施を予定している。</p>	
教養科目	複合領域科目	キャリア形成分野	産業系インターンシップ	<p>(概要)この授業では、1週間程度のインターンシップへの参加を通して、企業で働くことをイメージし、俯瞰力(状況把握力)、共同推進力(人間関係構築力)などの必要な能力の理解と、自己の現状と必要な能力との差異を認識し、そのうえで、自ら目標を設定し、今後の大学生活を通して、主体的に取り組み、改善できるようになることを目指す。産業系インターンシップでは、専門に関する企業へのインターンシップを想定する。 インターンシップとは、企業へ実際に行き、就業体験をすることを指す。 授業は、ガイダンスおよび、事前研修会などの座学と、インターンシップ(実践)への参加で構成する。</p>	
教養科目	複合領域科目	キャリア形成分野	産業系インターンシップ	<p>(概要)この授業では、1週間程度のインターンシップへの参加を通して、企業で働くことをイメージし、俯瞰力(状況把握力)、共同推進力(人間関係構築力)などの必要な能力の理解と、自己の現状と必要な能力との差異を認識し、そのうえで、自ら目標を設定し、今後の大学生活を通して、主体的に取り組み、改善できるようになることを目指す。産業系インターンシップでは、専門の周辺分野ないし専門外の企業へのインターンシップを想定する。インターンシップとは、企業へ実際に行き、就業体験をすることを指す。 授業は、ガイダンスおよび、事前研修会などの座学と、インターンシップ(実践)への参加で構成する。</p>	

<p>教養科目</p>	<p>複合領域科目</p>	<p>キャリア形成分野</p>	<p>社会の多様な働き方</p>	<p>(概要)          経済や文化をはじめとする社会情勢が目まぐるしく変化する現在では、以前にはなかった「多様な働き方」が生まれつつあります。この授業ではNPO、NGO、そして民間企業等からゲストスピーカーを積極的にお招きし、お話を伺うことで「多様な働き方」に触れ、生徒一人一人が自分の将来の働き方をイメージすることができるようにしていきます。その過程で、大学での学びを振り返り、将来的に働くということと今の学びがどのように繋がっており、生きていくのかを考えていきます。また将来的にどのような働き方が社会的に必要とされていくのかをグループごとで模索し、発表をしてもらいます。</p> <p>(目標)          日本と世界で展開される働き方を知り、多様な考え方があることを踏まえて自身の考えを明確なものにする。          興味が持てる働き方と大学での学びがどう関係しているのかを「自分の言葉」で記述ができる。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>複合領域科目</p>	<p>キャリア形成分野</p>	<p>キャリア形成論</p>	<p>(概要)          自分は将来どのような人生を歩んでいくのか。どんな仕事に就いているのだろうか。そもそも自分が就きたい仕事はどのような仕事なのか。こうした疑問は多くの大学生が抱えるものです。授業の題目にある「キャリア」というと、おそらく就職活動や学生生活の間取るべき資格などが思い浮かぶと思いますが、この講義は、就職活動に関わるテクニクを学ぶものではありません。その一歩手前の、現在の自分が置かれている状況(世界や日本、そして身近な社会情勢)を把握し、その中で「生きる」とは、そして「働く」とはどういうことなのかという、広い意味での「生き方」や「働き方」について考えることを目的としています。広く情報のアンテナを張り巡らし、グループディスカッションを通じて他者の意見に耳を傾ける中で多様な物のとらえ方を身につけ、同時に自分の意見や意志を形作る。そうすることで未来を切り開いていく能動性を養おうというものです。</p> <p>(目標)          1. 自分が今生きてる時代がどのような時代なのか、についてニュースや本などを通じて現状を把握し、自分の将来を見つめる。          2. グループディスカッションを通じて仲間同士で意見を出し合い、他者の意見を自分の中で消化すると同時に自身の意見や意志を形作る。          3. 自分の生き方や働き方を自分の言葉で記述することができる。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>複合領域科目</p>	<p>キャリア形成分野</p>	<p>ライフコース論(人生設計と生活保障)</p>	<p>(概要)          人それぞれが歩む人生の道筋は異なります。年代はもとより、国や地域、宗教、そして文化圏によっても歩まれるライフコースには様々なものがあります。とりわけ日本では以前のように、学校を出たら安定的な仕事に就くことが難しくなっており、様々なライフコースが模索されている状況にあります。この授業では世界で今どのようなライフコースが育まれており、また「若者」はどう実践しようとしているのかを探ります。その成果を踏まえて日本で模索されるライフコースのあり方を振り返り、ひいては生徒が自身のライフコース(人生設計)を描く上でのヒントを得ることを目的としています。なお、受講者数にもよりますが、グループでの作業や議論を積極的に取り入れる予定です。</p> <p>(目標)          1. 世界各国で展開されているライフコースに関わる理解をもとに自身のライフコースを考えるヒントを得ることができる。          2. 今後の自身のライフコースについて、「自分の言葉」で記述することができる。</p>	

<p>教養科目</p>	<p>複合領域科目</p>	<p>キャリア形成分野</p>	<p>プロジェクト型インターンシップ</p>	<p>(概要) 本講義では、岐阜県で障害者の就労移行支援に取り組む事業所から課題の提示を受けて、グループで解決策を検討し、実際に提案を実施します。提案のためには、フィールドワークや文献調査、そしてインターネットでの情報収集も必要となるでしょう。そうしたものを踏まえて、学生1人1人が課題の解決に資する意見やアイデアを出し合い、ディスカッションを繰り返す中で、学生ならではのアイデアを丁寧に練り上げていきます。そのアイデアを事業所担当者の前でプレゼンさせてもらい、直接にコメントを頂く機会を設けます。</p> <p>(目標) ・態度としての主体性、チームワーク力、情報の収集・発信力、謙虚に受容する力を育むことができる ・スキルとしての考える力を育み、グループ内で共有することができる ・グループ内での役割分担を通じてパフォーマンスを上げるには個人としてどのようなすればよいか見出すことができる ・社会人として活躍するために、現在の自分に足りないものに気づくことができ、他者に説明することができる ・自分に足りないものを、今後の学生生活でいかに身につけていけばよいか見出すことができ、他者に説明することができる</p>	
<p>教養科目</p>	<p>複合領域科目</p>	<p>キャリア形成分野</p>	<p>現代社会とボランティア・地域活動</p>	<p>(概要) ボランティア・地域活動(ボランティア活動等)に関する基礎的な知識を修得することに加え、学内外の様々なボランティア活動等に参加し(10時間)、地域の人びとと共に活動することを通して、実践的な生きた知識や技能を学ぶとともに、その過程において豊かな人間性や社会性を身に付ける。また、ボランティア活動等をおとして、地域の課題を見つけ、地域の課題解決に向けて行動する能力を修得する。</p> <p>(目標) 1. ボランティア活動等に関する基礎的な知識が修得できており、ボランティア活動等をコーディネートできる。 2. 地域の課題を見つけ、地域の課題解決に向けて行動する能力が修得できている。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>複合領域科目</p>	<p>キャリア形成分野</p>	<p>自己省察と将来のキャリア設計</p>	<p>(概要) 大学卒業後の人生の進路を決定するには、自己の志向、適正、労働条件、社会の変化、景気動向、地理条件など多くの要素を考慮しながら検討する必要があります。本講義では受講生が将来を考える材料となるよう、教員の人生経験談、岐阜県の企業で活躍するゲストスピーカーの話、先輩や社会人との座談会等を提供する。その前後では、受講生同士でのグループワークやラーニングポートフォリオの記述を通じて、感じたことや考えたことを言語化して共有する。多種多様な視点を取り入れながら、生きること・働くことの意義を考え、自分自身の様々な可能性に気づくことが、本講義の狙いである。</p> <p>(目標) 自分に求められる能力、自分が伸ばしたい能力について具体的に言語化することができる。 グループワークにおいて適切な傾聴・発信ができる。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>複合領域科目</p>	<p>次世代地域リーダー育成</p>	<p>地域リーダー実践(上級)</p>	<p>(概要) この授業は「次世代地域リーダー育成プログラム」の上級段階の授業であり、同プログラムの初級段階で所定の単位を修得し、後期開講の「地域リーダー実践(上級)II」の履修を条件とする。授業では実際の地域の課題解決等に向けて実践的に取り組むことで、地域の中でリーダーシップを発揮できる人材、あるいはリーダーを支援する人材として必要な素養や能力を養う。予め設定されたプロジェクト課題を選択し、プロジェクト指導教員の助言および現地コーディネーターとの連携のもと原則、グループで課題に取り組む。受講生全員は、講義コーディネーターが実施する定期的な研修(事前・中間・事後・フォローアップ)に参加し、振り返りやグループワークを通して、受講生自らで目標設定・動機付け・進捗確認などを行う。プレゼンテーションとして自身の事業計画の発表、最終活動報告を行う。</p> <p>(目標) 「岐阜を知り」、「岐阜の課題を見つけ」、「岐阜の課題解決に向けて行動する」能力(地域リテラシー)を備えた人材となる。(「課題発見力」、「創造的思考力」、「論理的思考力」) 主体的に活動し、地域の人々との協働やコミュニケーションを通して成長し、グローバル化する現代社会の中で活動ができるグローバルな人間となる(「傾聴力」、「発信力」、「状況把握力」)。 地域の中でリーダーシップを発揮できる人材ならびにリーダーを支援する人材となる(「計画力」、「実行力」、「管理力」)。</p>	

<p>教養科目</p>	<p>複合領域科目</p>	<p>次世代地域リーダー育成</p>	<p>地域リーダー実践（上級）</p>	<p>（概要） この授業は「次世代地域リーダー育成プログラム」の上級段階の授業であり、同プログラムの初級段階で所定の単位を修得し、前期開講の「地域リーダー実践（上級）I」の履修を条件とする。授業では実際の地域の課題解決等に向けて実践的に取り組むことで、地域の中でリーダーシップを発揮できる人材、あるいはリーダーを支援する人材として必要な素養や能力を養う。予め設定されたプロジェクト課題を選択し、プロジェクト指導教員の助言および現地コーディネーターとの連携のもと原則、グループで課題に取り組む。受講生全員は、講義コーディネーターが実施する定期的な研修（事前・中間・事後・フォローアップ）に参加し、振り返りやグループワークを通して、受講生自らが目標設定・動機付け・進捗確認などを行う。プレゼンテーションとして自身の事業計画の発表、最終活動報告を行う。</p> <p>（目標） 「岐阜を知り」、「岐阜の課題を見つけ」、「岐阜の課題解決に向けて行動する」能力（地域リテラシー）を備えた人材となる。（「課題発見力」、「創造的思考力」、「論理的思考力」） 主体的に活動し、地域の人々との協働やコミュニケーションを通して成長し、グローバル化する現代社会の中で活動ができるグローバルな人間となる（「傾聴力」、「発信力」、「状況把握力」）。 地域の中でリーダーシップを発揮できる人材ならびにリーダーを支援する人材となる（「計画力」、「実行力」、「管理力」）。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>複合領域科目</p>	<p>次世代産業リーダー育成</p>	<p>産業リーダー実践</p>	<p>（概要） この授業は「次世代地域リーダー育成プログラム産業リーダーコース」の上級段階の授業であり、同プログラムの初級段階で所定の単位を修得していることを履修条件とする。授業では実際の地域産業の課題解決等に向けて実践的に取り組み、リーダーシップを発揮できる人材あるいはリーダーを支援する人材として必要な素養や能力を養う。指導教員の助言と協力者との連携のもと、原則としてグループで課題に取り組む。受講生自らが目標設定・動機づけ・進捗確認などを行い、自身の事業計画の発表と最終活動報告をプレゼンテーションとして行う。</p> <p>（目標） 岐阜を知り、岐阜の課題を見つけ、岐阜の課題解決に向けて行動する能力（地域リテラシー）を備えた人材となる。 主体的に活動し、地域の人々との協働やコミュニケーションを通して成長し、グローバル化する現代社会の中で活動ができるグローバルな人間となる。 地域の中でリーダーシップを発揮できる人材ならびにリーダーを支援する人材となる。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>外国語科目</p>	<p>英語</p>	<p>英語1</p>	<p>（概要）The objective of this course is to teach students how to converse fluently and naturally in simple English on a range of familiar topics. The focus will be on responding accurately, naturally, and appropriately to a specified range of questions that will be taught during the course. There will also be a strong focus on pronunciation and non-verbal communication. （様々な話題について平易な英語を用いて流暢かつ自然に話す方法を教えることが本授業の目的です。授業で学んだ質問に対して、正確に、自然に、適切に応答することを中心に学びます。発音と非言語コミュニケーションも重視されます。）</p> <p>（目標）Students who successfully complete the course will be able to understand and respond accurately, fluently, and appropriately to a specified range of basic questions on familiar topics. （本授業を成功裏に修了する学生は、身近な話題に関する基本的な質問を理解し、正確かつ流暢に、そして適切に返答できるようになります。）</p>	

教養科目	外国語科目	英語	英語2	<p>(概要) The main objective of this course is to familiarize students with the basics of English listening and pronunciation. In particular, students will learn about the way English sounds when it is spoken at natural speed by proficient speakers. This knowledge will be applied both actively through pronunciation development and passively through listening practice.</p> <p>(本授業では学生に英語の聴解と発音の基礎を習熟させることを主要な目的とします。特に英語が普通の速さで話された時にどのように聞こえるかについて学習します。この知識は能動的に発音を上達させる際と受動的に聴解を練習する際に応用できます。)</p> <p>(目標) Students who successfully complete the course will be able to understand basic English sentences that contain known vocabulary and grammar when they are spoken at natural speed.</p> <p>(本授業を成功裏に修了する学生は、既知の語彙と文法を用いて普通の速度で話された基本的な英語の文章を理解できるようになります。)</p>	
教養科目	外国語科目	英語	英語3	<p>(概要) The main objective of this course is to broaden and deepen students' understanding of fundamental concepts of English reading. Students will develop both their reading skills and their knowledge of English vocabulary. In addition, they will learn techniques for dealing with higher-level texts and specialist vocabulary.</p> <p>(本授業は、学生の英語読解に関する基本的な理解を広げ深めることを目的としています。加えて、レベルの高い文章と専門用語を扱う際に使える手法を修得します。)</p> <p>(目標) Students who complete the course will have a strong foundation in the concepts relating to both reading and vocabulary that they will need to understand in order to become independent learners.</p> <p>(本授業を成功裏に修了する学生は、読解と語彙に関する概念をよく理解した自立的学習者になります。)</p>	
教養科目	外国語科目	英語	英語4	<p>(概要) The main objective of this course is to familiarize students with the conventions of English writing and the mechanics of English sentence construction. Students will learn how to write natural English using a variety of basic sentence types. They will also learn how to proofread English writing and edit their own compositions.</p> <p>(本授業では学生に英語を書く際の決まりと英文の構造に習熟させることを主要な目的とします。学生は、多様な種類の基本文から成る自然な英語の書き方を学習します。また、英文の校正の仕方を学習し、自分の作文を編集できるようになります。)</p> <p>(目標) Students who successfully complete the course will be able to produce single-paragraph compositions of approximately 100 words in length on familiar topics.</p> <p>(本授業を成功裏に修了する学生は、身近な話題に関して一つの段落から成る100単語程度の文章を書けるようになります。)</p>	
教養科目	外国語科目	第二外国語	ドイツ語	<p>(概要)</p> <p>グローバルに活躍する人材が求められる現代において、英語以外の外国語を学習することは、言語的側面のみならず異文化理解の側面からみても、ますます必要とされています。この授業では、ドイツ語によって情報や知識を発信・受信できるような能力の修得を目標とします。また英語以外の、すなわちドイツ語を用いる地域の文化や社会についても理解を深め、そのことを通して世界を相対的に捉え、多面的に考察する能力を涵養します。</p> <p>この授業は、文法を中心にドイツ語の基礎を学びます。講義スタイルではなく、グループ学習やゲーム、歌のテキストを通して、楽しく勉強することを目指します。</p> <p>(目標) ドイツ語で簡単なコミュニケーションを取れるようになること。</p>	

教養科目	外国語科目	第二外国語	ドイツ語	<p>(概要) グローバルに活躍する人材が求められる現代において、英語以外の外国語を学習することは、言語的側面のみならず異文化理解の側面からみても、ますます必要とされています。この授業では、ドイツ語によって情報や知識を発信・受信できるような能力の修得を目標とします。また英語以外の、すなわちドイツ語を用いる地域の文化や社会についても理解を深め、そのことを通して世界を相対的に捉え、多面的に考察する能力を涵養します。</p> <p>この授業では、基礎的な文法の反復練習、基礎的な語彙の修得、会話とテキスト読解の向上を目指します。</p> <p>(目標) ドイツ語 I の授業で得た能力を練習して、知識を深める。</p>	
教養科目	外国語科目	第二外国語	フランス語	<p>(概要) グローバルに活躍する人材が求められる現代において、英語以外の外国語を学習することは、言語的側面のみならず異文化理解の側面からみても、ますます必要とされています。この授業では、フランス語によって情報や知識を発信・受信できるような能力の修得を目標とします。また英語以外の、すなわちフランス語を用いる地域の文化や社会についても理解を深め、そのことを通して世界を相対的に捉え、多面的に考察する能力を涵養します。</p> <p>(目標) フランス語の基本文法や発音に慣れ、フランス語独特の構文を理解する。最終的には、簡単なフランス語の文章を辞書なしでも理解でき、正しい発音で読めるようにする。フランスやフランス語圏の生活・文化に触れ理解を深める。</p>	
教養科目	外国語科目	第二外国語	フランス語	<p>(概要) グローバルに活躍する人材が求められる現代において、英語以外の外国語を学習することは、言語的側面のみならず異文化理解の側面からみても、ますます必要とされています。この授業では、フランス語によって情報や知識を発信・受信できるような能力の修得を目標とします。また英語以外の、すなわちフランス語を用いる地域の文化や社会についても理解を深め、そのことを通して世界を相対的に捉え、多面的に考察する能力を涵養します。</p> <p>(目標) フランス語の基本文法や発音に慣れ、フランス語独特の構文を理解する。最終的には、簡単なフランス語の文章を辞書なしでも理解でき、正しい発音で読めるようにする。フランスやフランス語圏の生活・文化に触れ理解を深める。</p>	
教養科目	外国語科目	第二外国語	中国語	<p>(概要) グローバルに活躍する人材が求められる現代において、英語以外の外国語を学習することは、言語的側面のみならず異文化理解の側面からみても、ますます必要とされています。この授業では、中国語によって情報や知識を発信・受信できるような能力の修得を目標とします。また英語以外の、すなわち中国語を用いる地域の文化や社会についても理解を深め、そのことを通して世界を相対的に捉え、多面的に考察する能力を涵養します。</p> <p>(目標) 一年間(中国語・ )で、ピンイン(ローマ字による中国語発音表記システム)の読み方と綴り方、常用の単語、日常の挨拶語、基本文型などを学び、平易な中国語を聞き、読み、話し、書くことができる能力を身につける。</p>	
教養科目	外国語科目	第二外国語	中国語	<p>(概要) グローバルに活躍する人材が求められる現代において、英語以外の外国語を学習することは、言語的側面のみならず異文化理解の側面からみても、ますます必要とされています。この授業では、中国語によって情報や知識を発信・受信できるような能力の修得を目標とします。また英語以外の、すなわち中国語を用いる地域の文化や社会についても理解を深め、そのことを通して世界を相対的に捉え、多面的に考察する能力を涵養します。</p> <p>(目標) 一年間(中国語・ )で、ピンイン(ローマ字による中国語発音表記システム)の読み方と綴り方、常用の単語、日常の挨拶語、基本文型などを学び、平易な中国語を聞き、読み、話し、書くことができる能力を身につける。</p>	

<p>教養科目</p>	<p>外国語科目</p>	<p>第二外国語</p>	<p>朝鮮・韓国語</p>	<p>(概要) グローバルに活躍する人材が求められる現代において、英語以外の外国語を学習することは、言語的側面のみならず異文化理解の側面からみても、ますます必要とされています。この授業では、朝鮮・韓国語によって情報や知識を発信・受信できるような能力の修得を目標とします。また英語以外の、すなわち朝鮮・韓国語を用いる地域の文化や社会についても理解を深め、そのことを通して世界を相対的に捉え、多面的に考察する能力を涵養します。</p> <p>(目標) 【読み書き能力】 韓国語の基本的な単語及び初歩的な文をハングルで正しく書き、正確に読めるようにします。 【口頭表現能力】 日常的な挨拶表現を適切に使えるようにします。また、簡単な自己紹介を韓国語で行えるようにします。 【聞き取り能力】 授業で習う単語や簡単な文章を確実に聞き取れるようにします。また、授業中によく使う表現については、徐々に日本語から韓国語へと切り替えていきます。 【文法能力】 韓国語文の組み立て方の基本を理解し、助詞、指示詞など基本的な文構成要素を正しく使い、丁寧体の文の文末述語の活用形を正しく作れるようにします。</p>
<p>教養科目</p>	<p>外国語科目</p>	<p>第二外国語</p>	<p>朝鮮・韓国語</p>	<p>(概要) 朝鮮・韓国語 に引き続き、韓国語の基礎を固めるための授業です。 韓国語の文構造は日本語の構造に酷似しているため、日本語話者が韓国語を習う際に語順等の点についてはほとんど神経を使う必要はありません。しかし、用言を必要に応じて適切な形に活用させる必要があり、活用形の作り方、使い方に習熟することが韓国語の文法学習の最大の課題となります。この授業はこの点に重点を置いて進められます。正則用言のヘヨ体、過去形、敬語形など主な活用形と表現を学習します。言語にはその使用者の価値観が反映されていることがよくあります。韓国語を学ぶと同時に、韓国人の価値観の一端にも触れてみたいと思います。</p> <p>(目標) 【読み書き能力】 韓国語の平易な文をハングルで正しく書き、正確に読めるようにします。 【口頭表現能力】 習った範囲内の文法と語彙を用いて自分の意見を韓国語で述べられるようにします。 【聞き取り能力】 テキストに現れる文などが普通のスピードで話された場合、着実に聞き取れるようにします。 【文法能力】 用言の活用形の作り方を理解し、主な活用形の意味と用法をマスターします。</p>
<p>教養科目</p>	<p>外国語科目</p>	<p>第二外国語</p>	<p>ポルトガル語</p>	<p>(概要) グローバルに活躍する人材が求められる現代において、英語以外の外国語を学習することは、言語的側面のみならず異文化理解の側面からみても、ますます必要とされています。この授業では、ブラジルポルトガル語によって情報や知識を発信・受信できるような能力の修得を目標とします。また英語以外の、すなわちポルトガル語を用いる地域の文化や社会についても理解を深め、そのことを通して世界を相対的に捉え、多面的に考察する能力を涵養します。 日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育や医療分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。この授業では、ブラジルポルトガル語を初めて学ぶ人を対象としており、初歩から学習していきます。まずは発音に慣れ、簡単なあいさつや身近な表現を学んでいきます。現場で用いられる基本的表現を理解し、それを応用するための知識を修得していきます。</p> <p>(目標) ブラジルポルトガル語の発音と基礎的な文法事項を学び、基本的なあいさつ表現と現在時制を用いた自己表現を理解するようになります。</p>

教養科目	外国語科目	第二外国語	ポルトガル語	<p>(概要) グローバルに活躍する人材が求められる現代において、英語以外の外国語を学習することは、言語的側面のみならず異文化理解の側面からみても、ますます必要とされています。この授業では、ブラジルポルトガル語によって情報や知識を発信・受信できるような能力の修得を目標とします。また英語以外の、すなわちブラジルポルトガル語を用いる地域の文化や社会についても理解を深め、そのことを通して世界を相対的に捉え、多面的に考察する能力を涵養します。日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育や医療分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。この授業では、ポルトガル語 で学んだ内容をさらに発展し学んでいきます。現場で用いられる基本的表現を理解し、それを応用するための知識を修得していきます。</p> <p>(目標) 自己紹介表現や過去時制を用いた表現ができるようになります。</p>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	健康科学講義	健康科学	<p>(概要) 将来、社会で活躍する時、自分自身だけでなく、家族や職場、あるいは地域社会の健康管理と健康増進を考えることのできる能力が必要である。</p> <p>これは、深い思いやりや愛情とともに、科学的根拠に基づいて冷静に判断し、行動を決定できる能力である。毎回、健康に関する身近なテーマをとり上げ、最新情報を含む講義を展開する。教養ある社会人に必要な考え方を醸成できるようになることを目指している。</p>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	健康科学講義	ヘルスプロモーションと地域保健	<p>(概要) 健康の保持・増進、生活の質の向上の基盤となるヘルスプロモーションの考え方を理解し、行政をはじめ、学校や企業等の地域で展開されている保健活動を通して、受講生自身の身近な健康課題を取り上げ、ヘルスプロモーションを実践的に学習する。</p> <p>(目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ヘルスプロモーション、及び各領域における地域保健活動の概念と意義が説明できる。</li> <li>2.健康と生活の多様性・地域性・学術的特徴について説明できる。</li> <li>3.ライフサイクルの中における各年代や周期の健康課題が説明できる。</li> <li>4.今日的な健康課題に対するヘルスプロモーション、及び地域保健活動の現状と課題について説明できる。</li> </ol>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	健康科学講義	スポーツコンディショニング	<p>(概要) スポーツにおける『コンディション』とは、身体的要素・精神や心理的要素・環境的要素・情動的要素などが多様に関与しています。そしてスポーツにおける『コンディショニング』は、スポーツ活動を行ううえで選手の能力を十分に引き出し、パフォーマンスの向上を図るだけでなく、傷害や疾病を予防し、良い体調を維持・向上させる上で必要です。選手の健康管理は、セルフケア、一次ケア(プライマリケア)、二次ケア(セカンダリーケア)と階層的に構成され、選手自身が自分のために行う『セルフケア』が最も基本かつ重要です。よって本講義では、選手自身に健康管理の重要性を認識させ、自覚を持たせる自己管理の方法について講義を展開していきます。</p> <p>(目標) スポーツ活動による疲労やケガなどについて、コンディションの視点から選手自身に初期段階から対応策を講じることができるようにする。</p>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	剣道	<p>(概要) 剣道の打撃動作がスポーツバイオメカニクス的にみて、いかなる動作で行われているか、また、運動学的にいかなる点に注意して動作したらよいかを中心として未鍛錬者と鍛錬者の動作を分析上比較検討しながら、剣道の基礎的技術の実践を通して、心身の鍛錬と技能の向上を図ります。</p> <p>(目標) 日本古来の伝統文化としての剣道の特性に関する知識を深め、海外(ハンガリー、フランス、香港、ギリシア)での剣道指導の経験を紹介しながら生涯スポーツとしての基礎作りを目指します。</p>	

教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	雪上スポーツで学ぶ(スキー)	<p>(概要) スキーは、生涯スポーツの一つとして、また大学生が身に付けるべき教養実践科目として取り上げています。厳しい冬の銀嶺と澄みきった青空を背景に、白い大斜面に思い思いのシブールを描く…。スキーは自然との深い融合に喜びと楽しみがあります。</p> <p>受講する諸君は、自己実現に欠くことができない安全で正しいスキー技術を体得する一方で、野外スポーツに欠くことのできない自然への畏敬、現代人に欠けていると言われる他者理解(思いやり)、宿舎での生活やゲレンデでのマナーといった生涯につながる教養ある態度も身に付けてもらいたい。さらにそこに集う人達とのコミュニケーションをより深め、雪国での楽しく充実した合宿生活を体験してもらいたい。</p> <p>(目標) ・正しいスキー技術を体得する。 ・ゲレンデマナーなど、教養ある態度を身に付ける。 ・コミュニケーション力を高める。</p>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	ヨガ・エアロビクス	<p>(概要) ヨガやエアロビック・ダンスの体験を通して、運動を行うことで得られる「気持ちいい」「楽しい」という感覚を確かなものとし、生涯を通して主体的に運動実践を継続するための能力を養うことをねらいとします。</p> <p>(目標) (1) 心肺機能、柔軟性、筋力の向上や脂肪の燃焼などの運動効果について理解を深める。 (2) 運動効果を得るための合理的な運動の仕方を学び、各人が自分に合ったやり方で運動強度を調節したり工夫したりして運動を行うことが出来る。 (3) 自分に合った運動プログラムを作成する。</p>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	トレーニング	<p>(概要) 体力トレーニングの領域から、人間が積極的に活動するために必要とされる運動・動き、体育・スポーツで出現する基本的な運動・動き、個々のトレーニング方法を紹介しながら、運動・動きの質を高めることや体力を高めることが目的です。</p> <p>(目標) 個々のトレーニングの方法や運動・動きの質を理解し、実践しながら体力を高めることができるようにすることです。</p>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	ハンドボール	<p>(概要) 今持っている力で行うゲームから入り、ハンドボールそのものを実感してもらいたい。その上で、攻防に必要な基本プレーを学び、ゲーム局面が発展していく面白さに触れることを本授業のねらいとします。ゲーム中心の活動を通して、ハンドボールの技術・戦術、ルールを理解し、「ゲームの中で滑らかにシュートを決めること(初心者)」ができるよう授業の目標を設定します。中・上級者には「基本プレーを駆使し、味方を活かしゲームの組み立てや展開ができること」としたい。授業の後半以降は各チームでゲームプランを設定してもらいます。また同時に、メンバー間のコミュニケーションやチームワークを図りつつ、「ゲームを楽しむ」その雰囲気も共有することも本授業のねらいとします。</p>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	新卓球(ラージボール)	<p>(概要) 幅広い年代の人に卓球競技を普及させ、またレクリエーションスポーツとしても楽しめるように、という目的で、昭和63年日本卓球協会が新しく考案したのがラージボール卓球です。通常(直径40mm)よりも大きく(直径44mm)軽いボールを用いるためボールのスピードが出にくく、また変化も少ないため、ラリーが続き、初心者であってもラリーを楽しむことができます。このため、ラージボール卓球は生涯スポーツとしても注目されています。本授業では特に卓球初心者の人に卓球のラリーの楽しみを知ってもらうことを授業のねらいとしています。</p>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	ファストピッチ・ソフトボール(ウインドミル投法入門)	<p>(概要) いわゆる競技ソフトボールである「ファストピッチ・ソフトボール」において、現在、最も主流となっている投法は、腕を1回転させてボールを投げるウインドミル投法である。しかしながら、その固有のフォームゆえに独学による修得は簡単とは言えない。本授業では、ウインドミル投法の基礎を体系立てて解説し、その修得を目指す。</p> <p>(目標) 市民リーグレベルの試合を楽しむために必要なウインドミル投法の技量修得を目標とする。また、ウインドミル投法の修得を通して、試行錯誤や創造する楽しさを体験する。</p>	

教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	卓球・水泳	<p>(概要) 講義期間の前半は卓球、後半は水泳を行います。卓球は身体のリフレッシュを主な目的とします。競技経験の有無は問いません。水泳は陸上トレーニングで得られない体力作りや身体のリフレッシュを目的とします。授業内容は初心者が対象ではなく、ある程度泳げる者を対象とします。</p> <p>(目標) 卓球と水泳を通して心身の健康増進を図る。</p>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	バドミントンA	<p>(概要) バドミントンが得意な人だけが楽しむのではなく、初めての人やバドミントンが得意でない人も、参加者全員がバドミントンを楽しむということをモットーに授業を進めていきます。実技は、ゲームが中心です。ゲームをしながら、ルールに慣れたり、周囲とコミュニケーションをとったりして仲間を増やしていくことをテーマにスタートします。徐々にゲームの得点を増やしていき、バドミントンのゲームに慣れて、最終的には公式ルールの得点である21点ゲームを行います。ゲームのペアや対戦相手は、グループを作りその中で決めていきます。</p> <p>(目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ルールを理解し、試合の進行ができる。</li> <li>2. 自分のプレイスタイル(得意なプレー)を理解し、ゲームを楽しむ。</li> <li>3. 周囲とコミュニケーションをとり、自分も楽しみ相手も楽しませる。</li> </ol>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	女子サッカーA	<p>(概要) ゲームを中心に授業を展開していきます。ゲームは、ミニゲームからスタートして、最終的には公式の大きさに近いコートでのゲームへと発展していきます。毎回の授業としては、ゲームの前に基礎技術を練習してゲームに入るという形になります。基礎技術は、ボールを「蹴る」「止める」のパスを中心に行います。技術練習は、準備運動を兼ねます。技術練習を行います。技術の修得がねらいではなく、サッカーを通して周囲とコミュニケーションをとり、体を動かす楽しさ、お互いに助け合いながらボールを追いかける楽しさなど、あらゆる状況の中で「楽しさ」を追求することをねらいとします。</p> <p>(目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ルールを理解する。</li> <li>2. チームが勝つために、自分の役割を理解し、実践する。</li> <li>3. あらゆることを楽しむために、周囲と積極的に関わり、コミュニケーションをとる。</li> </ol>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	女子サッカーB	<p>(概要) ゲームを中心に授業を展開していきます。ゲームは、ミニゲームからスタートして、最終的には公式の大きさに近いコートでのゲームへと発展していきます。毎回の授業としては、ゲームの前に基礎技術を練習してゲームに入るという形になります。基礎技術は、パスやフェイント、ドリブルなどを行います。技術練習は、準備運動を兼ねます。技術練習を行います。技術の修得がねらいではなく、サッカーを通して周囲とコミュニケーションをとり、体を動かす楽しさ、お互いに助け合いながらボールを追いかける楽しさなど、あらゆる状況の中で「楽しさ」を追求することをねらいとします。</p> <p>(目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ルールを理解する。</li> <li>2. チームが勝つために、自分の役割を理解し、実践する。</li> <li>3. あらゆることを楽しむために、周囲と積極的に関わり、コミュニケーションをとる。</li> </ol>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	サッカー	<p>(概要) ゲームを中心に授業を展開していきます。ゲームは、ミニゲームからスタートして、最終的には公式の大きさに近いコートでのゲームへと発展していきます。授業は、運動量の確保、身体を動かす楽しさ、サッカーを通しての仲間づくりをモットーにした授業になります。また、経験者、未経験者関係なく、「技術」ではなく「全員が力を発揮できる雰囲気」を大切にしていきます。オールコートのゲームでは、チーム練習やポジション決めなど、主体的、積極的にチーム作りに参加してもらいます。チーム分けは、その都度臨機応変に行っていきます。</p> <p>(目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ルールを理解し、試合を進行できる。</li> <li>2. 実技やそれ以外のグループ活動において、自分の役割(自分ができるところ)を理解し、実践する。</li> <li>3. 周囲と積極的にコミュニケーションを取り、主体的に参加する。</li> </ol>	

<p>教養科目</p>	<p>スポーツ・健康科学科目</p>	<p>スポーツ演習分野</p>	<p>卓球</p>	<p>(概要) 卓球は、場所をとらずに手軽にできる、日本では以前からなじみ深いスポーツです。そして、初心者でもラリーやゲームが容易にできる、すぐに楽しむことができる種目です。 この授業では、楽しむだけにとどまらずに、スポーツとしての卓球の技術修得を目指します。つまり、フォアハンド・ロングとバックハンド・ショットの技術を修得し、安定した返球ができることを目的とします。そのために、構え、グリップ、ストローク、フットワークなど基礎的な練習を繰り返し行います。また、様々な遊び感覚のゲームや公式ルールによるゲームも行います。単なる「遊び」としての卓球から、「スポーツ」としての卓球技術を学び、今までと違う一味違う卓球を身につけて、生涯スポーツに位置づけることを期待します。</p> <p>(目標) 卓球の基本技術を修得し、ゲームを楽しむことができる。卓球のルールや歴史について基本的知識を身につける。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>スポーツ・健康科学科目</p>	<p>スポーツ演習分野</p>	<p>ボールゲーム</p>	<p>(概要) ボールゲーム では、ゴール型球技・ネット型球技・ベースボール型球技を幅広く扱います。また、ニュースポーツも授業に取り入れ、男女の体力差や競技の習熟度の差を考慮した授業づくりを目指しています。</p> <p>さらには、各種ボールゲームの技術修得のみならず、グループやチームでの活動を通して、「協同することのおもしろさを学習すること」を主なねらいとしています。学生同士のコミュニケーションを軸に授業展開する中で、互いの特徴を理解し合い、スポーツ活動を楽しむことができるようにします。</p> <p>(目標) ルールを理解し、試合の進行ができる。 基本技術の修得と仲間との協同プレイができる。 仲間と協力してリーグ戦や団体戦の運営ができる。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>スポーツ・健康科学科目</p>	<p>スポーツ演習分野</p>	<p>バレーボールA</p>	<p>(概要) バレーボールは生涯を通じて楽しむことのできる代表的なスポーツです。体育館などの場所さえ用意すれば、仲間と手軽に楽しむことができます。この授業を通してバレーボールの面白さを体感し、生涯スポーツとして今後もバレーボールをやってみたいと思えるような授業を目指します。全ての受講生が積極的にボールを追って、仲間との一体感を楽しみ、充実した汗を流せるような授業をねらいとしていきます。全員の活動量や楽しみを確保するために、基本的に初心者（高校までの授業での経験しかないレベル）を対象として行っていきます。そのため、授業の最初の数時間はルールを制限した簡易なゲームから入り、基本技術の練習も適時入れていきます。最終的には白熱したラリーが続き、ゲーム中に相手の攻撃をブロックしたり、組織的にレシーブしたりできるようなレベルを目指します。</p>	
<p>教養科目</p>	<p>スポーツ・健康科学科目</p>	<p>スポーツ演習分野</p>	<p>テニス</p>	<p>(概要) テニスは老若男女を問わず全世界で楽しんでいるスポーツの一つで「生涯スポーツ」として運動習慣の獲得に適している。この授業では主に基礎技術の獲得を目指す。またゲーム方法の基礎を学び、ゲームを通じてマナーやコミュニケーション方法、パートナーへの信頼、対戦相手への尊敬心を養う。基礎体力の向上および安全管理を含めた社会性を身につけることも目的とする。授業は実技形式で行なう。必要に応じてグループを形成して練習・ゲームを行なう。</p> <p>(目標) 1. Game based approachの観点からゲームで使うグラウンドストローク（フォアハンド・バックハンド）、ネットプレー（ボレー・スマッシュ）、サーブ・レシーブ等の基礎技術、ラリー能力の獲得 2. ゲームの実践 3. テニスの審判法を身につける</p>	

教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	テニス	<p>(概要) テニスは老若男女を問わず全世界で楽しまれているグローバルなスポーツの一つである。2~4人の少人数で実施できることや社会人になっても気軽にできること、から「生涯スポーツ」として適した種目である。</p> <p>この授業ではテニスの競技特性を理解し、ゲームにおける戦術戦略の立て方の修得を目指す。また、ゲームを通してマナーやコミュニケーション能力、パートナーへの信頼、対戦相手に対する尊敬心を養うとともに基礎体力の向上および安全管理を含めた社会性を身につけることも目的とする。授業は実技形式で行なう。必要に応じてグループを形成して練習・ゲームを行なう。</p> <p>(目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Game based approachの観点からゲームで使うグラウンドストローク(フォアハンド・バックハンド)、ネットプレー(ボレー・スマッシュ)、サーブ・レシーブ等の基礎技術、ラリー能力の獲得</li> <li>2. ゲームの実践</li> <li>3. テニスの審判法を身につける</li> </ol>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	バスケットボールA	<p>(概要) バスケットボールは、時間内に相手バスケットにシュートして得点を競うゴール型の球技です。攻防の切り替えが速いゲームの中で、チームメイトと連携しながらプレイを楽しみます。授業では、ゲームに役立つスキルとチームプレイの練習をして、毎回リーグ戦で試みます。基本的な攻防の知識を学び、各チームで考え実践することで、個々のスキルアップと体力の向上を図り、チームワークを学びます。</p> <p>(目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 状況に応じたパスやドリブル、シュートなどのボール操作とチームメイトと連携した動きを練習して、マンツーマン・ゾーンの各ディフェンスに応じた攻防の知識と技能を修得できる。</li> <li>2. ゲームでは、自チームや相手チームの特徴に応じた作戦を立てて勝敗を競う知識と能力を修得できる。</li> <li>3. 練習やゲームに取り組む中で、仲間を大切に、自らの役割を果たしチームに貢献する能力を修得できる。</li> </ol>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	ソフトボールB	<p>(概要) ソフトボールは誰もが楽しみやすく、生涯スポーツとしても多く取り組まれているスポーツの1つです。本授業では、ソフトボールを通じた「健康・体力づくり」と「ソフトボールを楽しむこと」をねらいとし、そのために必要な基本動作、ルールの修得を目指します。また、ゲームを通し個人やチームの課題を見つけ、その克服に向け積極的に取り組むこと、役割・協力・交流などの社会性を養うこともねらいとします。未経験者でもゲームを楽しめるように本授業では基本的に「スローピッチソフトボール」のルールで行います。</p> <p>(目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業中の課題に積極的に取り組める。</li> <li>2. ソフトボールに必要な基本動作(打つ、投げる、捕る)ができる。</li> <li>3. ソフトボールのルールを理解し、ゲームの進行ができる。</li> <li>4. 授業やチームを構成する一員として、自己の能力に応じた役割を果たせる。</li> </ol>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	泳法探求(バタフライ)	<p>(概要)</p> <p>生涯スポーツである水泳であるが、本授業のねらいは、水泳をとおして体力増進を図るものである。</p> <p>本授業では、バタフライをきれいに50 mに泳ぐことを目標とする。講義の前半では、陸上トレーニングや効果的な筋肉トレーニングについて解説、実践する。</p> <p>(目標)</p> <p>長水路でバタフライを50 m泳ぐことを目標とする。</p>	

教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	バランスボールエクササイズ	<p>(概要) 誰にでも比較的取り入れやすいバランスボールを用いた運動に親しみながら、徐々に運動強度を高めていき自分自身にあった運動メソッドを理解する。また、バランスボールを用いた様々な運動方法を体験し、筋機能、神経機能、関節機能、呼吸循環機能の向上を目指す。</p> <p>(目標) ・生涯スポーツとして「バランスボールエクササイズ」を楽しめる技術と知識を身につける。 ・様々なバランスボールエクササイズの運動方法を知り、実生活でも取り入れられるように理解する。</p>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	フライングディスク	<p>(概要) フライングディスク(フリスビー)を初めて投げる人や基本を学びたい人にレベルを合わせ、スローとキャッチの基本技術の獲得を目指す。また、国際連盟公認10種目を楽しみながら年齢や体力が異なる人達と一緒にフライングディスクを楽しむ方法を学ぶとともに、自己に合わせた運動との関わり方を身につけることも目的とする。</p> <p>(目標) ・生涯スポーツとして「フライングディスク」を楽しめる技術と知識を身につける。 ・セルフジャッジで運営されるフライングディスクスポーツを体験し、フェアプレーの精神と成立条件を学ぶ。 ・チームプレーを通して、他者と積極的にコミュニケーションを図る。</p>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	アダプテッドスポーツ	<p>(概要) 日本体育学会 アダプテッド・スポーツ科学専門分科会によれば、『adapted sports』とはルールや用具を障害の種類や程度に適合(adapt)することによって、障害のある人や体力の低い人であっても参加することができるスポーツ活動のことを指します。そのような受講者に対し、個々の活動レベルに応じてスポーツ活動を実践することで『生活の質』(Quality of Life: QOL)が向上することが期待できます。本講義では、スポーツ活動を通じて楽しみながら運動を継続できるよう講義(実技)を展開していきます。</p> <p>(目標) 受講者のケガや障害像について理解する。その状態に応じてウォーミングアップ、その後実施する主運動、クールダウンについて、その効果とリスクについて理解する。</p>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	フットサル	<p>(概要) 個人、グループ、チームにおける戦術を理解し、実践することでフットサルの楽しさを感じることを経験してもらう。毎回、授業前半はテーマに沿ったトレーニングを行い、後半はゲームを行う。</p> <p>(目標) ・フットサルの基本的な戦術について理解し、実践する。 ・生涯スポーツの一つとして、フットサルを実践できるようになる。</p>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	ジョギング	<p>(概要) ジョギングは健康の維持・増進にとって、有効であることが多数の研究報告で明らかとされている。その運動効果を理解した上で、各自取得する生理的データを参考にし、生涯スポーツとしてジョギングを実施できるように授業展開する。</p> <p>(目標) ジョギングの運動特性や身体への影響について理解する。 各自の適正な運動強度を把握し、健康の維持・増進に資するジョギングが実践できるようにする。</p>	

<p>専門基礎科目</p>	<p>現代経済学</p>	<p>(概要) 近代経済理論の基盤には「ミクロ経済理論」と「マクロ経済理論」があり、マクロ経済学では、GDP、景気、失業率など経済全体の動きをとらえ分析するのに対し、ミクロ経済学では、経済社会の主体である個人や企業の行動を取り扱い、経済の基本的な機能や動きについて分析する。本講義では「ミクロ経済学の基礎」として、市場経済の中の個々の家計、企業を対象とし、その各経済主体が価格等の情報をもとにどのような行動をとるのかを考え、市場メカニズムがどのような役割を果たすのかを学ぶ。身近な問題を例題として取り上げることにより、経済学を生活の中で実感しながら理解することを目的とする。</p> <p>(目標) 社会経済に関する事例や問題に関心を持つ。 客観的なデータから経済のしくみを観察し、理解する。 考察内容を記述し表現できる。</p>	
<p>専門基礎科目</p>	<p>会計学</p>	<p>(概要) 企業による経営活動の成果は「会計」という仕組みを通じて報告されている。この仕組みを通じて、企業の経営活動の成果は、あらゆる利害関係者（経営者、株主、投資家、銀行、経営上様々な役割を担う従業員たち）によって理解されている。そして、あらゆる利害関係者は、この会計を通じた理解に基づいて様々なビジネスに関わる意思決定を行っている。それゆえ、会計は『ビジネス上の言語』とも呼ばれており、企業経営を理解するうえで不可欠な基礎知識となっている。この授業では、「会計」という仕組みに焦点を当てて、会計の初学者を対象として、その概要について、企業外部者のための会計である財務会計から、企業内部者のための管理会計にわたるまで幅広く紹介するとともに、これらの基礎知識を修得することを目標とする。会計の基礎知識の修得を通じて、企業経営に関する理解もより一層深まることが期待される。</p> <p>(目標) ・会計情報の役割やその基礎的概念について理解を深める。 ・会計情報のディスクロージャーに関連する諸制度の基礎的知識、すなわち財務会計の基礎知識を修得する。 ・企業経営における会計情報の活用方法や分析方法の基礎的知識、すなわち管理会計の基礎知識を修得する。</p>	
<p>専門基礎科目</p>	<p>行政法</p>	<p>(概要) この講義では、地方自治法や環境法の基礎をなす行政法について、国民/住民の立場にたちつつ、網羅的・体系的に講義することを目的とする。 この講義では、行政法を単に「行政に関する法」としてではなく、「行政法とは国民の利益のために行政を縛るとともに行政の行為により国民に損害が生じた場合の救済をはかる法」としてとらえることを基本的な立場にすえつつ、行政法の体系の全体像を示しながら、具体的な紛争を解決しうる能力の獲得をめざしながら進んでいくこととなる。</p> <p>(目的) 行政法の体系の一定の理解と把握 具体的な紛争解決能力の獲得</p>	
<p>専門基礎科目</p>	<p>統計学</p>	<p>(概要) 統計処理は、実習、演習、卒業研究において種々の社会現象を調査分析する際に不可欠な手法である。近年、統計処理ソフトを手軽に入手できるため、ソフトが自動的に算出した統計数値の本質の意味を知らずに統計処理したつもりになり、本来気づくべき事象の本質を見逃すことがある。そのため、本講義では統計ソフトを使わず、統計解析における疑問（なぜ、どうして）を徹底理解することを通して統計学の基礎理念を学ぶ。</p> <p>(目標) 高学年で導入される情報処理の基本を理解する。 種々の統計処理手法を駆使でき母集団の特性分析ができる。 統計学的視点を通して、注目する社会事象の本質を見抜ける。</p>	

<p>専門基礎科目</p>	<p>財政学</p>	<p>(概要) 本講義では、中央政府を中心とした財政の仕組みと制度の基礎を経済学的視点から学修する。市場経済において、必ずしも経済学が想定する市場メカニズムがうまく働かない分野も存在する。そのような市場では、国または地方公共団体が規制やその他の方法で介入する必要があるし、景気変動は国民経済への影響が大きいため、景気を安定化させる財政政策の役割も大きい。また、経済のみならず社会全般に大きな影響を及ぼしている急激な高齢化について、現状や公表されている将来予想を概観し、その問題点と解決策を経済学的・財政学的な側面から考察する。</p> <p>(目標) ・財政の基本的な仕組みや役割についての知識を身につける。 ・景気対策としての財政政策の理論を理解する。 ・高齢化対策を考える知識を身につける。</p>	
<p>専門基礎科目</p>	<p>技術表現法</p>	<p>(概要) 本授業は、工学部の2年生と一緒に開講する科目です。将来、みなさんが話し合っ課題解決を創出する能力と解決策をプレゼンテーション形式で提案できる能力を育成することを目的としています。スマートな課題解決策は、単なるもの・サービスをつくるだけでなく、人どもの、人とサービスとの最適な関係をIT &amp; IoTを取り入れて統合的に問題解決します。そこには、なんらかのよいシステムが成立しています。一方で、よいシステムと感ずるのは人間です。複雑なシステムをよいシステムと感ずるようになるには使う人がこれいいなと思いつながら目的を達成できるしくみが必要です。本授業では、システムとはどういうものか、人間中心の設計とはどういうものかを学び、実際にグループで課題に取り組みながら問題と感ずる構造を明らかにし、解決策を提案する練習をします。</p> <p>(目標) 情報分析、情報統合、プロトタイプ(かたちづくり)、評価などのプロセスを、状況を見極め、仲間とともに進めることができる。 グループで課題解決する際は、情報ならびに思考したことを仲間と共有する営みが必要だ。付せんを使うことで思考を外化すること、情報を構造化し、関係図を描くこと、プレゼンテーションの資料作成など、ビジュアル・コミュニケーションができる。 考えることは、創造的に問題解決することである。解が一つではない場合の問題解決の考え方、創造的思考をする際の発想の広げ方、問題構造の階層構造を理解しながら、従来の機能を組み合わせ、新しい価値創出をする。</p>	<p>共同</p>
<p>専門基礎科目</p>	<p>情報処理演習</p>	<p>(概要) 情報処理演習では、企業の経営、地域の経営に関わる課題を解決するために必要な膨大な量の情報を分析するためのコンピュータを利用した基礎的技術の修得、さらに自律的に目の前の課題を解決しようとする姿勢を修得することが、本演習の目的である。</p> <p>(目標) 目的を設定してデータ分析を行い、分析結果を理解できる 分析結果を理解させるプレゼンテーションができる 地理情報システム(GIS)を用いた空間情報が取り扱可能なものとなる 複数の空間レイヤーを重ねた可視化が可能となる</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>(1 肥後睦輝 / 8回) コンピュータに慣れることに力点をおき、日本語・英語の文章作成、表計算、グラフ作成、プレゼンテーション資料作成を課題、実際のデータを用いた基礎統計量の算出や検定など統計解析。</p> <p>(9 奥岡桂次郎 / 7回) 地理情報システム(GIS)を用いた基盤データ作成、空間情報の編集、及び空間分析を課題として、空間データのダウンロード、属性データの編集、バッファ・インターセクトなど空間解析。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>専門基礎科目</p>	<p>応用英語</p>	<p>(概要)          大学卒業後の進路において、英語が使えることで得られるメリットは決して少なくはない。英語学習が継続できるように1年次で履修した英語科目で身につけた英語の基礎力の強化を目指す。この講義では会議などのビジネスの場面で起こり得ることを想定しロールプレイしながら、英語でディスカッション、ディベートすることに慣れる。活発に討論が行えるよう、講義と実践を通して討論の基礎知識を学び、修得する。</p> <p>(目的)          (1) ビジネスの場面でよく使われる英語表現や専門用語を学習し、表現力を高める。          (2) 会議の場面で話し合いや議論の仕方を学び、実践する。          (3) 自分の考えを根拠とともに説得力のある論理的な英文で表現できるように練習する。</p>	
<p>専門基礎科目</p>	<p>応用英語</p>	<p>(概要)          社会で役に立つ英語の基礎力及び応用力の養成を目指し、「使える英語」を身につけることを目標とする。アクティブ・ラーニングメソッドを導入し、学生が主体となってプロジェクトを立ち上げ、英語で発信する力を養う。学生は各自興味のあるテーマを設定し、自分の考えを探求しながら調べ学習をした後、英語で発信することを目指す。また、欧米のビジネス文化も紹介しながら日本と諸外国の異文化理解を深める。</p> <p>(目的)          (1) 主体性・自律性を発揮しながら、積極的に英語でプロジェクトを計画、発表することができる。          (2) ビジネスに関わる情報を英語で収集し、知識を深める。          (3) 経済学でよく使われる英語の語彙やフレーズを英語で表現することができる。          (4) 問題解決能力、批判的思考力を養成する。</p>	
<p>専門基礎科目</p>	<p>応用英語</p>	<p>(概要)          大学の研究室、国際学会、就職先などで英語プレゼンテーションを行う機会もあるだろう。効果的なプレゼンテーションのために、構成、英語表現、スライドの作成方法、非言語表現、質疑応答などの要素を学び、実践することを目指す。また、プレゼンテーションでよく使われる英語表現も学習し、説得力を高める。ピア・ラーニングを取り入れ相互評価をしながら英語プレゼンテーションの技術を実践的に学ぶ。</p> <p>(目的)          (1) プレゼンテーションに必要な知識や技能を修得し、実践することができる。          (2) 参加型授業のため、積極的な態度で学ぶことができる。          (3) 抵抗なく英語での発表ができる姿勢を身につける。</p>	
<p>専門基礎科目</p>	<p>応用英語</p>	<p>(概要)          英語学習の目標として英語力検定試験を指標にすることは珍しくない。日本ではTOEICや英検が主流であるが、世界に通用する英語資格も多々ある。様々な英語能力検定試験の存在に気付き、それぞれの試験の特徴や目的などを比較しながら理解を深める。学生は自分の目標や将来の進路において、どの資格を取得することが適切かを考えるとともに、目標達成のための効果的な英語学習法と計画の立て方を身につける。</p> <p>(目的)          (1) 様々な検定試験の傾向や目的を分析し、理解することができる。          (2) 試験対策に役立つ教材の見つけ方や使い方を身につける。          (3) 自立した学習者になるための意識を高める。</p>	

<p style="text-align: center;">専 門 基 礎 科 目</p>	<p style="text-align: center;">マ ネ ジ メ ン ト 活 動 実 習  ( フ ィ ー ル ド ワ ー ク 基 礎 )</p>	<p>(概要) 2つの実習を通して、社会と企業の仕組みや自治体の役割を理解し、デザイン経営を読み解く力とマネジメント能力を実践的に高めることを目的とする。</p> <p>(目標) 名古屋証券取引所の実習(1年次) 株に関連するニュースや株式会社のしくみをはじめ企業と資金調達、証券取引所の役割などを理解する。 個人投資家・一般消費者として株式投資における企業評価を考える。 企業・自治体の実習(2年次) 企業や自治体組織の社会における役割とそれぞれの経営戦略を理解する。 経営工学の視点をもち商品や新しいしくみを提供するまでのデザイン経営のプロセスを考える。</p> <p>(オムニバス方式 / 全30回)</p> <p>(2 三井栄/7回)(演習5回, 実習2回) (演習) 授業ガイダンス: 実習全体の目標設定と2実習の役割 (演習) 名古屋証券取引所における実習準備に関するグループワーク (演習) IRエキスポ出展企業の評価項目に関するグループワーク (演習) IRエキスポ出展企業へのインタビュー準備に関するグループワーク (演習) インタビュー調査結果のまとめと企業の再評価に関するグループワーク (実習) 名古屋証券取引所における実習 (実習) 名古屋証券取引所における意見交換会: 事前準備と実習内容を踏まえて</p> <p>(5 篠田朝也/3回)(講義3回) (講義) 株式に関する基礎知識 (講義) 株価の変動要因と企業の合併や買収 (講義) 企業の経営実態の把握と個人投資家による企業評価</p> <p>(14 川瀬真弓/2回)(講義1回, 演習1回) (演習) 授業ガイダンス: 前回の実習の振り返りと本実習の目標設定と役割 (講義) デザインに関する基礎知識</p> <p>(6 後藤尚久/2回)(講義2回) (講義) ブランディングの役割とブランディング戦略経営を理解するための講義 (講義) 企業売上, 経営工学を理解するための講義</p> <p>(2 三井栄・5 篠田朝也/5回)(共同)(実習4回, 演習1回) (実習 ~ ) 名証IRエキスポ(中部地区企業が行う投資家への広報活動(IRイベント)における実習 (演習) 実習に関する成果報告会と次回の実習にむけての課題</p> <p>(14 川瀬真弓・6 後藤尚久/11回)(共同) (演習5回, 実習6回) (演習) 事例に関するグループディスカッション (演習) デザイン経営を实践する企業・自治体の事例紹介, 意見交換会 (演習) ヒアリング調査結果のまとめと企業・自治体の再評価に関するグループワーク (演習) 実習に関する成果報告会 (演習) 授業総括: 経済動向に対応する経済戦略と企業のデザイン経営の振り返り (実習 ~ ) 企業・自治体における実習 デザイン戦略に必要な社内組織におけるデザイン活動のヒアリング調査</p>	<p style="text-align: center;">オ ム ニ バ ス 方 式  共 同 ( 一 部 )  講 義 12 時 間 演 習 24 時 間 実 習 24 時 間</p>
--	---	--	---

<p style="text-align: center;">専 門 基 礎 科 目</p>	<p style="text-align: center;">社会システム経営入門 ビジネス編</p>	<p>(概要) 現代社会では、企業の営利活動を優先した結果、非正規労働者の増加、生活の不安定化、晩婚化・少子化が進み、地方では首都圏への人口流出が止まらず、限界都市・限界集落の問題等、多くの社会問題が顕在化しており、持続可能な社会の構築が求められている。そこで、本講義ではマーケティング、企業論、マクロ組織論、ミクロ組織論、会計学の知見を活用しつつ、企業の営利志向に基づいた短期的視点と中長期的な社会構築の同時追求を図り、企業活動・地域社会との共生と持続可能性を検討する。 講義は5名の教員で担当し、これらの問題意識を共有した上で、マーケティング、経営学、会計学の知見を基礎に、特に重視したマーケティング視点からは環境負荷の少ない商品・地産地消型商品・地域ブランド等の開発、地域内外への販路展開等の講義、経営学や会計学の視点からは地域における組織・人材育成等や利益管理・コスト管理等の講義を構成する。これらの基礎的視点を学修する中で、企業活動・地域社会の共生と持続可能性の理解を深めるため、グループワークも組み込んで実施する。</p> <p>(目標) 経営学の重要分野（マーケティング、企業論、マクロ組織論、ミクロ組織論、会計学）の基礎的な考え方を理解する。 各分野の基礎的理論を理解し、企業活動・地域社会の共生と持続可能性について理解を養う。 関連する理論を基に問いを立て、現実の問題に対する解を導き出す。</p> <p>(オムニバス方式 / 全11回)</p> <p>(4 加藤厚海 / 2回) (講義2回) (講義 ) 企業論の基礎 (講義 ) マクロ組織論の基礎 (7 前澤重禮 / 1回) (講義1回) (講義 ) ミクロ組織論の基礎 (5 篠田朝也 / 2回) (講義2回) (講義 ) 管理会計の基礎：コスト管理の重要性 (講義 ) 管理会計の基礎：利益管理の重要性 (12 柴田仁夫 / 2回) (講義2回) (講義 ) マーケティングの基礎：成り立ちと基本概念 (講義 ) マーケティングの基礎：STP (13 市来寄治 / 2回) (講義2回) (講義 ) マーケティングの基礎：4P (商品戦略/価格戦略) (講義 ) マーケティングの基礎：4P (流通戦略/販売促進戦略)</p> <p>(7 前澤重禮・5 篠田朝也 / 2回) (共同) (演習2回) (演習 ) グループワーク (解決すべき課題の模索・選定、解決策の仮説提案) (演習 ) グループワーク (解決策の根拠を執筆、発表資料を作成、発表と意見交換)</p>	<p style="text-align: center;">オムニバス方式 共同(一部) 講義18時間 演習 4時間</p>
--	---	---	---

<p>専門基礎科目</p>	<p>社会システム経営入門 観光・まちづくり編</p>	<p>(概要) 都市活動、農業、各種資源など、社会を成り立たせている諸層は、ひとつのシステムの中で理解される。本講義は6名の講義で担当し、地域社会における競争の視点から、社会システムの発展に寄与する仕組みと経営戦略について理解する。講義内容は、地域におけるまちづくりと観光の仕組みと役割に区分され、両者とも理解を深めるためのグループワークを組み込む。</p> <p>(目標) まちづくりのあり方、中心市街地の経営戦略と、農業経営戦略の役割を理解する。 地域に賦存する資源を理解し、地域ブランドを構築して地域に根差す観光による活性化方策を理解する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全11回)</p> <p>(3 高木朗義 / 1回) (講義1回) (講義) オープンソーシャルイノベーションのあり方 (8 出村嘉史 / 1回) (講義1回) (講義) 中心市街地の経営戦略 (11 李侖美 / 1回) (講義1回) (講義) 農業経営戦略のあり方 (10 森部絢嗣 / 1回) (講義1回) (講義) 地域資源の活用 (1 肥後睦輝 / 1回) (講義1回) (講義) 里山資源を活かした観光</p> <p>(3 高木朗義・8 出村嘉史・11 李侖美 / 2回) (共同) (演習2回) (演習) グループワーク (解決すべき課題の模索・選定, 解決策の仮説提案) (演習) グループワーク (解決策の根拠を執筆, 発表資料を作成, 発表と意見交換)</p> <p>(10 森部絢嗣・1 肥後睦輝 / 4回) (共同) (演習4回) (演習) グループワーク (解決すべき課題の模索・選定) (演習) グループワーク (解決策の仮説提案) (演習) グループワーク (解決策の根拠を執筆, 発表資料を作成) (演習) グループワーク (発表と意見交換)</p>	<p>オムニバス方式 共同(一部) 講義10時間 演習 8時間</p>
<p>専門基礎科目</p>	<p>コミュニケーションデザイン論</p>	<p>(概要) 本授業は、コミュニケーションの範囲を個人の情報処理、情報発信のみならず問題解決するためのコミュニケーションの手法であるファシリテーションの方略も獲得する科目である。コミュニケーションを、他者との相互作用による思考の構成と捉え、状況に応じてコミュニケーションのかたちを設計できるようになることを目指す。コミュニケーションデザイン論は基礎に関する内容を扱う。本授業は課題解決学習(PBL)方式を取り、演習をとおして実践的に学ぶ。</p> <p>(目標) 1. コミュニケーションの目的と方法との関係を理解し、分かりやすいかたちについて考察する。 2. 良定義問題, 不良定義問題を理解し、話し合いによって問題構造を掘り下げ、問題発見力を高める。 3. グループで課題解決する際、コラボレーション, 共創による話し合いに取り組み、望ましい対話の場を設計できるファシリテーション力を獲得する。</p>	

<p>専門基礎科目</p>	<p>企業論</p>	<p>(概要)          企業論では、はじめに経営の対象のひとつである企業に関する基礎的な知識を学修し、社会における企業の価値や役割について考察する。具体的には、企業を制度、組織、社会的役割と責任、の三つの側面から捉え、制度的側面では企業の歴史や形態などについて、組織的側面では企業が組織的に活動する意義や組織形態などについて、社会的役割と責任については企業を取り巻く環境変化への対処や企業倫理などについて、それぞれ議論する。          次に、企業のマネジメントに関する基礎的な知識と考え方について、企業における改善活動のマネジメントを題材にし、主にアプローチ、目標設定、人間、組織の観点から議論する。企業活動の多くは問題解決であると言え、そのためには解くべき問題を明確にして適切なアプローチを選択する必要がある。そして実行時には関係者、環境、組織などを考慮する必要がある。これらについて事例も交えて議論する。</p> <p>(目標)          ・企業に関する基礎的知識を理解する。          ・社会における企業の役割について理解する。          ・企業における問題解決のための基礎的な知識と考え方を理解する。</p>	
<p>専門基礎科目</p>	<p>経営組織論</p>	<p>(概要)          経営組織論（マクロの組織論）は、主に社会学の知見を応用した学問領域である。やや難解な内容も含まれているが、経営組織に関する理論の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、科学的管理法、官僚制組織、組織構造、組織文化、取引コスト、知の探索・活用の理論などのトピックを取り上げる。最後に、創造的階層などの現代社会のトピックについても議論する。</p> <p>(目標)          経営組織に関する諸問題に対して関心を持つ。          関連する理論を理解することで抽象化する力を養う。          関連する理論を基に新たな事例分析などを行う。</p>	
<p>専門基礎科目</p>	<p>マーケティング論</p>	<p>(概要)          本授業ではマーケティングの知識を更に体系的に深めていく。具体的にはマーケティング戦略を実践していくために欠かせない、顧客を絞り込むSTP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）や4P（マーケティング・ミックス）に加え、実社会でマーケティングの考え方を企業以外にどのように拡張しているのか（サービス・マーケティング/生産財マーケティング/グローバル・マーケティング/ソーシャル・マーケティング/デジタル・マーケティング）等について、担当教員の実務経験に基づいて講義を行う。</p> <p>(目標)          授業の内容からマーケティングの体系を理解した上で、自分なりにさまざまな場面でマーケティングの考え方を応用し、展開できることを到達目標とする。</p>	
<p>専門科目</p>	<p>必修科目</p>	<p>(概要)          組織リーダーは、全階層の構成員と連携し、各構成員の納得を獲得しながら事業結果を導き出す必要がある。そのため、組織目標の実現に向けて、組織リーダーには各構成員の個別能力を引き出しながら全体管理された組織的行動を誘導していく力が必要である。本講義では、組織リーダーは肩書や地位といった貼り付けられた形式的権限を振りかざすのではなく、個々の構成員の経歴・価値観・人間としての本音を把握した上で、組織目標を達成するための理論とそれを実現するための具体的手法を学修する。社会人のリカレント教育としても位置づけ、講義とグループ討論を織り交ぜる。</p> <p>(目標)          組織リーダー育成の基礎理念が理解でき、組織リーダーの素養を身につける。          グループ討論により、ビジネス現場での課題とリーダーが実施すべき現場改善手法を身につける。          社会人を含めた人材混合型学習を通して、実効的な組織リーダーおよび地域リーダーとしての実行力を身につける。</p>	<p>講義 30時間          演習 2時間</p>

専門科目	必修科目	都市形成史(産業史)	<p>(概要) 都市および地域における今後のとりくみや政策は、都市の今ある姿・構造・システムが、どのように、どのような背景において形成されてきたのかの経緯を無視しては成り立たない。各時代に選り取られてきた、その時点の最適解を正しく把握することによって、その延長としての今後を見据えることができる。</p> <p>(目標) ・都市基盤施設と社会の動きの関係を歴史的に把握し、多様な物事の因果関係を概観することができる。 ・過去からの連続として将来を捉えるような、まちのプレイヤーに必要な広い視野を獲得する。 ・事実を確認するための基本的な立証方法を理解する。</p>	
専門科目	必修科目	認知心理学	<p>(概要) 認知心理学における対象はheartではなくmindである。つまり、認識と知識と意識に関する心理学である。知覚、注意、記憶・知識とこれらに対する社会的作用や潜在性/暗黙性など、我々が外界を認識し、知識として活用する際に生じている心的な情報処理過程について講義する。</p> <p>(目標) 認知の基本特性を理解することによって、自分を成立させている中核が“認知”であることを認知すること、したがって、“認知”を向上させることが自己の成長の中核であることを認知することを基本的な目標とする。また、以上をメタ認知知識とし、その能力を十全に活用することのみならず、“情報提示のデザイン”や“組織知への展開”に役立てることを長期的な目標とする。</p>	
専門科目	必修科目	デザイン思考論	<p>(概要) 本授業は、経験経済におけるデザイン・ドリブン・イノベーションのしくみ、デザインの理論ならびに社会の課題解決に関するデザインの役割を理解した上で、デザイン思考の手法を使って人中心に課題解決する方略を獲得する科目である。 本授業の実施に当たっては、課題解決学習(PBL)で取り組み、ファシリテーション力、情報デザインの考え方を活用する。</p> <p>(目標) 1. デザイン思考が誕生した背景、デザインの基礎知識を理解する。 2. デザイン思考の手法を使って顧客起点で捉え、顧客の観察・ニーズを捉える仮説構築・試作・再仮説構築のプロセスを自身で考えマネジメントできる。 3. デザイン思考演習をとおして自身のデザイン方略を獲得する。</p>	
専門科目	必修科目	プロジェクトマネジメント論	<p>(概要) プロジェクトマネジメントについて、演習形式で、具体的な地域を対象に将来に起こりうる課題抽出を行い、ビジネス、まちづくり、及び観光マネジメントに関わるプロジェクトを実施する。前半は、現実に経営課題に向き合ったときに、実行可能な選択肢の中から意思決定をすることは、経営判断で最も重要な能力のひとつであり、個人には集団における役割があり、個々でなく意思疎通を図りながら進捗を設けることも重要であることを、理解・修得し、実践する。後半は、前半の学修および経験をもとに、より地域の実態に沿った、動的な将来像を描き、具現化するための足下課題を明確にすることで、アクションプランを提案する。具体的には5,6名のグループをつくり、自然、都市、及び社会環境の変化により将来起こりうる地域の課題を抽出し、あるべき姿の模索と、その創出のためのプロセスを提示することを、ワークショップを通して実施する。</p> <p>(目標) 将来課題の設定とプロジェクトマネジメントに関する考え方や知識、求められるスキルを理解する。 ワークショップ形式での議論の進め方、将来像の描き方を理解する。 プロジェクトにおける共同実施の手法を修得する。 プロジェクトマネジメントの知識やスキルを使って課題を解決する。 地域の実態に沿った動的な将来像を描き、アクションプランを提案する。</p>	共同

専門科目	必修科目	経営戦略論	<p>(概要) 自分の将来を考えると、何等かの意義のある生き方を模索して方向づけた人生に向かって進んでいくように、企業という組織も自社の目的を定め、その達成のために日々の活動を行っている。人でいえば生き方の方向づけ、組織でいえば目的志向的な組織の方向付けや未来づくりが「戦略」である。戦略という言葉は非常によく使われる言葉であり、「戦略を語る人の数だけ戦略の定義がある」とも言われている。それくらい戦略という言葉は多様性と多義性を有しているため曖昧であるが、人や組織の長期的な未来づくりを担っている。組織(人)の未来は戦略次第ともいえる。本授業では、経営戦略論の基本を身につけるため、企業がどのような戦略に基づいて活動してきたのかについて、経営戦略の基礎的な理論を学ぶ。また、担当教員の実務経験から得た知見を踏まえて、豊富な事例からかみ砕いた説明を行い、経営戦略に対する理解を深める。</p> <p>(目標) 経営戦略の基本的な用語や考え方について実務経験に基づいて授業を行うので、まず基本を理解し、それを自分の言葉で表現できることを目標とする。</p>	
専門科目	必修科目	組織行動論	<p>(概要) 経営行動論(ミクロの組織論)は、心理学の知見を応用した学問領域である。組織における人や集団の態度・行動に関し、それがいかなる要因で、なぜ生じるかということに関する因果関係を学ぶことが目的である。具体的には、リーダーシップ、モチベーションなどのトピックを取り上げる。</p> <p>(目標) 組織内の人や集団の態度・行動に関する諸問題に対して関心を持つ。関連する理論を理解することで抽象化する力を養う。関連する理論を基に新たな事例分析を行う。</p>	
専門科目	必修科目	専門演習	<p>(概要) 「ビジネス」、「まちづくり」、「観光」をキーワードに各自興味ある分野に関する基礎的な知識を修得するため、テキストを用いて考察する。最新の社会システムの情勢を把握するため、時事問題をテーマとしたグループワークを行い、報告会およびレポート作成を行う。</p> <p>(目標) テキストを用い検討し議論を行い、基礎能力を高める。身近なテーマに対する問題提起や論点整理をし、自分の意見を明確に伝えられるようにする。相手の意見をきちんと聞き、くみ取り、意見を活発化させていくための工夫を考える。地域・企業・社会システム等の課題を考察する。</p>	
専門科目	必修科目	専門演習	<p>(概要) 「ビジネス」、「まちづくり」、「観光」をキーワードに各自興味ある分野を選択し、テキストを用い検討し、応用的考察力を高める。研究課題に関して現実の社会システムとの対比を行い、成果報告を行う。また、課題に関するデータを用いた客観的な分析力を修得する。グループディスカッションやプレゼンテーションの機会を設ける。</p> <p>(目標) テキストを用い検討・議論し、発展的に考察した上で、解決策を考案する。データを用いた客観的な分析力を修得する。グループディスカッションを主体的に進行する。地域・企業・社会システム等の課題をより発展的に捉える。</p>	
専門科目	必修科目	専門演習	<p>(概要) 「ビジネス」、「まちづくり」、「観光」をキーワードに各自興味ある分野を選択し、3年生における基礎的知識の修得および応用的考察を行った研究課題について、卒業論文の作成にむけて、実証分析とフィールドワークの準備を行う。地域・企業・社会システム等の課題をより発展的に捉え、具体的な解決策を模索する。</p> <p>(目標) 3年次の研究課題に関して発展的に考察し、分析を行う。データを用いた分析を実践的に応用する力を修得する。グループディスカッションやプレゼンテーションを社会で適用できるレベルへ質の向上を図る。地域・企業・社会システム等の課題に対して、具体的な解決策を模索する。</p>	

専門科目	必修科目	専門演習	<p>(概要) 「ビジネス」、「まちづくり」、「観光」をキーワードに各自興味ある分野を選択し、3年生における基礎的知識の修得および応用的考察を行った研究課題について、4年生前学期で取り組んだ実証分析やフィールドワークなどを基に発展的課題に取り組み、卒業論文を完成させる。地域・企業・社会システム等の課題に対する解決策の提案を行う。</p> <p>(目標) 4年生前学期に研究した内容に関してさらに発展的に考察し、分析を行う。 データを用いた分析を実践的に応用する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを社会で適用できるレベルにする。 地域・企業・社会システム等の課題に対して、具体的な解決策を提案する。</p>	
専門科目	必修科目	卒業研究	<p>(概要) 「ビジネス」、「まちづくり」、「観光」に関連する課題発見と分析、解決策の提案を目的として卒業論文を完成させる。 自らの問題関心を確認し、それに基づいた研究課題を設定する。文献・資料等を探索・収集・整理するなかで、研究課題を再検討し、設定し直された研究課題に基づいて、よりいっそうの資料収集や実地調査に取り組み、分析を進める。資料や調査結果の分析に基づいて考察を深め、その結果を論理的かつ明晰に文章化し、論文を作成する。</p> <p>(目標) テキストを用い検討し議論を行い、基礎能力を高めた上で応用力・実践力を修得する。 データを用いた客観的・実践的な分析力を修得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを社会で適用できるレベルにする。 地域・企業・社会システム等の課題に対する解決策を考案する。</p>	
専門科目	選択必修科目	ビジネスデザイン実習 (フィールドワーク実践)	<p>(概要) ビジネス実践に不可欠な、ものづくり、顧客づくり・組織づくり・経営資源活用を学習し、地域でビジネス展開している企業に対して、学生が自発的に調査の目的・項目を設定し、マーケティング、アントレプレナーシップ、イノベーション管理、サプライチェーン管理の視点から調査結果を分析・考察する。</p> <p>(目標) 岐阜県内農業関連グループの実習 アグリビジネスの実態を理解し、フードビジネスへの発展プロセスに不可欠な要素・要因を把握し実効性のある経営戦略を提案する。 アグリビジネス組織の現状と課題を把握し、あるべき姿を提案する。 企業の実習 食品製造および流通業としてのビジネスプランの設定目標と経緯を理解する。 企業パンフレットやホームページだけでは把握できない動の実態を把握して、企業が果たす社会的意義と機能を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全32回)</p> <p>(7 前澤重禮・12 柴田仁夫(共同16回)) 岐阜県内農業関連グループとのアグリビジネス実習の実施と総括、振り返り</p> <p>(4 加藤厚海・13 市来寄治(共同16回)) 企業でのビジネスデザイン実習の実施と総括、振り返り</p>	オムニバス方式 共同(一部)

専門科目	選択必修科目	まちづくりデザイン実習 (フィールドワーク実践)	<p>(概要) 本実習は、まちづくりおよび地域経営に関する基礎から実務までの幅広い知識を学ぶ科目である。まちが健全に交流・交易の場となり、我々の暮らしを支えるのに十分な存在となるように、エリアの価値そのものを向上させて持続する経営を学び、実践する。現状のまちの状態を多様な側面から観察・把握し、最適な方法・しぐみを構築しながら、時とともに充実するビジョンを立てる実習である。総合的なデザインが求められることから、多様な専門性を実践とともに学ぶことができるよう、一貫した現場主義のPBL形式で進め、進行の中で適切なタイミングで各基礎的知識(編入カリキュラム)のレクチャーを挿入する。</p> <p>以下の3つのフィールドを対象に、実習を行う。 1. 地方自治の展開(岐阜県内自治体の課題) 2. 中心市街地の展開(岐阜県内中心市街地の課題) 3. 近郊農業の展開(岐阜県内都市近郊農業の課題)</p> <p>(目標) エリアの価値を高める地域づくりを理解する まちづくりに関する諸分野を実践の中で総合的に活用できる 広い視野をもって柔軟なビジョンを描くことができる ステイクホルダー相互の関係を理解して、継続的に生きるしぐみを構想することができる</p>	共同
専門科目	選択必修科目	観光デザイン実習 (フィールドワーク実践)	<p>(概要) 観光による地域づくりでは、地域主導で観光客が共感しうるような地域資源の活用が重要であり、地域の住民や企業等の様々な主体が有する知識、経験、能力等を主体的に発揮し協働しながら、観光に関する課題を解決し、持続可能な地域社会の構築へとつながる仕組みづくりが必要である。 そこで、本講義では、観光学の学習内容(観光事業と観光が生み出す価値、地域ブランドの構築とマーケティング手法を学び、岐阜県における観光産業を理解する)をさらに深めるため、観光による地域づくりの視察および対象となる地域の観光事業者と連携してフィールドワークを行い、観光による地域づくりを目的に、実際にターゲット層を想定した上で持続可能となる観光振興策の提案を行う。</p> <p>(目標) 観光による地域づくりを理解する 観光客を誘致する・滞在時間を延ばす仕掛けを考える ターゲット層を想定した持続可能な観光振興策を提案する</p>	共同
専門科目	選択必修科目	イノベーションマネジメント論	<p>(概要) この授業では、イノベーションのマネジメントに関する基礎的な知識を学修する。具体的には、まずはじめにイノベーションの定義とその過程、普及や発展のパターンについて整理する。その後、イノベーションマネジメントに関して、研究・技術開発、製品の構成、新製品開発、企業間関係、ビジネスモデルの構築などの側面から議論する。最後に、これらの議論の内容を踏まえて具体的な事例を研究し、イノベーションマネジメントについて経営戦略と関連付けながら考察する。</p> <p>(目標) ・イノベーションに関する基礎的な知識を理解する。 ・イノベーションマネジメントに関する基礎的な知識を理解する。</p>	

<p>専門科目</p>	<p>選択必修科目</p>	<p>コーポレートガバナンス</p>	<p>(概要) コーポレートガバナンス。この言葉を初めて聞く学生は多いのではないだろうか。企業統治とも訳されるこの言葉は、21世紀の企業にとっては避けて通れない言葉でもある。企業経営者を規律付ける仕組みであるコーポレートガバナンスを学ぶためには、株主の利益やステークホルダーの利益、法令遵守（コンプライアンス）と経済的効率性の向上、事前の制度設計や事後の監督など多方面の知見が必要となり、極めて学際的な学問分野である。本授業では、コーポレートガバナンスに必要な理論や基本的な考え方、日本企業のガバナンスの変遷のほか、CSRやESG投資など中小企業支援センターの経営指導員としての実務経験に基づいた実践的な講義を行う。</p> <p>(目的) コーポレートガバナンスの基本的な用語や考え方について実務経験に基づいて授業を行うので、まず基本を理解し、それを自分の言葉で表現できることを到達目標とする。</p>	
<p>専門科目</p>	<p>選択必修科目</p>	<p>財務諸表分析</p>	<p>(概要) 財務諸表とは、企業の経営成績と財政状態を表示する、いわば企業の成績表ともいえる計算書類である。財務諸表は、企業が経営目標を達成するために設計した経営戦略を遂行するためのあらゆる組織管理活動の「成果」が集約されたものとなる。 企業の内部者は財務諸表の数値を向上させるために様々な取り組みを遂行し、企業の外部者は財務諸表を見て企業を評価する。よって、企業の内部者および外部者のいずれにおいても、財務諸表の情報を理解し、分析するための知識は不可欠なものとなる。この授業では、財務諸表を用いて企業の経営状況を分析するために必要とされる標準的な知識の修得を目指す。さらに、授業の後半では、修得した知識をもとにして、実際の財務諸表の分析に取り組み、その結果を報告してもらう。これらの取り組みを通じて財務諸表を用いた実践的な経営分析能力を養う。</p> <p>(目標) ・企業外部者のための会計（財務会計）の応用的内容として、実際の財務諸表の内容を、具体的に読み解くために必要とされる標準的な知識を修得する。 ・企業内部者のための会計（管理会計）の応用的内容として、財務諸表の分析結果を通じて、経営戦略の遂行状況や企業が直面している経営課題を明らかにするような、総合的な経営分析を行う能力を修得する。 ・実際の財務諸表を用いた総合的な経営分析の結果を、手際よくまとめてプレゼンテーションできるような能力を修得する。</p>	
<p>専門科目</p>	<p>選択必修科目</p>	<p>リスクマネジメント論</p>	<p>(概要) リスクマネジメントとは、リスクを組織的に管理（マネジメント）し、損失等の回避又は低減を図るプロセスを言う。企業や地域の価値を維持・増大していくために、企業や行政が経営を行っていく上で障壁となるリスクおよびそのリスクが及ぼす影響を正確に把握し、事前に対策を講じることで危機発生を回避するとともに、危機発生時の損失を極小化するための経営管理手法をいう。 本授業では、リスクマネジメントの必要性、枠組み、プロセス、評価（アセスメント）、対応、危機管理、コンプライアンス、ガバナンスなどについて、前半は事例を通して基礎を学び、後半は自分達のプロジェクトに応用することで、リスクマネジメントの手法を修得するとともに、実際に使えるようにする。</p> <p>(目標) リスクマネジメントとは何かを説明できる。 リスクマネジメントの手法を説明できる。 リスクマネジメントの手法を実際に使える。</p>	

専門科目	選択必修科目	コーポレートファイナンス	<p>(概要) 本講義では、企業の財務活動(資金調達活動)に関する基礎知識を修得する。ほとんどの企業は毎年の利益だけで活動しているわけではなく、将来にわたって利益を得るために(設備)投資を行う必要があり、必要に応じて様々な形式・経路で資金を調達している。株式会社である企業が営業活動や投資活動を行う際に必要となる資本(資金)の提供者である株主の観点から、企業はどのような資金調達方法を利用でき、実際に利用しているのかについて学修する。また、調達資金をどのように活用して利益をあげ、その利益どのように資金提供者に返しているかを学修する。また、具体的には、「10年間にわたって毎年 万円の収益を生み出す設備を 万円で購入・設置すべきか?」など投資決定の理論や、「企業価値を最大にする資金調達方法はどのようなものか?」など資本構成に関する基礎理論の知識を身につける。</p> <p>(目標) ・企業の資金調達方法の知識が身についている。 ・企業と株主、企業と債権者の関係が理解できている。 ・コーポレートファイナンスで必須である現在価値計算ができる。 ・ある企業が新規投資すべきかどうかの判断ができる。</p>	
専門科目	選択必修科目	生産管理論	<p>(概要) この授業では、生産管理に関する基礎的な知識や考え方について学修する。生産活動を支える「仕事のシステム」において、「人」、「もの」、「情報」、「お金」の四つが主要な資源と言われる。授業では、生産管理に関する一般的な歴史を振り返った後に、これら四つの主要資源の観点から、生産管理に関する基礎的な分析手法、それらを活用する際の考え方について講義する。</p> <p>(目標) ・生産管理における基礎的な分析手法を理解する。 ・それらを実際に活用するための基礎的な考え方について理解する。</p>	
専門科目	選択必修科目	地域デザイン論	<p>(概要) 地域は、社会が劇的に変化の中で新たな局面を迎えている。地域の課題を解決するためには、地域の歴史や産業だけでなく、それらを取り巻く自然についても理解する必要がある。本科目では演習形式で地域が抱える課題について多面的に理解を深め、地域特性を考える。また地域の現場へ赴き、地域の声を聴き、地域の現状を体験的に学ぶ。その後、グループワークによって、地域の現状を分析し、本質的な課題を発見することで地域が持続的に機能するデザインを立案する。</p> <p>(目標) 地域の仕組みを理解する。 文献資料より地域の特性を見つけ、理解する。 現場を知り、関係者との意見交換により地域の多様性を理解する。 地域が機能するデザインを考え、立案する。</p>	
専門科目	選択必修科目	地域環境学	<p>(概要) この授業では、地域経営の重要な柱であり、地域の経済・文化の基盤となる自然環境の構造や動態、さらその形成過程について考える。具体的には、生物が地球上でどのように誕生し、そして多様化したのかといった歴史的過程を明らかにする系統進化、個体数の変動を対象とする個体群生態、種多様性や群集遷移のメカニズムをあつかう群集生態の視点から地域の自然環境の構造形成についての理解を深めるとともに、流域規模での物質循環が地域生態系に与える影響、さらに生態学的現象である物質循環や生物の多様性と地球環境問題の関連について考える。このように地域の自然環境の特徴や成立ちについて知ることが、人の生活の安心と安全を目指す地域環境のマネジメントを実現するうえで不可欠である。</p> <p>(目標) ・地域環境の構成要素である自然界の種や群集を理解するための基本的知識を理解する。 ・地域環境における生物学的現象を生態学的に分析・理解する方法論を理解する。 ・地域における生物学的現象と社会経済的現象を関連付ける思考方法を修得する。</p>	

専門科目	選択必修科目	サプライチェーンマネジメント論	<p>(概要)          サプライチェーン・マネジメント(SCM)は、原料調達から最終消費に至る生産・流通・販売の供給連鎖を管理することであり、ロジスティクス概念が基本となる。本授業の講義では、SCMの基礎として、SCMの基礎理論、さらにはすべての工程の同期化とITを活用した物流および情報管理について学修する。特に、品質低下が速くて商品管理が困難な食品を中心に、物流、商流、情報流の全体管理を総合的に学び、ロジスティクス概念の徹底理解を目指す。</p> <p>(目標)          SCMの概念とその仕組みの複雑性を理解すると共に、モノが溢れている日本の毎日の生活で、SCMが見えないところで巧みに機能している実態を把握して、我々の日常が流通を基本として生産・流通・消費の繋がりを実感できること。</p>	
専門科目	選択必修科目	パブリックマネジメント論	<p>(概要)          本授業は、基本的には講義形式で基本的な考え方を講述する。近年、多くの地方自治体は人口減少や財政難に直面しているが、一方で高齢化などにより行政サービスを必要とする住民は多数存在している。その中で、必要な行政サービスを無駄なく住民に提供するため、従来以上に効率性の視点が重視される傾向にある。そこで、本講義は、地方自治体を念頭に置き、その運営に効率化など従来は企業経営で主に用いられてきた視点を新たに取り込んだ「公共経営(public management)」という考え方について、理論とその実践について解説する。</p> <p>(目標)          ・公共経営に関わる理論(公共性とは何か、効率性の考え方、インセンティブ設計の意味など)を理解すること          ・現実の地方自治体の財政状況に関するデータなどから、現在の公共経営の実態について理解すること          ・PPP(public private partnership)やPFI(private finance initiative)といった官民連携の手法について理解すること</p>	
専門科目	選択必修科目	空間デザイン論	<p>(概要)          都市・地域の経営の重要な目的として、そこにしかない場所を創ることにより、そのエリアのもつ諸価値を向上させることがある。それは、人を取り囲む環境の構成に左右されることがとても大きい。本講義では、空間デザイン論の基礎として、人のための空間デザインを伝えるための基本的な技術を修練する。空間のスケールを適切に理解して、コントロールすること、適切な空間のデザイン案を表現する方法(Sketchupなどの簡易な3D表現や、ハンドドローイングの方法)の修得を一つの目標とする。さらにその応用として、人にとって居心地のよい空間、賑わいを促進する空間などの具体的な構成法と、これを実現するためのしくみづくりについて演習する。</p> <p>(目標)          ・三次元空間図形を二次元平面上に表現(作図)及び、表現された図から空間的図形情報を把握することができる。          ・デザインされた空間の意図を読み解くことができる。          ・CAD・SketchUpなど最新のデザインツールを使うことができる。          ・地形・敷地を考慮したランドスケープドローイングの手法や模型表現について理解し、自ら空間をある程度描写することができる。</p>	

<p>専門科目</p>	<p>選択必修科目</p>	<p>観光学</p>	<p>(概要) 観光事業と観光が生み出す価値，地域ブランドの構築とマーケティング手法を学び，岐阜県における観光産業を理解する。また，自治体や観光産業従事者との意見交換により観光資源に関する付加価値の創造について考える。その上で，観光プランの企画立案と地域資源の活用方法を考える。観光学の基礎で修得した観光事業と観光が生み出す価値，地域ブランドの構築とマーケティング手法を実践的に生かすため，ターゲット顧客を想定した2泊3日観光プランの企画立案と地域資源の活用方法を考える。また，中間報告会として，観光事業等担当者を招聘し，実際のマーケティング手法と実践事例を学ぶことと，観光プランの中間発表への講評および他班の発表を参考にすることで，観光プランの精度向上を図る。</p> <p>(目標) 岐阜県における観光産業を理解する。 自治体や観光産業従事者との意見交換により観光資源に関する付加価値の創造や観光ルート化による効果的・効率的な誘客の展開を考察する。 観光プランの企画立案により地域資源の活用方法を考える。 観光事業等担当者の招聘により，実際のマーケティング手法と実践事例および，統計データの活用やより具体的なターゲット設定の重要性を学ぶ。</p>	
<p>専門科目</p>	<p>選択必修科目</p>	<p>里山保全論</p>	<p>(概要) 人が安心安全で豊かな生活を送るためには，社会経済状況だけでなく自然環境も含めた生活環境をよりよくする必要がある。日本では自然環境は森林と同義であり，森林の大部分は雑木林，植林地などの里山である。里山が，様々な形で人の暮らしに恩恵をもたらすことで，人は安全で安心な日々を送ることができる。 里山保全論では里山の歴史について，人による自然環境の破壊という観点から振り返るとともに，現在も至る所で里山を含む自然環境の破壊，劣化が進行しつつあり，森林，草草が失われ，河川や湖が汚染され，そして野生動植物が絶滅し続けている現状を踏まえた里山の保全，さらに里山を中心とする自然環境の危機的状況を回避するために必要な具体的な保全方法について森林管理と保全生態学という新しい学問分野の理論にもとづいて考える。さらに里山を利用した地域活性化のあり方について社会経済学的観点で考える。</p> <p>(目標) ・里山の現状について，歴史的背景も含めて理解する。 ・里山保全の基盤となる保全生態学と新林学の理論について理解する。 ・里山を含む自然環境を保全・復元する方法について理解する。</p>	
<p>専門科目</p>	<p>選択必修科目</p>	<p>フードシステム論</p>	<p>(概要) フードシステムは川上の農業生産から，川中の食品製造業・食品卸売業，食品流通業，川下の食品小売業・外食産業が最終消費に至る流れを総合的にとらえる視点から登場した概念である。本授業では，フードシステムをめぐる現状と諸問題を理解するための基本的な概念と政策について学ぶ。 また，フードシステム関係者の特別講義や先進事例の見学を通じて感じたフードシステムの重要性と今後のあり方について発表することで，論理的思考を養うことを目指す。</p> <p>(目標) ・日本のフードシステムをとりまく現状と特徴について理解する。 ・フードシステムが抱える課題の改善方向を論じることができる。 ・岐阜県におけるフードシステムの仕組みと実態について理解し，今後のあり方について考える。</p>	

専門科目	選択科目	金融論	<p>(概要) 本講義では、日本の金融制度とその変遷についての基礎知識を身につける。金融部門は、経済の心臓にあたるといわれるように、各国経済にとって重要な部門である。現在の金融制度は、高度成長期と大きく変わってきている。高度成長期、バブル経済期、バブル崩壊後から現在までとその時代ごとに金融部門は経済にとって好影響も悪影響ももたらしている一方で、ITなど技術の発展の影響を受けつつある。そこで、金融分野に登場するのはどのような主体で、どんな活動をしているのか、活動する舞台はどこなのか、どのように変化してきているのかなど、様々な側面から金融を理解する。</p> <p>(目標) ・日本の金融制度を理解している。 ・金融環境の変化を理解している。 ・金融政策の方法・効果を理解している。</p>
専門科目	選択科目	簿記論	<p>(概要) 簿記とは、企業の経営活動を、金額単位で、記録、計算、報告するための技術である。この簿記を用いることによって、企業の経営状況に関する会計データ、例えば、在庫に関するデータ、資金繰りの状態に関するデータなどが得られる。また、企業の経営成績や財政状態を示す損益計算書や貸借対照表のような財務諸表も、簿記を通じて作成される。そのため、簿記に関する基礎的知識は、企業経営に関わるあらゆる立場の関係者にとって理解しておくことが望ましい知識といえる。この授業では、小規模な株式会社における簿記一巡の流れについて解説する。つまり、どのように会社の取引を記録して、最終的に、財務諸表にまとめていくのかという基本的な簿記の全体の流れを学修する。学修水準としては、日商簿記検定の新区分（2019年度以降）における3級レベルの内容を想定するが、必要に応じて2級レベルの内容を扱う場合もある。</p> <p>(目的) ・小規模な株式会社における簿記一巡の流れに関する基礎的知識を修得する。 ・財務諸表をはじめとする各種の会計データが、どのように作成されたものであるのかについて理解を深める。 ・簿記検定試験の受験を目指す学生には、日商簿記3級の合格に必要な程度の簿記的知識を修得し、2級を目指す機会とする。</p>
専門科目	選択科目	アントレプレナーシップ論	<p>(概要) アントレプレナーシップは、一般的にはベンチャー企業、中小企業を対象とした学問領域であり、他の経営学の分野と同様に、基礎理論（社会学、経済学、心理学）の応用領域である。本講義では、「アントレプレナーシップの基礎」として、経営学の知見を基に、中小企業・ベンチャー企業の企業活動、中小企業・ベンチャー企業と地域との関係、中小企業・ベンチャー企業とグローバルな企業活動などについて、幅広く学ぶことを目的とする。</p> <p>(目標) ベンチャー企業・中小企業の企業活動に対して関心を持つ。 関連する理論を理解することで、抽象化する力を養う。 関連する理論を基に新たな事例を自ら検討する。</p>
専門科目	選択科目	オペレーションズリサーチ	<p>(概要) 本講義では、経営判断の背景に必要となるオペレーションリサーチの各種手法を修得する。地域経営で求められる手順として、現状の課題抽出、課題が発生する構造の解明、課題解決に必要な手段の発見である。前半では、現象をモデル化する基礎として、階層化意思決定法・線形計画法などの手法を身につけて、実際の経営/マネジメントに関わる手法を修得する。後半では、経営/マネジメントの事象をモデル化するために、最適化手法とシミュレーションを修得し、不明瞭な課題について明らかにし、かつ解決の選択肢を提示することを身につける。</p> <p>(目標) オペレーションズリサーチの基礎を理解する。 現象をモデル化する手法の基礎を修得する。 課題を構造化するシステム的手法を修得する。 経営課題に応じた課題の抽出方法を理解する。</p>

専門科目	選択科目	計量経済学	<p>(概要) 理論経済学と統計学を統合した分野である計量経済学の基礎と応用に焦点をあてる。計量経済学では、ある経済理論から導かれるモデルを定式化し、観測データを当てはめ、統計的手法によって数的にモデルのパラメータを計測、推定する。そして、理論の妥当性を評価、検定し、さらに、将来予測は重要な課題であり、企業活動や地域の状況把握には不可欠な学問領域である。 計量経済学の基礎理論を理解するため、まず、統計的分析方法として分散分析、単純回帰および重回帰分析を修得する。さらに質的データを用いた応用も行う。次に、実証分析の手段としての側面を学ぶため、シミュレーション分析をはじめ、統計データの収集ならびに簡単なアンケート調査を行い、基礎的な実証分析を試みる。</p> <p>(目標) エクセルの操作能力を高める。 統計的な基礎分析力を高める。 データやアンケート調査等を用いた実践的な分析方法を修得する。</p>	
専門科目	選択科目	地域防災学	<p>(概要) 災害を起こすような自然現象(台風や地震など)は、どんなに大きくても、人がいないところで発生した場合には災害とは呼ばない。つまり、災害とは人間社会を前提とした概念である。 本講義では、「災害」について、自然現象そのものと、それが人間社会の元に影響をおよぼしたとき何が起きるのかという2つの側面から考える事で、災害の本質について考える事をねらいとしている。</p> <p>(目標) 災害を生じさせるような自然現象について基本的な知識を身につける。 災害から見た地域社会は、どのような特徴を持っているのか、災害に対する粘り強さ、脆弱性とはいったいどういうことなのかという疑問を通じて、問題構造について主体的に考察する力、解決に向けた企画立案のための基礎的な力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全16回)</p> <p>(3 高木朗義/3回)(講義3回) (講義)日本の地域社会(地域経営) (講義)災害支援(行政・中間支援組織・地域の連携) (講義)まとめ (126 小山真紀/2回)(講義2回) (講義)オリエンテーション、自然現象と人間社会と災害 (講義)多様性と地域(障碍・外国人など) (128 額綱朋弥/1回)(講義1回) (講義)高齢化と地域(看護系) (29 沢田和秀/1回)(講義1回) (講義)土砂災害と地域社会 (31 能島暢呂/1回)(講義1回) (講義)地震災害と地域社会 (127 原田守啓/2回)(講義2回) (講義)風水害と地域社会 (講義)社会変動と災害 (203 板倉憲政/1回)(講義1回) (講義)災害心理学 (134 上野友也/1回)(講義1回) (講義)自然災害 政府や地方の役割</p> <p>(3 高木朗義・126 小山真紀/共同4回)(講義/演習4回) 講義,グループディスカッション,グループ演習を共同で担当 (講義/演習)災害リスクの低減に向けて(風水害) (講義/演習)災害リスクの低減に向けて(土砂災害) (講義/演習)災害リスクの低減に向けて(地震) (講義/演習)災害リスクの低減に向けて(その他自然災害)</p>	オムニバス方式 共同(一部) 講義28時間 演習 4時間

専門科目	選択科目	景観デザイン	<p>(概要) 都市の景観は、単なる上辺の飾りではない。その都市のしくみや人々の活動が、現象として知覚される内容を指す。それらは市民あるいは国民共通の重要な資源として扱われる(景観法)。われわれを取り囲む生活環境の景観を理解して、望ましい方向へ導いてゆくための、大地を含む諸層の物事を総合的デザインの的方法論を学習する。</p> <p>(目標) 本講義においては、景観および景観デザインのなりたちを理解すること、現在の地域において資源性の高い景観の見方を表現できること、資源を共有して地域を運営する視点を得ること、を目標とする。</p>	
専門科目	選択科目	資源マネジメント論	<p>(概要) 人間の経済活動や文化は、多様な自然資源の恩恵を受けて成立している。それらの自然資源の基礎的特性や歴史性を知り、資源利用の実態や派生する文化や社会等を理解した上で、資源が持つ潜在的可能性や今後の持続可能な社会を実現する仕組みについて議論する。</p> <p>(目標) 自然資源の特性や制度、管理手法等について理解する。 持続的な資源利用を考慮した社会システムを考えられる。 資源から新たな価値を創造していく能力を養う。</p>	
専門科目	選択科目	アグリビジネス論	<p>(概要) アグリビジネスは、農業生産を中心としながら農業生産部門の生産資材である種子・農薬・化学肥料・農業機械、飼料と食品加工部門、食品小売部門などで構成されている。こうした部門は農業のグローバル化が進行するなかで、さらに多国化する傾向がある。 そこで、本授業では、アグリビジネスについて理解するため必要な基礎知識として、日本の農業特質と農業経営そして関連産業について学ぶ。さらに、世界的に展開している多国籍企業の現状と特徴についても概説する。 こうした学びを通じて日本と世界の農業・食料・農村・環境と関連産業の重要性について理解する糸口を探りたい。</p> <p>(目標) アグリビジネスの概念について理解する。 日本農業の現状と日本における将来像について考察する。 グローバルな規模で展開する多国籍アグリビジネスが農業・食料システムに及ぼす影響について考える。</p>	
専門科目	選択科目	経営労務	<p>(概要) 企業経営は、労働者を従業員として雇用し、労働力を引き出すことで成立する。また、多くの人々にとって、人生を営み自らを成長させる最大の手段が企業での労働である。企業と人々のマッチングを図る人事管理は、近年変化の最中にある。本講義では、現代の日本企業とそこに働く労働者が抱える経営労務問題を幅広く講義する。</p> <p>(目標) 人事管理の目的・成り立ち・課題について検討し、学生が自らの生き方、働き方について自主的に探究する力を育めるようになることを目指す。</p>	

<p>専門科目</p>	<p>選択科目</p>	<p>アセット・マネジメント概論</p>	<p>(概要)          経済の成熟期を迎えた我が国において、新しい産業や雇用を創出するような成長分野への投資の重要性が増している。そこで鍵となるのが(長期)投資であるが、その資金の出し手としては年金等の機関投資家のみならず、個人も大きな役割を果たすことが期待されている。また、個人の人生設計においても、労働賃金の成長が鈍化するなかで、金融商品を活用した投資による資産形成の重要性が日々増している。          本講義は、当該分野での専門家を各回外部講師として招き、アセットマネジメント(資産運用)に関する基本的な知識から実務に関するまで、幅広いテーマで講義を行う。これを通じて、自主的探究力の育成を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(222 峯岸信哉/14回)          アセット・マネジメントとは          アセット・アロケーションと分散投資          マーケットを知る～模擬取引          投資信託          金融商品取引法とアセット・マネジメント          ヘッジファンド          REIT(不動産投資信託)          資産運用業とコンプライアンス          株主によるガバナンスと企業行動・企業価値          ファンドマネジャー・アナリストの業務          エコノミスト・ストラテジストの業務          日本の年金制度とアセット・アロケーション          アセット・マネジメント・ビジネスの最先端(経営者が語る)          まとめ</p> <p>(220 木村彰吾, 222 峯岸信哉/1回)(共同)          投資資産(株式・債券)のリスクとリターン</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>専門科目</p>	<p>選択科目</p>	<p>社会基盤工学概論</p>	<p>(概要)社会における土木技術者の役割、現在社会を取り巻く防災と環境問題、社会基盤施設の計画・設計・施工技術に関する概要、歴史、現況およびその将来の方向性について講述する。          この授業では、工学技術者として認識すべき社会基盤工学の現状について講述し、工学技術者としての社会への接し方を考えていくための端緒となることを狙いとする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(31 能島暢呂/2回)          社会基盤工学とは何か          社会基盤と都市機能を守る地震防災技術          (32 八嶋厚/1回)          科学技術の進歩と地盤災害の激烈化          (53 季富生/1回)          安全で快適な生活を実現するための上下水道と関連する水質評価指標          (27 小林智尚/1回)          川・海:水害から身を守り快適に水と付き合う技術          (30 内田裕市/1回)          材料と構造のしくみ          (28 倉内文孝/1回)          まち・都市・地域を計画するための技術          (26 小林孝一/1回)          社会基盤の維持管理</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>専門科目</p>	<p>選択科目</p>	<p>機械工学概論</p>	<p>(概要) ものづくりを支える機械工学分野と機械・人間・情報・エネルギー・環境などの様々な要素を統合してシステム構築を行うシステム工学分野は、いずれも製造業の基盤をなす、無くてはならない重要な分野である。本講義では機械工学を構成する各分野について概説する。</p> <p>(目的) ・機械工学分野の基礎となる5分野(材料力学, 流体力学, 熱工学, 機械力学, 生産加工)の概要を学ぶ。 ・情報・制御・計測・ロボティクス・エネルギー変換技術を融合した知能機械の概要を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(38 植松美彦・39 仲井朝美/1回)(共同) 材料に加わる力と変形について考えよう (135 小林信介・36 小宮山正治/1回)(共同) 熱とエネルギーの関わりについて考えよう (136 菊地聡/1回) 気体や液体の流れについて考えよう (37 松村雄一/1回) 機械の振動について考えよう (137 柿内利文/1回) 材料の加工方法について考えよう (138 松下光次郎・139 毛利哲也/1回)(共同) 機械を知的に操る方法を考えよう (40 佐々木実/1回) ものづくりの知能化, 身近な力学現象について考えよう (33 宮坂武志・35 山田宏尚/1回)(共同) 環境負荷低減, 人間支援の方法を考えよう</p>	<p>オムニバス方式 共同(一部)</p>
<p>専門科目</p>	<p>選択科目</p>	<p>電気電子・情報工学概論</p>	<p>(概要) 電気電子コース担当の内容: 身近な電気電子材料, 電気エネルギーと安全, 電子回路と通信について解説する。情報コース担当の内容: 計算の理論的限界と実用限界, 人工知能と機械学習, デジタルデータ記録の現在と将来について解説する。応用物理コース担当の内容: 数学・物理がどのように応用され, 生活に役立っているかについて, いくつかの実例を挙げて解説する。</p> <p>(目的) 電気電子コース担当の内容: 電子回路・電気通信を概観することにより, 電気電子技術と社会との関わりについて理解することを目標とする。 情報コース担当の内容: 計算の理論的限界と実用限界, 人工知能と機械学習, デジタルデータ記録の現在と将来, 応用面について理解することを目標とする。応用物理コース担当の内容: 科学技術における基礎科学と応用のつながりについて理解することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(41 王道洪/1回) 電気利用のための安全知識と電気エネルギーの発生・輸送・制御 (34 佐々木重雄/1回) 身近な電気電子材料 (42 吉田弘樹/1回) 電子回路と通信技術について, 技術革新の歴史と最新の動向について (43 河瀬順洋/1回) コンピュータ支援設計の実際について (44 横田康成/1回) 情報理論, 情報通信の技術を紹介 (45 原武史/1回) 人とコンピュータが協調する画像診断から自動診断への展開 (46 宇佐美広介/1回) 数学や統計科学の入門 (47 寺尾貴道/1回) 計算機シミュレーションと応用物理: 最近の進展について</p>	<p>オムニバス方式</p>

専門科目	選択科目	化学・生命工学概論	<p>(概要) 現代社会を取り巻く材料開発, 医療, 環境問題を取り組むためには工学技術者は自分の専門のみならず化学, 生命技術に関する事項も統合的に考慮することが要求されている。そのための最低限必要な基礎的な概念, および最近の話題について講義を行う。 この授業では, 物質化学, 生命化学の2つの側面からオムニバス形式で講義を行う。6名の教員(大矢教授, 神原教授, 瀧澤教授, 池田教授, 藤澤教授, 三輪准教授)が担当する。 工学技術者としての自然科学全般の中で化学的, 生物的な考え方を身につけるための端緒となることを狙いとする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(48 大矢豊/1回) 物質化学の発展と大学で学ぶ化学 (49 瀧澤守/1回) 現代の素材産業について (50 藤澤哲郎/2回) 生物のサイズと時間 生体分子の形とそれを決定する技術について (140 三輪洋平/1回) ソフトマター材料の基礎と応用について (51 神原信志/1回) CO2フリー水素社会に向けて (52 池田将/2回) 分子の組織化を利用したナノバイオ材料の創製(2回)</p>	オムニバス方式
専門科目	選択科目	技術経営概論	<p>(概要) この授業では, 技術経営に関する概要を学修する。技術経営はMOT(Management of Technology)とも呼ばれ, 様々な技術を継続的に開発, 管理し, 新しい製品や事業を生み出すことで, 企業の持続的な競争力を構築するための考え方のひとつである。技術経営に関する論点は多岐にわたるが, この授業ではイノベーションを軸にして問題解決, 技術, 人財, 組織のマネジメントを事例を交えて取り上げることで, 技術経営について概略的に考察する。</p> <p>(目的) 技術経営に関する基礎的な知識を理解する。</p>	
専門科目	選択科目	農業環境修復学	<p>(概要) 人類が組織的に農牧業を営み始めて以降の環境の改変と荒廃の過程を, 人類の営みの歴史, 農業環境の構造上の問題, 土壌資源の劣化のメカニズムという視点から把握すると共に, その対策について解説し検討を加える。またわが国における農業環境問題の発生とその後の経緯について述べ, 将来の安定した農業生産を保障することができる環境へと修復するための諸施策について解説する。</p> <p>(目標) 世界およびわが国の農業環境における変遷や荒廃の過程と, それに対してなされてきた修復対策や施策を, 幅広い視野と詳細な分析により具体的に理解すると共に, 現在に生きる我々がなすべき責務について考える端緒が与えられる。</p>	

専門科目	選択科目	食品工学	<p>(概要) 食品工学とは、食品本来に具備している栄養的・嗜好的価値を損なうことなく、食品を加工、包装、保蔵、流通するための種々の単位操作ならびにその連結系の効率を、物質的かつエネルギー的に高めることを目的とする応用科学である。本講義では、この学問体系について解説を行う。</p> <p>(目標) 単位操作の理解や食品製造過程における流動や伝熱の基礎の修得。</p> <p>(オムニバス方式/全16回) (19 西津貴久/8回) 食品工学の成り立ちについて、化学工学に関連する基礎学、化学工業と化学工学、物質収支、エネルギー収支、粉体 (15 岩本悟志/8回) 熱の移動、物質移動、反応装置</p>	オムニバス方式
専門科目	選択科目	食品安全性学	<p>(概要) 21世紀の食品科学の重要な課題の1つは、食品の安全性の強化である。そこで、食品の安全を図るために、天然物、生体成分、食品成分、食品添加物、環境化学物質、農薬、薬品などの影響を人間の健康に対する影響を含め、個体から分子・遺伝子レベルに至るまで、さまざまな理論・手法、特に先端的な分子生物学的な理論・手法で捕らえることが必要である。その意味から、食品安全性学は食品健康影響評価学である。そのような視点からの食品の安全性(健康影響評価)について、関連法規も含めて概説する。さらに、食糧生産の向上や効率化、食糧・食品の高付加価値化のための先端技術である遺伝子組換え技術(動物、植物、微生物)と安全性・健康の関連などについて概説する。</p> <p>(目標) 食品安全性学の授業内容を基礎から理解し、発展的に考える能力を身につける。</p>	
専門科目	選択科目	食品関連法規	<p>(概要) 食品安全問題を題材に、それらに関連する法令を取り上げ、日本の食品安全行政について概説する</p> <p>(目標) 食品安全問題にかかわる正確な情報と法令を調べる能力を身につける。</p>	
専門科目	選択科目	生物環境科学概論	<p>(概要) 生物の機能を利用して持続的な生物生産と環境管理を行うには、生物と環境と人間活動との関係を理解することが必要である。この講義では水資源、農業、環境、生物、森林、農業農村整備をキーワードに生物環境科学を学ぶ。</p> <p>(目標) 生物生産を営む人間社会と自然生態系が調和した持続可能な地域環境を作り出すための生物環境科学の概念を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(17 松井勤/4回) 猛暑とお米、気候変動が食糧生産におよぼす影響 食糧生産の温暖化対策、水田整備における環境配慮の考え方 (22 土田浩治/2回) 生存をかけた害虫との戦い、人間生活と外来生物 (16 向井謙/2回) 日本の森林管理の歴史と林業を取り巻く情勢 植林における生物多様性への配慮 (131 安藤正規/2回) 森林生態系と生物間相互作用、野生動物の保護管理と生態系保全 (24 平松研/5回) 水の利用と環境、汽水域の環境、日本の水資源の現状と水資源開発、発展途上国における農業開発援助、日本における農業農村整備の課題</p>	オムニバス方式

専門科目	選択科目	動物生産管理学	<p>(概要) 我々の食生活および日常生活は多くの畜産物によって支えられている。しかしながら、これら畜産物がどのように生産されているかを知る機会が極めて少ない。動物(家畜)の効率的生産、生産の持続性、アニマルウェルフェアおよび農畜産業と環境問題の関係を考えるためには、家畜の生産体系や技術に対する理解が欠かせない。本講義では、家畜生産の現状と課題、現代の家畜生産体系および管理技術を解説する。</p> <p>(目標) 食料生産、とくに家畜生産がどのような考え方、生産体系および生産技術に基づいて行われているかを理解する。これにより、家畜の効率的生産、アニマルウェルフェアおよび畜産に関連する環境問題などがなぜ発生し、どのような解決策を考えるべきかを専門的な見地から理解することを目標とする。</p>	
専門科目	選択科目	生産環境関係法規	<p>(概要) 環境と開発をめぐる諸問題を題材に、それらに関連する国内法と国際条約について概説する。</p> <p>(目標) 環境問題に関わる正確な情報と法令・条約を調べる能力を身につける。</p>	
専門科目	選択科目	動物園学(博物館概論)	<p>(概要) 動物園(水族館も含む)は、生きた動物、主に野生動物を収集・飼育し、種の保全を図りながら展示や研究等を行う博物館の一形態である。動物園は、レクリエーション、教育、種の保存、調査・研究がその中心的な役割とされ、また昨今注目される生物多様性の保全にも大きく貢献し、現代社会に必要な場所になっている。動物園は単なるレジャーランドではない。動物園の存在意義と機能について、歴史的背景から紹介し、動物園とは何か、動物園学とは何かを概説する。</p> <p>(目標) 動物園学(博物館学)に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を身につける。</p>	
専門科目	選択科目	動物園動物管理学	<p>(概要) 地球規模で多くの野生生物が絶滅の危機に瀕している中、動物園は生物多様性保全に果たす役割が益々増大してきている。生物多様性国家戦略や世界動物園水族館保全戦略においても、動物園の役割の重要性が記されている。一方、野生生物の保全に関わる学問分野の一つに「保全生物学」がある。保全生物学は1980年代に誕生した比較的新しい分野で、従来の自然資源の管理を対象とした農学、林学、水産学などでは、生物多様性の危機に対して十分かつ統合的な対応を取れなかったことが、その発祥といわれている。動物園での保全活動を考えるうえで、保全生物学の知識は不可欠である。本講義では、保全生物学のうち、特に動物園を舞台とした飼育管理学、繁殖学、遺伝学の領域を中心に、それらの基礎知識や技術を解説する。</p> <p>(目標) 動物園動物の収集や飼育、種の保全等の理論や方法に関する基礎知識を修得する。</p> <p>(オムニバス/全15回)</p> <p>(130 楠田哲士/10回) 動物園動物管理学とは 野生動物の保全(保護と保全、野生動物の絶滅と動物園)、生物多様性ホットスポット、IUCN レッドリスト、環境省レッドリスト、生息域内保全と生息域外保全、飼育下繁殖と再導入)、野生動物の飼育管理(健康状態・栄養状態の評価、飼育ガイドライン、動物の記録管理)、野生動物の保全繁殖学(飼育下繁殖、配偶システムと飼育管理、繁殖数の人為的操作、繁殖生理状態のモニタリング、ストレスと繁殖、補助繁殖技術、遺伝資源バンク)</p> <p>(18 松村秀一/5回) 野生動物の保全遺伝学(遺伝的多様性とは?、遺伝的多様性の評価、動物園動物の遺伝的管理、近親交配と近交弱勢、動物園動物の個体群存続可能性分析(PVA)、野生動物における保全遺伝学の手法と野外サンプリング)</p>	オムニバス方式

<p>専門科目</p>	<p>選択科目</p>	<p>農業生態学</p>	<p>(概要) 地域環境に適合した農業生態を創成、維持、発展させるために、農業生態分析の基本的な考え方、農業生態系の構造的特徴の把握、地域固有の農業生態の成立と維持過程を分析するための実態調査と結果についての要因分析、必要な生態管理に関わる各種の手法を修得する。</p> <p>(目標) 農業を時空間的な生態基盤の上に成立するシステムとして理解する能力、農業を生態的に管理するための技法を知ることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(20 川窪伸光/1回) 農業生態学の概要と目的 (204 広田勲/14回) ファーミングシステムと農業生態、農業生態の成立と変容、クロッピングシステムの種類と機能、野生・半栽培・栽培、多様な自然環境への農業の適応、生業複合における生物資源の利用、持続的生物資源管理と利用、熱帯生物資源利用の実際、自然環境と農耕文化、熱帯生物資源各論、農業生態研究における総合と分析の手法</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>専門科目</p>	<p>選択科目</p>	<p>農業経済学・経営学入門</p>	<p>(概要) あらゆる産業活動の基盤には、経済学的・経営学的要素が根深く絡んでいる。衰退傾向にある我が国の農業にも経済学・経営学の基礎知識は不可欠で、経営学の視点からの考察は農業・農村の課題解決に役立つ。本講義では、経済学・経営学を構成している種々の専門要素の基礎を学び、それらが農業経営の高度化と発展にどう関わっているのかを把握し、産業構造としての農業・農村の基盤維持に関わる多様な経営学的要素を学ぶ。</p> <p>(目標) 経済学・経営学の基礎を多面的に学び、地域経営主体の経済発展や持続的農業の維持発展に、経営学的要素が深く関与している気づきを誘導する。担い手不足や農業事情の変化に伴い、注目度が向上しているスマート農業に通じる経営学的基礎知識を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(9 奥岡桂次郎/2回) プロジェクトマネジメント的要素 (6 後藤尚久/2回) 経済学的要素 (12 柴田仁夫/2回) マーケティング的要素 (5 篠田朝也/2回) 会計学的要素 (10 森部絢嗣/2回) 地域デザインの要素 (8 出村嘉史/2回) 景観論的要素 (3 高木朗義/2回) リスクマネジメント的要素 (7 前澤重禮/1回) 総括と総合討論</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>専門科目</p>	<p>選択科目</p>	<p>環境保全論</p>	<p>(概要) 現在我々の周囲では自然環境の破壊、悪化が進行しつつあり、森林、草地が失われ、河川や湖が汚染され、そして野生動植物が絶滅し続けている。このような自然環境の危機的状況を回避するために必要な、従来の枠組みにとらわれない新たな思考方法を保全生態学という新しい学問分野を中心に、進化生物学、景観生態学、環境倫理学など既存の学問分野を組み合わせながら学ぶ。</p> <p>(目標) ・自然環境の現状について、歴史的背景も含めて理解する。 ・環境保全の基盤となる理論について理解する。 ・自然環境を保全・復元する方法について理解する。</p>	

国立大学法人東海国立大学機構 設置申請に関わる組織の移行表(岐阜大学)

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>岐阜大学</b>				<b>岐阜大学</b>				
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	250	-	1,000	学校教育教員養成課程	<u>220</u>	-	<u>880</u>	定員変更( 30)
地域科学部		3年次		地域科学部		3年次		
地域政策学科	50	5	210	地域政策学科	50	5	210	
地域文化学科	50	5	210	地域文化学科	50	5	210	
医学部		3年次		医学部		3年次		
医学科(6年制)	110	-	510	医学科(6年制)	110	-	510	
看護学科	80	-	320	看護学科	80	-	320	
工学部		3年次		工学部		3年次		
社会基盤工学科	60			社会基盤工学科	<u>68</u>	<u>10</u>	<u>292</u>	定員変更(8) 3年次編入学定員改訂(10)
機械工学科	130	30 (各学 科共 通)	2,100	機械工学科	<u>134</u>	<u>10</u>	<u>556</u>	定員変更(4) 3年次編入学定員改訂(10)
化学・生命工学科	150			化学・生命工学科	<u>154</u>	2	<u>620</u>	定員変更(4) 3年次編入学定員改訂(2)
電気電子・情報工学科	170			電気電子・情報工学科	<u>174</u>	<u>8</u>	<u>712</u>	定員変更(4) 3年次編入学定員改訂(8)
応用生物科学部		3年次		応用生物科学部		3年次		
応用生命科学課程	80	5	330	応用生命科学課程	<u>85</u>	5	<u>350</u>	定員変更(5)
生産環境科学課程	80	5	330	生産環境科学課程	<u>85</u>	5	<u>350</u>	定員変更(5)
共同獣医学科(6年制)	30	-	180	共同獣医学科(6年制)	30	-	180	
				社会システム経営学環	<u>30</u>	-	<u>120</u>	学部等連係課程実施基本 組織の設置(事前同い)
計	1,240	50	5,190	計	1,240	50	5,190	
<b>岐阜大学大学院</b>				<b>岐阜大学大学院</b>				
教育学研究科				教育学研究科				
教職実践開発専攻(P)	25	-	50	教職実践開発専攻(P)	25	-	50	
心理発達支援専攻(M)	10	-	20	心理発達支援専攻(M)	10	-	20	
総合教科教育専攻(M)	34	-	68	総合教科教育専攻(M)	34	-	68	
地域科学研究科				地域科学研究科				
地域政策専攻(M)	12	-	24	地域政策専攻(M)	12	-	24	
地域文化専攻(M)	8	-	16	地域文化専攻(M)	8	-	16	
医学系研究科				医学系研究科				
医科学専攻(4年制D)	47	-	188	医科学専攻(4年制D)	47	-	188	
看護学専攻(M)	8	-	16	看護学専攻(M)	8	-	16	
医療者教育学専攻(M)	6	-	12	医療者教育学専攻(M)	6	-	12	
工学研究科				工学研究科				
工学専攻(D)	23	-	69	工学専攻(D)	23	-	69	
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携統合機械工学専攻(D)	2	-	6	岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携統合機械工学専攻(D)	2	-	6	
岐阜大学・マレ - シア国民大学 国際連携材料科学工学専攻(D)	2	-	6	岐阜大学・マレ - シア国民大学 国際連携材料科学工学専攻(D)	2	-	6	
自然科学技術研究科				自然科学技術研究科				
生命科学・化学専攻(M)	74	-	148	生命科学・化学専攻(M)	74	-	148	
生物生産環境科学専攻(M)	42	-	84	生物生産環境科学専攻(M)	42	-	84	
環境社会基盤工学専攻(M)	29	-	58	環境社会基盤工学専攻(M)	29	-	58	
物質・ものづくり工学専攻(M)	67	-	134	物質・ものづくり工学専攻(M)	67	-	134	
知能理工学専攻(M)	81	-	162	知能理工学専攻(M)	81	-	162	
エネルギー - 工学専攻(M)	72	-	144	エネルギー - 工学専攻(M)	72	-	144	
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻(M)	10	-	20	岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻(M)	10	-	20	
共同獣医学研究科				共同獣医学研究科				
共同獣医学専攻(4年制D)	6	-	24	共同獣医学専攻(4年制D)	6	-	24	
連合農学研究科				連合農学研究科				
生物生産科学専攻(D)	7	-	21	生物生産科学専攻(D)	7	-	21	
生物環境科学専攻(D)	5	-	15	生物環境科学専攻(D)	5	-	15	
生物資源科学専攻(D)	6	-	18	生物資源科学専攻(D)	6	-	18	
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻(D)	2	-	6	岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻(D)	2	-	6	
連合創薬医療情報研究科				連合創薬医療情報研究科				
創薬科学専攻(D)	3	-	9	創薬科学専攻(D)	3	-	9	
医療情報学専攻(D)	3	-	9	医療情報学専攻(D)	3	-	9	
計	584	-	1,327	計	584	-	1,327	

国立大学法人東海国立大学機構 設置申請に関わる組織の移行表(名古屋大学)

令和2年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和3年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
名古屋大学				名古屋大学				
文学部		3年次		文学部		3年次		
人文学科	125	10	520	人文学科	125	10	520	
教育学部		3年次		教育学部		3年次		
人間発達科学科	65	10	280	人間発達科学科	65	10	280	
法学部		3年次		法学部		3年次		
法律・政治学科	150	10	620	法律・政治学科	150	10	620	
経済学部		3年次		経済学部		3年次		
経済学科	140		560	経済学科	140		560	
経営学科	65		260	経営学科	65		260	
学部共通		10	20	学部共通		10	20	
情報学部		3年次		情報学部		3年次		
自然情報学科	38	4	160	自然情報学科	38	4	160	
人間・社会情報学科	38	4	160	人間・社会情報学科	38	4	160	
コンピュータ科学科	59	2	240	コンピュータ科学科	59	2	240	
理学部				理学部				
数理学科	55		220	数理学科	55		220	
物理学科	90		360	物理学科	90		360	
化学科	50		200	化学科	50		200	
生命理学科	50		200	生命理学科	50		200	
地球惑星科学科	25		100	地球惑星科学科	25		100	
医学部		3年次		医学部		3年次		
医学科(6年制)	107	5	662	医学科(6年制)	107	5	662	
保健学科	200		800	保健学科	200		800	
工学部				工学部				
化学生命工学科	99		396	化学生命工学科	99		396	
物理工学科	83		332	物理工学科	83		332	
マテリアル工学科	110		440	マテリアル工学科	110		440	
電気電子情報工学科	118		472	電気電子情報工学科	118		472	
機械・航空宇宙工学科	150		600	機械・航空宇宙工学科	150		600	
エネルギー理工学科	40		160	エネルギー理工学科	40		160	
環境土木・建築学科	80		320	環境土木・建築学科	80		320	
農学部				農学部				
生物環境科学科	35		140	生物環境科学科	35		140	
資源生物科学科	55		220	資源生物科学科	55		220	
応用生命科学科	80		320	応用生命科学科	80		320	
合計	2,107	55	8,762	合計	2,107	55	8,762	
名古屋大学大学院				名古屋大学大学院				
人文学研究科				人文学研究科				
人文学専攻(M)	104		208	人文学専攻(M)	104		208	
人文学専攻(D)	61		183	人文学専攻(D)	61		183	
教育発達科学研究科				教育発達科学研究科				
教育科学専攻(M)	32	64		教育科学専攻(M)	32	64		
教育科学専攻(D)	16	48		教育科学専攻(D)	16	48		
心理発達科学専攻(M)	22	44		心理発達科学専攻(M)	22	44		
心理発達科学専攻(D)	15	45		心理発達科学専攻(D)	15	45		
法学研究科				法学研究科				
総合法政専攻(M)	35	70		総合法政専攻(M)	35	70		
総合法政専攻(D)	17	51		総合法政専攻(D)	17	51		
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	50	150		実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	50	150		
経済学研究科				経済学研究科				
社会経済システム専攻(M)	30	60		社会経済システム専攻(M)	30	60		
社会経済システム専攻(D)	15	45		社会経済システム専攻(D)	15	45		
産業経営システム専攻(M)	14	28		産業経営システム専攻(M)	14	28		
産業経営システム専攻(D)	7	21		産業経営システム専攻(D)	7	21		
情報学研究科				情報学研究科				
数理情報学専攻(M)	14	28		数理情報学専攻(M)	14	28		
数理情報学専攻(D)	4	12		数理情報学専攻(D)	4	12		
複雑系科学専攻(M)	36	72		複雑系科学専攻(M)	36	72		
複雑系科学専攻(D)	8	24		複雑系科学専攻(D)	8	24		
社会情報学専攻(M)	18	36		社会情報学専攻(M)	18	36		
社会情報学専攻(D)	5	15		社会情報学専攻(D)	5	15		
心理・認知科学専攻(M)	15	30		心理・認知科学専攻(M)	15	30		
心理・認知科学専攻(D)	7	21		心理・認知科学専攻(D)	7	21		
情報システム学専攻(M)	32	64		情報システム学専攻(M)	32	64		
情報システム学専攻(D)	9	27		情報システム学専攻(D)	9	27		
知能システム学専攻(M)	29	58		知能システム学専攻(M)	29	58		
知能システム学専攻(D)	10	30		知能システム学専攻(D)	10	30		
理学研究科				理学研究科				
素粒子宇宙物理学専攻(M)	66	132		素粒子宇宙物理学専攻(M)	66	132		
素粒子宇宙物理学専攻(D)	30	90		素粒子宇宙物理学専攻(D)	30	90		
物質理学専攻(M)	63	126		物質理学専攻(M)	63	126		
物質理学専攻(D)	22	66		物質理学専攻(D)	22	66		
生命理学専攻(M)	42	84		生命理学専攻(M)	42	84		
生命理学専攻(D)	18	54		生命理学専攻(D)	18	54		
名古屋大学・エディンバラ大学 国際連携理学専攻(D)	2	6		名古屋大学・エディンバラ大学 国際連携理学専攻(D)	2	6		

医学系研究科			
総合医学専攻(D)	151	604	
名古屋大学・アデレード大学	4	16	
国際連携総合医学専攻(D)			
名古屋大学・ルンド大学	4	16	
国際連携総合医学専攻(D)			
名古屋大学・フライブルク大学	2	8	
国際連携総合医学専攻(D)			
医科学専攻(修士課程)	20	40	
医科学専攻医療行政コース	10	10	
総合保健学専攻(M)	70	140	
総合保健学専攻(D)	20	60	

工学研究科			
有機・高分子化学専攻(M)	34	68	
有機・高分子化学専攻(D)	8	24	
応用物質化学専攻(M)	34	68	
応用物質化学専攻(D)	8	24	
生命分子工学専攻(M)	28	56	
生命分子工学専攻(D)	6	18	
応用物理学専攻(M)	39	78	
応用物理学専攻(D)	9	27	
物質科学専攻(M)	39	78	
物質科学専攻(D)	9	27	
材料デザイン工学専攻(M)	34	68	
材料デザイン工学専攻(D)	8	24	
物質プロセス工学専攻(M)	35	70	
物質プロセス工学専攻(D)	9	27	
化学システム工学専攻(M)	34	68	
化学システム工学専攻(D)	8	24	
電気工学専攻(M)	34	68	
電気工学専攻(D)	9	27	
電子工学専攻(M)	47	94	
電子工学専攻(D)	13	39	
情報・通信工学専攻(M)	33	66	
情報・通信工学専攻(D)	8	24	
機械システム工学専攻(M)	66	132	
機械システム工学専攻(D)	14	42	
マイクロ・ナノ機械理工学専攻(M)	36	72	
マイクロ・ナノ機械理工学専攻(D)	8	24	
航空宇宙工学専攻(M)	38	76	
航空宇宙工学専攻(D)	8	24	
エネルギー理工学専攻(M)	18	36	
エネルギー理工学専攻(D)	5	15	
総合エネルギー工学専攻(M)	18	36	
総合エネルギー工学専攻(D)	4	12	
土木工学専攻(M)	36	72	
土木工学専攻(D)	9	27	

生命農学研究科			
森林・資材科学専攻(M)	27	54	
森林・資材科学専攻(D)	6	18	
植物生産科学専攻(M)	30	60	
植物生産科学専攻(D)	9	27	
動物科学専攻(M)	28	56	
動物科学専攻(D)	7	21	
応用生命科学専攻(M)	66	132	
応用生命科学専攻(D)	16	48	
名古屋大学・カセサート大学	2	6	
国際連携生命農学専攻(D)			
名古屋大学・西オーストラリア大学	2	6	
国際連携生命農学専攻			

国際開発研究科			
国際開発協力専攻(M)	44	88	
国際開発協力専攻(D)	22	66	

多元数理科学研究科			
多元数理科学専攻(M)	47	94	
多元数理科学専攻(D)	30	90	

環境学研究科			
地球環境科学専攻(M)	53	106	
地球環境科学専攻(D)	24	72	
都市環境学専攻(M)	47	94	
都市環境学専攻(D)	21	63	
社会環境学専攻(M)	27	54	
社会環境学専攻(D)	13	39	

創薬科学研究科			
基盤創薬学専攻(M)	32	64	
基盤創薬学専攻(D)	10	30	

合計 2,438 5,809

医学系研究科			
総合医学専攻(D)	151	604	
名古屋大学・アデレード大学	4	16	
国際連携総合医学専攻(D)			
名古屋大学・ルンド大学	4	16	
国際連携総合医学専攻(D)			
名古屋大学・フライブルク大学	2	8	
国際連携総合医学専攻(D)			
医科学専攻(修士課程)	20	40	
医科学専攻医療行政コース	10	10	
総合保健学専攻(M)	70	140	
総合保健学専攻(D)	20	60	

工学研究科			
有機・高分子化学専攻(M)	34	68	
有機・高分子化学専攻(D)	8	24	
応用物質化学専攻(M)	34	68	
応用物質化学専攻(D)	8	24	
生命分子工学専攻(M)	28	56	
生命分子工学専攻(D)	6	18	
応用物理学専攻(M)	39	78	
応用物理学専攻(D)	9	27	
物質科学専攻(M)	39	78	
物質科学専攻(D)	9	27	
材料デザイン工学専攻(M)	34	68	
材料デザイン工学専攻(D)	8	24	
物質プロセス工学専攻(M)	35	70	
物質プロセス工学専攻(D)	9	27	
化学システム工学専攻(M)	34	68	
化学システム工学専攻(D)	8	24	
電気工学専攻(M)	34	68	
電気工学専攻(D)	9	27	
電子工学専攻(M)	47	94	
電子工学専攻(D)	13	39	
情報・通信工学専攻(M)	33	66	
情報・通信工学専攻(D)	8	24	
機械システム工学専攻(M)	66	132	
機械システム工学専攻(D)	14	42	
マイクロ・ナノ機械理工学専攻(M)	36	72	
マイクロ・ナノ機械理工学専攻(D)	8	24	
航空宇宙工学専攻(M)	38	76	
航空宇宙工学専攻(D)	8	24	
エネルギー理工学専攻(M)	18	36	
エネルギー理工学専攻(D)	5	15	
総合エネルギー工学専攻(M)	18	36	
総合エネルギー工学専攻(D)	4	12	
土木工学専攻(M)	36	72	
土木工学専攻(D)	9	27	

生命農学研究科			
森林・資材科学専攻(M)	27	54	
森林・資材科学専攻(D)	6	18	
植物生産科学専攻(M)	30	60	
植物生産科学専攻(D)	9	27	
動物科学専攻(M)	28	56	
動物科学専攻(D)	7	21	
応用生命科学専攻(M)	66	132	
応用生命科学専攻(D)	16	48	
名古屋大学・カセサート大学	2	6	
国際連携生命農学専攻(D)			
名古屋大学・西オーストラリア大学	2	6	
国際連携生命農学専攻			

国際開発研究科			
国際開発協力専攻(M)	44	88	
国際開発協力専攻(D)	22	66	

多元数理科学研究科			
多元数理科学専攻(M)	47	94	
多元数理科学専攻(D)	30	90	

環境学研究科			
地球環境科学専攻(M)	53	106	
地球環境科学専攻(D)	24	72	
都市環境学専攻(M)	47	94	
都市環境学専攻(D)	21	63	
社会環境学専攻(M)	27	54	
社会環境学専攻(D)	13	39	

創薬科学研究科			
基盤創薬学専攻(M)	32	64	
基盤創薬学専攻(D)	10	30	

合計 2,438 5,809